

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクセン ショウショウガクエン 学校法人 常翔学園								
フリガナ大学の名称	オサカコウギョウダイガク 大阪工業大学 (Osaka Institute of Technology)								
大学本部の位置	大阪府大阪市旭区大宮五丁目16番1号								
大学の目的	<p>本大学は、専門学術を教育研究し、深い教養と実践的応用力を身につけ、時代の要請に対応して国際的視野から知的・技術的創造を実現でき、確かな人間力を備え常に向上を心がける専門職業人を養成して、社会の発展に貢献するとともに、学術と文化の向上をはかることを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>様々なIoTセンシング技術とデジタル技術によって、実世界の状況をデータとして取得し、ヒト・モノ・環境の情報分析と可視化、生活空間の環境設備やロボットなどの自動機器の制御（実世界インタラクション）により実世界の具体的な課題を解決できる実世界情報のプロフェッショナル人材を養成する。</p> <p>具体的には、以下に掲げる能力を習得させる。</p> <p>(A) 実世界情報技術が社会に及ぼす影響や技術者の社会的役割、責務などを理解し、適切に判断して行動ができる。〔技術者倫理の習得〕</p> <p>(B) 実世界からの情報取得・分析技術、及び実世界へのインタラクション技術に関連する理工学の基礎知識を持ち、専門的な技術の理解につなげられる。〔基礎知識の習得と活用能力〕</p> <p>(C) 実世界からの情報取得・分析技術、及び実世界へのインタラクション技術を修得し、これらを現実の問題解決に応用できる。〔専門知識の習得と問題解決への応用能力〕</p> <p>(D) 課題を解決するために、情報を収集、整理、分析し、問題解決のための計画、方策を立案して推進できる。〔問題の設定と解決能力〕</p> <p>(E) 技術文書の作成、発表、討論において、正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持つとともに、他者と協働して活動できる。〔他者と協働できる能力〕</p> <p>卒業後は、さまざまな産業においてデジタル化が求められる幅広い業務で活躍することが想定される。以下に具体的な例を挙げる。</p> <p>(1) ライフライン運営業(インフラ設備の遠隔運用監視)</p> <p>(2) 電気・電子・通信機器製造業(IoT機器の開発製造)</p> <p>(3) ソフトウェア開発業(業務用ソフトウェア開発)</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	情報科学部	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	
	実世界情報学科	4	80	—	320	学士(情報学)	工学関係	令和7年4月 第1年次	大阪府枚方市 北山一丁目79 番1号
計		80	—	320					
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	<p>大阪工業大学 情報科学部</p> <p>データサイエンス学科〔定員増〕 (10) (令和7年4月)</p> <p>情報知能学科〔定員増〕 (10) (令和7年4月)</p> <p>情報システム学科〔定員減〕 (△5) (令和7年4月)</p> <p>情報メディア学科〔定員減〕 (△5) (令和7年4月)</p> <p>ネットワークデザイン学科(廃止) (△90)</p> <p>(3年次編入学定員) (△5)</p> <p>※令和7年4月学生募集停止</p>								

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	情報科学部 実世界情報学科	110科目	13科目	6科目	129科目	124単位		
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)
		教授	准教授	講師	助教	計		
新設	情報科学部 実世界情報学科	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	87 (87)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)		
計	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)		
既設	情報科学部 データサイエンス学科	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	89 (89)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)		
情報知能学科	5 (5)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	13 (13)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	5 (5)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	13 (13)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	5 (5)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	13 (13)			

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 7人

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
既	情報システム学科	9 (9)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	98 (98)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	12 (12)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
	小計（a～b）	9 (9)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	9 (9)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			
情報メディア学科	9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)			95 (95)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	1 (1)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	5 (5)				
小計（a～b）	9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)				
設	工学部 都市デザイン工学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)			11 (11)	0 (0)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
分									

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
既	電子情報システム工学科	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	9 (9)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)				
設	応用化学科	7 (5)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	15 (13)	0 (0)	7 (7)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (5)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	15 (13)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (5)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	15 (13)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	7 (5)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	15 (13)				
分	環境工学科	4 (4)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	27 (27)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	10 (10)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	4 (4)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	4 (4)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	10 (10)				

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
既	生命工学科	6 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (9)	0 (0)	10 (10)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (9)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (9)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	6 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (9)				
設	一般教育科	8 (8)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	38 (38)	—
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (3)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)			
	小計（a～b）	8 (8)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	18 (18)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	8 (8)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	18 (18)				
分	総合人間学系教室	9 (9)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	44 (44)	—
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	7 (7)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	10 (10)			
	小計（a～b）	9 (9)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	9 (9)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	14 (14)				

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
既	ロボティクス&デザイン工学部	6	4	2	0	12	0	97	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
	ロボット工学科	(7)	(3)	(2)	(0)	(12)	(0)	(97)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6	3	1	0	10			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0	1	1	0	2			
	小計（a～b）	6	4	2	0	12			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0	0	0	0	0				
計（a～d）	6	4	2	0	12				
設	システムデザイン工学科	6	4	1	0	11	0	93	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
		(6)	(4)	(1)	(0)	(11)	(0)	(93)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5	4	1	0	10			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	1	0	0	0	1			
	小計（a～b）	6	4	1	0	11			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0	0	0	0	0				
計（a～d）	6	4	1	0	11				
分	空間デザイン工学科	6	5	1	0	12	0	125	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
		(6)	(5)	(1)	(0)	(12)	(0)	(125)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6	4	1	0	11			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0	1	0	0	1			
	小計（a～b）	6	5	1	0	12			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0	0	0	0	0				
計（a～d）	6	5	1	0	12				

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
既	知的財産学部	13	6	1	0	20	0	26	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	知的財産学科	(13)	(6)	(1)	(0)	(20)	(0)	(26)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	13	5	1	0	19	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0	1	0	0	1			
	小計（a～b）	13	6	1	0	20			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
計（a～d）	13	6	1	0	20				
(13)	(6)	(1)	(0)	(20)					
設	教職教室	0	0	0	0	0	0	10	—
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(10)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0	0	0	0	0	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
	小計（a～b）	0	0	0	0	0			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
計（a～d）	0	0	0	0	0				
(0)	(0)	(0)	(0)	(0)					
分	計	133	76	33	1	243	0	—	
		(129)	(75)	(33)	(1)	(238)	(0)	(—)	
合計		140	80	35	1	256	0	—	
		(136)	(79)	(35)	(1)	(251)	(0)	(—)	
職種		専属			その他		計		
事務職員		175 (175)			61 (61)		236 (236)		
技術職員		17 (17)			0 (0)		17 (17)		
図書館職員		4 (4)			31 (31)		35 (35)		
その他の職員		1 (1)			0 (0)		1 (1)		
指導補助者		2 (2)			0 (0)		2 (2)		
計		199 (199)			92 (92)		291 (291)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	250,521.40 m ²	0 m ²	0 m ²	250,521.40 m ²			
	そ の 他	1,034.03 m ²	0 m ²	0 m ²	1,034.03 m ²			
	合 計	251,555.43 m ²	0 m ²	0 m ²	251,555.43 m ²			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		167,344.28 m ² (167,344.28 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	167,344.28 m ² (167,344.28 m ²)			
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	570 室	教 員 研 究 室	275 室		大学全体	
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕			
	情報科学部 実世界情報学科	19,013 [1,672] (18,165 [3,484])	0 [0] (0 [0])	1 [1] (1 [1])	1 [1] (1 [1])	1,916 (1,916)	0 (0)	
	計	19,013 [1,672] (18,165 [3,484])	0 [0] (0 [0])	1 [1] (1 [1])	1 [1] (1 [1])	1,916 (1,916)	0 (0)	
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体
		8,635.46 m ²		1,077.91 m ²		22,538.11 m ²		
経 費 の 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
	経費の見積り		864千円	864千円	864千円	864千円	— 千円	— 千円
	教員1人当り研究費等							
	共同研究費等		388,000千円	408,000千円	431,000千円	454,000千円	— 千円	— 千円
	図書購入費	0千円	161千円	166千円	170千円	176千円	— 千円	— 千円
	設備購入費	9,935千円	7,888千円	7,888千円	7,888千円	7,888千円	— 千円	— 千円
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		1,640千円	1,490千円	1,490千円	1,490千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金、手数料等を充当						

既設大学等の状況	大学等の名称	大阪工業大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	工学研究科								
	博士前期課程								
	建築・都市デザイン工学専攻	2	30	—	60	修士（工学）	1.23	平成29年度	大阪府大阪市旭区大宮5丁目16番1号
	電気電子・機械工学専攻	2	50	—	100	修士（工学）	1.66	平成29年度	同上
	化学・環境・生命工学専攻	2	30	—	60	修士（工学）	1.98	平成29年度	同上
	工学研究科								
	博士後期課程								
	建築・都市デザイン工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.50	平成29年度	大阪府大阪市旭区大宮5丁目16番1号
	電気電子・機械工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.50	平成29年度	同上
	化学・環境・生命工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.83	平成29年度	同上
	ロボティクス&デザイン工学研究科								
	博士前期課程								
	ロボティクス&デザイン工学専攻	2	30	—	60	修士（工学）	1.50	平成29年度	大阪府大阪市北区茶屋町1番45号
	ロボティクス&デザイン工学研究科								
	博士後期課程								
	ロボティクス&デザイン工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.50	平成29年度	大阪府大阪市北区茶屋町1番45号
	情報科学研究科								
	博士前期課程								
	情報科学専攻	2	40	—	80	修士（情報学）	1.11	平成12年度	大阪府枚方市北山1丁目79番1号
	情報科学研究科								
	博士後期課程								
	情報科学専攻	3	5	—	15	博士（情報学）	0.20	平成14年度	大阪府枚方市北山1丁目79番1号
	知的財産研究科								
	専門職学位課程								
	知的財産専攻	2	30	—	60	知的財産修士（専門職）	1.56	平成17年度	大阪府大阪市旭区大宮5丁目16番1号

既設大学等の状況	大学等の名称		大阪工業大学						
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	工学部								
	学部合計	—	900	3年次 40	3,680	—	1.02	—	—
	都市デザイン工学科	4	100	3年次 5	410	学士（工学）	1.03	昭和24年度	大阪府大阪市旭区大宮5丁目16番1号
	建築学科	4	150	3年次 5	610	学士（工学）	1.02	昭和24年度	同上
	機械工学科	4	140	3年次 5	570	学士（工学）	1.07	昭和25年度	同上
	電気電子システム工学科	4	125	3年次 5	510	学士（工学）	1.03	昭和24年度	同上
	電子情報システム工学科	4	110	3年次 5	450	学士（工学）	1.06	昭和34年度	同上
	応用化学科	4	130	3年次 5	530	学士（工学）	0.96	昭和33年度	同上
	環境工学科	4	75	3年次 5	310	学士（工学）	0.89	平成18年度	同上
	生命工学科	4	70	3年次 5	290	学士（工学）	1.08	平成22年度	同上
	ロボティクス&デザイン工学部								
	学部合計	—	280	3年次 15	1,150	—	1.09	—	—
	ロボット工学科	4	90	3年次 5	370	学士（工学）	1.11	平成29年度	大阪府大阪市北区茶屋町1番45号
	システムデザイン工学科	4	90	3年次 5	370	学士（工学）	1.05	平成29年度	同上
	空間デザイン学科	4	100	3年次 5	410	学士（工学）	1.11	平成29年度	同上
	情報科学部								
	学部合計	—	460	3年次 20	1,880	—	1.02	—	—
	データサイエンス学科	4	70	—	280	学士（情報学）	0.97	令和3年度	大阪府枚方市北山1丁目79番1号
	情報知能学科	4	90	3年次 5	370	学士（情報学）	1.07	平成8年度	同上
	情報システム学科	4	105	3年次 5	430	学士（情報学）	0.96	平成8年度	同上
	情報メディア学科	4	105	3年次 5	430	学士（情報学）	1.05	平成14年度	同上
	ネットワークデザイン学科	4	90	3年次 5	370	学士（情報学）	1.06	平成19年度	同上
	知的財産学部								
	知的財産学科	4	140	3年次 10	580	学士（知的財産学）	1.02	平成15年度	大阪府大阪市旭区大宮5丁目16番1号

令和3年度学科設置
令和3年度入学定員減（△15人）

令和3年度入学定員減（△15人）

大学等の名称	摂南大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	薬学研究科								
	博士課程								
	医療薬学専攻	4	4	—	16	博士（薬学）	0.56	平成24年度	大阪府枚方市長尾峠町45番1号
	理工学研究科								
	博士前期課程								
	社会開発工学専攻	2	12	—	24	修士（工学）	0.83	平成元年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号
	生産開発工学専攻	2	12	—	24	修士（工学）	1.08	平成26年度	同上
	生命科学専攻	2	10	—	20	修士（理学）	0.85	平成26年度	同上
	理工学研究科								
	博士後期課程								
	創生工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.33	平成20年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号
	生命科学専攻	3	2	—	6	博士（理学）	0.33	平成28年度	同上
	経済経営学研究科								
	修士課程								
	経済学専攻	2	5	—	10	修士（経済学）	0.20	平成26年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号
	経営学専攻	2	5	—	10	修士（経営学）	0.20	平成26年度	同上
	法学研究科								
	修士課程								
	法律学専攻	2	5	—	10	修士（法学）	0.40	平成9年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号
	国際言語文化研究科								
修士課程									
国際言語文化専攻	2	5	—	10	修士（文学）	0.10	平成11年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号	
看護学研究科									
修士課程									
看護学専攻	2	6	—	12	修士（看護学）	0.33	平成28年度	大阪府枚方市長尾峠町45番1号	
農学研究科									
博士前期課程									
農学専攻	2	20	—	20	修士（農学）	1.05	令和6年度	大阪府枚方市長尾峠町45番1号	
博士後期課程									
農学専攻	3	3	—	3	博士（農学）	1.33	令和6年度	同上	

令和6年度研究科設置

大学等の名称	摂南大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	理工学部									
	学部合計	—	585	3年次 30	2,400	—	0.95	—	—	
	生命科学科	4	105	3年次 5	430	学士（理学）	0.78	平成22年度	大阪府寝屋川市池田中 町17番8号	令和3年度入学定員増（15人）
	住環境デザイン学科	4	85	3年次 5	350	学士（工学）	1.04	平成22年度	同上	令和3年度入学定員増（15人）
	建築学科	4	80	3年次 5	330	学士（工学）	1.08	昭和50年度	同上	令和3年度入学定員増（10人）
	機械工学科	4	130	3年次 5	530	学士（工学）	0.90	昭和50年度	同上	令和3年度入学定員増（20人）
	電気電子工学科	4	105	3年次 5	430	学士（工学）	1.03	昭和50年度	同上	令和3年度入学定員増（15人）
	都市環境工学科	4	80	3年次 5	330	学士（工学）	0.88	平成22年度	同上	令和3年度入学定員増（10人）
	外国語学部									
	外国語学科	4	—	—	—	学士（文学）	—	昭和57年度	大阪府寝屋川市池田中 町17番8号	令和4年度学生募集停止・令和6年度3年次編入学募集停止
	国際学部									
	国際学科	4	250	3年次 5	755	学士（文学）	0.96	令和4年度	大阪府寝屋川市池田中 町17番8号	令和4年度学部設置
	経営学部									
	学部合計	—	280	3年次 6	1,020	—	1.06	—	—	
	経営学科	4	280	3年次 6	1,020	学士（経営学）	1.06	平成18年度	大阪府寝屋川市池田中 町17番8号	令和4年度入学定員増（110人）・令和6年度編入学定員増（2人）
	経営情報学科	4	—	—	—	学士（経営学）	—	昭和57年度	同上	令和4年度より学生募集停止・令和6年度3年次編入学募集停止
	薬学部									
	薬学科（6年制）	6	220	—	1,320	学士（薬学）	0.99	平成18年度	大阪府枚方市長尾峠町 45番1号	
	法学部									
	法律学科	4	280	3年次 5	1,130	学士（法学）	1.02	昭和63年度	大阪府寝屋川市池田中 町17番8号	令和3年度入学定員増（30人）
	経済学部									
	経済学科	4	280	3年次 4	1,128	学士（経済学）	1.03	平成22年度	大阪府寝屋川市池田中 町17番8号	令和3年度入学定員増（30人）
	看護学部									
	看護学科	4	100	—	400	学士（看護学）	1.02	平成24年度	大阪府枚方市長尾峠町 45番1号	
	農学部									
	学部合計	—	340	—	1,360	—	0.96	—	—	
	農業生産学科	4	80	—	320	学士（農学）	0.85	令和2年度	大阪府枚方市長尾峠町 45番1号	
応用生物科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.00	令和2年度	同上		
食品栄養学科	4	80	—	320	学士（農学）	0.99	令和2年度	同上		
食農ビジネス学科	4	100	—	400	学士（農学）	0.98	令和2年度	同上		
現代社会学部										
現代社会学科	4	250	—	500	学士（社会学）	1.02	令和5年度	大阪府寝屋川市池田中 町17番8号	令和5年度学部設置	

大学等の名称	広島国際大学大学院									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	看護学研究科 博士前期課程 看護学専攻	2	10	—	20	修士（看護学）	0.00	平成15年度	広島県呉市広古新開5丁目1番1号	
	看護学研究科 博士後期課程 看護学専攻	3	3	—	9	博士（看護学）	0.00	平成24年度	広島県呉市広古新開5丁目1番1号	
	医療・福祉科学研究科 博士前期課程 医療工学専攻	2	—	—	—	修士（医療工学）	—	平成21年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	令和6年度学生募集停止
	医療・福祉科学研究科 博士後期課程 医療工学専攻	3	—	—	—	博士（医療工学）	—	平成21年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	令和6年度学生募集停止
	医療・福祉科学研究科 修士課程 医療福祉学専攻	2	—	—	—	修士（医療福祉学）	—	平成21年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	令和6年度学生募集停止
		2	—	—	—	修士（医療経営学）	—	平成21年度	同上	
	心理科学研究科 専門職学位課程 実践臨床心理学専攻	2	—	—	—	臨床心理修士（専門職）	—	平成21年度	広島県呉市広古新開5丁目1番1号	令和6年度学生募集停止
	薬学研究科 博士課程 医療薬学専攻	4	2	—	8	博士（薬学）	0.12	平成24年度	広島県呉市広古新開5丁目1番1号	
	医療科学研究科 博士前期課程 保健医療学専攻	2	5	—	5	修士（医療技術学）	0.20	令和6年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	令和6年度研究科設置
		2	5	—	5	修士（リハビリテーション学）	0.40	令和6年度	同上	
	医療科学研究科 博士後期課程 保健医療学専攻	3	2	—	2	博士（医療技術学）	0.00	令和6年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	
		3	2	—	2	博士（リハビリテーション学）	0.00	令和6年度	同上	
	健康科学研究科 修士課程 医療福祉学専攻	2	5	—	5	修士（医療福祉学）	0.00	令和6年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	令和6年度研究科設置
		2	5	—	5	修士（医療経営学）	0.00	令和6年度	同上	
	健康科学研究科 博士前期課程 心理学専攻	2	20	—	20	修士（心理学）	0.70	令和6年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	
	健康科学研究科 博士後期課程 心理学専攻	3	2	—	2	博士（心理学）	0.00	令和6年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	

大学等の名称	広島国際大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	保健医療学部									
	学部合計	—	220	—	880	—	1.02	—	—	
	診療放射線学科	4	70	—	280	学士（診療放射線学）	1.14	平成10年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	
	医療技術学科 臨床工学専攻 臨床検査学専攻	4	100	—	400	学士（臨床工学） （臨床検査学）	0.93	平成25年度	同上	
	救急救命学科	4	50	—	200	学士（救急救命学）	1.03	令和2年度	同上	
	総合リハビリテーション学部									
	学部合計	—	180	—	720	—	1.02	—	—	
	リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻 言語聴覚療法専攻 義肢装具学専攻	4	180	—	720	学士（理学療法） （作業療法） （言語聴覚療法） （義肢装具学）	1.02	平成25年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	
	リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	4	—	—	—	学士（義肢装具学）	—	平成25年度	同上	令和2年度学生募集停止
	医療経営学部									
	医療経営学科	4	—	—	—	学士（医療経営学）	—	平成23年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	令和2年度学生募集停止
	心理学部									
	心理学科	4	—	—	—	学士（心理学）	—	平成27年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	令和2年度学生募集停止・令和4年度3年次編入学募集停止
	看護学部									
	看護学科	4	120	3年次10	500	学士（看護学）	0.96	平成15年度	広島県呉市広古新開5丁目1番1号	
	薬学部									
	薬学科（6年制）	6	120	—	720	学士（薬学）	0.70	平成18年度	広島県呉市広古新開5丁目1番1号	
	医療栄養学部									
	医療栄養学科	4	—	—	—	学士（医療栄養学）	—	平成26年度	広島県呉市広古新開5丁目1番1号	令和2年度学生募集停止
	健康科学部									
	学部合計	—	350	—	1,100	—	0.79	—	—	
	医療福祉学科 医療福祉学専攻 介護福祉学専攻 保育福祉学専攻	4	—	—	—	学士（医療福祉学）	—	令和2年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36	令和6年度学生募集停止
	医療経営学科	4	90	—	360	学士（医療経営学）	0.92	令和2年度	同上	
心理学科	4	100	—	400	学士（心理学）	0.69	令和2年度	同上		
医療栄養学科	4	60	—	240	学士（医療栄養学）	0.90	令和2年度	広島県呉市広古新開5丁目1番1号		
社会学科 地域創生学専攻 社会福祉学専攻	4	100	—	100	学士（地域創生学） （社会福祉学）	0.53	令和6年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36 広島県呉市広古新開5丁目1番1号	令和6年度学科設置	
健康スポーツ学部										
健康スポーツ学科	4	70	—	280	学士（健康スポーツ学）	1.10	令和2年度	広島県東広島市黒瀬学園台555番地36		

附属施設の概要	名称 : 八幡工学実験場 目的 : 工学分野教育 所在地 : 京都府八幡市美濃山一ノ谷4 設置年月 : 昭和61年12月 規模等 : 土地28,687.88㎡、建物4,911.12㎡	
---------	---	--

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部実世界情報学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎	1・2前		2		○								1	オムニバス・共同(一部)	
	社会学基礎	1・2前		2		○									1		
	情報社会論	1・2後		2		○									1		
	倫理学基礎	1・2前・後		2		○									1		
	応用倫理学	1・2後		2		○									2		
	日本の歴史	1・2前		2		○									1		
	人類の歴史	1・2後		2		○									1		
	文学基礎	1・2前・後		2		○									1		
	観る文学	1・2後		2		○									1		
	言語学基礎	1・2前・後		2		○									1		
	日本国憲法	1・2前		2		○									1		
	法学基礎	1・2後		2		○									1		
	情報法学	3前		2		○									1		
	経済学基礎	1・2前・後		2		○									1		
	現代経済論	1・2後		2		○									1		
	心理学基礎	1・2前・後		2		○									1		
	人間発達と人権	2前・後		2		○									1		
小計(17科目)	—	—	—	0	34	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	10	—
共通科目・総合人間学系	外国語	英語表現(basic1)a	1前		1		○									4	集中
	英語表現(basic1)b	1後		1		○										4	
	英語の語法	3前・後		2		○										4	
	口語英語 I a	1前		1		○										3	
	口語英語 I b	1後		1		○										3	
	英語による情報技術 II	3前・後		2		○										1	
	英語表現(basic2)a	2前		1		○										2	
	英語表現(basic2)b	2後		1		○										2	
	口語英語 II a	2前		1		○										1	
	口語英語 II b	2後		1		○										1	
	英語による情報技術 I a	2前		1		○										1	
	英語による情報技術 I b	2後		1		○										1	
	英語演習	3後		1				○								1	
	海外語学研修	1・2・3・4前・後		2						○						1	
日本語 I	1前		2			○									1		
日本語 II	1後		2			○									1		
小計(16科目)	—	—	—	0	21	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	15	—
健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a	1前		1		○					1				1		
	基礎スポーツ科学b	2後		1		○					1				1		
	健康科学	3前		2		○					1						
	スポーツ科学実習	3前		1										○			
小計(4科目)	—	—	—	0	5	0	—	—	—	—	1	0	1	0	0	1	—
共通科目・総合理化学系	科学史	4後		2		○										1	
	小計(1科目)	—	—	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	1	
	物理学基礎	1前		2		○										1	
	物理現象の数理	2前		2		○										1	
	力学	1前		2		○										1	
	電磁気学	1後		2		○										1	
	現代物理学入門	2後		2		○										1	
小計(5科目)	—	—	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	2	—	
化学	化学基礎	1前・後		2		○										2	オムニバス
	環境情報科学	1後・2前		2		○										4	
	小計(2科目)	—	—	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	6	

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部実世界情報学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
共通科目・総合理学系	地球科学基礎	1前			2		○			1							
	地球環境	1後			2		○			1							
	小計 (2科目)	—	—	0	4	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	—
	生命科学基礎	1前			2		○			1							
	情報生命科学	1後			2		○			1							
	小計 (2科目)	—	—	0	4	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	—
総合	視る自然科学	2後			2		○			3						2	オムニバス・共同(一部)
	小計 (1科目)	—	—	0	2	0	—	—	—	3	0	0	0	0	0	2	—
キャリア科目	基礎ゼミナール	1前			1			○		4	1	1				24	共同
	キャリアステップ	1後			1		○			1							
	キャリアデザインⅠ	2前			1		○					1					
	キャリアデザインⅡ	2後			1		○									1	
	グローバルテクノロジー論	2前・後			1				○							1	集中
	OIT概論	1前			1		○			1						9	集中・オムニバス・共同(一部)
小計 (6科目)	—	—	0	6	0	—	—	—	4	1	1	0	0	0	34	—	
数理科学	線形数学Ⅰ	1前・後			2		○										2
	線形数学Ⅱ	3後			2		○										1
	微積分Ⅰ	1前・後			2		○										3
	微積分Ⅱ	3後			2		○										1
	情報数学	2後			2		○										1
	微分方程式	1後			2		○										2
	グラフ理論	2前			2		○										1
	数理計画法	3後			2		○										1
	確率・統計	3前			2		○										1
	小計 (9科目)	—	—	0	18	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	8
専門科目	コンピュータ入門	1前	○		2		○			1							
	実世界情報入門	1前	○		2		○			1							
	Unix入門	1前			1		○				1						
	シェルスクリプト入門	1前			1		○				1						
	コンピュータリテラシー	1前			2		○									1	
	デジタル回路Ⅰ	1後	○		1		○			1							
	デジタル回路Ⅱ	1後	○		1		○			1							
	IoT概論	1後	○		2		○			1							
	テクニカルライティング	1後	○		2		○			1						1	
	データ構造とアルゴリズム	2前	○		2		○			1							
	情報通信ネットワーク	2前	○		2		○				1						
	人工知能	2前	○		2		○				1						
	情報処理基礎	2後			2		○				1					4	集中・オムニバス
	オペレーティングシステム	2後	○		2		○			1							
	ソフトウェア工学Ⅰ	2後	○		2		○			1							
	画像情報処理	2後			2		○			1							
	情報セキュリティの基礎	2後	○		2		○			1							
小計 (17科目)	—	—	12	18	0	—	—	—	4	2	0	0	0	0	6	—	
基幹科目	ロボティクス	2前	○		2		○				1		1				オムニバス
	実世界計測	2後			2		○			1		1					
	IoTデータベース	2後			2		○			1							
	Webプログラミング	3前			2		○			1							
	コンピュータビジョン	3前			2		○					1					
	IoTサーバ構築	3後			2		○				1						
	IoT通信	3後	○		2		○				1						
	情報技術者論	3後	○		2		○			2						11	オムニバス・共同(一部)
	情報ゼミナール	3後	○		2		○			7	4	2					共同
小計 (9科目)	—	—	4	14	0	—	—	—	7	4	2	0	0	0	11	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部実世界情報学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
専門科目	応用科目	ものづくり実習	2前		1				○	1	1						集中・共同
		システムプログラム	3前		2			○		1					1	共同	
		ソフトウェア工学Ⅱ	3前		2			○							1		
		ヒューマンインタフェース	3前		2			○							1		
		ロボット対話システム	3前		2			○									
		メディア通信概論	3後		2			○		1							
		情報科学実践演習(国際PBL)	2後		1				○						1	集中	
		情報科学実践演習(国内PBL)a	2前		1				○			1			3	集中・共同	
		情報科学実践演習(国内PBL)b	2後		1				○			1			3	集中・共同	
	小計(9科目)	—	—	0	14	0			—	3	2	0	0	0	7	—	
	演習科目	C演習Ⅰ	1後	○	3				○		1		1				共同
		C演習Ⅱ	2前	○	3				○			2					共同
		Java演習	2後	○	3				○			2			1	共同	
		ソフトウェア工学演習	3前		2				○			1			1	共同	
実世界情報基礎演習		2後	○	2				○		2	2				共同		
実世界情報専門演習		3前	○	2				○		2	1	1			共同		
実世界情報応用演習		3後		2				○			2				共同		
小計(7科目)	—	—	7	10	0			—	4	4	1	0	0	2	—		
教職課程の設置により開講する授業科目	数学科教育法a	2前・後			2		○								1		
	数学科教育法b	3前・後			2		○								1		
	数学科教育法c	3前・後			2		○								1		
	数学科教育法d	4前・後			2		○								1		
	情報科教育法a	3前・後			2		○					1					
	情報科教育法b	3前・後			2		○					1					
	教育原論	2前・後			2		○								1		
	教職入門	1前・後			2		○								1		
	教育行政	3前・後			2		○								1		
	教育心理学	1前・後			2		○								1		
	特別支援教育	2・3前・後			2		○								1		
	教育課程論	2前・後			2		○								1		
	道徳教育	2前・後			2		○								1		
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2・3前・後			2		○								2	オムニバス	
	教育方法論(ICT活用含む)	2前・後			2		○								2	オムニバス	
	生徒指導と進路指導	2前・後			2		○								2	オムニバス	
	教育相談	3前・後			2		○								1		
	中学校教育実習	4前			5				○						5	集中・共同	
	高等学校教育実習	4前			3				○						5	集中・共同	
	教職実践演習(中・高)	4後			2				○						5	共同	
	人間発達と人権	2前・後			2		○								1		
	教職特論	4後			2		○								2	共同	
小計(22科目)	—	—	0	0	48			—	0	0	1	0	0	9	—		
合計(129科目)		—	—	23	166	48			—	7	4	2	0	0	87	—	
学位又は称号		学士(情報学)			学位又は学科の分野				工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等									
本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系12単位以上を含む<人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要>)、キャリア科目2単位および所属する学科の専門科目86単位(必修科目23単位、選択科目<選択必修科目12単位を含む(注1)>63単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。 [履修科目の登録の上限:44単位(年間)] (注1)線形数学I、微積分学I、情報数学、グラフ理論、確率・統計、デジタル回路I、デジタル回路II、データ構造とアルゴリズム、人工知能、ソフトウェア工学I、情報セキュリティの基礎、ロボティクス、IoT通信、C演習II、Java演習を選択必修科目とする。								1学年の学期区分			2学期						
								1学期の授業期間			14週						
								1時限の授業の標準時間			100分						

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 科目 ・ 総合 人間 学系	哲学基礎		哲学は、自らの納得の感覚に従い「考えること」を徹底して行う学問である。本講義は、人間が存在するために情報というものがあるがどのような局面でどのような役割を果たしているのか、また基本的世界観として情報と実在の関係はどのようなになっているのか、といったテーマに即して哲学を実践することを目的とする。より具体的には、生命と情報の関係、自然界における人間の位置、情報の伝達、情報とリアリティについてどう考えるべきかを探求する。	
	社会学基礎		本講義では、自己、家族、仕事など日常的な事柄を出発点に社会学的な分析を加えることによって、今まで当たり前と思っていたこと、見過ごしてきた現象について、社会学独自の見方をする事で問題を再発見でき、さらに、その問題に対して社会学的な想像力をもって解決への道筋をみいだせる“考える力”を身につける。そのために、まずは社会学上の様々な概念を分析のためのツールとして応用できるようにすることを目的とする。	
	情報社会論		本講義では、社会の情報化によるコミュニケーション形態、メディア、匿名性、情報ネットワークなどに焦点を当て、それらが社会にどのようなインパクトを与えたかを学ぶ。また、情報技術の発達の社会的影響力をふまえて、知的財産権や情報モラルといったテーマを事例に、情報メディアを使用する人間行動について理解を深め、情報化のプラスの面だけでなく、様々な問題について社会と関連づけて一般化して論じることができる力を身につける。	
	倫理学基礎		倫理学とは、人間が人間としてすべきこと・してはいけないこと、善悪について考える学問である。本講義では、提示される、規範の構造、共同体の内部と外部、共同体の力学、日本の共同体、異なる規範を持つ他者との対話といったテーマに即して、倫理的問題を自らのものとして考えることを目的とする。より具体的には、日本の共同体における「世間」と「社会」の二重構造について、そして当事者研究の知見をもとに異なる規範の対立を乗り越える方法について考えることを目的とする。	
	応用倫理学		（概要）倫理学とは、人間が人間としてすべきこと・してはいけないこと、善悪について考える学問である。本講義にて提示されるテーマに従って、自らのこととして倫理的問題について考えることを目的とする。また具体的なテーマとして、仕事の意味、高度情報化社会における倫理について考える。 （オムニバス方式／全14回） （14 雨宮徹／8回） 応用倫理学の授業の概要、ミニレポートの書き方について理解する。具体的なテーマは以下の通り。他人との比較あるいは金銭を仕事のインセンティブとした場合、幸福を得られるか／マズローの欲求の階層、チクセントミハイの「フロー」／フランクルの「幸福追求のパラドックス」と「人生の意味への間についてのコペルニクスの転回」との関連性／フランクルの思想における「自己中心性」／フランクルの思想における「自己超越性」／自己超越としての仕事（西岡常一、ナイチンゲールの思想に即して）また、レポートの書き方について解説する。 （75 越智徹／5回） 高度情報化社会における倫理とは何かについての概要を考える。具体的なテーマは以下の通り。個人のセキュリティ対策や不正アクセスによる被害／掲示板・コミュニケーションサイト、個人情報の漏洩に、違法販売・有害情報／SNS以前のインターネット環境や言論・倫理、またSNS登場後の情報活用による生活の変化、電子化される情報／Twitter(現X)をはじめとしたSNSのあるべき姿について考える。 （14 雨宮徹・75 越智徹／1回）（共同） 後半の内容についてまとめの課題を授業内で実施し、取り組みの指導および解説をする。	オムニバス方式・共同(一部)
	日本の歴史		歴史学は、現在に残された多様な史料情報を収集・分析し、それらを再構成して歴史叙述を行う実証科学である。本講義では、歴史研究をとりまく諸問題や、多様な史料の性格および特質を紹介するとともに、それがどのように解釈され史実として認定されてきたかについて検討する。そのことによって歴史学がどのような研究方法を用いた学問なのかを認識するとともに、講義全体を通じて日本社会の歩みをより深く理解することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通科目・総合人間学系	人類の歴史		世界が緊密化した今日、各地の様々な地域・文化の特質、価値観を理解することが求められている。本講義では、人類の誕生から21世紀初頭に至る過程を振り返ることで、歴史的に形成されたそれらの特徴を取り上げるとともに、情報システムの高度化によって現代世界がどのように形成され、いかなる課題を抱え克服してきたのかを概観する。それらを活きた知識とすることで、現代世界をより深く理解し、多様な視点から考える素養を身につけることを目的とする。	
	文学基礎		本講義は、「Ⅰ.文学作品のさまざまな姿」、「Ⅱ.オリジナルとその変容」、「Ⅲ.文体・メディア・あそび」、「Ⅳ.吉野・川上村の文学」の四部構成である。Ⅰでは、印刷技術が発達する前の時代に、人々の書写活動によって生み出された文学作品が、複数の本文を有し、決して一つだけではない姿を見せることについて考える。Ⅱでは、古典作品がいかに前時代との関わりを意識し、作品に取り入れ、変容させていったのかを考える。Ⅲでは、万葉仮名、絵画、和歌文化をキーワードに、多様な文学の表現方法を学ぶ。Ⅳでは、本学と連携協定を締結している奈良県吉野郡川上村にまつわる文学を取り上げる。本講義では、古典籍データベースや学習支援アプリを活用して学習を進めるとともに、人文学分野の課題に対して情報技術を活用することにより、新たな知見を見出すことを目的とし、文学を継承し発展させていくための情報技術についても考える。	
	観る文学		本講義では、平安～鎌倉時代成立の絵巻物（『伴大納言絵巻』、『信貴山縁起絵巻』、『源氏物語絵巻』、『酒吞童子絵巻』）を取り上げる。絵巻物の鑑賞方法を習得するところから始め、「新日本古典籍総合データベース」（国文学研究資料館）、「日本古典籍データセット」（人文学オープンデータ共同利用センター）のようなデータベースや学習アプリケーション、学習支援サイト等を活用しながら、古典文学作品へのアプローチを行う。また、IIIF (International Image Interoperability Framework) 等、最新の人文情報学の研究内容も扱い、最終的には「より分かりやすい絵巻物鑑賞方法（より魅力的な絵巻物展示方法）」を考案し、口頭発表・レポート執筆を行う。講義全体を通して、文学を継承し発展させていくための情報技術についても考えることを目的とする。	
	言語学基礎		言語学とは、私たち人間が日常使用している「言葉」を研究する学問領域である。言語そのものの構造（文や語などの仕組み）、言葉の使われ方、変異（地理的・社会的な異なり）、歴史的变化を中心に取り上げ、最終的には、言語が人間の意思伝達のためにあることをふまえ、人間のコミュニケーションについても考える。本講義では、国立国語研究所のデータベースや、情報処理学会「人文学とコンピュータ研究会」における研究成果も紹介し、「言葉」を継承し発展させていくための情報技術について考えることを目的とする。	
	日本国憲法		本講義では、日本国憲法について、そこに表現される「個人の尊厳」という理念に焦点をあて、できるかぎり具体的な事例に即して解説を行なう。「自由の基礎法」としての憲法の講義を受講することを通して、「ひとはいかに生きるべきか」という根本的な問いについて、思索をめぐらせるとともに、日本国憲法の基本的な理解について立憲主義を軸とした説明ができ、人権概念の成立と展開、および、その意義について、包括的に説明できることを目的とする。	
	法学基礎		本講義では、私たちの日常生活におけるいくつかの法的諸問題の解説を通して、法の実務における基本的な考え方を示していく。なお、本講義は、法律の条文や判例、学説といった知識を覚えこむのではなく、社会的な諸問題を、法的に再構成し、その全体像を捉えることを目的とする。このことを踏まえ、「なぜ、そのように考えるのか」ということを常に意識し、近代法システムの基本的な考え方・方向性について、包括的に説明できることを目的とする。	
	情報法学		現代社会において、目に見えるものではない「情報」の価値や重要性は、日々増す一方である。したがって、情報の価値を保護し、またその重要性を認識しながら、うまく活用していくことが求められる。そのためには、情報に関するどのような法が存在し、また存在しないのかを理解したうえで、情報に接することが必要であるといえる。本講義は、情報に関する法整備の状況や情報に関して問題が起きた事例などをと、情報法の基礎と現在を学ぶことで、情報を専門に学ぶ者としてどのように情報を取り扱うべきなのかを、法的観点から学ぶことを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	経済学基礎	経済学は、特に近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問であり、私たちの社会の豊かさや直面する課題解決(貧困、社会保障、環境問題など)を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策が密接に関わっている。本講義では、まず経済学の基礎的な考え方や理論について、時代ごとの代表的な学説に即して取り扱う。これは主に、私たちの生活における労働・生産活動、消費行動、市場経済や産業の発展といった民間部門の領域を取り扱う議論である。その一方で、経済には政府部門の領域もあり、財政学・公共政策の分野として展開されてきた。こちらは、私たちの生活や経済活動の基礎的条件ともいえる治安や環境の保全、公共インフラの整備、社会保障の提供などを担うものである。経済学と財政学の基礎を学び、現代の経済および政策の動向を理解する素地を養うことを本講義の目的とする。	
		現代経済論	経済学は、特に近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問であり、私たちの社会の豊かさや直面する課題解決(貧困、社会保障、環境問題など)を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策が密接に関わっている。本講義では、主に日本経済を対象として、労働・雇用問題や社会保障、環境問題、地域経済・地方財政など、我々の社会にとっての身近な経済問題・経済政策を中心に取り扱う。これら各テーマの内容についての基本的知識や経済の側面について学び、社会問題として適切に理解し、自らで考察する上での素地を養うことを本講義の目的とする。	
		心理学基礎	人は生きていくうえで様々な能力を駆使している。また、その能力も人とかかわりの中で成長・発達していく。心理学は、人間の「こころ」を「行動」でとらえ、人間の行動を支配する法則や理論を発見する学問である。本講義は、第一に、心理学の基本的な考え方や基礎的な知識を学習することを目的とする。第二に、人間のもつ各種の心的機能、人の発達過程、性格・パーソナリティの理論ととらえ方、対人関係や適応などの問題について心理学の観点から取り上げる。以上のことを学ぶことにより、受講生が他人や自分自身について、さらに理解を深める基礎となることをねらいとしている。	
		人間発達と人権	本講義では、人間の発達および人権について、人権思想史・世界人権宣言・日本国憲法・子どもの権利条約等の中から学び、関連する今日的課題についてのディスカッションを通じて理解を深める。具体的には、女性問題、子どもへの体罰・虐待問題、ジェンダー平等をめぐる問題、同和問題、アイヌ差別の問題、在日外国人差別の問題等について学ぶことにより、人権尊重の精神を養い、具体的な教育実践に結びつけることを目的とする。	
		外国語	英語表現(basic1)a	英語学習では、「読む・聞く・書く・話す」の4種類の技能が求められる。本講義は、高校までに学んだ英語の知識・習得レベルを向上させることを目的とする。具体的には、英文法と基本語彙において不十分な箇所を補い、比較的易しい英文を正しく解釈し、基本的な語彙を用いて正しい英文が書けるようになる力を身につける。また、リスニングを通して、単語・英文の正しい発音もできるようにすることを目的とする。さらに、グローバルな視点で異文化に関する背景知識についても理解させる。
		英語表現(basic1)b	本講義は、「英語表現(basic1)a」に引き続き、様々な英語表現について学習し、「読む・書く・聞く・話す」に関する能力を向上させることを目的とする。基本語彙・文法から実践的な語彙・文法への橋渡しを行うことによって、未知の表現に出会っても意味を推測する姿勢を身につける。初級レベルの語彙の意味を理解し、スペリングや発音に注意してその語彙を運用できるとともに、文法構造に基づいた英文の解釈、簡単な英文の作成、短い英文の要旨把握ができるようになることをねらいとする。さらに、グローバルな視点で異文化に関する背景知識についても解説する。	
		英語の語法	本講義では、1・2年次で身につけた英語能力をもとに、社会で求められる英語を臆せず使用することができることを目的として、様々な状況で使い分けられる語法について学ぶ。さらに、意味は似ているがニュアンスが違う語の使い分けや、文構造のレベルでの状況に応じた使い分けを知ることは重要であるため、特に実社会でよく出てくる表現を習得することを目的とする。また、他の人と英語で積極的にコミュニケーションを取り、協力する力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通科目・総合人間学系	外国語	口語英語 I a	本講義は、コミュニケーション活動とボキャブラリー構築の練習を通して、基礎的な英語力を向上させることを目的とする。コミュニケーション活動では、話すこと、相手の話を聞くこと、理解すること、コミュニケーションの難しさを解決することに重点を置く。理解のための基本パターンを用いて、日常生活について話すのに必要な基本的な語彙だけでなく、教室内外の英会話で生き残る方法を学び、引き続き基本的な語彙を増やし、文法的な知識を身につける。	
		口語英語 I b	本講義は、「口語英語 I a」に引き続き、コミュニケーション活動とボキャブラリー構築の練習を通して、基礎的な英語力を向上させることを目的とする。コミュニケーション活動では、話すこと、相手の話を聞くこと、理解すること、コミュニケーションの難しさを解決することに重点を置く。理解のための基本パターンを用いて、日常生活について話すのに必要な基本的な語彙だけでなく、教室内外の英会話で生き残る方法を学び、引き続き基本的な語彙を増やし、文法的な知識を身につける。	
		英語による情報技術 II	情報分野の技術情報は大半が英語で発信されている。情報技術者にとって、英語で書かれたマニュアル、専門図書、教科書、学術論文、技術文書、雑誌記事、ウェブページ、業界ニュースなどを読むことは日常的に必要である。また、プログラム作成、学会発表、ホームページ作成、電子メールなどで英語を書くことも必要である。本講義では、情報技術者として英語で受信と発信ができることを目的として、情報科学分野などに関連する発展的内容を理解、伝達する力を身につける。	
		英語表現(basic2)a	「英語表現(basic1)a」で身につけた英語能力をより実践的なものにするために、レベルの高い語彙や語法を学び、更にかなり高度な表現も理解しておくことが必要になる。そこで、本講義では、実際に英語を書いたり読んだりするために必要なことを学び、よりレベルの高い実用的な「コミュニケーションの手段としての英語」を効果的に身につけることを目的とする。また、他の人と英語で積極的にコミュニケーションを取り、協力する力を身につける。	
		英語表現(basic2)b	「英語表現(basic2)a」に引き続き、中級レベルの語彙や語法の習得を目的とする。ニュアンスの異なる表現を使い分ける力を身につけ、より詳しい語彙や文構造についての知識、および、高度な読解力・作文能力を習得することで、中級レベルの語彙の意味を理解しスペリングや発音に注意してその語彙を運用できるとともに、文法構造に基づいた英文の解釈、やや複雑な英文の作成、やや長い英文の要旨把握ができるようになることを目的とする。さらに、グローバルな視点で異文化に関する背景知識についても解説する。	
		口語英語 II a	本講義は、実際のコミュニケーションの場面を想定し、より実践的なコミュニケーション活動を通じて、英語力を高めることを目的とする。活動としては、課題の説明などを自信を持って、流暢に正確に伝えられるような練習を中心に行う。また、情報技術に関わる専門的な課題の説明ができるように、自分の考えを英語で表現するための語彙力を身につけ、多様な価値観を持つ他者とコミュニケーションをとり協力して課題に取り組む際に必要なコミュニケーション力の向上を図る。	
		口語英語 II b	本講義は、「口語英語 II a」に引き続き、実際のコミュニケーションの場面を想定し、より実践的なコミュニケーション活動を通じて、英語力を高めることを目的とする。活動としては、相手に情報を伝えること、自分の意見を表明すること、内容をまとめることを流暢に効果的にできるようになるための練習を中心に行う。また、情報技術に関わる専門的な課題の説明ができるように、自分の考えを英語で表現するための語彙力を身につけ、課題に他者と協力して取り組む際に必要なコミュニケーション力の向上を図る。	
		英語による情報技術 I a	情報分野の技術情報は大半が英語で発信されており、情報技術者にとって英語で書かれたマニュアルや専門図書、教科書、学術論文、技術文書、雑誌記事、ウェブページ、業界ニュースなどを英語で読むことは日常的に必要である。また、プログラム作成、学会発表、ホームページ作成、電子メールなどで英語を書くことも必要である。本講義では、情報技術者として英語で受信と発信ができることを目的として、情報科学分野などに関連する基礎的内容を理解、伝達する力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通科目・総合人間学系	英語による情報技術 I b		本講義は、「英語による情報技術 I a」に引き続き、英語によって記述された情報科学分野の技術的内容を理解し、英語による情報収集を行い、実践的な問題解決をする能力を身につけることを目的とする。情報技術者にとって、英語で書かれた文書を理解することや、英語を基本としたプログラム作成などは日常的に必要である。本講義を通して、情報科学分野に関連する基本的な概念、アルゴリズム、ソフトウェア開発などの内容を英語で理解し、さらに伝達する力を身につける。	
	英語演習		本講義では、1・2年次に培ってきた英語力のさらなる向上を目的とし、より積極的に英語を用いて課題に取り組むためにPBL型の授業を行う。本講義で課される課題は、情報技術に関するものが中心となる。与えられた課題に関わる問題を解決するにあたり、他者と協力するために必要な表現力や、自分の意見を明確に表現するための語彙力を身につける。情報技術に関する課題の解決には専門の授業で得た知識が必要となるが、これを英語を用いて行うことで国際化の進む社会へ対応できるようにする。	
	海外語学研修		本講義は、実践的な英語の習得と英語の歴史・文化的な背景・習慣に直接触れ、広範な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。まず、英語の事前学習を行い、自ら研修先の情報収集を行う。そして現地の授業では、2週間程度、英語の4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に学ぶ。課外活動では、滞在国・地域の文化を理解するとともに、他の参加者との会話を通じてコミュニケーション能力の向上を図る。また、ホームステイの場合にはホストファミリーとの対話を通じて、その地域の家庭文化を学ぶ。その後、英語の事後学習を行い、各研修先の代表者が研修の成果についての発表を行う。これらにより英語の発信能力とともに、異文化コミュニケーション能力を養い、異文化交流ができることを目的とする。	集中
	日本語 I		本講義は、留学生のために開講しており、大学で学ぶために必要な最低限の日本語力を身につける。まず、聞き取りの技術、読解の技術、発話の技術、作文の技術を磨き、大学一般レベルの読み物をもとに情報検索の方法を学ぶとともに、模擬講義を聴きながらノートを取る方法を学ぶ。これにより、教科書等を読む時に必要な情報をすばやく見つけることができ、聞き取りにおいては論の展開を考えながら聞き取ることができる。そうすることで論理的に質疑応答ができ、筆記試験の答案が書けるようになることを目的とする。	
	日本語 II		本講義は、「日本語 I」の発展であり、レポート作成と研究発表のシミュレーションを通じて、日本語運用の応用力を磨くことを目的とする。基本的な単漢字の読み・書きのルールおよび意味を理解することで、未習の漢字語の意味を推察し、資料を活用した論理的で形式の整ったレポートを書く力を身につける。また、定められた時間内での研究発表および質疑応答に関しても問題なくでき、研究発表のレジュメにおいても問題なく書くことができる力を身につける。	
健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a		健康増進の三原則は運動・栄養・休養である。本講義は、これらをバランスよくライフスタイルに取り込むための知識・態度・習慣化などの能力を高めることをねらいとする。同時に運動文化を享受する態度や実践能力を養う。このために、自己の生理機能の状態および自己の実態を理解し、自分に適したトレーニング法の学習や、運動・スポーツの楽しみ方、充実感を体験する。そして、生涯を通しての運動・スポーツ実践の必要性と重要性について理解することを目的とする。	
	基礎スポーツ科学b		本講義では、生活習慣と体力をテーマとして、日常生活をどのように改善していくべきなのかについて学び、普段からできる体力づくりや運動習慣の重要性など、健康な生活を営むうえで必要とされる知識と態度を養う。また、スポーツを通じた仲間づくりに努めるとともに、リーダーシップをとれる人間性を養うことを目的とする。さらに、スポーツ実技を通じ基礎体力の意義や健康に関係した問題の把握と解決法、運動・スポーツの科学的な知識の理解と実践も身につけることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通科目・総合人間学系	健康科学		本講義は、健康の概念や健康に関する種々の因子などについて考えるとともに、健康を維持・増進するための基礎知識を修得することを目的とする。特に、運動と健康との関連について、運動生理学の分野で得られているデータをもとに理解を深め、自ら健康について考察したことを発表できることをねらいとする。そして、健康の概念や健康に関わる因子について理解し、健康と生活習慣との関連について述べることができ、また、運動処方に関する知識を修得し処方を作成し、健康維持や増進のための知識を修得し実践できることを目的とする。	
	スポーツ科学実習		人々が生涯にわたり健康で豊かな生活を送る上で、継続的なスポーツの実践は有用な手段である。本講義は、生涯にわたってスポーツを楽しむ、運動を実践できるような知識を理解することを目的とする。実際にスポーツ種目をいくつか実習して経験することで、運動習慣を身に付け、健康に関心を持たせることをねらいとする。生涯スポーツへの取り組み方を考察し、実際に実践する能力の修得、生涯スポーツを楽しむ工夫の考察、生涯スポーツの概念を述べることができ、各種スポーツを自ら実践できることを目的とする。	
共通科目・総合理学系	科学技術史		現代社会において科学・技術の問題にまったく無知・無関心では人類の知識総体の理解を行うことはまず不可能である。それほど科学的知識は社会において大きな影響力をもっている。しかし、このように強大な存在感は、例えば2500年ほど前の古代世界においても存在していたのだろうか。本講義では、発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術という人類の知的営為について、古代ギリシャから遡り解説する。なお、扱われる対象は近代の数学や物理学を主体とした分野だが、こういった数理科学的学問の誕生には西洋思想の諸問題の理解が深く関係しているため適宜取り上げる。本講義で得られる知識は、個別の専門分野のプロフェッショナルを育成する際に失われる傾向にある、研究の社会的意義等を俯瞰するジェネラリスト的視点を補完するために役立つ、学際的困難性を伴う課題解決に有効となると考える。	
	物理	物理学基礎	情報科学で学ぶ様々な事柄の中には、物理的な考えの上に成り立っているものが多数ある。目に見える例をいくつか挙げると、コンピュータグラフィックスでは、計算により光の性質が再現されており、最新のゲームの映像作成においては力学や流体力学等の物理の様々な知見が利用されている。より基本的なものとして保存則の考え方は、情報科学の様々な事柄に応用されており、重ね合わせの原理は言ってみれば工業製品の作成方法そのものともいえる。本講義は、自然現象のモデル化と少数の法則により統一的に自然を理解する物理の考え方の理解を目的とする。基本的な考え方を身につけるために、レポートにより演習問題を解くことが必要となる。	
		物理現象の数理	物理学は自然の構造が数少ない基本法則によって記述される、驚くほどシンプルな構造をした学問体系である。また、物理法則を曖昧さなしに記述するには、数学という「言語」を使った概念の抽象化・モデル化が必要不可欠であり、スキルとして使いこなせる数学の理解が求められる。本講義は、定理の証明など数学的厳密さにこだわらず、物理法則の数学的処理の方法の理解を通じて、情報システムと自然とのかかわりを考える能力・素養を身につけることを目的とする。取り扱う題材としては振動・波動、ニューラルネットワーク、量子力学、パーシステントホモロジーなどの物理現象から指数関数、三角関数、合成関数の微分、線形微分方程式、行列の固有値問題、フーリエ解析、確率統計、トポロジーなどの数学的手法を学ぶ。	
	力学		本講義は、ニュートン力学の諸概念を微分積分とベクトルを用いて学ぶことを目的とする。ニュートン力学は近代物理学の出発点であると同時に、物理現象をモデル化して表現し、現象を解析するための数学的道具立てを数多く有している。こうしたモデル化の手法は情報科学を学ぶ上で必要不可欠な素養であり、その数理的基礎力を身につけることが、本講義のねらいとして位置付けられている。ニュートン力学をテーマに、数学とその使い方を身につけることを主眼として講義し、特に微分積分については高等学校で学んだ内容に加え、微分方程式や偏微分、線積分および多重積分などの発展的テーマに関して、その概念や計算法について力学の理論や現象を基にして解説する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通科目・総合理学系	物理	電磁気学	情報科学は、電気、電子回路の知識を基礎の一部として作り上げられている。このために電気および磁気の基本を理解することは必須である。本講義は、実験も交えながら電磁気の基本概念を学ぶことを目的とする。最初に入門的な概説とコンピュータのハードウェアとの関係、歴史、単位系などの説明を行う。そして、クーロンの法則、電気力、静電場、定常電流、電流と磁場、電磁誘導について解説する。また、ベクトル、微積分などを多用するので、数学的な基礎についても解説する。	
		現代物理学入門	19世紀末までに確立した古典物理学は、日常現象に照らして人々が納得できる自然観を提示した。さらに20世紀に登場した相対論や量子論はその自然観に大きな変革をもたらした。物理学の理解をより深化させることとなった。特に量子論は、物性科学や素粒子・宇宙論などの自然科学や工学に不可欠な理論であると同時に、次世代の計算機である量子コンピュータの研究が続いている。近年は、量子コンピュータがクラウド上で利用可能となっており、量子コンピュータが実用化される「量子超越」の時代が目前に迫ってきている状況となっている。本講義は、量子力学からはじめて量子コンピュータの基本原則と、現代物理学の果たす情報科学の革新についての理解を目的とする。また、これらの概念の理解を深めるために毎回問題演習を行う。	
	化学	化学基礎	情報化社会の発展に貢献する「情報プロフェッショナル」の育成において、自然科学の基礎力はその礎となる重要な素養のひとつである。基礎化学を取り扱う本講義では、その基本的な法則、原理、公式を理解し、それらの内容と身近な現象やさまざまな素材の特徴(性質)を結びつけられる想像力と客観的な判断力を修得することを目的とする。なお、本講義は、科学的な視点で情報化社会を構築するさまざまな物事について、これらをモデル化し、新たなモデル創造へと繋げるための育成プログラムの端緒に位置づけられる。	
	環境情報科学		(概要) 本講義は、ヒトの健康にとってより良い環境の維持と向上に貢献できるように、化学物質のヒトへの影響および生活環境や地球生態系とヒトの健康との関わりについての基本的知識や態度を修得することを目的とする。具体的には、生態系や生活環境に影響を及ぼす自然現象や人為的活動を理解し、環境汚染物質などの成因、人体への影響、汚染防止、汚染除去、廃棄物対策および法的規制などに関する基礎的知識を習得し、環境改善に向かって努力する態度を身につける。 (オムニバス方式/全14回) (78 角谷秀樹/4回) 過去から現在までの環境汚染の歴史および現状、発ガンや種々の毒性の作用の概略を理解していると共に代表的な毒性評価法、代表的な有害化学物質の成因、汚染経路、汚染実態および健康影響について理解する。 (19 木村朋紀/2回) 代表的な有害化学物質の成因、汚染経路、汚染実態および健康影響について、さらに詳しく理解する。 (63 中尾兎幸/4回) 我々の生活環境で社会問題となっている汚染やその特徴について理解する。 (90 中村武浩/4回) 我々の生活環境で社会問題となっている汚染やその特徴について理解した上で、環境保全のための種々の法的規制と、その概略について理解する。	オムニバス方式
地学	地球科学基礎		人間は、地球システムの中に生活していると同時に地球システムを構成する一要素でもある。本講義は「地球環境」の基礎となる講義であり、私たちを取り巻く身近な地球環境の現状と、それが微妙なバランスの上に成り立っていることを学ぶ。講義の中で、波や河川的作用による地球表層の変化過程、山地での侵食による堆積物生産から河川による運搬・堆積作用、海洋での堆積物の輸送や分布ならびに地球規模の海洋循環とその役割、岩石の成分や物性、プレートテクトニクス理論を用いた地球表層の地形や火山・地震活動などについて解説する。	
	地球環境		近年、さまざまな地球環境問題がクローズアップされるようになった。本講義では、現在の地球環境が成立するまでの地球システムの進化および気候変動史を学ぶことにより、現在の状況を地球システムの進化の中の一断面として把握し、さらにその将来を地球環境問題などとともに考えることを目的とする。講義の中で、宇宙の中での地球環境の特異性および生命の存在する条件、地球温暖化問題・最終氷期、地質年代、過去の環境指標・酸素同位体比法、新生代の気候変動、氷河時代と無氷河時代・寒冷化の機構、地球の形成過程、生命の発生・地球との共進化などについて解説する。	

授 業 科 目 の 概 要 (情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通科目・総合理学系	生命科学基礎		情報科学と生命科学は21世紀の科学・産業の基盤をなし、相互に影響しあって発展している。したがって、情報科学を専攻する学生が生命について理解することは重要である。本講義は、生命の基礎概念から、細胞生物学、生化学、遺伝学について解説し、理解を促すことを目的とする。具体的には、細胞の基本的性質、原核細胞と真核細胞、生体物質、タンパク質と酵素、たんぱく質の構造、遺伝の基礎概念、遺伝物質、遺伝子機能の発現、理論生命学について解説する。	
	情報生命科学		各種検査機器が発達し、現在では人体からいろいろな種類のデータを大量に得て、コンピュータを用いて解析できるようになった。これにより、新しい生理現象が次々と明らかになっている。このような技術を支えるのが情報科学である。本講義では、主に神経生理学と情報科学のつながりについて解説し、理解を促すことを目的とする。具体的には、神経細胞とイオン輸送による静止電位の発生、活動電位とその細胞内及び、細胞間での伝わり方について解説する。	
総合	視る自然科学		<p>(概要) 人間は日常生活で光を使って色々なものをみている。日常的な「見る」は大変重要であるが、漫然と見ているのではなく、目的を持って「視る」と予想もしていなかったことが見えてくる。本講義は、現在の社会を築いている自然科学では、様々なものをどのように「視る」のか、そこからどのようなことがわかるのか、地球科学、生命科学、物理学の様々な分野ではどのように「視て」何がわかるのか、実験や実習で身をもって体験して理解することを目的とする。またこのような「視る」行為がコンピュータ機器の利用でどのように拡大していくかについても理解を促す。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) 初回は全教員による授業の趣旨と各テーマについて説明する。その後、13回の分担は次の通りである。 (43 藤井研一/3回) 物理の光学実験に関する実習を行い解説する。 (7 横川美和/3回) 鉱物の偏光顕微鏡観察に関する実習を行い解説する。 (6 矢野浩二郎/3回) 無脊椎動物と脊椎動物の観察に関する実習を行い解説する。 (3 井上裕美子/3回) 人の生理応答の光を用いた測定に関する実習を行い解説する。 (42 藤博之/1回) 光の理論的性質に関する解説を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
キャリア科目	基礎ゼミナール		本講義では、学生が高校までとは大きく異なる大学での授業および生活にスムーズになじみ、より有意義な大学生活が送れるようになることを目的とし、少人数制のゼミナール形式による講義を行う。教員・学生が一体となった交流・討論や意見交換などを通じて、大学で何をどのように学ぶかについて考え、必要なスキルの習得も目的とする。また各教員がクラス担任として、必要に応じて履修上の指導にもあたる。本講義を通じて、グループで協力して与えられた課題を期間内に完成させ、自分の意見や考えや思いを自らの手段で的確に表現し、意思伝達のため与えられた書式での表現方法を理解・実践し、グループの中で自分の意見や考えを的確にまとめて表現し、提示された文章の内容を正確に読み取って理解する力を身につける。	共同
	キャリアステップ		大学での学習は高校での学習と大きく異なる。高校までは、様々な可能性に対応出来る基礎を築くための学習であったが、大学での学習は明確な自己実現に向かった学習となる。このために自分自身を見つめ直し、いったい自分は何をしたいのか、何に適しているかを真剣に考える必要がある。本講義では、様々な実習を通して、自分自身についての認識を深め、大学での主体的な学習や日常生活のチェックを行い、より良いあり方について考えることを目的とする。	
	キャリアデザイン1		本講義は、自分自身がどのような人間であるかを振り返って考え、考えた結果を的確な文字表現によりまとめる能力の獲得、深化をブログ記事作成により行なうことを目的とする。ブログ記事作成をグループで行い、グループワークを通して、各自の考えやその表現が他人にどのように受け止められるかの議論を直接の意見交換とブログでのコメント交換の形により行なう。テーマ設定されたブログ記事作成を通して、自身の考える「自分」と他人の目に映る「自分」の違いを認識する。ここでは、グループ内での「他者」との比較が重要であり、「他者」との議論を通して「自分」自身の視点、独自性について認識を深める。これにより、独りよがりではない客観的な自分像の理解を得た上で、記事にまとめる。教室での座学、ブログ記事の作成および作成した記事の評価をグループワークを織り込んで繰り返す形で講義を進める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
キャリア科目	キャリアデザインⅡ		本講義は、大学生活の安定化を図りつつ、将来に向けた自分づくりを意識して、取るべき行動を明確にするために、今後の大学生活での目標設定と行動計画作成を行うことを目的とする。また、ここまでの自分自身の大学生活を振り返るとともに、卒業後、社会人として選択可能な世界について調査を行う。この振り返りと社会調査に基づき、望むべき将来を考え、望むべき学生生活を実現するために何をやるのかをグループワークを通して考える。それぞれが残りの大学生としての時間をどのように使うべきかについて具体的に計画を建てられるようになることを最終的なねらいとする。また、コミュニケーション能力の向上、問題解決のための論理的思考能力や自身のマネジメント能力の育成を目指した初歩的な演習・訓練を行う。	
	グローバルテクノロジー論		本講義は、情報科学の諸分野で生み出される技術を世界的な視野で活用する視座の獲得に向けて、必要な専門技術・研究態度を、PBL (Project-Based Learning) を中心としたアクティブラーニングの手法を通じて実践的に学ぶことを目的とする。国・地域の違いによる文化や価値観の多様性が技術の応用に影響することを意識しつつ、集団活動を通じて課題解決力・創造性・協調性・リーダーシップを養成するとともに、グローバルなコミュニケーションツールとしての英語力向上も図る。	集中
	OIT概論		(概要) 本講義では、大阪工業大学での勉学について再認識し、学習意欲を高めたい学生あるいは転学部・転学科を検討している学生に、「世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する」という建学の精神を説き、「心身ともにたくましい専門職業人を育成する」という教育理念を解説する。さらに、本学4学部の教育研究分野の概要を分かりやすく教授することを目的としている。なお、この科目は本学への入学を志す連携校の高校生にも開放する。 (オムニバス方式/全7回) (16 岩崎判二・47 椋平淳/1回) (共同) 自校史教育として、大阪工業大学の教育の理念、沿革、アドミッションポリシーなどについて解説し、本学で学ぶことの意味について考える。 (35 馬場望・43 藤井伸介/1回) (共同) 本学工学部のデザイン分野に該当する学科の教育・研究について解説する。 (33 西川出/1回) 本学工学部のエンジニアリング分野に該当する学科の教育・研究について解説する。 (22 古崎康哲/1回) 本学工学部のサイエンス分野に該当する学科の教育・研究について解説する。 (48 村川一雄/1回) 本学知的財産学部の教育・研究について解説する。 (1 酒澤茂之/1回) 本学情報科学部の教育・研究について解説する。 (20 倉前宏行・56 朽木順綱/1回) (共同) 本学ロボティクス&デザイン工学部に該当する学科の教育・研究について解説する。	集中 オムニバス方式・共同 (一部)
専門科目	数理学	線形数学Ⅰ	本講義は、自然科学や社会科学に広い応用をもつ線形代数について、その基礎を学ぶことを目的とする。「線形数学Ⅰ」では行列、行列式、連立1次方程式の解法と逆行列の性質等について学ぶ。①行列の演算規則を理解し、基本的な計算ができること ②連立方程式と行列の関係を理解し、基本的な問題を解くことができること ③行列式の種々の計算公式を使うことができ、さらに標準的な問題を解くことができること ④行列の余因子について理解し、それを求めることができること ⑤逆行列を求めることができることを到達目標とする。	
		線形数学Ⅱ	本講義は、「線形数学Ⅰ」で獲得した知識と計算方法の修得に積み重ねて、ベクトル空間とその基底、線形写像と表現行列、固有値と固有ベクトル、行列の対角化等を正しく理解し、かつ具体的に求めることができるよう学ぶことを目的とする。①ベクトルの1次独立性及び基底の概念を理解し、その基本的な計算ができること ②固有値の意味を理解し、その基本的な計算ができること ③固有ベクトルの意味を理解し、その基本的な計算ができること ④正規直交系、直交行列の概念と性質を理解し、その基本的な計算ができること ⑤対称行列を直交行列により対角化することができることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目 数 理 科 学	微積分学Ⅰ		本講義は、理工学の基礎として重要な微分法・積分法の考え方、計算方法、応用を学ぶことを目的とする。主として1変数関数の微積分について考えるが、2変数関数の微積分に関する基礎知識にも触れる。本講義の内容は、例えば、微分法は自然現象のモデル化に、テーラー展開や積分法は数値解析の基礎概念に、オイラーの関係式は周波数解析・通信理論の基礎になるなど、多くの科目に関係する。本学部の専門科目への連携を含めて講義を進めていく。①初等関数の性質を理解して、導関数の計算とグラフが描けること ②初等関数の原始関数を理解して、基本的な積分計算と応用ができること ③テーラーの定理を理解し、基本的な級数展開と近似計算を実行できること ④偏微分概念を理解し、基本的な計算ができることを到達目標とする。	
	微積分学Ⅱ		自然科学や社会科学のほとんどの分野において、その内容を真に理解をするためには、1変数関数の微積分の知識だけでは不十分で、多変数関数に関する知識も必要である。本講義では、多変数関数の微積分(偏微分、重積分)およびその応用を中心に解説する。①多変数関数の合成関数の微分法(連鎖律)を正しく使うことができること ②多変数関数のテーラー展開をすることができること ③多変数関数の極値問題を解くことができること ④重積分を累次積分により計算することができること ⑤変数変換をとらぬ重積分を計算することができることを到達目標とする。	
	情報数学		情報数学は、情報科学のいろいろな分野と密接に結びついて重要な役割を担っている。本講義では、まず、集合、写像、関係といった情報科学の基礎を学び、アルゴリズムと密接に関係している帰納的(再帰的)な考え方について学ぶ。さらに、公開鍵暗号の理論として情報科学と深く関係している整数論を学ぶことを目的とする。①集合、写像、関係を説明できること ②整数、素数、合同式の性質を理解し、不定方程式、合同方程式の解法ができること ③帰納法、帰納的(再帰的)定義に従って処理ができ、その性質を求められることを到達目標とする。	
	微分方程式		自然現象や社会現象をモデル化すると、微分方程式で記述されることが多い。本講義では、常微分方程式を中心に、モデル化の方法・解法・応用例(電気回路や運動方程式など)を解説する。また、PCを援用した微分方程式の理解や、シミュレーションの基礎についても学ぶことを目的とする。①基本的な1階線形微分方程式・2階線形微分方程式(同次形)が解けること ②微分方程式の概念を理解し、初期条件を与えて解を決定することができること ③基本的な線形微分方程式(非同次形)が解けること ④微分方程式を用いて自然現象・社会現象をモデル化し、解を得ることができること ⑤コンピュータを用いた微分方程式の解法で必要となる数式を導出できることを到達目標とする。	
	グラフ理論		点と線だけで構成されるグラフの理論は非常に広い分野で応用されているため、これを学ぶことは現代では必要不可欠である。本講義では、できるだけ一般的なテーマを選び、様々な応用ができるようにグラフ理論の基礎を解説し、グラフが様々な活用できることを学ぶことを目的とする。①与えられた条件を満たすグラフを描くことができること ②様々なグラフについて、その定義と性質を説明できること ③情報科学等の領域でグラフ理論が様々な活用できることを説明できること ④グラフの基本的な用語を理解し、要求された経路、閉路、木、全域木、次数、橋、成分などを求めることができることを到達目標とする。	
	数理計画法		現実のシステムは複雑で、直接これを扱うのは困難である。そのため、数理モデルを作成し、このモデルを解析するのが一般的である。これにより非科学的な勘や経験による意思決定を排除し、科学的で合理的な判断が行える。本講義は、線形モデルを最適化するシンプレックス法を理解することを目的とする。さらに、輸送計画や配置計画などを理解することで数理計画法に対する理解を深める。①線形計画法の定式化ができること ②シンプレックス法を使って問題を解くことができること ③MODI法を使って問題を解くことができること ④ハンガリー法を使って問題を解くことができること ⑤数理計画法の解を分析することができること ⑥ソフトを使って問題を解くことができることを到達目標とする。	
	確率・統計		本講義では、社会現象・自然現象の解析に不可欠な確率・統計の基本を解説する。確率分布の概念から統計解析へのつながりを軸にして、多くの実例を含めて条件つき確率計算の応用、母集団データの区間推定法や仮説検定法などを理解することを目的とする。①数え上げ、確率、期待値の計算ができること ②条件つき確率を理解して応用できること ③確率分布の概念を理解して平均・分散などの計算ができること ④標本分布の概念を理解してデータ解析へ応用できること ⑤統計的推定・仮説検定の概念を理解して応用できることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目 専門基礎	コンピュータ入門	○	本講義は、情報の科学技術に関する必須の基礎知識を習得するとともに、コンピュータが活躍している分野への展望を得て、これから学習していく各専門科目の位置づけを理解し、学修の動機付けとすることを目的とする。講義の中で、興味深い歴史的なエピソードや、今日的なトピックスにも触れる。情報科学部における教育の基礎として、全学科共通に最初の授業として実施される必修の専門科目である。①二進数の計算ができること ②コンピュータ内での二進数や浮動小数点などの表現を説明できること ③基本論理要素について理解して説明できること ④論理回路の基礎について理解して説明できること ⑤計算できる仕組みを説明できること ⑥情報の表現と情報量の概念を説明できること ⑦コンピュータの総合的な概念や仕組みを説明できることを到達目標とする。	主要授業科目
	実世界情報入門	○	ドローンは、既に空撮や点検等の分野において利活用されている。情報科学技術を用いることで、ドローンの対象分野は更に広がり、利活用の質も高まる。一方で、ドローン技術の発展とともに、法規制や免許制の導入など、取り巻く環境や制度は今後も変わっていくことが予想される。本講義では、ドローンの基礎知識から法規制、安全管理、飛行制御、最新動向等を解説するとともに、ドローンを用いながら、取り巻く現状と可能性について幅広く学ぶ。また、ドローン技術や環境・制度等が時代とともに変わっても、それらの知識を自ら更新し続ける力を身につけることを目的とする。①ドローンの機能について説明することができること ②ドローンの飛行ルールについて説明することができること ③ドローンの飛行に関する申請手続きについて説明することができること ④ドローンの安全管理について説明することができること ⑤ドローンの基本操作を行うことができることを到達目標とする。	主要授業科目
	U n i x 入門		オペレーティングシステムの機能を自在に利用できることが、コンピュータの動作原理理解の向上につながる。本講義は、Unix系オペレーティングシステムにおけるファイルシステムやシェルの仕組み、機能の理解を目的とする。①Unixの階層ディレクトリ構造について理解しており、絶対パス・相対パス表現を使いこなせること ②ファイル保護とアクセス権の制御を理解しており、その操作ができること ③リダイレクションやパイプの操作ができること ④ワイルドカードや正規表現によって、ファイルの操作ができることを到達目標とする。	
	シェルスクリプト入門		本講義では、Linuxを実際に使用して、キャラクタ・ユーザ・インタフェース(CUI)環境下の端末上でコンピュータを対話的に使用するための必須技術であるシェルの基礎知識、および、インタプリタ言語であるシェルスクリプトを作成する技術を習得することを目的とする。①シェルについて理解し、説明できること ②シェルの環境変数について理解し、使いこなせること ③簡単なシェルスクリプトを作成できることを到達目標とする。	
	コンピュータリテラシー		本講義は、技術者に必要なコンピュータリテラシーを身につけることを目的とする。ワープロソフトによる科学技術論文の作成、表計算ソフトによる分析、プレゼンテーションソフトによる資料の作成、さらに電子メールの送受信とWEBページの閲覧が主なテーマである。関係するソフトウェアを如何に使用するかを理解する。各テーマの水準については、入門程度とする。また、ネットワーク社会における情報倫理の基礎知識についても解説する。①ソフトを使用して、数式や図、表、グラフを作成することができること ②ソフトを使用して、データの分析を行うことができること ③電子メールの送受信およびHTMLが記述できること ④ソフトを使用して、スライドを作成することができること ⑤ソフトを利用してプレゼンテーションを行うことができること ⑥体裁の整った実験レポートを作成することができることを到達目標とする。	
	デジタル回路 I	○	コンピュータを構成要素とした情報システムや組込みシステムの入出力は、最終的にアナログ回路により外部の入出力機器や表示装置とインターフェイスされる。したがって、コンピュータの理解・利用・構築を行うためには、アナログ回路の習得が必須である。本講義では、電気回路と半導体を利用した電子回路とデジタル回路の基礎を学び、計算と解析を通じて理解を深めることを目的とする。①基本的な電気回路について計算ができること ②ダイオードとトランジスタの動作について説明でき、トランジスタを用いた基本的な駆動回路の動作について説明できること ③AD・DA変換について説明できること ④簡単なデジタル回路の設計ができること ⑤デジタル回路とマイコンの接続について説明できることを到達目標とする。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目 専門基礎	デジタル回路Ⅱ	○	本講義では、「デジタル回路Ⅰ」で学んだことを踏まえて、設計について学ぶ。また、動作や特性の理解を深めるために、ブレッドボードを用いた回路の作成と測定について学び、複雑な回路についてはシミュレータを用いて理解を深める。また、デジタル回路とマイコンボードを接続したデジタル制御システムについても学ぶことを目的とする。①LEDの制御回路を作成できること ②トランジスタを用いたモータ制御回路を実現できること ③PWM信号について説明でき、マイコンを用いた信号発生ができること ④専用ICを用いたAD・DA回路を構築し制御ができること ⑤自ら検討した制御信号を出力し、デバイスを制御できることを到達目標とする。	主要授業科目
	IoT概論	○	本講義では、これからのIoTシステムに必要な技術概要について、その基礎技術をパソコンとマイコンボードを接続したシステムを用いて学ぶ。この中で、特に組み込みシステムプログラミングについて解説しながら、基礎的なプログラム技法や実際にネットワークに接続された組み込みシステムに触れながら、IoTシステムの構築方法について学ぶことを目的とする。①IoTシステムの構成について説明できること ②IoTシステムにおける機器制御の基本的なプログラムを作成できること ③IoTシステムからのデータを取得するプログラムが作成できること ④簡単なネットワークサービスの提供が行えるシステムを構築できることを到達目標とする。	主要授業科目
	テクニカルライティング	○	本講義では、「テクニカルライティング」を“科学技術に関する事項や実社会における身近な課題について、効果的にコミュニケーションする手法”として捉え、文書作成の基本ルールに基づいた技術論文の作成手法、効果的なプレゼンテーション手法を講義、レポート作成などの演習・発表などを通じて習得することを目的とする。①形式および意味的に正しい文章を書くことができること ②文書作成の目的とその対象読者を認識して、論理的に主題を展開する文書を作成することができること ③適切な図表を用いて、分かりやすい技術文書を作成することができること ④目的に沿って分かりやすい資料を作成し、プレゼンテーションをすることができることを到達目標とする。	主要授業科目
	データ構造とアルゴリズム	○	コンピュータではデータを効率よく扱うことが必要である。データ構造とは、データのメモリ上での表現であり、アルゴリズムは問題を解くための具体的手順（算法）である。「データ構造とアルゴリズム」は、プログラムを作成する上で必ず学ばなければならない基礎の一つである。本講義は、プログラムを作成するにあたって、基本的なデータ構造及びアルゴリズムについて理解を深めることを目的とする。①アルゴリズムの計算量について理解し、説明できること ②基本的なデータ構造について理解し、説明できること ③整列や探索の基本的なアルゴリズムについて理解し、説明できること ④再帰的アルゴリズムについて理解し、説明できること ⑤データや手続きの抽象化について理解し、説明できることを到達目標とする。	主要授業科目
	情報通信ネットワーク	○	インターネットに接続していることが当たり前となった現在において、ネットワークアプリケーションの使い方だけを把握していても、動作原理を理解していなければネットワークトラブルに対処できない。本講義では、インターネットを支えている通信プロトコルのTCP/IPについて、概念、基礎知識、実際の通信がTCP/IP上でどのように行われているかを解説し、適宜最新のトピックスも紹介する。①OSI参照モデルにおける各レイヤの機能、役割が説明できること ②TCP/IPを用いたネットワークシステムの原理を説明できること ③与えられた条件に沿ったIPアドレス計算ができることを到達目標とする。	主要授業科目
	人工知能	○	人工知能は、コンピュータの可能性を追究するコンピュータサイエンスの大きな牽引役のひとつであり、近年その発達が目覚ましい。本講義では、Pythonを利用して、いくつかの具体的な問題解決アルゴリズムを説明し、その利用方法を学ぶことを目的とする。①人工知能のさまざまな手法について、その概要を説明することができること ②人工知能表現に必要なPython言語について基礎的な文法を理解し、説明することができること ③様々クラスタリングの方法について理解し、その仕組みを説明することができること ④ニューラルネットワークについて理解し、その仕組みを説明することができることを到達目標とする。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	情報処理基礎		<p>(概要) 情報処理技術者試験は、ソフトウェア業界で仕事をしていく人たちのための国家試験である。このうち基本情報技術者試験はその登竜門にあたる試験であり、情報系の学部卒業生は合格して当然のレベルである。また、基本情報技術者試験の出題範囲の知識は、本学部の専門科目を学ぶ際にもたいへんよい整理になる。本講義では、①テクノロジ系、②マネジメント系、③ストラテジ系の各分野において、情報処理技術者試験が要求している水準の技術的内容について、説明できるようになることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (10 杉川智/1回) 基本情報処理技術者試験で出題されているストラテジ系(システム戦略と経営戦略)の範囲の内容について解説する。 (50 安留誠吾/4回) 基本情報処理技術者試験で出題されているストラテジ系(企業と法務)の範囲の内容について解説する。/過去に出題されたテクノロジ系、マネジメント系、ストラテジ系の各問題に対する演習とその解説を実施する。 (64 中西知嘉子/4回) 基本情報処理技術者試験で出題されているマネジメント系の範囲の内容について解説する。/過去に出題されたテクノロジ系、マネジメント系、ストラテジ系の各問題に対する演習とその解説を実施する。 (41 福安直樹/3回) 過去に出題されたテクノロジ系、マネジメント系、ストラテジ系の各問題に対する演習とその解説を実施する。 (34 橋本渉/2回) 過去に出題されたテクノロジ系、マネジメント系、ストラテジ系の各問題に対する演習とその解説を実施する。</p>	集中 オムニバス方式
	オペレーティングシステム	○	<p>本講義は、コンピュータの最も基本的なソフトウェアであり、システムを効率よく運用するとともに、利用者にとってコンピュータを使いやすいものにするためのオペレーティングシステムについて学ぶことを目的とする。特に、オペレーティングシステムの機能と基本構造とを明確に理解することに重点を置き、ミニテスト等を行い理解を確実にする。①オペレーティングシステムを構成する各機能と役割を説明できること ②オペレーティングシステムを構成するプロセス管理について、その機能と動作原理について説明できること ③オペレーティングシステムを構成するメモリ管理について、その機能と動作原理について説明できること ④オペレーティングシステムを構成するファイルシステムについて、その機能と動作原理について説明できることを到達目標とする。</p>	主要授業科目
	ソフトウェア工学 I	○	<p>ソフトウェア工学は、ソフトウェアを工業製品として高品質に開発するための基盤技術として、重要な役割を果たしている。本講義は、ソフトウェア工学の入門として、ソフトウェアの概念、開発プロセスとそのプロセスモデル、要求定義からテストにいたるソフトウェア開発の全工程の方法論、技法、表記法など、基礎的な事項について学ぶことを目的とする。①ソフトウェア工学の基礎となる概念(抽象化、段階的詳細化、情報隠蔽、モジュール化、構造化など)をふまえたうえで、ソフトウェアライフサイクル及び各ライフサイクルプロセスで使われる方法論、技法、表記法を理解し、簡単な問題に適用できること ②単体テストについて、テストケース設計上の基本的考え方が理解できており、簡単なプログラムに対するテストケースが設計できること ③ソフトウェアの品質を多様な観点で捉えることができ、ソフトウェア設計の良否の評価基準、尺度を示すことができることを到達目標とする。</p>	主要授業科目
	画像情報処理		<p>コンピュータで画像処理を行う分野は幅広く、すでに様々な分野で実用に供している。本講義は、画像処理技術の基本的な技術を学び、コンピュータシステムの構築に応用できるスキルを身につけることを目的とする。また、画像を使用したパターン認識技術についても学び、データサイエンスに必要なスキルを身につけることを目的とする。①画像処理に関する各種手法を説明でき、論理的に考察できること ②デジタル画像とアナログ画像との特徴や違いを説明できること ③各種フィルタリング技法の特徴、違いを説明できること ④画像からの情報抽出の技術について説明できること ⑤2値画像の基本的な技術について説明できること ⑥入出力と伝送・蓄積のための処理技術を説明でき、実際の画像への適用ができることを到達目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要 (情報科学部実世界情報学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	情報セキュリティの基礎	○	情報セキュリティ技術は適用分野が広がっており、情報科学に携わる研究者、技術者にとって、その基礎技術の習得が重要となってきた。本講義は、情報システムにおけるセキュリティ上の問題とその対策への理解を目的として、不正や脅威の具体例、ネットワークを介した取引やサービスを安全に提供するための暗号、認証などの要素技術とその適用方法、およびセキュアなシステム構築のためのシステム技術などを学ぶ。①暗号方式の基本概念、動作原理、利用方法が説明できること ②公開鍵基盤の概念、仕組みを理解し、利用方法や問題の解決策を示せること ③本人認証の各方式の概念、仕組み、相違を説明できること ④ネットワークシステムにおける不正、脅威、リスクの概念や対策の具体例、社会的な影響を説明できることを到達目標とする。	主要授業科目
	ロボティクス	○	本講義では、ロボットのハードウェア・ソフトウェアの基礎について解説する。主に車輪移動型ロボットを題材とし、アクチュエータ・センサ・コントローラ等の主要なハードウェア構成要素、ロボットの移動機構や運動学、およびロボット制御プログラミングのためのツールやライブラリについて解説する。①ロボットを構成するアクチュエータ・センサ・コントローラについて理解し、説明できること ②ロボットの移動機構や運動学を理解し、説明できること ③ロボットの制御方法について理解し、説明できること ④ロボット制御プログラミングのためのツールやライブラリについて理解し、説明できることを到達目標とする。	主要授業科目
	実世界計測		(概要) 実世界で人のサポートをしたりドローンやロボットを制御したりするうえで、センサから得られた値を用いて自己位置推定やSLAMなどを行うことは必須である。このための技術として、光学式測距や人工衛星からの信号を利用したGNSSがある。しかし、これらは従来の測量の技術をもとに発展したものであるため、従来の測量の種類・観測値の処理・距離測量に関する知識が無くては十分に活用できない。本講義では、これらについて学び、LiDARを搭載したロボットによるSLAM、およびSLAMにより生成された占有格子地図に基づくロボットナビゲーションの原理への理解を深める。また人やモノの動きを測定する手法についても学ぶことを目的とする。 (オムニバス方式/全14回) まずは全教員で概要と総括について2回にわけて解説する。その後、12回の分担は次の通りである。 (2 荒木英夫/4回) 測量の種類、座標系について説明し、最確値や誤差の計算方法を解説する。 (11 宮脇健三郎/4回) LiDAR等を用いた測距とそのデータを使ったSLAMやロボットナビゲーションについて解説する。 (12 大井翔/4回) ビーコンやマーカーを用いた位置推定について解説する。	オムニバス方式
	IoTデータベース		IoTシステムの構築において、ネットワーク経由で集められる大量のデータ処理は重要である。しかし、従来のリレーショナルデータベースシステムでは、多くの端末からの頻繁なデータ更新の要求をこなしたり、リアルタイムに近い要求に対応することが難しい。このためIoTシステムに適したデータベースの構造を知り、システムを実現する必要がある。本講義は、従来のシステムを通じてデータ管理と利活用の手法と意義、IoTシステムに対応するための工夫やデータベース設計の違いについて理解することを目的とする。①リレーショナルデータベースシステムに関する概念(関係、キー、SQL等)を理解し、簡単なリレーショナルデータベースが設計できること ②IoTシステムが必要とするNoSQL (KVM等) データベースシステムの特徴について、リレーショナルデータベースシステムと比較し説明できること ③NoSQL (KVM等)を用いた簡単なデータベースを設計できることを到達目標とする。	
	Webプログラミング		静的なHTMLページではなく、利用者の操作に基づいて加工したHTMLを表示するWebアプリケーションの制作は、本学科で必ず習得すべき技術といえる。本講義では、ある程度まとまった量の情報をWeb発信するとともに、Webアプリケーションの作成に要する必要最小限の作業を一通り経験して、WebサイトやWebアプリケーションの開発にかかる興味を喚起することを目的とする。通常は消費者として接する機会しかない、WebサイトやWebアプリケーションの制作側の技術課題や問題点に気付くことを期待している。①WebサイトやWebアプリケーションを構成する諸技術を理解し、必要な情報を自ら探し出し、簡単な実装ができること ②制作物の進捗管理ができ、主要な部分で動作の不具合がない制作物を期限までに完成できることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (情報科学部実世界情報学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	基 幹 科 目	コンピュータビジョン	本講義は、画像情報の表現や生成および処理技術の専門的な技術を学び、実世界に応用することのできるメディア技術のスキルを身につけ、システムを提案・開発できるようになることを目的とする。①実世界で扱われている画像情報技術について、説明することができること ②画像の表現や生成について、説明することができること ③実世界で扱われている応用システムについて、説明することができること ④コンピュータを用いた画像情報処理技術を実践することができることを到達目標とする。	
		IoTサーバ構築	IoTサービスを実装するにあたり、Webサーバが頻繁に使われている。本講義は、Webのクライアントサーバ間の動作原理について理解し、実際にWebサーバを構築することを目的とする。さらに、扱うIoTデータによっては万人にアクセスさせたいものがある一方、特定のグループにしかアクセスさせるべきでないデータが存在するため、データの適切なアクセス制御の設定を含む、Webサーバの管理技術についても学ぶ。①HTTPの動作原理を説明できること ②Webサーバをインストールし、基本的な設定を行えること ③Webサーバのアクセス制御ができることを到達目標とする。	
		IoT通信	IoT機器とは、スマートフォン、センサー、カメラなど、インターネットに接続された情報機器を指す。これらは、画像や映像、位置情報、温度などのデータを収集し、様々なシステムで活用されており、得られた情報の通信方式を知ることが、IoT機器を用いたシステム構築において重要である。本講義では、IoTについて概観を示し、IoT機器との通信方式、IoT通信で利用される代表的なプロトコルを学んだのちに実装を行い、具体的にどのように利用するかを理解し、IoTシステムにおいて収集した情報のセキュリティについて学ぶことを目的とする。①Publisher/Descriptorを理解していること ②IoT通信で利用されるプロトコルを理解していること ③IoT通信で利用されるプロトコルの実装方法を理解していること ④収集した情報の処理方法を理解していること ⑤IoTシステムにおけるセキュリティを理解していることを到達目標とする。	主要授業科目
		情報技術者論	<p>(概要) 情報システムは、あらゆる分野に関わる基盤となっており、果たす役割は益々大きいものになる。従って、専門家として情報システムに関わる技術者は、自らの仕事が社会に及ぼす影響について、深い理解と明確な認識を持って行動することが求められる。本講義は、情報技術者に求められる社会的役割、職業倫理、広い分野にわたる情報技術者の職場とその仕事などについて学び、技術者としての役割と仕事について生涯自己学習能力を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (65 布村素浩/1回) プロセス開発にかかる情報技術者の仕事について解説する。 (24 佐野睦夫/1回) ビジネス系情報システムの開発技術者の仕事について解説する。 (21 神田智子/1回) マルチメディアを扱う情報システム技術者の仕事について解説する。 (40 福澤寧子/1回) サイバーセキュリティに関する情報システム技術者の仕事について解説する。 (51 山田隆亮/2回) 自分の社会的責任を自覚し、それを担い喜びを得るような技術者になることを解説する。/プロの情報技術者に求められる倫理観と社会的責任について解説する。 (28 須山敬之/1回) 警笛鳴らしと公益通報者保護について解説する。 (44 牧野博之/1回) 情報技術と社会との関わりに関する最近の事例について解説する。 (41 福安直樹/1回) ソフトウェアのバグ、情報システム構築における失敗事例等の事例について解説する。 (39 平山亮/1回) 情報技術と「プライバシー」、「所有権とソフトウェア」、「責任と情報システム」との関わりについて解説する。 (1 酒澤茂之・5 西口敏司・17 尾崎敦夫・21 神田智子・25 椎原正次・28 須山敬之・39 平山亮・41 福安直樹・44 牧野博之・51 山田隆亮/4回) (共同) 与えられたテーマについてグループ単位で討議させ、その結果を発表させる。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 主要授業科目
	情報ゼミナール		4年次配当の卒業研究を実施するに先立って、これまでに学習した個別の理論や専門知識を整理し、学生自らが将来の進路を定めることができるように、多角的な学習指導を行うことを目的とする。①社会環境を理解し、自己の能力や性格を認識した上で適正な進路を見出すことができる能力を身に付けること ②情報技術の学士候補に相応しいコミュニケーション能力を身に付け、卒業研究、進学、就職活動に活用できることを到達目標とする。	共同 主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	応用科目	ものづくり実習	3Dプリンタやレーザ加工機等の工作機械の利用方法について実習し、CADによるハードウェアのパーツ設計や機械による加工について学ぶ。1個のハードウェアを完成させるにも多数の部品が必要であるため、様々な工作機械の特徴を理解し、効率的に部品を製作できる技術を身につけることを目的とする。①CADにより簡単な部品が設計ができること ②3Dプリンタの使用法を理解し、操作できること ③レーザ加工機の使用法を理解し、操作できること ④複数の部品から構成される作品を設計・製作できることを到達目標とする。	集中共同
		システムプログラム	コンピュータにおいて、実行されるあらゆるプログラムがオペレーティングシステムの機能を利用しているということは、全ての情報処理システムの設計・製作の基本であり、情報科学部において学習する者にとって重要である。本講義では、「オペレーティングシステム」で学んだ内容のうち、特に、外部ライブラリの利用方法、プロセス間通信の一種であるソケット通信、スレッドと相互排除をどのように扱うかについて焦点を当て学ぶ。また、これらの機能を利用した応用システムの制作を通して理解を深めることを目的とする。①ライブラリ、ソケット通信、スレッドの概要について説明できること ②ライブラリの利用方法について説明できること ③ソケット通信の方法について説明できること ④スレッドの利用方法及び相互排除の方法について説明できること ⑤応用システムの設計、制作、評価ができることを到達目標とする。	共同
		ソフトウェア工学Ⅱ	ソフトウェア開発のための方法論や開発環境は、大きな流れで変革しているが、ベースとなる考え方、技術、知識を身に付けておくことは重要である。本講義では、オブジェクト指向の考え方を主に、方法論、開発プロセス、表記法などを学び、事例による学習も行う。①UMLのモデル図の代表的なものをあげ、各モデリングの目的とオブジェクト指向の考え方を関連付けて説明できること ②簡単な問題について、要求分析やロバストネス分析に基づいて、ユースケース図、クラス図、シーケンス図を用いた矛盾のないモデルを作成できること ③ソフトウェア開発のプロセスを理解し、代表例の特徴や要求分析から設計・実装までの各工程で用いる技法を説明できること ④アジャイル開発等近年のソフトウェア開発技法を理解し、その狙いや開発の流れについて説明できることを到達目標とする。	
		ヒューマンインタフェース	ヒューマンインタフェース(HI)は、人と人工物であるシステム(機械、建築物など)、あるいは人と人のインタラクションを円滑に快適にすることを目的とした考え方である。システムは人の特性を踏まえて適切にデザインすることが重要であり、人にやさしいHI設計の原理・方法を解説する。また、実際のインタフェースデザインを例に、情報デザインの基礎とユーザビリティ評価手法を学習し、既存のコンテンツに適用するグループワークの実施や、HI分野の応用例を取り上げ、HIの重要性と多面性を学び将来展望、技術者の倫理社会的責任について考える。①人間中心設計の概念と重要性が説明できること ②人にやさしいインタフェース設計に必要な人の特性を理解し説明できること ③Webメディアの特性とその特性を活かした情報デザイン技術を理解し説明できること ④インタフェース評価手法を理解しWebデザインに適用できること ⑤HIのさまざまな応用例を説明でき、有用性や改善提案を論じることができることを到達目標とする。	
		ロボット対話システム	人間の生活や行動を支援するロボットには、専門的知識が無いユーザが自然な方法で与えた指示を解釈し、実行する機能が不可欠である。本講義では、このようなロボットを実現するための対話システムについて解説し、音声・テキスト・GUI等の様々な入力方法を用いて対話的にロボットをコントロールする手法について学ぶ。①ロボットの対話システムの原理を理解し説明できること ②テキスト入力による対話システムの動作について理解し説明できること ③GUIによる対話システムの動作について理解し説明できること ④音声による対話システムの動作について理解し説明できることを到達目標とする。	
		メディア通信概論	インターネットを流れるトラフィックの約80%は動画ストリーミングやVoIPであり、今後益々増加することが予想される。動画や音声などのマルチメディア情報を、ネットワークを介して通信するためには、マルチメディア情報のデジタル化及び符号化技術、圧縮技術、マルチメディア対応の通信プロトコル技術が必要となる。本講義は、マルチメディア符号化技術及びマルチメディア対応の通信技術を修得することを目的とする。①デジタル画像の性質と基本的な処理について理解し説明できること ②デジタル画像圧縮に必要な情報源符号化技術を理解し説明できること ③デジタル画像伝送システムの構成とプロトコルについて理解し説明できることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	情報科学実践演習(国際PBL)		情報科学分野の諸問題をプロジェクトチームで解決する実践的な力を身につけるため、PBL(Project-Based Learning)を中心としたアクティブラーニングを通じて学ぶ。特に、国際的に活躍する技術者の育成を主眼とし、情報科学分野の諸問題を解決する力を身につける。設定された課題に対して、海外の学生を含むチームで課題解決に取り組み、技能と問題解決能力、チームワーク力、英語でのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、異文化と多様な価値観の理解、国際的な視野で思考できる能力の向上を図る。①自分の役割を責任をもって果たし、協力して問題解決ができること ②各自の専門分野の知識を課題解決に活かすことができること ③国際的なプロジェクトチームにおいて、意思疎通ができること ④プロジェクト活動成果について英語で説明、発表ができること ⑤異文化と多様な価値観の理解し、国際的な視野で思考できることを到達目標とする。	集中
	情報科学実践演習(国内PBL)a		現代社会の課題をプロジェクトチームで解決する実践的な力を身につけるため、PBLを中心としたアクティブラーニングを通じて学ぶ。本プロジェクトに係る外部組織から実データや課題等の提供を受け、これらの分析等を通して課題解決のための具体的な案や計画を作成することを目的とする。他の学生とプロジェクトチームを組み、学生が主体的に行動することで、共同で課題解決に取り組み、問題解決能力、リーダーシップと協調性によるチームワーク力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身に付け、価値創造マインドを醸成する。本講義はアイデアソンに相当する。①自分の役割を責任をもって果たし、協力して問題解決ができること ②課題の背景を理解し説明することができること ③入手したデータなどを分析して、課題解決に活かすことができること ④課題解決のための具体的なプランを立てることができること ⑤プロジェクト活動成果について説明できることを到達目標とする。	集中 共同
	情報科学実践演習(国内PBL)b		現代社会の課題をプロジェクトチームで解決する実践的な力を身につけるため、PBLを中心としたアクティブラーニングの手法を通じて学ぶ。本プロジェクトに係る外部組織から提供されたデータや実測したデータをもとに、課題解決のための情報システムの設計および開発などによる社会実装を目的とする。他の学生とプロジェクトチームを組み、学生が主体的に行動することで、共同で課題解決に取り組み、問題解決能力、チームワーク力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身に付け、価値創造マインドを醸成する。①自分の役割を責任をもって果たし、協力して問題解決ができること ②課題の背景を理解し説明することができること ③入手したデータや実測したデータなどを分析して、課題解決に活かすことができること ④課題解決のための情報システムのプロトタイプを開発・評価することができること ⑤プロジェクト活動成果について説明できることを到達目標とする。	集中 共同
演習科目	C演習 I	○	プログラミングは、コンピュータサイエンス、データサイエンス、及びそれらの理論や応用技術を修得するための基礎となる。プログラミングを理解することは、他の専門科目への理解を深めることにもなる。本講義では、基本的なCプログラムの書き方と、計算処理、条件判断処理、繰り返し処理、配列、関数などのC言語の基礎を学習し、様々な課題をプログラムとして実現する方法を身につける。①問題を解決するためのプログラムを作成することができること ②変数および条件分岐を使用したプログラムを作成することができること ③繰り返しを使用したプログラムを作成することができること ④配列および関数を使用したプログラムを作成することができることを到達目標とする。	共同 主要授業科目
	C演習 II	○	本講義では、「C演習 I」で習得したC言語の知識とプログラミング能力をもとに、構造体、ポインタなどのC言語の文法と使用法、リスト、スタック、連結リスト、2分木、2分探索木などのデータ構造、抽象データ型の意義について解説し、理解を深める。また、コンピュータサイエンスやデータサイエンスで求められる基礎的・応用的なプログラムを作成する力を身につけることを目的とする。①スタック、待ち行列、リストについて理解し、説明できること ②ポインタと構造体について理解し、説明できること ③連結リスト、2分木、2分探索木について理解し、説明できること ④抽象データ型について理解し、説明できること ⑤①～③に含まれるデータ構造を用いたプログラムを作成できることを到達目標とする。	共同 主要授業科目
	Java演習	○	「C演習 I」「C演習 II」に引き続き、プログラミングの基本的な知識と技術に関して理解を深める。特に、Java言語を学習することで、情報科学の重要な考え方であるオブジェクト指向を理解する。そのため、さまざまなクラスを用いたJavaアプリケーションプログラムを演習形式で作成する。①条件判断、繰り返し、配列を使ったメソッドを作成できること ②オブジェクト指向の基本概念を説明でき、基本的なプログラムを作成できること ③オブジェクト指向の継承などの概念を活用した、応用プログラムを作成できることを到達目標とする。	共同 主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目 演習科目	ソフトウェア工学演習		ソフトウェアの作成は設計から始まり、仕様の文書化、プログラミング、テストという工程が続く。本講義では、「C演習II」で習得したプログラミング技術を基礎として、中規模のプログラムを書くことを学ぶ。具体的には、まず文字列操作、ファイル入出力、デバッグ手法、モジュールプログラミング手法について理解することを目的とする。次に、外部仕様書・内部仕様書・テスト仕様書の作成、および、プログラムの作成・試験を行う。①ポインタを用いて、文字列操作ができること ②高水準ファイル入出力を用いて、ファイル上のデータを読み書きできること ③makefileを作成して、コンパイルできること ④中規模のプログラムをモジュール化して作成できること ⑤自らテーマを設定し、制約条件を整理して、外部仕様書、内部仕様書を作成できること ⑥試験仕様書を作成し、プログラムの試験ができることを到達目標とする。	共同
	実世界情報基礎演習	○	本講義は、通信、計測、制御、基本ソフトウェアに関する基本的な事項について、演習、実験を通して理解を深めるとともに、レポートの記述方法を修得することを目的としている。そのために、マイクロコンピュータとセンサを用いてIoTシステムを想定した実験を行い、ロボットキットを用いてロボットの動作を制御する能力を身につける。①演習の結果を適切な形で記録し、論理的にまとめた報告書を作成できること ②通信、計測・制御などについて測定原理、動作原理を理解し、実際に計測、動作させることができること ③通信、計測や制御、基本ソフトウェアの基本となる分野において、要求された仕様に適合するプログラムの作成を行い、動作検証ができること ④グループにおける作業計画を作成し、各メンバーが自己の役割を果たしつつ協力して目標とする成果物を仕上げることを到達目標とする。	共同 主要授業科目
	実世界情報専門演習	○	本講義では、これまでも「実世界情報基礎演習」をはじめとする授業で触れてきた、IoTシステムへの理解を深め、基本的なIoTシステムを構築する技術の習得を目的としている。そのために、基本的なデジタル制御とAD/DA変換された信号処理について学ぶ。また、サーバ側技術としてCGI(Common Gateway Interface)を利用した、ネットワークアプリケーションを作成する能力を身につける。①IoTシステムを理解し、基本的なデジタル制御とAD/DA変換された信号の処理ができること ②CGI技術を理解し、簡単なWebアプリケーションの開発ができることを到達目標とする。	共同 主要授業科目
	実世界情報応用演習		本講義では、「実世界情報基礎演習」や「実世界情報専門演習」で学んできた、IoTシステムやロボット制御等に関する知識に基づき、ロボットを利用したアプリケーションの構築法について学ぶ。具体的には、LiDARを利用したSLAMによる地図作成やナビゲーション、およびカメラ等の様々なセンサ情報を利用したロボットの制御法とそのプログラミング手法を習得し、ロボットを利用したアプリケーションの企画立案や制作スケジュールの計画を行い、複数人で協力しシステムを実装して動作検証までを行う。①ロボット制御の基本やSLAM、ナビゲーションおよびセンサ情報の処理について説明できること ②ロボットを利用したアプリケーションの企画を立て、期間内に実現可能な製作スケジュールを作成できること ③複数人での共同作業のもとにロボットを利用したアプリケーションを制作し、作業に対し十分に貢献することができることを到達目標とする。	共同
教職課程の設置により開講する授業科目	数学科教育法a		本講義では、日々の授業を構想するにあたり意識すべきことへの理解など、数学教員としての基礎的な資質・能力の育成を目的とする。そこで、中高の「学習指導要領解説 数学編」と指定したテキストを読み解き、関連する資料を検索・対比してまとめ、輪番で全体に発表する。小グループでの交流を取り入れた議論を通して、数学教員としての知識や見方・考え方について、受講者自身が内的に構成する力を身につける。また、ICTを常時活用して、思考の顕在化と情報の共有・蓄積を図る手法を体験を通して学ぶ。さらに現在の実践研究の動向を踏まえ、教材作成や探究の道具として、GeoGebraの操作方法や活用方法を習得する。受講者全員が常に「問い」を持ち、参加・発信・探究する授業を体験することで、数学科教員になるための基礎的な知識と技能を習得し、自身の教育観を磨き、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開講する授業科目	数学科教育法b		本講義では、数学教員として何を意識して授業をどう組み立てるのかについての、基本的な知識と技能の習得、及び思考力・判断力・表現力の向上を目的とする。そこで中高の「学習指導要領解説数学編」と指定したテキストをベースに、関連する2つ以上の資料を検索・対比して、学習指導案を作成し、全体発表と小グループでの交流を取り入れた検討を行った上で、模擬授業を行う。模擬授業と事前事後の議論を通して、習得すべき授業観や、有効な指導技術・留意点について、受講者自身が内的に構成する力を身につける。併せて、高等学校指導要領改訂のキーワードや具体事例についても輪番で解説し合い、数学教育の潮流の理解や数学的な素養（ICT活用を含む）を広げる機会とする。受講者全員が常に「問い」を持ち、参加・発信・探究する授業を体験し、「理想の授業」について再考することで、教師として主体的に研鑽する姿勢を身に付ける。	
	数学科教育法c		本講義では、授業を構想するにあたり何を意識してどう判断すべきかについての理解等、数学教員としての資質・能力の更なる育成を目的とする。そこで、主として「中学校学習指導要領解説数学編」と指定したテキストを読解し、関連する資料を検索・対比してまとめ、輪番で全体発表する。小グループでの交流を取り入れた議論を通して、数学教員としての知識や見方・考え方について、受講者自身が内的に構成する力を身につける。また、ICTを常時活用して、思考の顕在化と情報の共有を図る手法を体験を通して学ぶ。さらに現在の実践研究の動向を踏まえ、教材作成や探究の道具として、GeoGebraやGC/html5の操作方法や活用方法を習得する。受講者全員が常に「問い」を持ち、参加・発信・探究する授業を体験することで、数学科教員になるための基礎的な知識と技能を習得し、自身の授業観・教育観を磨き、主体的に学び研鑽する姿勢を養う。	
	数学科教育法d		本講義では、数学教員として何を意識して授業をどう組み立てるのかについて、より実践的な知識と技能の習得、及び思考力・判断力・表現力の更なる向上を目的とする。そこで「中学校学習指導要領解説数学編」と指定したテキストをベースに、関連する2つ以上の資料を検索・対比して学習指導案を作成し、全体発表と小グループでの交流を取り入れた検討を行った上で、模擬授業を行う。模擬授業と事前事後の議論を通して、習得すべき授業観や有効な指導技術・留意点について、受講者自身が内的に構成する力を身につける。併せて中学校指導要領改訂のキーワードや具体事例についても輪番で解説し合い、数学教育の潮流の理解と数学的な素養（ICT活用を含む）を広げる機会とする。受講者全員が、常に問いを持ち、参加・発信・探究する授業を体験し、「理想の授業」について再考することで、教師として主体的に学び研鑽する姿勢を養う。	
	情報科教育法a		本講義では、高校普通教育に情報教育が導入された歴史的経緯や特徴について理解するとともに、学習指導要領上の位置づけの理解を図ることを目的とする。また、高等学校での授業設計の方法を学ぶとともに、学校現場で実際に活用されている多様な教材や情報機器等の活用例、授業実践例を示す。そのなかで、様々な学習指導理論を踏まえた具体的な授業場面を想定した授業設計や、授業研究、評価の方法などについて学び、学習指導案の作成や模擬授業の実施を行う。	
	情報科教育法b		本講義では、「情報科教育法a」で学んだ知識や方法をふまえ、「情報社会に参画する態度」や「情報の科学的理解」をテーマとした教材研究や授業研究を進め、模擬授業を行う。さらに、様々なソフトウェアなどの教材を使って、実技を伴う授業の指導法について実践的に学び身につける。情報教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを到達目標とする。	
	教育原論		本講義は、大きく4つの内容で構成する。①西洋の教育思想から「教育」はどう考えられてきたのかを振り返り、「教育」とは何か、人間や子ども発達と「教育」との関係といった教育の本質的な問題へのアプローチを行う。②教育思想や社会の動きと関連して「学校」の成立過程を辿り、学校の歴史や存在意義について考察する。③キャリア教育や特別支援教育などの新しい時代に向けた教育課題について学習し、今後の学校教育のあり方について考察する。④家庭や社会における教育の理念や歴史の変遷について学習し、家庭や社会における教育の役割と学校教育との関わりについて考察する。そして、これらの学習を通して、教育や学校教育に関する基本的概念を身につけるとともに、現在から今後の学校教育のあるべき姿について理解し考察することを本講義の目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開講する授業科目	教職入門		本講義は、大きく2つの内容で構成する。①教育の動向や教職観の変遷について学習することを通して、教職の存在意義や社会的役割、および教員に求められる基礎的・基本的な資質能力について理解し、自らの教員として適性や資質・能力、および卒業後の進路について考察する。②教員の職務内容、待遇、採用、研修制度など、教職を目指す上で必要な内容を幅広く学習することを通して、教員の職務内容の全体像や教員に課せられる職務上・身分上の義務について理解し、教職の職業的特徴について考察する。これらの学習を通して、教職を目指す上で必要な基礎的知識を理解するとともに、それらの理解を通じて、自らの教員として適性や資質・能力および卒業後の進路について考えさせることを本講義の目的とする。	
	教育行政		本講義では、公教育制度を構成している教育関係法規の内容を通して、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題について理解を深めることを目的とする。また、学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例をふまえて示す。くわえて、学校の管理下で起こる事件、事故および災害の実情を踏まえて、「学校保健安全法」に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組みを学ぶ。	
	教育心理学		本講義では、子どもの発達と学習の過程および個性・個人差に関する諸理論を、学校における教科指導上・生徒指導上の実践的諸課題と密接に関連付けながら講義し、理解を深める。受講者は、講義の最初に、その日のテーマに関する既有知識をミニレポートにまとめ、続く講義の中で示される教育心理学の知識や理論を活用しつつ、学校現場における実践的諸課題に今後どう取り組むかを考え、次の講義までに宿題レポートにまとめることにより、教育心理学の知識を将来の教育実践に結びつけることを目的とする。	
	特別支援教育		本講義では、①特別支援教育の概要、②障害の理解と支援方法、③学校における特別支援教育の実際、の3つの柱で特別支援教育についての基礎理解を進める。さらに、インクルーシブ教育システム、学びの多様性、合理的配慮等の特別支援教育の流れに触れながら、これからの特別支援教育についてディスカッションをしながら考えていく。なお、本講義では、全ての障害、全ての校種について扱うが、発達障害を中心とした通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒への支援方法に重点を置く。	
	教育課程論		学校で行う教育活動には、数学や理科といった「教科」だけでなく、道徳や学級活動(ホームルーム)、学校行事といった特別活動、総合的な学習の時間などがあり、これらは、どのような内容を、いつ、どのようなねらいで、どのような集団で実施するかなど、あらかじめ計画を立てて実施されている。本講義では、学校教育における教育課程の意義や構成について、基準としての「学習指導要領」との関係ふまえながら理解することを目的とする。また、教育課程編成の事例に触れることを通して、教育課程編成の方法についても理解を深める。	
	道徳教育		本講義では、道徳教育に関する理論的・実践的事柄を多面的に考察することによって、道徳教育に関する基礎的知識を学ぶ。さらに、それらの知識を応用しながら道徳科の指導案作りと模擬授業を行うことで、道徳に関する具体的指導力を身につけるとともに、反省的实践家として教師に求められる基礎的反省力を身につける。道徳教育及び道徳科について理論的・実践的理解を深めるとともに、道徳科の授業を行うことができるようになることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開講する授業科目	特別活動・総合的な学習の時間の指導法		<p>(概要) 本講義では、生徒が自主的・自律的に活動を展開し集団や社会の形成者になっていけるよう、また生徒が横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して「生きる力」をはぐくむことができるよう、教員がどのように指導すればよいのかを考えていくことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (58 澤田俊也/7回)</p> <p>特別活動の歴史、理論、教育目標・内容、指導方法について、講義およびグループワークによって検討する。さらに、実際に指導計画や活動計画を作成し、それを模擬授業や模擬遠足という形で実践する。具体的なテーマは以下の通り。特別活動の位置づけと意義/特別活動の理念・目標・評価/学級・ホームルーム活動の目標・内容と実践事例/学級・ホームルーム活動の指導案の作成/児童会・生徒会活動、クラブ活動の目標・内容と実践事例/学校行事の目標・内容と活動計画の作成/学校行事の活動計画のプレゼンテーションと改善 (49 武藤寿彰/7回)</p> <p>総合的な学習の時間の歴史、理論、教育目標・内容、指導方法について、講義およびグループワークによって検討する。さらに、実際に指導計画や活動計画を作成し、それを模擬授業やインタビュー活動という形で実践する。具体的なテーマは以下の通り。総合的な学習の位置づけと意義/総合的な学習の時間の目標の構成と趣旨/各学校で定める目標及び内容の取扱いと指導計画作成の意義/年間計画の作成の意義とカリキュラムマネジメント/「課題設定」「情報収集」の指導計画と評価方法/「整理分析」「まとめ・表現」の指導計画と評価方法/実践事例の再評価と、生き方に迫り新たな問いを生むための指導</p>	オムニバス方式
	教育方法論(ICT活用含む)		<p>(概要) 本講義では、情報通信機器の活用を含めて、教育方法に関する理論的・実践的事柄を多面的に検討することによって、教育方法に関する基礎的知識を学ぶことを目的とする。さらに、それらの知識を応用しながら授業案作成と教材開発を行うことで、実践的な授業力を身につけるとともに、反省的実践家として教師に求められる基礎的省察力を身につける。これからの子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や技術を理解するとともに、中学校あるいは高等学校で実践することを想定して、教材研究や授業づくりの技能を身につけることを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (58 澤田俊也/7回)</p> <p>教育方法に関する理論的・実践的事柄を多面的に検討することによって、教育方法に関する基礎的知識を学ぶことを目的とする。また、これからの子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や技術を理解する。具体的なテーマは以下の通り。デザイナーとしての教師/授業づくりと「しかけ」/教師個人の学び/教師集団の学び/授業研究の意義/主体的・対話的で深い学びの現状/学力と評価 (49 武藤寿彰/7回)</p> <p>情報通信機器の活用を含めて授業案作成と教材開発を行うことで、実践的な授業力を身につけるとともに、反省的実践家として教師に求められる基礎的省察力を身につける。また、中学校あるいは高等学校で実践することを想定して、教材研究や授業づくりの技能を身につける。具体的なテーマは以下の通り。ICT活用の意義と変遷、GIGAスクール構想とコロナ禍による人的・物的学習環境の変化/一斉学習での提示型ICT活用法/GIGAスクール環境下での個別学習におけるICT活用法/Google for Educationの操作・活用法と授業案作成/Geogebraの操作・活用法と授業案作成/日常の事象をICTで科学的にとらえる授業事例と模擬授業/情報活用能力(情報モラルを含む)の育成、統合型校務支援システム活用の意義</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要 (情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開講する授業科目	生徒指導と進路指導		<p>(概要) 本講義では、学校における生徒指導・進路指導の諸課題を総合的に理解するとともに、実践において求められる理論と技法の習得を目的とする。生徒指導については、複雑かつ深刻な様相を呈する児童生徒の問題行動の情勢を捉え、その原因・背景を理解し、生徒指導実践において必要とされる方法に関する理論と技法について学ぶ。また、進路指導については、進路指導・キャリア教育の目的・内容・方法についての基礎的理解を図るとともに、青少年の職業観・勤労観の形成、進路選択・職業選択等に関する課題を取り上げ、対応の具体的方向性について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回) (38 平野裕一/7回) 生徒指導に関する内容を講義する。具体的なテーマは以下の通り。生徒指導の教育的意義と目標/生徒指導の定義・歴史・理論/生徒指導における児童生徒理解の理論と実際、及び集団指導としての組織的対応/児童生徒の問題行動の現状と集団指導としての学級経営の方向性/関係機関との連携に関する理論と方法及び生徒指導に関する主要法令の理解並びに不登校/中途退学の個別指導としての理解と対応/いじめ問題・インターネットをめぐる問題の個別指導としての理解と対応/生徒指導の今日的課題の個別指導としての理解(自殺予防・性非行等)、生徒指導まとめ (30 辰巳育男/7回) 進路指導に関する内容を講義する。具体的なテーマは以下の通り。進路指導とキャリア教育の意義と内容/進路指導・キャリア教育の理論的背景/自己理解、職業理解、啓発的経験の意義と進路指導/職業観・勤労観の形成とそれらを促す進路指導のあり方/進路指導における生徒理解の方法/キャリア教育の先進的実践事例の検討/学校における進路指導の今後の課題、進路指導まとめ</p>	オムニバス方式
	教育相談		<p>本講義では、学校現場における不登校・いじめ・学級崩壊その他の問題について、毎回、具体的な事例に即して取り上げ、各事例の理解と対応に役立つ心理学的な理論や方法について解説する。また、講義の最後に、その日の学習内容に関連するミニ実習を行い、受容、傾聴、共感的理解等の基本的なカウンセリング技法を身につける。さらに、ミニ実習で学んだ技法を日常のコミュニケーションの中で応用することを、次の講義までの宿題とし、講義で学んだ技法の定着を目的とする。</p>	
	中学校教育実習		<p>「中学校教育実習」は、教育実習校での「教育実習」4単位と本学における「事前・事後指導」の1単位で構成される。これらのうち、「事前指導」は、4～5月に7回にわたって実施し、教育実習の意義と心得、教育実習の内容、教科指導や生徒指導に関わる基礎的事項などの教育実習を行うために必要な事前学習を行う。また、5月下旬から6月に3週間(120時間)かけて各自教育実習校において「教育実習」を行い、担当教科および特別の教科である「道徳」の指導、特別活動の指導、他教員または教育実習生の授業参観などを通して学校の教育活動全般について実地学習する。さらに、7月には事後指導を実施し、教育実習の反省と今後の課題整理を行う。</p>	集中 共同
	高等学校教育実習		<p>「高等学校教育実習」は、教育実習校での「教育実習」2単位と本学における「事前・事後指導」の1単位で構成される。これらのうち、「事前指導」は、4～5月に7回にわたって実施し、教育実習の意義と心得、教育実習の内容、教科指導や生徒指導に関わる基礎的事項などの教育実習を行うために必要な事前学習を行う。また、5月下旬から6月に2週間(60時間)かけて各自教育実習校において「教育実習」を行い、担当教科および特別の教科である「道徳」の指導、特別活動の指導、他教員または教育実習生の授業参観などを通して学校の教育活動全般について実地学習する。さらに、7月に事後指導を実施し、教育実習の反省と今後の課題整理を行う。</p>	集中 共同
	教職実践演習(中・高)		<p>本講義では、主として各受講者の修得度が不十分な領域に関しての研究活動や、これまでの教職課程の学びで学習してこなかった生徒が心停止などになった場合の救命措置などについて学習する。併せて、受講者の指導にあたってきた教員による口頭試問を行うことを通じて、各受講者がそれまでに身につけてきた教員に必要な知識・技能のうちの修得度が不十分な内容や、これまで学習してこなかった内容を補完するとともに、受講者各人の社会人としての基本、教育に対する使命感や責任感、教育的愛情および人権尊重の精神、同僚・保護者に対する適切な対応能力、個々の子どもの状況に応じた適切な対応能力などが身につけているか否かを確認することをねらいとしている。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部実世界情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開講する授業科目	人間発達と人権		本講義では、人間の発達および人権について、人権思想史・世界人権宣言・日本国憲法・子どもの権利条約等の中から学び、関連する今日的課題についてのディスカッションを通じて理解を深める。具体的には、女性問題、子どもへの体罰・虐待問題、ジェンダー平等をめぐる問題、同和問題、アイヌ差別の問題、在日外国人差別の問題等について学ぶことにより、人権尊重の精神を養い、具体的な教育実践に結びつけることを目的とする。	
	教職特論		本講義は以下の2点から構成される。①受講者が自ら教材教具を作成し、それを用いた指導案づくりと模擬授業を実施する。②受講者間の話し合いを通じ、考案された教材教具や模擬授業の実施内容を分析検討するとともに改善策を考える。受講対象は、来春から教職に就く学生とし、教材教具の作成とそれを用いた模擬授業の計画・実施・検討を通して、教育現場で必要とされる教科指導力を身に付けることを到達目標とする。	共同

学校法人常翔学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和6年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員 (完成年度)	令和7年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員 (完成年度)	変更の事由
大阪工業大学大学院					大阪工業大学大学院					
工学研究科	116	-	-	238	工学研究科	116	-	-	238	
建築・都市デザイン工学専攻 (M)	30	-	-	60	建築・都市デザイン工学専攻 (M)	30	-	-	60	
建築・都市デザイン工学専攻 (D)	2	-	-	6	建築・都市デザイン工学専攻 (D)	2	-	-	6	
電気電子・機械工学専攻 (M)	50	-	-	100	電気電子・機械工学専攻 (M)	50	-	-	100	
電気電子・機械工学専攻 (D)	2	-	-	6	電気電子・機械工学専攻 (D)	2	-	-	6	
化学・環境・生命工学専攻 (M)	30	-	-	60	化学・環境・生命工学専攻 (M)	30	-	-	60	
化学・環境・生命工学専攻 (D)	2	-	-	6	化学・環境・生命工学専攻 (D)	2	-	-	6	
ロボティクス&デザイン工学研究科	32	-	-	66	ロボティクス&デザイン工学研究科	32	-	-	66	
ロボティクス&デザイン工学専攻 (M)	30	-	-	60	ロボティクス&デザイン工学専攻 (M)	30	-	-	60	
ロボティクス&デザイン工学専攻 (D)	2	-	-	6	ロボティクス&デザイン工学専攻 (D)	2	-	-	6	
情報科学研究科	45	-	-	95	情報科学研究科	45	-	-	95	
情報科学専攻 (M)	40	-	-	80	情報科学専攻 (M)	40	-	-	80	
情報科学専攻 (D)	5	-	-	15	情報科学専攻 (D)	5	-	-	15	
知的財産研究科	30	-	-	60	知的財産研究科	30	-	-	60	
知的財産専攻 (P)	30	-	-	60	知的財産専攻 (P)	30	-	-	60	
計	223	-	-	459	計	223	-	-	459	
大阪工業大学					大阪工業大学					
工学部	900	-	40	3,680	工学部	900	-	40	3,680	
都市デザイン工学科	100	-	5	410	都市デザイン工学科	100	-	5	410	
建築学科	150	-	5	610	建築学科	150	-	5	610	
機械工学科	140	-	5	570	機械工学科	140	-	5	570	
電気電子システム工学科	125	-	5	510	電気電子システム工学科	125	-	5	510	
電子情報システム工学科	110	-	5	450	電子情報システム工学科	110	-	5	450	
応用化学科	130	-	5	530	応用化学科	130	-	5	530	
環境工学科	75	-	5	310	環境工学科	75	-	5	310	
生命工学科	70	-	5	290	生命工学科	70	-	5	290	
ロボティクス&デザイン工学部	280	-	15	1,150	ロボティクス&デザイン工学部	280	-	15	1,150	
ロボット工学科	90	-	5	370	ロボット工学科	90	-	5	370	
システムデザイン工学科	90	-	5	370	システムデザイン工学科	90	-	5	370	
空間デザイン学科	100	-	5	410	空間デザイン学科	100	-	5	410	
情報科学部	460	-	20	1,880	情報科学部	460	-	15	1,870	
データサイエンス学科	70	-	-	280	データサイエンス学科	<u>80</u>	-	-	<u>320</u>	入学定員変更 (10)
					実世界情報学科	<u>80</u>	-	-	<u>320</u>	学科の設置 (届出)
情報知能学科	90	-	5	370	情報知能学科	<u>100</u>	-	5	<u>410</u>	入学定員変更 (10)
情報システム学科	105	-	5	430	情報システム学科	<u>100</u>	-	5	<u>410</u>	入学定員変更 (△5)
情報メディア学科	105	-	5	430	情報メディア学科	<u>100</u>	-	5	<u>410</u>	入学定員変更 (△5)
ネットワークデザイン学科	90	-	5	370	(学生募集停止)	<u>0</u>	-	<u>0</u>	<u>0</u>	令和7年4月学生募集停止
知的財産学部	140	-	10	580	知的財産学部	140	-	10	580	
知的財産学科	140	-	10	580	知的財産学科	140	-	10	580	
計	1,780	-	85	7,290	計	1,780	-	80	7,280	

令和6年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員 (完成年度)	令和7年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員 (完成年度)	変更の事由
摂南大学大学院					摂南大学大学院					
薬学研究科	4	-	-	16	薬学研究科	4	-	-	16	
医療薬学専攻 (4年制D)	4	-	-	16	医療薬学専攻 (4年制D)	4	-	-	16	
理工学研究科	38	-	-	80	理工学研究科	38	-	-	80	
社会開発工学専攻 (M)	12	-	-	24	社会開発工学専攻 (M)	12	-	-	24	
生産開発工学専攻 (M)	12	-	-	24	生産開発工学専攻 (M)	12	-	-	24	
生命科学専攻 (M)	10	-	-	20	生命科学専攻 (M)	10	-	-	20	
創生工学専攻 (D)	2	-	-	6	創生工学専攻 (D)	2	-	-	6	
生命科学専攻 (D)	2	-	-	6	生命科学専攻 (D)	2	-	-	6	
経済経営学研究科	10	-	-	20	経済経営学研究科	10	-	-	20	
経済学専攻 (M)	5	-	-	10	経済学専攻 (M)	5	-	-	10	
経営学専攻 (M)	5	-	-	10	経営学専攻 (M)	5	-	-	10	
法学研究科	5	-	-	10	法学研究科	5	-	-	10	
法学専攻 (M)	5	-	-	10	法学専攻 (M)	5	-	-	10	
国際言語文化研究科	5	-	-	10	国際言語文化研究科	5	-	-	10	
国際言語文化専攻 (M)	5	-	-	10	国際言語文化専攻 (M)	5	-	-	10	
看護学研究科	6	-	-	12	看護学研究科	6	-	-	12	
看護学専攻 (M)	6	-	-	12	看護学専攻 (M)	6	-	-	12	
農学研究科	23	-	-	49	農学研究科	23	-	-	49	
農学専攻 (M)	20	-	-	40	農学専攻 (M)	20	-	-	40	
農学専攻 (D)	3	-	-	9	農学専攻 (D)	3	-	-	9	
計	91	-	-	197	計	91	-	-	197	

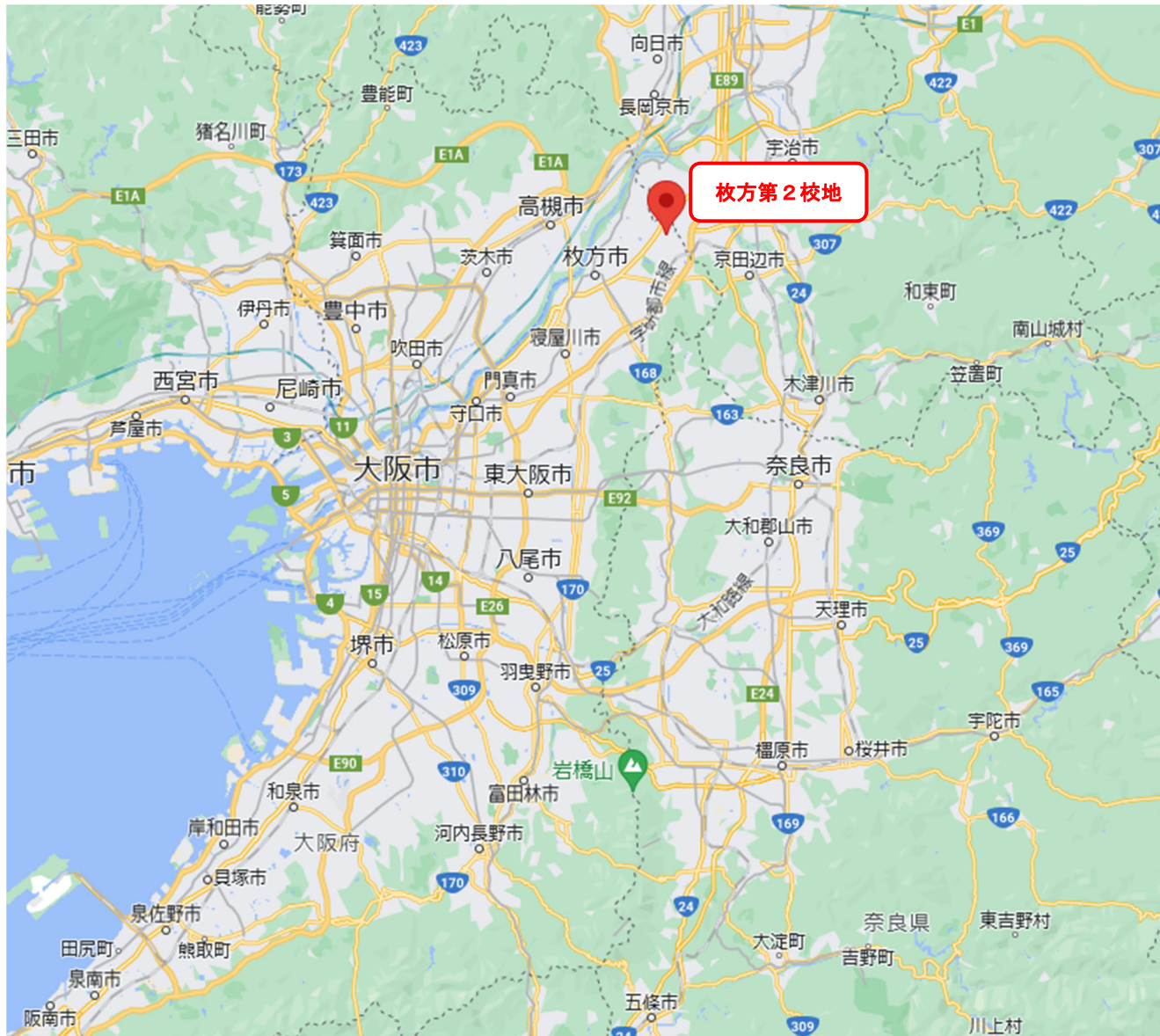
令和6年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員 (完成年度)	令和7年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員 (完成年度)	変更の事由
摂南大学					摂南大学					
理工学部	585	-	30	2,400	理工学部	585	-	30	2,400	
生命科学科	105	-	5	430	生命科学科	105	-	5	430	
住環境デザイン学科	85	-	5	350	住環境デザイン学科	85	-	5	350	
建築学科	80	-	5	330	建築学科	80	-	5	330	
機械工学科	130	-	5	530	機械工学科	130	-	5	530	
電気電子工学科	105	-	5	430	電気電子工学科	105	-	5	430	
都市環境工学科	80	-	5	330	都市環境工学科	80	-	5	330	
経営学部	280	-	6	1,132	経営学部	280	-	6	1,132	
経営学科	280	-	6	1,132	経営学科	280	-	6	1,132	
薬学部	220	-	-	1,320	薬学部	220	-	-	1,320	
薬学科(6年制)	220	-	-	1,320	薬学科(6年制)	220	-	-	1,320	
法学部	280	-	5	1,130	法学部	280	-	5	1,130	
法律学科	280	-	5	1,130	法律学科	280	-	5	1,130	
経済学部	280	-	4	1,128	経済学部	280	-	4	1,128	
経済学科	280	-	4	1,128	経済学科	280	-	4	1,128	
看護学部	100	-	-	400	看護学部	100	-	-	400	
看護学科	100	-	-	400	看護学科	100	-	-	400	
農学部	340	-	-	1,360	農学部	340	-	-	1,360	
農業生産学科	80	-	-	320	農業生産学科	80	-	-	320	
応用生物科学科	80	-	-	320	応用生物科学科	80	-	-	320	
食品栄養学科	80	-	-	320	食品栄養学科	80	-	-	320	
食農ビジネス学科	100	-	-	400	食農ビジネス学科	100	-	-	400	
国際学部	250	-	5	1,010	国際学部	250	-	5	1,010	
国際学科	250	-	5	1,010	国際学科	250	-	5	1,010	
現代社会学部	250	-	-	1,000	現代社会学部	250	-	-	1,000	
現代社会学科	250	-	-	1,000	現代社会学科	250	-	-	1,000	
計	2,585	-	50	10,880	計	2,585	-	50	10,880	

令和6年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和7年度	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
広島国際大学大学院					広島国際大学大学院					
看護学研究科	13	-	-	29	看護学研究科	13	-	-	29	
看護学専攻 (M)	10	-	-	20	看護学専攻 (M)	10	-	-	20	
看護学専攻 (D)	3	-	-	9	看護学専攻 (D)	3	-	-	9	
薬学研究科	2	-	-	8	薬学研究科	2	-	-	8	
医療薬学専攻 (4年制D)	2	-	-	8	医療薬学専攻 (4年制D)	2	-	-	8	
医療科学研究科	14	-	-	32	医療科学研究科	14	-	-	32	
保健医療学専攻 (M)	5	-	-	10	保健医療学専攻 (M)	5	-	-	10	
保健医療学専攻 (D)	2	-	-	6	保健医療学専攻 (D)	2	-	-	6	
リハビリテーション学専攻 (M)	5	-	-	10	リハビリテーション学専攻 (M)	5	-	-	10	
リハビリテーション学専攻 (D)	2	-	-	6	リハビリテーション学専攻 (D)	2	-	-	6	
健康科学研究科	32	-	-	66	健康科学研究科	32	-	-	66	
医療福祉学専攻 (M)	5	-	-	10	医療福祉学専攻 (M)	5	-	-	10	
医療経営学専攻 (M)	5	-	-	10	医療経営学専攻 (M)	5	-	-	10	
心理学専攻 (M)	20	-	-	40	心理学専攻 (M)	20	-	-	40	
心理学専攻 (D)	2	-	-	6	心理学専攻 (D)	2	-	-	6	
計	61	-	-	135	計	61	-	-	135	

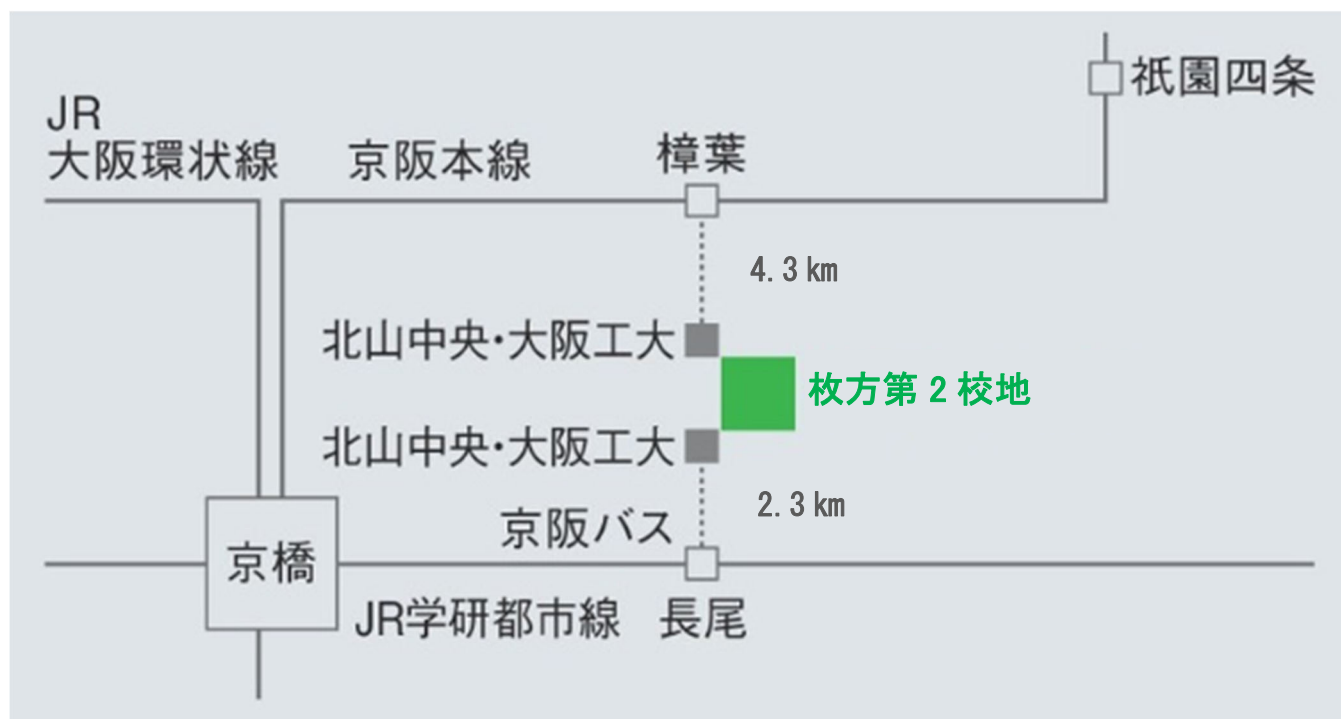
広島国際大学					広島国際大学					
保健医療学部	220	-	-	880	保健医療学部	220	-	-	880	
診療放射線学科	70	-	-	280	診療放射線学科	70	-	-	280	
医療技術学科	100	-	-	400	医療技術学科	100	-	-	400	
救急救命学科	50	-	-	200	救急救命学科	50	-	-	200	
総合リハビリテーション学部	180	-	-	720	総合リハビリテーション学部	180	-	-	720	
リハビリテーション学科	180	-	-	720	リハビリテーション学科	180	-	-	720	
看護学部	120	-	10	500	看護学部	120	-	10	500	
看護学科	120	-	10	500	看護学科	120	-	10	500	
薬学部	120	-	-	720	薬学部	120	-	-	720	
薬学科 (6年制)	120	-	-	720	薬学科 (6年制)	120	-	-	720	
健康科学部	350	-	-	1,400	健康科学部	350	-	-	1,400	
医療経営学科	90	-	-	360	医療経営学科	90	-	-	360	
心理学科	100	-	-	400	心理学科	100	-	-	400	
医療栄養学科	60	-	-	240	医療栄養学科	60	-	-	240	
社会学科	100	-	-	400	社会学科	100	-	-	400	
健康スポーツ学部	70	-	-	280	健康スポーツ学部	70	-	-	280	
健康スポーツ学科	70	-	-	280	健康スポーツ学科	70	-	-	280	
計	1,060	-	10	4,500	計	1,060	-	10	4,500	

校地校舎等の図面

(1) 都道府県内における位置関係の図面 (※資料出展：Google マップ)



(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



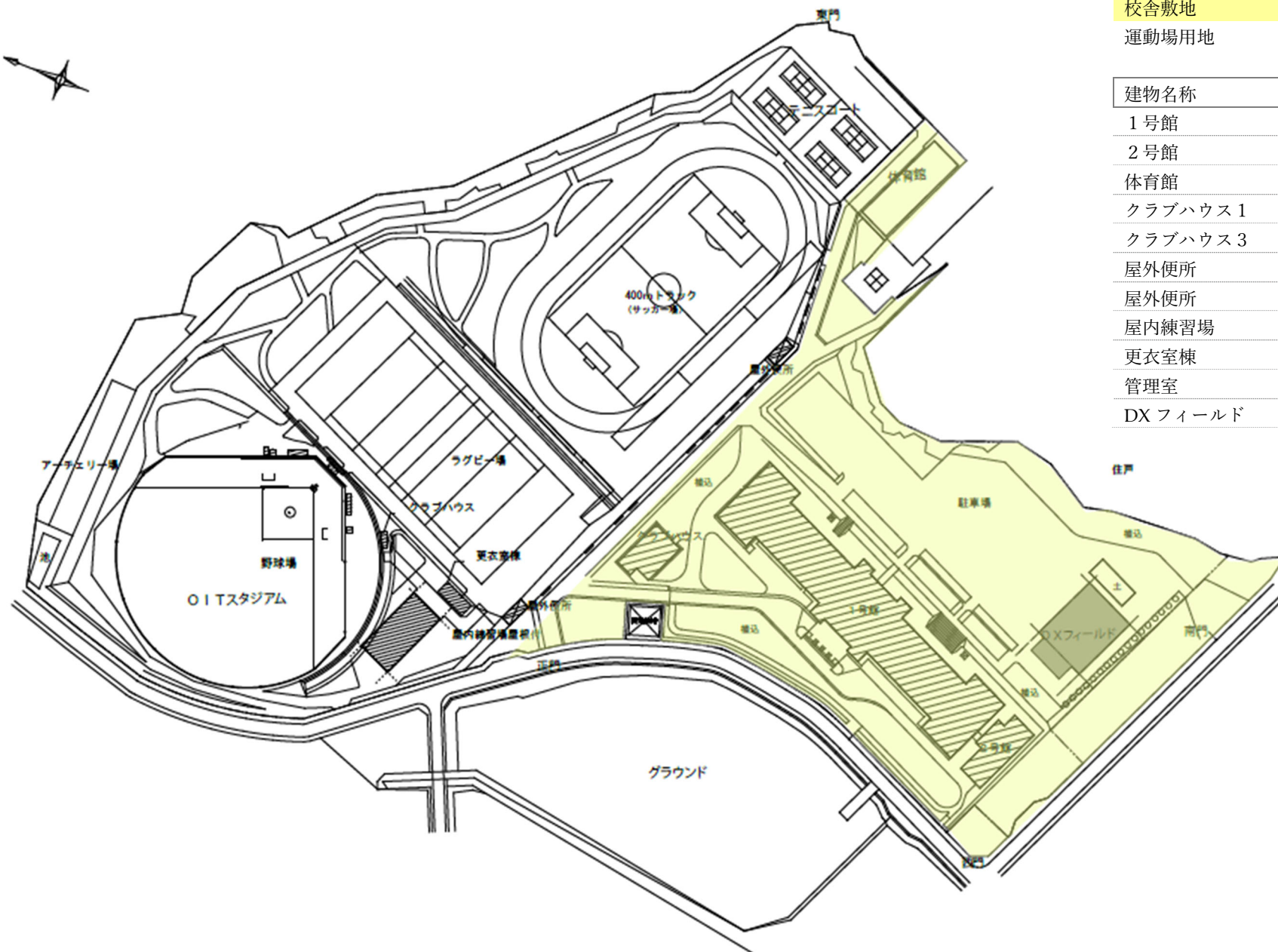
◆枚方第2校地へのアクセス

- ・京阪本線樟葉駅から、京阪バス「北山中央」「大阪工大」下車すぐ
 (「北山中央」下車の場合⇒バス乗車時間：19分、バス停から大学まで：260m・徒歩4分)
 (「大阪工大」下車の場合⇒バス乗車時間：18分、バス停から大学まで：230m・徒歩3分)
- ・JR学研都市線長尾駅から京阪バス「北山中央」「大阪工大」下車すぐ
 (「北山中央」下車の場合⇒バス乗車時間：8分、バス停から大学まで：260m・徒歩4分)
 (「大阪工大」下車の場合⇒バス乗車時間：9分、バス停から大学まで：230m・徒歩3分)

(3) 校舎，運動場等の配置図

名称	敷地面積
校舎敷地	71,937.00 m ²
運動場用地	76,592.00 m ²

建物名称	建物面積
1号館	34,489.26 m ²
2号館	4,113.37 m ²
体育館	2,136.06 m ²
クラブハウス1	475.06 m ²
クラブハウス3	49.75 m ²
屋外便所	54.00 m ²
屋外便所	54.00 m ²
屋内練習場	924.00 m ²
更衣室棟	132.49 m ²
管理室	17.39 m ²
DX フィールド	1,389.31 m ²



図面 -3-

学 則

(1) 学則案の全文

○大阪工業大学学則

昭和24年3月25日

学園102

第1章 総則

(目的)

第1条 本大学は、専門学術を教育研究し、深い教養と実践的応用力を身につけ、時代の要請に対応して国際的視野から知的・技術的創造を実現でき、確かな人間力を備え常に向上を心がける専門職業人を養成して、社会の発展に貢献するとともに、学術と文化の向上をはかることを目的とする。

(自己評価等)

第2条 本大学は、前条に規定する目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行う。

2 前項の点検および評価に関することは、別に定める。

第2章 組織

(設置学部および設置学科)

第3条 本大学に、つぎの学部および学科を置く。

学部	学科
工学部	都市デザイン工学科 建築学科 機械工学科 電気電子システム工学科 電子情報システム工学科 応用化学科 環境工学科 生命工学科
ロボティクス&デザイン工学部	ロボット工学科 システムデザイン工学科 空間デザイン学科
情報科学部	データサイエンス学科 実世界情報学科 情報知能学科 情報システム学科 情報メディア学科
知的財産学部	知的財産学科

(教育研究上の目的)

第3条の2 工学部は、地球環境に配慮しながら、専門技術の基礎ならびに人間力を基盤として幅広い協働によるものづく

りを実践でき、常に向上を目指す技術者を育成することを目的とする。

- 2 ロボティクス&デザイン工学部は、工学的な知識・技術を人間中心の視点から活用し、持続可能で豊かな社会の形成や発展に貢献できる専門職業人を育成することを目的とする。
- 3 情報科学部は、情報通信に関する知識や技術を学び、広い視野と倫理観を持って社会や産業活動の情報化とその発展に貢献する健全な技術者あるいは専門職業人を育成することを目的とする。
- 4 知的財産学部は、健全な人間性、知的能力および国際感覚を有することにより、21世紀の産業社会において活躍する者にして、知的財産の保護と活用を推進することに貢献できる職業人を養成することを目的とする。

(収容定員)

第4条 本大学の学科別入学定員および収容定員は、つぎのとおりとする。

学部	学科	入学定員		収容定員
			3年次編入学定員	
工学部	都市デザイン工学科	100名	5名	410名
	建築学科	150名	5名	610名
	機械工学科	140名	5名	570名
	電気電子システム工学科	125名	5名	510名
	電子情報システム工学科	110名	5名	450名
	応用化学科	130名	5名	530名
	環境工学科	75名	5名	310名
	生命工学科	70名	5名	290名
	計	900名	40名	3,680名
ロボティクス&デザイン工学部	ロボット工学科	90名	5名	370名
	システムデザイン工学科	90名	5名	370名
	空間デザイン学科	100名	5名	410名
	計	280名	15名	1,150名
情報科学部	データサイエンス学科	80名	—	320名
	実世界情報学科	80名	—	320名
	情報知能学科	100名	5名	410名
	情報システム学科	100名	5名	410名
	情報メディア学科	100名	5名	410名
	計	460名	15名	1,870名
知的財産学部	知的財産学科	140名	10名	580名

(大学院)

第5条 本大学に、大学院を置く。

- 2 大学院については、大学院学則に定める。

(職員組織)

第6条 本大学に、学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手および研究職員ならびに事務職員を置く。

- 2 本大学に、必要に応じて副学長を置くことができる。

- 3 本大学には、前2項のほか、教務部長、学生部長、図書館長、情報センター長、事務局長、入試部長およびキャリア支援部長その他必要な職員を置く。

(各職員の職務)

第7条 学長は、学務を統括し、所属職員を統督する。

- 2 副学長は、学長を補佐し、その命を受けて本大学の重要な事項についての校務を掌る。
- 3 学部長は、学長を補佐し、その命を受けて本大学の教学運営業務を遂行し、各学部内の業務を処理するとともに、各学部所属する教育系職員を指揮監督する。
- 4 教授は、専攻分野について、教育上、研究上または実務上の特に優れた知識、能力および実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、または研究に従事する。
- 5 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上または実務上の優れた知識、能力および実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、または研究に従事する。
- 6 講師は、教授または准教授に準ずる職務に従事する。
- 7 助教は、専攻分野について、教育上、研究上または実務上の知識および能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、または研究に従事する。
- 8 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。
- 9 研究職員は、教授、准教授もしくは講師の職務を補佐し、または指導を受けて研究に従事する。
- 10 事務職員は、本大学の管理運営業務にあたるほか、学生の学修指導および厚生補導に従事する。
- 11 前条第3項の職員の職務については、職制に関する規定に定める。

(大学・大学院運営会議)

第8条 本大学に、大学・大学院運営会議を置く。

- 2 大学・大学院運営会議は、学長、副学長、研究科長、学部長、教務部長、学生部長、図書館長、情報センター長、事務局長、入試部長、キャリア支援部長、国際交流センター長、教育センター長をもって組織し、本大学の重要な事項を審議する。
- 3 その他大学・大学院運営会議について必要な事項は、大学・大学院運営会議規定に定める。

(教授会)

第9条 本大学の各学部に教授会を置く。

- 2 教授会は、学部長および当該学部の教授をもって構成し、学長がつぎに掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
 - イ 学生の入学および卒業に関すること
 - ロ 学位の授与に関すること
 - ハ 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要と学長が定めるもの
- 3 教授会は、前項に規定するもののほか、学長が掌る教育研究に関する事項について審議し、および学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。
- 4 その他各学部の教授会について必要な事項は、各学部の教授会規定に定める。

(委員会)

第10条 本大学に、本大学の重要な事項を審議する組織として、つぎの委員会を置く。

- イ 自己評価・IR委員会
- ロ 工学部教員選考委員会
- ハ ロボティクス&デザイン工学部教員選考委員会
- ニ 情報科学部教員選考委員会
- ホ 知的財産学部教員選考委員会
- ヘ 入試委員会
- ト 教学推進委員会
- チ 教職課程委員会
- リ 学生委員会
- ヌ キャリア支援委員会
- ル 図書館運営委員会
- ヲ 人権侵害防止委員会
- ワ 個人情報保護委員会
- カ FD委員会
- コ 教員活動評価委員会
- タ 研究支援社会連携推進委員会

- 2 自己評価・IR委員会は、自己点検・評価、外部評価、認証評価機関による第三者評価、内部質保証に関する事項を審議する。
- 3 工学部教員選考委員会は、工学部の教員の採用および昇任の資格審査ならびに研修に関する事項を審議する。
- 4 ロボティクス&デザイン工学部教員選考委員会は、ロボティクス&デザイン工学部の教員の採用および昇任の資格審査ならびに研修に関する事項を審議する。
- 5 情報科学部教員選考委員会は、情報科学部の教員の採用および昇任の資格審査ならびに研修に関する事項を審議する。
- 6 知的財産学部教員選考委員会は、知的財産学部の教員の採用および昇任の資格審査ならびに研修に関する事項を審議する。
- 7 入試委員会は、学長の諮問に応じて各学部の入学者選抜についての企画調整、その他重要な事項を審議する。
- 8 教学推進委員会は、学長の諮問に応じて教務に関する重要な事項の審議ならびに各学部間の連絡調整を行う。
- 9 教職課程委員会は、学長の諮問に応じて教職課程に関する重要な事項の審議ならびに各学部間の連絡調整を行う。
- 10 学生委員会は、学長の諮問に応じて学生の厚生補導、表彰、懲戒その他重要な事項の審議および各学部間の連絡調整を行う。
- 11 キャリア支援委員会は、学長の諮問に応じて就職およびキャリア教育に関する重要な事項の審議および各学部間の連絡調整を行う。
- 12 図書館運営委員会は、学長の諮問に応じて図書館の運営に関し必要な事項を審議する。
- 13 人権侵害防止委員会は、本大学における人権侵害の防止に関し必要な事項を審議する。
- 14 FD委員会は、本大学における授業の内容、方法等の改善を図るため、組織的な研修および研究に関する事項を審議する。
- 15 個人情報保護委員会は、本大学における個人情報の保護に関し必要な事項を審議する。

- 16 教員活動評価委員会は、本大学における教員活動評価に関する事項を審議する。
- 17 研究支援社会連携推進委員会は、研究支援・社会連携事業の事業計画に関する事項を審議する。
- 18 その他委員会について必要な事項は、各委員会規定に定める。

第3章 学年、学期および休業日

(学年)

第11条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(学期)

第12条 学年をつぎの2学期に区分する。

- イ 前期 4月1日から9月30日まで
 - ロ 後期 10月1日から翌年3月31日まで
- 2 必要がある場合、学長は、前項に定める前期の終期および後期の始期を変更することができる。
 - 3 第1項に定める各学期を前半および後半に分けることができる。

(休業日)

第13条 休業日は、つぎのとおりとする。ただし、休業日に授業等を行うことがある。

- イ 日曜日および国民の祝日に関する法律に定める休日
 - ロ 本学園創立記念日 10月30日
 - ハ 春期休業日 3月21日から3月31日まで
 - ニ 夏期休業日 8月1日から9月14日まで
 - ホ 冬期休業日 12月25日から翌年1月7日まで
- 2 必要がある場合、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。
 - 3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第4章 修業年限および在学年数

(修業年限)

第14条 修業年限は、4年とする。

(在学年数の制限)

第15条 在学年数は、8年を超えることができない。

第5章 入学

(入学時期)

第16条 入学時期は、学年の始めとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、学長は、学年の途中においても、第12条に定める学期の区分に従い、入学させることができる。その場合の学年は、第11条にかかわらず、10月1日に始まり翌年9月30日に終わるものとする。

(入学資格)

第17条 本大学に入学できる者は、つぎの各号のいずれかに該当する者とする。

- イ 高等学校または中等教育学校を卒業した者
- ロ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)

ハ 学校教育法施行規則第150条に定められた者

(編入学)

第18条 本大学に編入学を志願する者があるときは、選考のうえ原則として第3年次に編入学を許可する。

2 編入学できる者は、つぎの各号のいずれかに該当する者とする。

イ 大学を卒業した者

ロ 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者

ハ 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した後に退学した者

ニ 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所または国立養護教諭養成所を卒業した者

ホ 学校教育法施行規則第92条の3に定める従前の規定による高等学校、専門学校または教員養成諸学校等の課程を修了もしくは卒業した者

ヘ 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)を修了した者

ト 高等学校の専攻科の課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)を修了した者

チ 外国において学校教育における14年の課程を修了した者

リ 本学において、個別の入学資格審査により、前各号と同等以上の学力があると認めた場合で、20歳に達した者

3 その他編入学については、編入学規定に定める。

(転入学)

第18条の2 本大学に転入学を志願する者があるときは、選考のうえこれを許可することがある。

2 転入学できる者は、大学に在籍している者とする。

3 その他転入学については、転入学規定に定める。

(出願手続)

第19条 本大学に入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料および別に定める書類を添えて願出しなければならない。

(入学者の選考)

第20条 入学者の選考は、教授会の意見を聴いて学長がこれを行う。

(入学手続および入学許可)

第21条 前条の選考に合格した者は、指定の期日までに、別に定める学費を納入し、所定の手続を完了しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

3 前項により入学を許可された者は、入学宣誓式に出席し、かつ、入学の宣誓をしなければならない。

(保証人)

第22条 保証人は、独立の生計を営む成年者とし、父母またはこれに代わる親族としなければならない。

2 保証人は、当該学生の誓約に対し、責任を負わなければならない。

3 保証人が、死亡などのため、その資格を失ったときは、新たに保証人を定め届け出なければならない。

第6章 教育課程および履修方法

(授業科目)

第23条 工学部については、各授業科目をキャリア形成の基礎、工学の基礎、専門科目、数理科学と教育およびその他連携科目に分け、これを4年間に配当し、編成する。

2 ロボティクス&デザイン工学部については、各授業科目を共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、専門横断科目および専門科目に分け、これを4年間に配当し、編成する。

3 情報科学部については、各授業科目を共通科目、キャリア科目、専門科目、自由科目に分け、これを4年間に配当し、編成する。なお、自由科目については、情報科学部履修規定に定める。

4 知的財産学部については、各授業科目を導入領域、教養領域、専門領域、展開領域およびその他連携領域に分け、これを4年間に配当し、編成する。

5 授業科目は、必修科目、選択必修科目および選択科目とする。

(授業の方法)

第23条の2 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかによりまたはこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業を、外国において履修させることができる。

4 第1項の授業の一部を、校舎および附属施設以外の場所で行うことができる。

(授業科目および単位)

第24条 各学科の授業科目および単位数は、別表第1のとおり定める。

2 前項の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、前条第1項に規定する授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で、つぎのとおりとする。

イ 講義および演習については、15時間から30時間までの授業時間をもって1単位とする。

ロ 実験および実習については、30時間から45時間までの授業時間をもって1単位とする。

ハ 前2号にかかわらず、講義および演習と実験、実習を組み合わせる授業科目については、その組み合わせに応じて、15時間から45時間までの範囲で、本大学が定める授業時間をもって1単位とする。

(卒業に必要な単位数)

第25条 卒業に必要な単位は、つぎのとおりとする。

工学部	キャリア形成の基礎20単位〔人文社会科学10単位、外国語8単位(英語6単位を含む)、体育2単位〕ならびに工学の基礎26単位および所属する学科の専門科目70単位を含めて合計124単位
ロボティクス&デザイン工学部	共通教養科目20単位(外国語8単位含む)、工学関連科目17単位、専門横断科目および専門科目77単位、その他(共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、所属学科の専門横断科目および専門科目、他学科の専門科目および他学部の科目)10単位を含め、合計124単位

情報科学部	<p>イ データサイエンス学科 共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位を含む)、キャリア科目2単位および専門科目86単位を含めて合計124単位</p> <p>ロ 実世界情報学科、情報知能学科、情報システム学科、情報メディア学科 共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系12単位以上を含む。人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位必要)、キャリア科目2単位および所属する学科の専門科目86単位を含めて合計124単位</p>
知的財産学部	<p>導入領域8単位、教養領域20単位(英語科目8単位および一般科目12単位を含む)、専門領域74単位(必修科目10単位および基幹科目24単位、知的財産法科目10単位、技術&専門科目14単位、探究科目6単位、研究科目4単位を含む)、展開領域14単位(実践英語科目2単位を含む)を含めて合計124単位</p>

(履修の方法および制限)

第26条 履修の方法および履修の制限については、各学部の履修規定に定める。

(大学院授業科目の履修)

第26条の2 教育上有益であり、かつ所属する学部学科の学修に支障がない場合は、本大学院に進学する学生に対し、学部長は進学先の研究科長があらかじめ指定する授業科目の受講を認めることができる。

2 前項に関し必要な事項は、大阪工業大学大学院授業科目の先取履修取扱規定に定める。

第7章 単位の授与

(単位の授与)

第27条 授業科目を履修し、試験その他の評価方法により合格した者には、所定の単位を与える。

(他大学授業科目の履修および大学以外の教育施設等における学修ならびに単位認定)

第28条 教育上有益と認めるときは、他の大学(外国の大学を含む)との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることができる。

2 短期大学または高等専門学校等の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修(平成3年度文部省告示第68号に定めるもの)を教育上有益と認めるときは、本大学における授業科目の履修とみなすことができる。

3 前項に関し、その他文部科学大臣が別に定める学修については、大学以外の教育施設等における学修のうち文部科学大臣が定める学修に係る単位認定取扱規定に定める。

4 前3項により修得した単位について、学部長は教授会の議を経て、30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位とみなすことができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第29条 教育上有益と認めるときは、新たに第1年次に入学した者が本大学に入学する前に大学または短期大学等において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む)を、30単位を超えない範囲で入学前既修得単位認定取扱規定により認定することができる。

2 教育上有益と認めるときは、編入学および転入学した者が本大学に入学する前に大学または短期大学等において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む)を、62単位を超えない範囲で入学前既修得単位認定取扱規定により

認定することができる。

- 3 教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った前条第2項に規定する学修のうちその他文部科学大臣が別に定める学修を、大学以外の教育施設等における学修のうち文部科学大臣が定める学修に係る単位認定取扱規定により認定することができる。

(成績の評価)

第30条 成績の評価は、「S、A、B、C、F、*、G」をもって表し、「S、A、B、C、G」を合格とし「F、*」を不合格とする。

- 2 授業科目の成績は、その授業の方法、内容および年間の計画ならびに成績評価の基準をあらかじめ学生に明示し、当該基準にしたがって行うものとする。

第8章 卒業および学位の授与

(卒業)

第31条 工学部、ロボティクス&デザイン工学部および情報科学部については、第25条に定める単位を修得し、かつ、卒業研究に合格した者に、学長は教授会の意見を聴いて、卒業を許可する。

- 2 知的財産学部については、第25条に定める単位を修得し、かつ、達成度確認テストおよび卒業研究に合格した者に、学長は教授会の意見を聴いて、卒業を許可する。
- 3 前項の規定にかかわらず、本学大学院知的財産研究科への進学を希望している知的財産学部の3年次に在学する者で、学部の定める卒業要件を満たし、かつ、優秀な成績を修めたと認めた場合、学部長が推薦し教授会の意見を聴いて、学長は修業年限を3年に短縮し卒業を認めることができる。
- 4 第1項の規定により卒業の要件として修得すべき124単位のうち、第23条の2第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

(学位の授与)

第32条 本大学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

- 2 その他学位の授与については、学位規定に定める。

第9章 休学、退学、除籍、復学、再入学、転学部等

(休学)

第33条 病気その他やむを得ない理由により、長期にわたり修学できないときは、所定の休学願により学部長に願い出て休学することができる。

(休学命令)

第34条 病気その他修学することが適当でないと認められる者については、所属学部長は休学を命じることができる。

(休学期間)

第35条 休学の期間は、原則として当該期または当該年度の末までとする。ただし、学部長が特別の理由があると認めた者については、次条に定める制限の範囲内で、引き続き休学を許可することがある。

(休学期間の制限)

第36条 休学期間は、原則として連続2年(4学期)を超えることができない。

- 2 休学期間は、通算して4年(8学期)を超えることができない。
- 3 休学期間は、修業年限および在学年数に算入しない。

(退学)

第37条 病気その他やむを得ない理由により、退学しようとするときは、学長の許可を得なければならない。

(除籍)

第38条 つぎの各号のいずれかに該当する者は、学長が除籍する。

- イ 学費を所定の期日までに納入しない者
- ロ 休学者で在籍料を所定の期日までに納入しない者
- ハ 第15条の在学年数を超えた者
- ニ 休学期間満了になっても復学を願い出ない者
- ホ 他の大学、短期大学または高等専門学校に在籍していることが明らかになった者(第51条に定める特別履修生として入学を許可された者を除く)
- ヘ 死亡が確認された者

(復学)

第39条 休学者の復学については、復学規定に定める。

(再入学)

第40条 退学した者または除籍された者が再入学を願い出た場合は、学長は教授会の意見を聴いて、許可することがある。

2 その他再入学については、再入学規定に定める。

(転学部等)

第41条 転学部または転科を志願する者があるときは、志願先に欠員のある場合に限り、志願先の教授会の意見を聴いて、学長が許可することができる。

2 転学部または転科した者がすでに修得した単位の取扱いについては、学部長が別に定める。

3 その他転学部または転科については、転学部・転科規定に定める。

第10章 賞罰

(表彰)

第42条 学生として表彰に値する行為があった者には、学生委員会の議を経て学長が表彰することができる。

2 その他表彰については、学生表彰規定に定める。

(懲戒)

第43条 本大学の学則もしくは諸規定に違反し、または学生の本分に反する行為を行った者には、学生委員会の議を経て学長が懲戒する。

2 懲戒は、譴責、停学および放學とする。

3 放學は、つぎの各号のいずれかに該当する者に対して行う。

- イ 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
- ロ 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

4 その他懲戒については、学生懲戒規定に定める。

第11章 学費

(学費)

第44条 学費は、入学金、授業料および教育充実費とし、その額は、別表第2—1のとおり定める。

(学費の納入等)

第45条 学費は、所定の期日までに納入しなければならない。

- 2 学費の納入については、学費納入規定に定める。
- 3 既に納入された学費は、返戻しない。ただし、学費納入規定に定めのある場合は、この限りでない。

(休学中の学費)

第46条 休学中の学費は、休学を許可された期の翌期から免除する。ただし、別表第2—4に定める在籍料を納入しなければならない。

- 2 その他休学中の学費等の取扱いについては、学費納入規定に定める。

第12章 奨学制度

(奨学制度)

第47条 学業、人物ともに優秀で経済的理由などにより就学困難と認められた者に対し、奨学金を給付することがある。

- 2 その他奨学金については、学内奨学規定に定める。

第13章 教育職員免許状

(教育職員免許状)

第48条 教育職員免許状の取得を志望する者のために、教育職員免許法に基づき、教科及び教職に関する科目を置く。

- 2 本大学において、取得できる教育職員免許状の種類および免許教科は、別表第3のとおりとする。
- 3 前項の免許状を取得するための授業科目、単位の履修方法等については、履修規定による。

第14章 公開講座

(公開講座)

第49条 市民の教養を高め、地域社会の教育文化の向上に資するため、公開講座を設けることがある。

第15章 科目等履修生、特別履修生および研究生

(科目等履修生)

第50条 本大学において、特定の授業科目の履修を志願する者がいるときは、本大学の教育に支障のない場合に限り、科目等履修生として入学を許可することがある。

- 2 授業科目を履修し、試験に合格した者には、所定の単位を与える。
- 3 履修料は、別表第2—2のとおり定める。
- 4 その他科目等履修生については、科目等履修生規定に定める。

(特別履修生)

第51条 他の大学の学生で、本大学において授業科目を履修することを志願する者がいるときは、本大学の教育に支障のない場合に限り、当該大学(外国の大学を含む)との協議に基づき、特別履修生として入学を許可することがある。

- 2 履修料は、別表第2—2のとおり定める。
- 3 その他特別履修生については、特別履修生規定に定める。

(研究生)

第52条 本大学において、特定の専門事項について研究することを志願する者がいるときは、本大学の教育研究に支障のない場合に限り、学長は教授会の意見を聴いて、研究生として入学を許可することができる。

- 2 研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者またはこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

- 3 研究期間は、6カ月または1年とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。
- 4 研究料は、別表第2—3のとおり定める。
- 5 その他研究生については、研究生規定に定める。

第16章 外国人留学生および帰国学生

(外国人留学生)

第53条 外国の国籍を有する者で、原則として大学入学を目的として入国許可を受けて入国し、本大学に入学を志願する者があるときは、学長は特別に選考のうえ教授会の意見を聴いて、外国人留学生として入学を許可することができる。

- 2 その他外国人留学生の入学については、外国人留学生入学規定に定める。

(帰国学生)

第54条 帰国生徒で、本大学に入学を志願する者があるときは、学長は特別に選考のうえ教授会の意見を聴いて、帰国学生として入学を許可することができる。

- 2 その他帰国生徒の入学については、外国人留学生入学規定による。

第17章 付置研究所等

(付置研究所等)

第55条 本大学に図書館、情報センター、実験場、研究センターその他の附属施設を置く。これらに関する規定は、別にこれを定める。

第18章 その他

(施行細則)

第56条 本学則施行に必要な細則は、別に定める。

(学則の改廃)

第57条 本学則の改廃は、教授会および大学・大学院運営会議の意見を聴き、学長の承認を得て、理事会の議を経て理事長がこれを行う。

付 則

- 1 本学則は、昭和24年3月25日から施行する。

2

イ この改正学則は、2025年4月1日から施行する。

ロ 2024年度以前の情報科学部の入学者に開設する授業科目および卒業に必要な単位数ならびに教職課程については、なお従前の例による。

ハ 2023年度以前の工学部の入学者の修得すべき授業科目および卒業に必要な単位数ならびに教職課程については、学部長が別に定めるもののほか、なお従前の例による。

ニ 2019年度以前の入学者の学費については、なお従前の例による。

ホ 2023年度以前の知的財産学部知的財産学科の入学者の修得すべき授業科目および卒業に必要な単位数については、なお従前の例による。なお、知的財産学部長は、これらの者の修得すべき授業科目の実施について、必要な措置を講じることができる。

へ 2022年度以前のロボティクス&デザイン工学部の入学者の教職課程については、なお従前の例による。

ト 第3条の規定にかかわらず、工学部ロボット工学科は、2017年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学し

なくなるまでの間、存続するものとする。

チ 第3条の規定にかかわらず、工学部電子情報通信工学科、情報科学部コンピュータ科学科、情報科学部情報ネットワーク学科および情報科学部ネットワークデザイン学科は、2025年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

リ 情報システム学科および情報メディア学科の「特別講義a」および「特別講義b」は、2023年度以前の情報科学部の入学者にも適用する。

ヌ 第3条の規定にかかわらず、情報科学部ネットワークデザイン学科は、2025年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

別表第1 教育課程表

注1 単位数の前に●を付した授業科目は必修科目

2 単位数の前に■を付した授業科目は選択必修科目

3 教職課程においては、注1、2は、教育職員免許状の取得に必要な必修科目等を示す

I 工学部

1 キャリア形成の基礎

	授業科目	単位数
人文社会科学	世界と人間	2
	文章表現基礎	2
	哲学	2
	倫理学	2
	美術史	2
	文学	2
	日本語の歴史	2
	法学(日本国憲法)	2
	経済学	2
	歴史学	2
	心理学	2
	日本の伝統と文化	2
	国際関係論	2
	※日本の文化と社会 I	2
※日本の文化と社会 II	2	
外国語	ベーシック・イングリッシュa	1
	ベーシック・イングリッシュb	1
	オーラル・コミュニケーション I a	1
	オーラル・コミュニケーション I b	1
	オーラル・コミュニケーション II a	1
	オーラル・コミュニケーション II b	1
	工学コミュニケーション英語基礎a	1

	工学コミュニケーション英語基礎b	1
	キャリア・イングリッシュ I a	1
	キャリア・イングリッシュ I b	1
	キャリア・イングリッシュ II a	1
	キャリア・イングリッシュ II b	1
	英語プレゼンテーションa	1
	英語プレゼンテーションb	1
	中国語コミュニケーション	1
	中国語と現代中国事情	1
	海外語学研修	2
	※日本語 I	2
	※日本語 II	2
体育	健康体育 I	1
	健康体育 II	1
	生涯スポーツ I	1
	生涯スポーツ II	1

注) 授業科目名の前に※を付した科目は、外国人留学生を対象とする。

2 工学の基礎

イ 都市デザイン工学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学 I	2
	解析学 I 演習	1
	解析学 II	2
	解析学 II 演習	1
	解析学 III	2
	解析学 III 演習	1
	線形代数学 I	2
	線形代数学 II	2
	微分方程式 I	2
	微分方程式 II	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
	生物科学	2

情報数理	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
OITリソース	デザイン探求演習(PBL)	1
	宇宙・地球・生命—探究演習(PBL)	1
	工学倫理	2
	知的財産法概論	2
	淀川学	1

ロ 建築学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学 I	2
	解析学 I 演習	1
	解析学 II	2
	解析学 II 演習	1
	解析学 III	2
	解析学 III 演習	1
	線形代数学 I	2
	線形代数学 II	2
	微分方程式 I	2
	微分方程式 II	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
	生物科学	2
情報数理	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
OITリソース	デザイン探求演習(PBL)	1
	宇宙・地球・生命—探究演習(PBL)	1
	工学倫理	2
	知的財産法概論	2
	淀川学	1

ハ 機械工学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学 I	2
	解析学 I 演習	1
	解析学 II	2
	解析学 II 演習	1
	解析学 III	2
	解析学 III 演習	1
	線形代数学 I	2
	線形代数学 II	2
	微分方程式 I	2
	微分方程式 II	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
生物科学	2	
情報数理	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
OITリソース	開発プロセス基礎演習	1
	宇宙・地球・生命—探究演習(PBL)	1
	工学倫理	2
	知的財産法概論	2
	淀川学	1

ニ 電気電子システム工学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学 I	2
	解析学 I 演習	1
	解析学 II	2
	解析学 II 演習	1
	解析学 III	2
	解析学 III 演習	1
	線形代数学 I	2

	線形代数学Ⅱ	2
	微分方程式Ⅰ	2
	微分方程式Ⅱ	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
	生物科学	2
情報数理	基礎情報処理Ⅰ	1
	基礎情報処理Ⅱ	1
	確率と統計Ⅰ	2
	確率と統計Ⅱ	2
OITリソース	開発プロセス基礎演習	1
	宇宙・地球・生命—探究演習(PBL)	1
	工学倫理	2
	知的財産法概論	2
	淀川学	1

ホ 電子情報システム工学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学Ⅰ	2
	解析学Ⅰ演習	1
	解析学Ⅱ	2
	解析学Ⅱ演習	1
	解析学Ⅲ	2
	解析学Ⅲ演習	1
	線形代数学Ⅰ	2
	線形代数学Ⅱ	2
	微分方程式Ⅰ	2
	微分方程式Ⅱ	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2

	生物科学	2
情報数理	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
OITリソース	開発プロセス基礎演習	1
	宇宙・地球・生命—探究演習(PBL)	1
	工学倫理	2
	知的財産法概論	2
	淀川学	1

～ 応用化学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学 I	2
	解析学 I 演習	1
	解析学 II	2
	解析学 II 演習	1
	解析学 III	2
	解析学 III 演習	1
	線形代数学 I	2
	線形代数学 II	2
	微分方程式 I	2
	微分方程式 II	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
生物科学	2	
情報数理	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
OITリソース	サイエンス探求演習(PBL)	1
	宇宙・地球・生命—探究演習(PBL)	1
	工学倫理	2
	知的財産法概論	2
	淀川学	1

ト 環境工学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学 I	2
	解析学 I 演習	1
	解析学 II	2
	解析学 II 演習	1
	解析学 III	2
	解析学 III 演習	1
	線形代数学 I	2
	線形代数学 II	2
	微分方程式 I	2
	微分方程式 II	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
生物科学	2	
情報数理	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
OITリソース	サイエンス探求演習(PBL)	1
	宇宙・地球・生命—探究演習(PBL)	1
	工学倫理	2
	知的財産法概論	2
	淀川学	1

チ 生命工学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学 I	2
	解析学 I 演習	1
	解析学 II	2
	解析学 II 演習	1
	解析学 III	2
	解析学 III 演習	1

	線形代数学 I	2
	線形代数学 II	2
	微分方程式 I	2
	微分方程式 II	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
	生物科学	2
情報数理	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
OITリソース	サイエンス探求演習(PBL)	1
	宇宙・地球・生命—探究演習(PBL)	1
	工学倫理	2
	知的財産法概論	2
	淀川学	1

3 専門科目

イ 都市デザイン工学科

	授業科目	単位数
共通領域	都市デザイン工学入門	2
	都市デザイン工学演習 I	●2
	都市デザイン工学演習 II	●2
	プロジェクト演習	●1
	測量学	●2
	測量学実習	●2
	応用測量学	2
	応用測量学実習	2
	基礎製図	2
	CAD/CG演習	■1
	上下水道システム工学	2
	建設行政	2
	技術者論理	●2
	特別講義 I	2

	特別講義II	2
	建築・都市設計演習	2
	土木情報学	2
デザイン・計画領域	景観工学	●2
	景観工学演習	■1
	空間情報学	2
	空間デザイン学	2
	計画学a	●2
	計画学a演習	■1
	計画学b	2
	社会資本計画学	2
	交通計画学	2
	都市・地域計画	2
構造領域	構造力学a	●2
	構造力学a演習	■1
	構造力学b	●2
	構造力学b演習	■1
	構造力学c	2
	構造力学c演習	■1
	橋梁工学	2
複合構造・維持管理工学	2	
コンクリート・材料領域	建設材料学	●2
	鉄筋コンクリート工学	2
	鉄筋コンクリート工学演習	■1
	コンクリート構造学	2
	プレストレストコンクリート工学	2
	応用コンクリート工学	2
地盤領域	土質力学a	●2
	土質力学a演習	■1
	土質力学b	●2
	土質力学b演習	■1
	地盤防災工学	2
	地盤施工学	2
	土構造・道路工学	2
河川・海岸領域	水理学a	●2
	水理学a演習	■1
	水理学b	●2
	水理学b演習	■1
	河川工学	2
	水系保全学	2

	海岸工学	2
建築士関連科目	建築環境工学	2
	建築法規	2
	建築生産	2
	建築設備	2
	建築・都市設計製図Ⅰ	2
	建築・都市設計製図Ⅱ	2

注) 建築士関連科目の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まない。

[卒業に必要な単位数]

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位(英語6単位を含む)、体育2単位を含む〕・・・ 20単位

工学の基礎・・ 26単位

都市デザイン工学科の専門科目

 必修科目・・ 29単位

 選択科目(選択必修科目で6単位を含む)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41単位

その他(キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8単位

(合計) 124単位

ロ 建築学科

	授業科目	単位数
基幹	構造力学Ⅰ	●2
	構造力学Ⅱ	●2
	設計演習Ⅰ	●3
	設計演習Ⅱ	●3
	設計演習Ⅲ	●3
	建築演習Ⅰ	●2
	建築演習Ⅱ	●2
建築設計・計画	建築計画Ⅰ	■2
	建築計画Ⅱ	■2
	建築計画Ⅲ	■2
	建築計画Ⅳ	■1
	建築計画Ⅴ	■1
	地区設計論	■1
	地区計画論	■1
	都市計画論Ⅰ	1
	都市計画論Ⅱ	1
	ランドスケープデザイン	1
	建築史Ⅰ	■2

	建築史Ⅱ	■2
	建築史Ⅲ	■1
	建築史Ⅳ	■1
	意匠論	1
	建築法規A	■1
	建築法規B	■1
	CAD/CG演習Ⅰ	2
	CAD/CG演習ⅡA	1
	CAD/CG演習ⅡB	1
	CGプレゼンテーション演習Ⅰ	1
	CGプレゼンテーション演習Ⅱ	1
建築環境工学・設備	建築環境工学Ⅰ演習	■2
	建築環境工学Ⅱ演習	■2
	建築環境工学Ⅲ演習	■2
	建築設備Ⅰ	■2
	建築設備ⅡA	■1
	建築設備ⅡB	■1
構造力学・建築一般構造	構造力学Ⅲ	■2
	構造力学Ⅳ	■1
	構造力学アドバンスⅠ	1
	構造力学アドバンスⅡ	2
	建築振動論Ⅰ	1
	建築振動論Ⅱ	1
	鋼構造Ⅰ	■2
	鋼構造Ⅱ	■2
	鉄筋コンクリート構造Ⅰ	■2
	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	■1
	鉄筋コンクリート構造Ⅲ	■1
	建築基礎構造Ⅰ	■1
	建築基礎構造Ⅱ	■1
	構造計画Ⅰ	■1
	構造計画Ⅱ	1
建築材料・生産	建築材料Ⅰ	■2
	建築材料Ⅱ	■2
	建築施工	■2
	建築経済Ⅰ	■1
	建築経済Ⅱ	■1
共通	設計基礎演習Ⅰ	■2
	設計基礎演習Ⅱ	■2
	建築概論	2

	建築構法	■2
	木構造 I	■2
	木構造 II	■2
	絵画演習	2
	測量学 I ・同演習	1
	測量学 II ・同演習	1
	建築倫理	1
	建築学アドバンス I	1
	建築学アドバンス II	1
	特別講義	1

[卒業に必要な単位数]

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位(英語6単位を含む)、体育2単位を含む〕 20単位

工学の基礎 26単位

建築学科の専門科目

 必修科目 17単位

 選択科目 53単位

・共通分野で選択必修科目6単位以上を修得していること(ただし、設計基礎演習 I または設計基礎演習 II のいずれかを含む)

・「建築設計・計画分野」で選択必修科目13単位以上を修得していること

(ただし、建築法規Aまたは建築法規Bのいずれかを含む)

・「建築環境工学・設備分野」で選択必修科目6単位以上修得していること

(ただし、建築環境工学 I 演習、建築環境工学 II 演習、建築環境工学 III 演習から4単位および建築設備 I、建築設備 II A、建築設備 II Bから2単位を含む)

・「構造力学・建築一般構造分野」で選択必修科目9単位以上を修得していること

・「建築材料・生産分野」で選択必修科目4単位以上を修得していること

(ただし、建築材料 I または建築材料 II のいずれかを含み、かつ建築施工、建築経済 I、建築経済 II から2単位を含む)

・建築計画 IV、建築計画 V、建築史 III、建築史 IV、地区設計論、地区計画論、建築設備 II A、建築設備 II B、鉄筋コンクリート構造 II、鉄筋コンクリート構造 III、建築基礎構造 I、建築基礎構造 II、構造計画 I、建築経済 I、建築経済 II のうち9単位以上を修得すること

・別に定める建築士受験資格に係る指定科目から60単位以上を修得していること

その他(キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目) 8単位

(合計) 124単位

ハ 機械工学科

	授業科目	単位数
共通	機械基礎ゼミナール	1
	研究推進ゼミナール	1
	機械の数学	2
	研究推進概論	1
	国際設計工学実習	1
	機械工学入門a	2
	機械工学入門b	2
	機械工作実習a	●2
	機械工作実習b	●2
	機械工学実験a	●1
	機械工学実験b	●1
	機械のデータサイエンス演習 I	1
	機械のデータサイエンス演習 II	1
	計算力学	2
	実験計画法	2
	先端技術論	2
	航空・宇宙工学	2
	自動車工学	2
	機械のAI	2
	機械工学演習 I	1
	機械工学演習 II	1
	機械工学演習 III	1
	機械工学演習 IV	1
	開発プロセス発展演習	4
	工学コミュニケーション英語応用	2
	設計・製作系	製図学
CAD/CAM概論		2
設計製図 I		●1
設計製図 II		●1
設計演習a		2
設計演習b		2
3次元CAD演習		2
機械製作法 I		2
機械製作法 II		●2
機械設計法		●2
生産システム工学		2
機械材料		●2
材料力学・機械力学系	材料力学 I	●2

	材料力学II	●2
	材料力学III	2
	材料強度学	2
	機械力学	●2
	機械力学応用	2
	振動工学	2
熱・流体系	熱力学	●2
	熱工学	●2
	流れ学	●2
	流体力学	●2
	流体機械	2
	内燃機関	2
計測・制御系	計測と制御	●2
	システム制御	2
	基礎電気回路	2
	メカトロニクス	2
	ロボット工学	2

〔卒業に必要な単位数〕

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位(英語6単位を含む)、体育2単位を含む〕	20単位
工学の基礎	26単位
機械工学科の専門科目	
必修科目	30単位
選択科目	40単位
その他(キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目)	8単位
(合計)	124単位

その他の要件

◇発展コース

- ・工学倫理、開発プロセス基礎演習、実験計画法、開発プロセス発展演習、工学コミュニケーション英語応用を修得していること
- ・工学の基礎9単位以上(解析学IIまたは解析学IIIから2単位、解析学II演習または解析学III演習から1単位、線形代数学Iまたは線形代数学IIから2単位、基礎情報処理I 1単位、基礎情報処理II 1単位および物理学実験2単位を含む)を修得していること

◇実践コース

- 開発プロセス基礎演習、機械工学演習I、機械工学演習II、機械工学演習III、機械工学演習IV、3次元CAD演習を修得していること
- また、設計演習a、設計演習bのいずれかを修得していること

ニ 電気電子システム工学科

授業科目		単位数
電気電子基礎	電気電子システム総論	■2
	電磁気学Ⅰ	●2
	電磁気学Ⅱ	●2
	電磁気学Ⅲ	■2
	電磁界理論	2
	電気数学	■2
	基礎電気計測	■2
	計算機プログラミング	■2
	技術者倫理	2
	先端研究概論	2
	工学研究基礎	2
実験・演習・設計	電気電子システム実験a	●3
	電気電子システム実験b	●3
	電気電子システム実験c	●3
	電機設計/CAD製図	2
電気電子回路	電気回路Ⅰ	●2
	電気回路Ⅱ	●2
	電気回路Ⅲ	■2
	電気回路Ⅳ	■2
	電子回路工学Ⅰ	■2
	電子回路工学Ⅱ	■2
	アナログ電子回路	2
	デジタル電子回路	■2
材料・物性・デバイス	電気電子材料	■2
	電子デバイス工学	2
	電子物性論	■2
	LSI工学	2
	センサ工学	2
	プラズマエレクトロニクス	2
	オプトエレクトロニクス	2
エネルギー・電気機器	電力システムⅠ	■2
	電力システムⅡ	2
	エネルギー変換工学	2
	高電圧・パルスパワー工学	2
	電気法規および施設管理	2
	電機システムⅠ	■2
	電機システムⅡ	2

	パワーエレクトロニクス	2
	電気応用	2
システム科学・通信	情報通信工学	2
	ネットワーク工学	2
	アンテナ・伝送工学	2
	電波・通信法規	2
	システム工学	■2
	計算機ハードウェア	2
	計算機ソフトウェア	2
	制御工学I	■2
	制御工学II	2
	ロボット工学	2

[卒業に必要な単位数]

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位(英語6単位を含む)、体育2単位を含む〕 20単位

工学の基礎 26単位

電気電子システム工学科の専門科目

必修科目 17単位

選択科目(選択必修科目で20単位を含む) 53単位

その他(キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目) 8単位

(合計) 124単位

ホ 電子情報システム工学科

授業科目		単位数
基幹科目	電子情報システム基礎演習	●1
	電子情報システム実験 I	●2
	電子情報システム実験 II	●2
	電子情報システム実験 III	●2
	エレクトロニクスプラクティス	●2
	電気回路 I	●2
	電気回路 II	●2
	電気磁気学 I	2
	電気磁気学 II	2
	基礎電子回路 I	2
	基礎電子回路 II	2
	コンピュータ基礎	2
	コンピュータアーキテクチャ	2
	情報通信システム基礎	2

	電気回路Ⅰ演習	1
	電気回路Ⅱ演習	1
	電気磁気学演習	1
	プログラミング・同演習	3
技術人材育成・資格関連科目	情報社会と倫理	2
	情報と職業	2
	電波・通信法規	2
エレクトロニクス系科目	電気計測	2
	電気磁気学Ⅲ	2
	レーザー工学	2
	光エレクトロニクス	2
	電気回路Ⅲ	2
	アナログ電子回路	2
	デジタル電子回路	2
	電子回路設計	2
	固体エレクトロニクス	2
	半導体デバイス基礎	2
	半導体デバイス工学	2
	センサー工学	2
システム系科目	データ解析	2
	システム工学	2
	AI・機械学習	2
	デジタル信号処理	2
	制御工学	2
情報通信系科目	コンピュータシステム	2
	メディア情報開発	2
	信号とシステム	2
	通信方式Ⅰ	2
	通信方式Ⅱ	2
	ネットワーク工学	2
	ワイヤレス通信工学	2
	情報理論	2
	アルゴリズムとデータ構造	2

〔卒業に必要な単位数〕

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位(英語6単位を含む)、体育2単位を含む〕・・・ 20単位

工学の基礎・・ 26単位

電子情報システム工学科の専門科目

必修科目・・ 13単位

選択科目(必修科目を除く基幹科目から12単位以上を修得していること)・・・・・・・・・・・・・・ 57単位

その他(キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目) 8単位

(合計) 124単位

～ 応用化学科

	授業科目	単位数
基幹科目	応用化学実験基礎	●2
	応用化学実験A	●2
	応用化学実験B	●2
	応用化学実験C	●2
	基礎化学演習a	●1
	基礎化学演習b	●1
	基礎化学演習c	●1
	応用化学演習a	●1
	応用化学演習b	●1
	応用化学演習c	●1
	化学概論a	●2
	化学概論b	●2
	無機化学 I	●2
	無機化学 II	●2
	物理化学 I	●2
	物理化学 II	●2
	有機化学 I	●2
	有機化学 II	●2
有機化学 III	●2	
総合化学系科目	応用化学実験D	●2
	先端科学探究	1
	先端シミュレーション科学	1
	化学工学 I	2
	化学工学 II	2
	化学英語	2
	応用化学探求	2
	情報化学	2
	量子化学	2
	分子分光学	2
	電気化学	2
	危険物取扱法	2
	化学安全衛生管理	1

	国際研究セミナー	2
	国際インターンシップ	2
創成材料化学系科目	有機化学Ⅳ	2
	有機立体化学	2
	反応有機化学	2
	有機合成化学	2
	無機合成化学	2
	物性化学	2
	錯体・有機金属	2
	基礎高分子科学	2
	高分子化学	2
	高分子物性	2
	固体化学	2
環境生命化学系科目	分析化学Ⅰ	2
	分析化学Ⅱ	2
	分子構造解析Ⅰ	2
	分子構造解析Ⅱ	2
	環境化学	2
	環境計測	2
	資源化学	2
	有機工業化学	2
	生活化学	2
	生命有機化学	2

〔卒業に必要な単位数〕

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位(英語6単位を含む)、体育2単位を含む) 20単位

工学の基礎 26単位

応用化学科の専門科目

必修科目 34単位

選択科目 36単位

その他(キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目) 8単位

(合計) 124単位

ト 環境工学科

授業科目		単位数
基幹科目	環境工学入門	2
	環境量論基礎	●2
	環境量論演習	1

	環境統計解析	2
	環境工学演習a	●2
	環境工学演習b	●2
	環境工学演習c	●2
	実践環境工学	2
	研究基礎演習	1
	特別講義 I	2
	特別講義 II	2
	環境工学研究ゼミナール I	2
	環境工学研究ゼミナール II	2
資源・エネルギー分野	エネルギー基礎 I	■2
	エネルギー基礎 II	2
	エネルギー物質科学	2
	移動現象論	2
	資源循環工学	2
	エネルギー変換工学	2
	空気調和制御・演習	3
	環境熱化学	2
都市代謝分野	反応工学 I	■2
	反応工学 II	2
	上下水システム I	2
	上下水システム II	2
	水質変換工学	2
	バイオマス利活用技術	2
	公衆衛生リスク通論	2
自然共生分野	環境化学 I	■2
	環境化学 II	2
	森林生態学	2
	環境分析	2
	大気環境学	2
	環境バイオテクノロジー	2
	水環境学	3
	自然生態系修復	2
	土壌環境学	2
技術一般分野	CAD製図・演習	3
	電気設備工学	2
	環境計画	2
	環境土木通論 I	2
	環境土木通論 II	2
	数値解析・演習	3

	環境倫理	2
	環境施設設計	2

〔卒業に必要な単位数〕

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位(英語6単位を含む)、体育2単位を含む〕	20単位
工学の基礎	26単位
環境工学科の専門科目	
必修科目	8単位
選択科目(選択必修科目で4単位を含む)	62単位
その他(キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目)	8単位
(合計)	124単位

チ 生命工学科

	授業科目	単位数
基幹科目	生物実験	●2
	化学実験	●2
	医工学実験	●2
	生命工学PBL I	●2
	生命工学PBL II	●2
	生命工学ゼミナール	●2
	生命工学研究ゼミナール I	●2
	生命工学研究ゼミナール II	●2
	キャリアデベロップメント	●2
	工学英語	●2
	生命数学演習	●1
	生命物理演習	●1
	人体生理学 I	■2
	人体生理学 II	■2
	生化学 I	■2
	生化学 II	■2
	電気工学基礎	■2
	微生物学	■2
	無機化学	■2
	有機化学 I	■2
	有機化学 II	■2
	生命工学概論 I	2
	生命工学概論 II	2
	先進研究ゼミナール I	2

	先進研究ゼミナールII	2
	遺伝子工学	2
	公衆衛生学	2
	食品衛生学	2
	食品化学工学	2
	食品加工学	2
	先端技術論	2
	バイオエレクトロニクス	2
	バイオメカニクス	2
	分析化学	2
医工学系	高分子工学	2
	人工臓器	2
	生体システム工学	2
	生体物性工学	2
	生命計測工学	2
	バイオマテリアル	2
	生物化学工学	2
生命科学系	医薬概論	2
	免疫学	2
	機能性食品学	2
	細胞・組織工学	2
	生物情報工学	2
	生物物理学	2
	タンパク質工学	2

〔卒業に必要な単位数〕

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位(英語6単位を含む)、体育2単位を含む〕・・・・・・ 20単位

工学の基礎・・ 26単位

・解析学I、解析学I演習、解析学II、解析学II演習、解析学III、解析学III演習、線形代数学I、線形代数学II、微分方程式I、微分方程式II、確率と統計I、確率と統計IIから2単位以上修得していること

・物理学a、物理学b、物理学c、物理学d、物理学実験から2単位以上修得していること

・基礎情報処理I、基礎情報処理IIから1単位以上修得していること

・工学倫理およびキャリアデザインを修得していること

生命工学科の専門科目

必修科目・・ 22単位

選択科目(選択必修科目で14単位を含む)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48単位

その他(キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目)・・ 8単位

(合計) 124単位

4 数理科学と教育

イ 都市デザイン工学科

		授業科目	単位数
数理科学と教育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道德教育	2
	数学教育	現代代数学	4
		数学特論	4
		現代幾何学	4
		現代解析学	4

注) 数学教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まない。

ロ 建築学科

		授業科目	単位数
数理科学と教育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2

		道徳教育	2
	数学教育	現代代数学	4
		数学特論	4
		現代幾何学	4
		現代解析学	4

注) 数学教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含めない。

ハ 機械工学科

		授業科目	単位数
数理科学と教育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道徳教育	2
	数学教育	現代代数学	4
		数学特論	4
		現代幾何学	4
		現代解析学	4

注) 数学教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含めない。

ニ 電気電子システム工学科

		授業科目	単位数
数理科学と教育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2

	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道徳教育	2
	数学教育	現代代数学	4
		数学特論	4
		現代幾何学	4
		現代解析学	4

注) 数学教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まない。

ホ 電子情報システム工学科

		授業科目	単位数
数理科学と教育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道徳教育	2
	数学教育	現代代数学	4
		数学特論	4
現代幾何学		4	
現代解析学		4	

注) 数学教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まない。

へ 応用化学科

		授業科目	単位数
数理科学と教育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2

		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道德教育	2
	理科教育	教職物理学	4
		地学Ⅰ	2
		地学Ⅱ	2
		地学実験	2
		生物学Ⅰ	2
		生物学Ⅱ	2
		生物学実験	2

注) 理科教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まない。

ト 環境工学科

		授業科目	単位数
数理科学と教育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道德教育	2
	理科教育	教職物理学	4
		化学実験	2
		地学Ⅰ	2

		地学Ⅱ	2
		地学実験	2
		生物学Ⅰ	2
		生物学Ⅱ	2
		生物学実験	2

注) 理科教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含めない。

チ 生命工学科

		授業科目	単位数
数理科学と教育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道徳教育	2
	理科教育	教職物理学	4
		地学Ⅰ	2
		地学Ⅱ	2
		地学実験	2
		生物学Ⅰ	2
		生物学Ⅱ	2

注) 理科教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含めない。

5 その他連携科目

		授業科目	単位数
その他連携科目		キャリアデザイン	1
		キャリア形成支援	1
		インターンシップ	2
		グローバルテクノロジー論a	1
		グローバルテクノロジー論b	1
		OIT概論	1

II ロボティクス&デザイン工学部

1 共通教養科目(全学科共通)

区分		授業科目	単位数
共通教養科目	人文社会科学	文章表現基礎 I	2
		文章表現基礎 IIa	1
		文章表現基礎 IIb	1
		哲学	1
		倫理学	1
		美術史	1
		日本語の歴史	1
		憲法a	1
		憲法b	1
		経済学	1
		歴史学	1
		心理学	1
		※日本の文化と社会	1
		人文社会特殊講義	2
	体育	健康体育 I	1
		健康体育 II	1
	外国語	プラクティカル・イングリッシュa	1
		プラクティカル・イングリッシュb	1
		アカデミック・イングリッシュa	1
		アカデミック・イングリッシュb	1
		オーラル・イングリッシュa	1
		オーラル・イングリッシュb	1
		ベーシック・プレゼンテーション	1
		ビジネス・イングリッシュa	1
		ビジネス・イングリッシュb	1
		アカデミック・プレゼンテーション	1
		プロフェッショナル・イングリッシュ	1
		海外語学研修	2
		※日本語 I	2
		※日本語 II	2
		キャリア形成	キャリアデザイン
	インターンシップ		2

注) 授業科目名の前に※を付した科目は、外国人留学生を対象とする。

2 工学関連科目(全学科共通)

区分		授業科目	単位数
工学関連科目	数理科目	解析学Ⅰ	2
		解析学Ⅱ	2
		解析学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅰ	2
		線形代数学Ⅱ	2
		確率・統計学	2
		応用解析学Ⅰ	2
		応用解析学Ⅱ	2
		物理学Ⅰ	2
		物理学Ⅱ	2
		物理学実験	2
		地球科学	2
		生物科学	2
		工学マネジメント科目	工学倫理
	知的財産法概論		2
	生産マネジメント		2

3 その他連携科目(全学科共通)

区分	授業科目	単位数
その他連携科目	グローバルテクノロジー論a	1
	グローバルテクノロジー論b	1
	OIT概論	1

4 専門横断科目

イ ロボット工学科

区分	授業科目	単位数	
専門横断科目	デザイン思考関連科目	デザイン思考概論	2
		造形演習	2
		ロボティクス&デザイン工学演習	●2
		ロボティクス&デザイン工学実践演習(国際PBL)	1
	計算機技術演習科目	基礎情報処理	1
		プログラミング演習Ⅰ	●1
		プログラミング演習Ⅱ	1
		プログラミング演習Ⅲ	1
		プログラミング演習Ⅳ	1
		プログラミング実践演習	●1

ロ システムデザイン工学科

区分		授業科目	単位数
専門横断科目	デザイン思考関連科目	デザイン思考概論	2
		造形演習	2
		ロボティクス&デザイン工学演習	●2
		ロボティクス&デザイン工学実践演習(国際PBL)	1
	計算機技術演習科目	基礎情報処理	1
		プログラミング演習 I	●1
		プログラミング演習 II	●1
		プログラミング演習 III	1
		プログラミング演習 IV	1
		プログラミング実践演習	●1

ハ 空間デザイン学科

区分		授業科目	単位数
専門横断科目	デザイン思考関連科目	デザイン思考概論	2
		造形演習	2
		ロボティクス&デザイン工学演習	●2
		ロボティクス&デザイン工学実践演習(国際PBL)	1
	計算機技術演習科目	基礎情報処理	1
		プログラミング演習 I	●1
		プログラミング演習 II	1
		プログラミング演習 III	1
		プログラミング演習 IV	1
		プログラミング実践演習	●1

5 専門科目

イ ロボット工学科

区分		授業科目	単位数
専門科目	機械系科目	機械材料	2
		材料力学 I a	●1
		材料力学 I b	1
		設計製図	2
		材料力学 II	2
		機械力学 I	●2
		機械力学 II	2
		熱流体力学	2
	電気電子系科目	電気回路 I	●2
		電気回路 II	2
		アナログ電子回路	2

		デジタル電子回路	2
		電磁気学	2
		アクチュエータ工学	2
	計測制御系科目	計測工学	2
		制御工学 I	●2
		制御工学 II	2
		信号処理	2
		画像処理	2
	情報系科目	アルゴリズムとデータ構造	2
		計算機アーキテクチャ	2
		統計解析	2
		数値計算法	2
	ロボット系科目	ラピッドプロトタイピング	2
		ロボット機構学	●2
		先端ロボット技術概論	1
		メカトロニクス	2
		ロボットシステム設計論A	2
		ロボットシステム設計論B	2
		機械学習	2
		知能ロボット	2
		ヒューマンロボットインタラクション	2
		バイオメカニクス	2
	実験実習系科目	基礎ロボット工学演習	1
		機械工作実習	2
		ロボット工学実験 I	●2
		ロボット工学実験 II	●2
		機械CAD演習	1
		電気CAD演習	1
		ロボットシステム創造演習	●2
		ロボット工学ゼミナール	●1

[卒業に必要な単位数]

共通教養科目〔外国語8単位含む〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20単位

工学関連科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17単位

専門横断科目および専門科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77単位

 必修科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20単位

 選択科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57単位

その他(共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、所属学科の専門横断科目および専門科目、他学科の専門科目および他学部の科目)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10単位

(合計) 124単位

ロ システムデザイン工学科

区分	授業科目	単位数	
専門科目	機電系科目	計測工学	2
		材料力学 I a	1
		材料力学 I b	1
		センサ工学	2
		電気回路 I	●2
		電気回路 II	2
		電磁気学	2
		熱流体力学	2
		デジタル電子回路	●2
		機械力学	2
		アナログ電子回路	2
		システム系科目	情報理論
	離散数学		●2
	AI・XR応用		2
	制御工学 I		●2
	制御工学 II		2
	現代制御		2
	信号処理		2
	統計解析		2
	画像処理		2
	数値計算法		2
	システム工学		2
	ヒューマンインタラクション		2
	バイオメカニクス		2
	実験・演習科目	システムデザイン工学実験 I	●2
		システムデザイン工学実験 II	●2
		機械・電気CAD演習	1
		基礎ゼミナール	1
		ものづくりデザイン演習	2
		デザイン演習	1
		システムデザイン実践演習	●2
		システムデザイン工学ゼミナール	●1
		webシステム開発	1
IoTものづくり系科目		データ構造とアルゴリズム	●2
	オブジェクト指向プログラミング	2	
	モデルベースシステム設計	2	
	知能機械システム	2	

	人工知能概論	2
	クラウドコンピューティング	2
	音声工学	2
	現代デザイン論	2
	デザイン工学概論	2
	ユーザ工学	2

〔卒業に必要な単位数〕

共通教養科目〔外国語8単位含む〕	20単位
工学関連科目	17単位
専門横断科目および専門科目	77単位
必修科目	22単位
選択科目	55単位
その他(共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、所属学科の専門横断科目および専門科目、他学科の専門科目および他学部の科目)	10単位
(合計)	124単位

ハ 空間デザイン学科

区分		授業科目	単位数
専門科目	デザイン共通科目	設計製図演習	●3
		CG基礎演習	2
		CAD演習 I	2
		CAD演習 II	2
		色彩計画	2
		インテリアデザイン計画	2
		知の技法	2
		造形力学 I	2
		造形力学 II	2
		構造デザイン	2
		構造材料・構造実験	2
		デザイン論 I	●2
		デザイン論 II	●2
		デザイン論 III	●2
		空間形態論	2
		生活空間デザイン	2
		インテリアデザイン史	2
		商空間デザイン	2
		ものづくりデザイン演習	2

	人間工学	2
	文化テクノロジー論	2
	基礎ゼミナール	1
	デザイン工学ゼミナール	●1
空間デザイン系科目	空間デザイン基礎演習	■2
	空間デザイン演習 I	■2
	空間デザイン演習 II	■2
	空間デザイン演習 III	■2
	空間デザイン演習 IV	■2
	建築計画 I	2
	建築計画 II	2
	建築設計方法論	2
	都市環境デザイン	2
	日本建築史	2
	西洋建築史	2
	近代建築史	2
	建築構法	2
	建築構造学	2
	建築環境工学 I	2
	建築環境工学 II	2
	建築法規	2
	建築施工	2
	建築材料	2
	建築設備	2
プロダクトデザイン系科目	プロダクトデザイン基礎演習	■2
	プロダクトデザイン演習 I	■2
	プロダクトデザイン演習 II	■2
	プロダクトデザイン演習 III	■2
	プロダクトデザイン演習 IV	■2
	プロダクト材料工学	2
	コミュニケーションデザイン論	2
	コンテンツ応用論	2
	情報デザイン論	2
	デザインマネジメント	2
	ラピッドプロトタイピング	2
	デザイン史	2

共通教養科目〔外国語8単位含む〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20単位

工学関連科目・・ 17単位

専門横断科目および専門科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77単位

必修科目	14単位
選択必修科目	10単位
選択科目	63単位

その他(共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、所属学科の専門横断科目および専門科目、他学科の専門科目および他学部の科目) 10単位

(合計) 124単位

III 情報科学部

1 共通科目(各学科共通)

区分	授業科目	単位数		
総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎	2	
		社会学基礎	2	
		情報社会論	2	
		倫理学基礎	2	
		応用倫理学	2	
		日本の歴史	2	
		人類の歴史	2	
		文学基礎	2	
		観る文学	2	
		言語学基礎	2	
		日本国憲法	2	
		法学基礎	2	
		情報法学	2	
		経済学基礎	2	
		現代経済論	2	
		心理学基礎	2	
		人間発達と人権	2	
	外国語		英語表現(basic1)a	1
			英語表現(basic1)b	1
			英語の語法	2
		口語英語 I a	1	
		口語英語 I b	1	
		英語による情報技術 II	2	
		英語表現(basic2)a	1	
		英語表現(basic2)b	1	
		口語英語 II a	1	
		口語英語 II b	1	
		英語による情報技術 I a	1	

		英語による情報技術 I b	1
		英語演習	1
		海外語学研修	2
		※日本語 I	2
		※日本語 II	2
	健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a	1
		基礎スポーツ科学b	1
		健康科学	2
スポーツ科学実習		1	
総合理学系	科学技術史	科学史	2
	物理	物理学基礎	2
		物理現象の数理	2
		力学	2
		電磁気学	2
		現代物理学入門	2
	化学	化学基礎	2
		環境情報科学	2
	地学	地球科学基礎	2
		地球環境	2
	生物	生命科学基礎	2
		情報生命科学	2
	総合	視る自然科学	2

注) 授業科目名の前に※を付した科目は、外国人留学生を対象とする。

2 キャリア科目(各学科共通)

区分	授業科目	単位数
キャリア科目	基礎ゼミナール	1
	キャリアステップ	1
	キャリアデザイン I	1
	キャリアデザイン II	1
	グローバルテクノロジー論	1
	OIT概論	1

3 専門科目

イ データサイエンス学科

区分	授業科目	単位数
数理科学	線形数学 I	●2
	線形数学 II	2
	微積分学 I	●2
	微積分学 II	2

	情報数学	2
	微分方程式	2
	グラフ理論	2
	数理計画法	2
	確率・統計	●2
専門基礎	コンピュータ入門	●2
	情報通信ネットワーク	2
	プログラミング基礎	●2
	テクニカルライティング	●2
	情報処理基礎	2
	コンピュータリテラシー	●2
	データサイエンス入門	●2
	データ構造とアルゴリズム	■2
	実験計画法	2
	統計解析	●2
	多変量解析	2
	IoT概論	■2
	教育心理	2
基幹科目	データベースシステム	■2
	オペレーションズ・リサーチ	2
	情報技術者論	●2
	情報ゼミナール	●2
	システム工学	2
	情報セキュリティの基礎	2
	経営システム論 I	●2
	データマイニング	■2
	テキストマイニング	1
	ビジュアルプログラミング論	2
	ソフトウェア工学	■2
	人工知能	2
	パターン認識	2
	機械学習	●2
	発想法と問題解決	1
応用科目	モデリングとシミュレーション	2
	経営システム論 II	2
	情報科学実践演習(国際PBL)	1
	マーケティング論	■2
	数理ファイナンス	■2
	ロジスティクス	2
	企業会計論	2

	教育工学	■2
	教育技法	2
	情報科教育法	2
	工業経営論	■2
	投資意思決定論	2
	経営戦略論	2
演習科目	C演習 I	●3
	C演習 II	■3
	Java演習	■3
	データサイエンス実践演習 I	●2
	データサイエンス実践演習 II	●2
	データサイエンス実践演習 III	■2
	価値創造演習	■2

[卒業に必要な単位数]

共通科目(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位を含む) 36単位

キャリア科目 2単位

データサイエンス学科の専門科目

必修科目 33単位

選択科目 53(数理科学4単位以上、選択必修科目12単位含む)単位

(合計) 124単位

ロ 実世界情報学科

区分	授業科目	単位数
数理科学	線形数学 I	■2
	線形数学 II	2
	微積分学 I	■2
	微積分学 II	2
	情報数学	■2
	微分方程式	2
	グラフ理論	■2
	数理計画法	2
	確率・統計	■2
専門基礎	コンピュータ入門	●2
	実世界情報入門	●2
	U n i x 入門	1
	シェルスクリプト入門	1
	コンピュータリテラシー	2
	デジタル回路 I	■1

	デジタル回路II	■1
	IoT概論	●2
	テクニカルライティング	●2
	データ構造とアルゴリズム	■2
	情報通信ネットワーク	●2
	人工知能	■2
	情報処理基礎	2
	オペレーティングシステム	●2
	ソフトウェア工学I	■2
	画像情報処理	2
	情報セキュリティの基礎	■2
基幹科目	ロボティクス	■2
	実世界計測	2
	IoTデータベース	2
	Webプログラミング	2
	コンピュータビジョン	2
	IoTサーバ構築	2
	IoT通信	■2
	情報技術者論	●2
	情報ゼミナール	●2
応用科目	ものづくり実習	1
	システムプログラム	2
	ソフトウェア工学II	2
	ヒューマンインタフェース	2
	ロボット対話システム	2
	メディア通信概論	2
	情報科学実践演習(国際PBL)	1
	情報科学実践演習(国内PBL)a	1
	情報科学実践演習(国内PBL)b	1
演習科目	C演習 I	●3
	C演習 II	■3
	Java演習	■3
	ソフトウェア工学演習	2
	実世界情報基礎演習	●2
	実世界情報専門演習	●2
	実世界情報応用演習	2

[卒業に必要な単位数]

共通科目(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系12単位以上を含む)

(人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36単位

キャリア科目・・ 2単位

実世界情報学科の専門科目

必修科目・・ 23単位

選択科目(選択必修科目は12単位を含む)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63単位

(合計) 124単位

ハ 情報知能学科

区分	授業科目	単位数
数理科学	線形数学 I	■2
	線形数学 II	2
	微積分学 I	■2
	微積分学 II	2
	情報数学	■2
	周波数解析	2
	微分方程式	2
	グラフ理論	■2
	確率・統計	■2
専門基礎	コンピュータ入門	●2
	情報通信ネットワーク	■2
	プログラミング基礎	2
	人工知能概論	2
	テクニカルライティング	●2
	デジタル回路	●2
	情報処理基礎	2
	プログラミング入門	2
	データ構造とアルゴリズム I	■2
	アセンブリ言語	●2
	ソフトウェア工学 I	■2
	組み込みシステム基礎	●2
	コンピュータリテラシー	2
基幹科目	オートマトンと形式言語	■2
	計算機アーキテクチャ	●2
	コンピュータ設計	■2
	データ構造とアルゴリズム II	2
	システムプログラム	2
	オペレーティングシステム	●2
	プログラミング言語論	■2
	データベースシステム	■2
	ソフトウェア工学 II	■2

	Unixプログラミング	2
	情報技術者論	●2
	情報ゼミナール	●2
	インターフェース・センサ回路	2
	情報セキュリティの基礎	■2
	知能情報処理	2
	機械学習	2
応用科目	知能システム I	●2
	画像処理	2
	信号処理	2
	コンピュータグラフィックス基礎	2
	知能情報処理	2
	知能システム II	2
	情報科学実践演習(国際PBL)	1
	情報科学実践演習(国内PBL)a	1
	情報科学実践演習(国内PBL)b	1
演習科目	C演習 I	●3
	C演習 II	■3
	Java演習	■3
	ソフトウェア工学演習	■2
	知能情報科学演習 I	●2
	知能情報科学演習 II	●2
	知能情報科学演習 III	●2
	機械学習演習	●2

〔卒業に必要な単位数〕

共通科目(人文社会科学(コンピュータ・サイエンスコースは選択必修科目8単位を含む)12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系(コンピュータ・サイエンスコースは選択必修科目6単位を含む)12単位以上を含む)

(人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要)・・・・・・・・・・・・・・・・ 36単位

キャリア科目・・ 2単位

情報知能学科の専門科目

必修科目・・ 27単位

選択科目(選択必修科目で総合コースは12単位、コンピュータ・サイエンスコースは39単位を

含む)・・ 59単位

(合計) 124単位

ニ 情報システム学科

区分	授業科目	単位数
数理科学	線形数学 I	■2
	線形数学 II	2
	微積分学 I	■2
	微積分学 II	2
	情報数学	■2
	周波数解析	2
	微分方程式	2
	グラフ理論	■2
	数理計画法	2
	確率・統計	■2
専門基礎	コンピュータ入門	●2
	情報通信ネットワーク	2
	プログラミング基礎	2
	オートマトンと形式言語	■2
	テクニカルライティング	●2
	デジタル回路	2
	情報処理基礎	2
	計算機アーキテクチャ	●2
	データ構造とアルゴリズム	■2
	システムプログラム	2
	オペレーティングシステム	●2
	アセンブリ言語	2
	コンピュータリテラシー	2
Unixシステム入門	2	
基幹科目	プログラミング言語論	■2
	データベースシステム	●2
	ソフトウェア工学 I	●2
	ソフトウェア工学 II	■2
	ヒューマンインタフェース	2
	ネットワーク設計	■2
	オペレーションズ・リサーチ	2
	情報技術者論	●2
	情報システムの計画策定	■2
	情報ゼミナール	●2
	システム工学	■2
	情報セキュリティの基礎	■2
応用科目	情報検索	2
	人工知能	2

	コンピュータグラフィックス基礎	2
	高信頼システム	2
	モデリングとシミュレーション	2
	情報セキュリティの応用	2
	Webサービス論	2
	情報科学実践演習(国際PBL)	1
	情報科学実践演習(国内PBL)a	1
	情報科学実践演習(国内PBL)b	1
	特別講義a	1
	特別講義b	1
演習科目	C演習 I	●3
	C演習 II	■3
	Java演習	■3
	ソフトウェア工学演習	■2
	情報システム基礎演習	●2
	情報システム専門演習	●2
	情報システム応用演習	■2

〔卒業に必要な単位数〕

共通科目(人文社会科学(コンピュータ・サイエンスコースは選択必修科目8単位を含む)12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系(コンピュータ・サイエンスコースは選択必修科目6単位を含む)12単位以上を含む)

(人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要)・・・・・・・・・・・・・・・・ 36単位

キャリア科目・・ 2単位

情報システム学科の専門科目

必修科目・・ 23単位

選択科目(選択必修科目で総合コースは12単位、コンピュータ・サイエンスコースは39単位を含む)・・・・・・・・・・・・・・・・ 63単位

(合計) 124単位

ホ 情報メディア学科

区分	授業科目	単位数
数理科学	線形数学 I	■2
	線形数学 II	2
	微積分学 I	■2
	微積分学 II	2
	情報数学	■2
	周波数解析	2

	微分方程式	2
	グラフ理論	■2
	確率・統計	■2
専門基礎	コンピュータ入門	●2
	情報通信ネットワーク	■2
	オートマトンと形式言語	■2
	テクニカルライティング	●2
	デジタル回路	2
	情報処理基礎	2
	プログラミング入門	2
	計算機アーキテクチャ	●2
	情報セキュリティの基礎	■2
	データ構造とアルゴリズム	■2
	オペレーティングシステム	●2
	プログラミング言語論	■2
	アセンブリ言語	2
	データベースシステム	■2
	ソフトウェア工学I	■2
	ソフトウェア工学II	■2
	コンピュータリテラシー	2
基幹科目	メディアデータ論	2
	コンピュータグラフィックス基礎	■2
	人間情報学	2
	ヒューマンインタフェース	2
	画像情報処理	■2
	音響処理	■2
	感性情報処理	2
	色彩学	2
	情報システムと心理学	2
	映像情報技術	2
	情報技術者論	●2
	情報ゼミナール	●2
応用科目	コンピュータグラフィックス応用	2
	コンピュータビジョン	2
	音声情報処理	2
	感覚知覚心理学	2
	Webデザイン	2
	ユーザ調査法	2
	知能メディア処理→新設	2
	情報科学実践演習(国際PBL)	1

	情報科学実践演習(国内PBL)a	1
	情報科学実践演習(国内PBL)b	1
	特別講義a	1
	特別講義b	1
演習科目	アニメーション演習	1
	情報メディア入門	●1
	C演習 I	●3
	C演習 II	■3
	オブジェクトプログラミング演習	■3
	ソフトウェア工学演習	■2
	情報メディア演習 I	●2
	情報メディア演習 II	●2
	情報メディア演習 III	●2

[卒業に必要な単位数]

共通科目(人文社会科学(コンピュータ・サイエンスコースは選択必修科目8単位を含む)12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系(コンピュータ・サイエンスコースは選択必修科目6単位を含む)12単位以上を含む)

(人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要)・・・・・・・・・・・・・・・・ 36単位

キャリア科目・・ 2単位

情報メディア学科の専門科目

必修科目・・ 22単位

選択科目(選択必修科目で総合コースは12単位、コンピュータ・サイエンスコースは41単位を含む)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64単位

(合計) 124単位

IV 知的財産学部

1 導入領域

授業科目		単位数
導入領域	基礎ゼミナール	2
	言語表現技術Ⅰ	2
	言語表現技術Ⅱ	2
	ICTリテラシー	2
	健康体育Ⅰ	1
	健康体育Ⅱ	1

2 教養領域

授業科目		単位数		
教養領域	英語科目	受信英語Ⅰ	1	
		受信英語Ⅱ	1	
		発信英語Ⅰ	1	
		発信英語Ⅱ	1	
		資格英語Ⅰ	1	
		資格英語Ⅱ	1	
		法学英語基礎Ⅰ	1	
		法学英語基礎Ⅱ	1	
		メディア英語Ⅰ	1	
		メディア英語Ⅱ	1	
		メディア英語Ⅲ	1	
		一般科目	言語表現技術応用	2
			哲学	2
	倫理学		2	
	美術史		2	
	文学		2	
	歴史学		2	
	心理学		2	
	社会学		2	
	日本の伝統と文化		2	
	化学		2	
	地球科学		2	
	生物科学		2	
	生涯スポーツⅠ		1	
	生涯スポーツⅡ		1	
	※日本語Ⅰ	2		
	※日本語Ⅱ	2		

	※日本の文化と社会 I	2
	※日本の文化と社会 II	2

注) 授業科目の前に※を付した科目は、外国人留学生を対象とする。

3 専門領域

		授業科目	単位数	
専門領域	基幹科目	産業社会と知的財産	2	
		法学入門	2	
		民法基礎 I	●2	
		民法基礎 II	2	
		民法応用 I	2	
		民法応用 II	2	
		民事訴訟法	2	
		憲法 I	2	
		憲法 II	2	
		行政法 I	2	
		行政法 II	2	
		国際関係法	2	
		刑法	2	
		企業法務概論	2	
		独占禁止法	2	
		経済学入門	2	
		経営学入門 I	2	
		経営学入門 II	2	
		会計学	2	
		知的財産とビジネス入門	●2	
		データリテラシー	2	
		知的財産法科目	知的財産法入門	2
			特許法・実用新案法 I	●2
			特許法・実用新案法 II	2
	特許法・実用新案法 III		2	
	著作権法入門		1	
	著作権法		2	
	商標法		2	
	国際知的財産法		2	
	意匠法		2	
	不正競争防止法	2		
	技術&専門科目	大阪技術学	2	
		現代技術と産業	2	

		現代機械技術概論	2
		現代化学概論	2
		エレクトロニクス概論	2
		バイオテクノロジー概論	2
		情報技術と特許	2
		知財情報分析	2
		工業デザインと知的財産	2
		現代技術と特許	2
		海外の知的財産制度概論	2
		特許手続	2
		マーケティングとブランド	2
		ブランドマネジメント	2
		デザインマネジメント	2
		コンテンツ知的財産概論	2
		コンテンツマネジメント概論	2
		コンテンツプロダクション概論	2
		情報技術とコンテンツビジネス	2
		海外のエンタテインメントと法	2
		文化と知的財産・ビジネス概論	1
		メディア論	2
		ベンチャービジネス論	2
		イノベーションと企業戦略	2
		経営戦略論	2
		知的財産専門Ⅰ	2
		知的財産専門Ⅱ	2
	探求科目	特許意匠探求	6
		コンテンツ知的財産探求	6
		ブランド&デザイン知的財産探求	6
		国際知的財産探求	6
		知的財産経営探求	6
		著作権ビジネス探求	6
		地域知的財産探求	6
	研究科目	研究基礎演習	●4

4 展開領域

		授業科目	単位数
展開領域	実践英語科目	ビジネス英語	2
		英語プレゼンテーション	2
		知的財産専門英語Ⅰ	2
		知的財産専門英語Ⅱ	2

	展開科目	展開ゼミナールa	2
		展開ゼミナールb	2
		キャリア形成 I	2
		キャリア形成 II	2
		キャリア形成 III	2
		ライフステージと法	2
		中国語コミュニケーション	1
		中国語と現代中国事情	1
		知的財産中国語	2
		海外語学研修	2
		知的財産インターンシップ	2
		知的財産研修	2
		キャリアゼミナール	2

5 その他連携領域

授業科目		単位数
その他連携領域	基礎英語	1
	基礎英会話	1
	OIT概論	1
	インターンシップ	2
	知的財産総合入門 I	1
	知的財産総合入門 II	1
	知的財産総合応用 I	1
	知的財産総合応用 II	1
	知的財産総合応用 III	1

〔卒業に必要な単位数〕

導入領域・・ 8単位

教養領域(英語科目8単位、一般科目12単位を含む)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20単位

専門領域

 必修科目・・ 10単位

 選択科目・・ 64単位

 (基幹科目24単位、知的財産法科目10単位、技術&専門科目14単位、探求科目6単位を含む)

展開領域(実践英語科目2単位を含む)・・ 14単位

その他(導入領域、教養領域、専門領域、展開領域、その他連携領域、他学部の科目)・・・・・・・・・・・・ 8単位

(合計) 124単位

その他の要件

◇知的財産プロフェッショナルコース

特許法・実用新案法II、著作権法、商標法、意匠法を修得していること

◇ブランド&デザインコース

著作権法、商標法、意匠法を修得していること

◇ビジネスマネジメントコース

経営学入門Ⅰ、経営学入門Ⅱ、イノベーションと企業戦略を修得していること

◇コンテンツビジネスコース

経営学入門Ⅰ、経営学入門Ⅱ、著作権法を修得していること

V 教職課程の設置により開設する授業科目および単位数

1 全学共通開設

授業科目	単位数
教育原論	2
教職入門	2
教育行政	2
教育心理学	2
特別支援教育	2
教育課程論	2
道德教育	2
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2
教育方法論(ICT活用含む)	2
生徒指導と進路指導	2
教育相談	2
中学校教育実習	5
高等学校教育実習	3
教職実践演習(中・高)	2
人間発達と人権	2
教職特論	2

2 工学部

学科等	授業科目名	単位数
都市デザイン工学科	工業概論	2
建築学科	工業概論	2
機械工学科	工業概論	2
	木材加工	2
	栽培	2
電気電子システム工学科	工業概論	2
電子情報システム工学科	工業概論	2
応用化学科	工業概論	2

環境工学科	工業概論	2
生命工学科	工業概論	2
学部共通	職業指導A	2
	職業指導B	2
	数学科教育法a	2
	数学科教育法b	2
	数学科教育法c	2
	数学科教育法d	2
	理科教育法a	2
	理科教育法b	2
	理科教育法c	2
	理科教育法d	2
	技術科教育法a	2
	技術科教育法b	2
	技術科教育法c	2
	技術科教育法d	2
	工業科教育法a	2
	工業科教育法b	2
情報科教育法a	2	
情報科教育法b	2	

3 ロボティクス&デザイン工学部

学科等	授業科目名	単位数
ロボット工学科	工業概論	2
	木材加工	2
	栽培	2
システムデザイン工学科	工業概論	2
	木材加工	2
	栽培	2
空間デザイン学科	工業概論	2
学部共通	職業指導A	2
	職業指導B	2
	技術科教育法a	2
	技術科教育法b	2
	技術科教育法c	2
	技術科教育法d	2
	工業科教育法a	2
工業科教育法b	2	

4 情報科学部

学科等	授業科目名	単位数
学部共通	数学科教育法a	2
	数学科教育法b	2
	数学科教育法c	2
	数学科教育法d	2
	情報科教育法a	2
	情報科教育法b	2

別表第2—1(学費)

(単位：円)

種別	学部	工学部	ロボティクス&デザイン工学部	情報科学部	知的財産学部	備考
入学金		250,000	250,000	250,000	250,000	入学時納入
授業料		1,290,000	1,290,000	1,290,000	1,020,000	毎年度納入
教育充実費		100,000	150,000	100,000	50,000	1年次納入
		200,000	300,000	200,000	150,000	2年次以降納入

学費の金額は、経済情勢の著しい変動があった場合、改定することがある。

別表第2—2(履修料)

(単位：円)

学部	金額	備考
工学部	23,000	1単位あたり
ロボティクス&デザイン工学部	23,000	
情報科学部	23,000	
知的財産学部	20,000	

別表第2—3(研究料)

(単位：円)

種別	期間	6カ月	1年
研究料		180,000	360,000

別表第2—4(在籍料)

(単位：円)

区分	金額
前期	60,000
後期	60,000

別表第3(教育職員免許状の種類および免許教科)

免許状の種類	免許教科	学部	学科
中学校教諭一種免許状	「数学」	工学部	都市デザイン工学科 建築学科 機械工学科 電気電子システム工学科 電子情報システム工学科
		情報科学部	データサイエンス学科 実世界情報学科 情報知能学科 情報システム学科 情報メディア学科
	「理科」	工学部	応用化学科 環境工学科 生命工学科
		工学部	機械工学科
			ロボティクス&デザイン 工学部
	高等学校教諭一種免許状	「数学」	工学部
情報科学部			データサイエンス学科 実世界情報学科 情報知能学科 情報システム学科 情報メディア学科
「理科」		工学部	応用化学科 環境工学科 生命工学科

	「情報」	工学部	電子情報システム工学科
		情報科学部	データサイエンス学科 実世界情報学科 情報知能学科 情報システム学科 情報メディア学科
	「工業」	工学部	都市デザイン工学科 建築学科 機械工学科 電気電子システム工学科 電子情報システム工学科 応用化学科 環境工学科 生命工学科
		ロボティクス&デザイン 工学部	ロボット工学科 システムデザイン工学科 空間デザイン学科

教授会規定

○大阪工業大学情報科学部教授会規定

1996年2月27日

学園215

改正 2023年3月17日

(趣旨)

第1条 この規定は、大阪工業大学学則第9条および組織規定第43条第1項に定める大阪工業大学情報科学部教授会(以下「教授会」という)の構成、審議事項、運営等必要な事項を定める。

(構成)

第2条 教授会は、つぎの者をもって構成する。

イ 情報科学部長(以下「学部長」という)

ロ 情報科学部教授(専任に準じる職務を行う特任教授を含む)

2 学部長は、教授会の議を経て、設置学科から准教授各2名を教授会に加えることができる。

3 前項に定める准教授の任期は、毎年4月1日から翌年3月31日までの1年とし、重任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 教授会は、学長がつぎに掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

イ 学生の入学および卒業に関すること

ロ 学位の授与に関すること

ハ 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要と学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長が掌る教育研究に関する重要な事項について審議し、および学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(招集および議長)

第4条 教授会は、定例に学部長が招集し議長となる。

2 学部長に事故があるときまたは欠けたときは、あらかじめ学部長が指名した教授が議長

となり、議長の職務を行う。

3 第2条に定める教授会構成員(以下「構成員」という)の3分の1以上の者から、議題を示して請求があれば、学部長は、その招集を決定しなければならない。

4 第1項および前項のほか、学部長は必要ある場合、臨時に教授会を招集することを妨げない。

(定足数および表決)

第5条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き議決することができない。

2 教授会の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(員数除外)

第6条 つぎの各号のいずれかに該当する者は、前条第1項の員数から除外する。

イ 休職者

ロ 海外出張者

ハ 長期欠勤などのために引き続き1カ月以上教授会に出席できない者

(議題の事前提出)

第7条 教授会に議題を提出しようとする者は、あらかじめその要領を文書で学部長に提出しなければならない。

2 学部長は、教授会の議に付すべき事項を、主管部署の審議を経たうえで速やかに教授会に提出する。ただし、大学全体の運営に影響を及ぼす事項については、あらかじめ学部長は、学長と協議するものとする。

3 教授会の席上、緊急に提案された議題は、即決することができない。ただし、軽易なものおよび出席者の全員が承認したものについては、この限りでない。

(議事録の調製および呈示)

第8条 議長は、学部事務室長に会議の次第および出席者の氏名等を記載した議事録を作成させなければならない。

2 議事録は、学部事務室で保管し、構成員の請求があるときは、これを呈示しなければならない。

(関係職員の出席)

第9条 議長は、必要があると認めたとき、構成員以外の職員を教授会に出席させ、議事に関し、これに説明をさせまたは意見を述べさせることができる。ただし、表決に加える

ことはできない。

(欠席届および議事録による了知)

第10条 教授会に欠席する者は、欠席届をあらかじめ学部事務室を経て学部長に提出しておかなければならない。

2 教授会に欠席した者は、その経緯を議事録によって了知するものとする。

(教授会の庶務)

第11条 教授会の庶務は、学部事務室で取り扱う。

(運営細則)

第12条 この規定に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、教授会の意見を聴き学部長が定める。

(規定の改廃)

第13条 この規定の改廃は、学長ならびに大学・大学院運営会議および教授会の意見を聴き、理事長が行う。

付 則

1 この規定は、1996年4月1日から施行する。

2 この改正規定は、2023年4月1日から施行する。

大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科 設置の趣旨等を記載した書類

目次

1	設置の趣旨及び必要性	P.2
2	学部・学科等の特色	P.9
3	大学、学部・学科の名称及び学位の名称	P.10
4	教育課程の編成の考え方及び特色	P.10
5	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P.14
6	多様なメディアを高度に利用して、 授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	P.19
7	企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の 学外実習を実施する場合の具体的計画	P.19
8	取得可能な資格	P.21
9	入学者選抜の概要	P.22
10	教育研究実施組織の編成の考え方及び特色	P.26
11	研究の実施についての考え方、体制、取組	P.29
12	施設、設備等の整備計画	P.30
13	管理運営	P.34
14	自己点検・評価	P.36
15	情報の公表	P.37
16	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P.39
17	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P.41

1 設置の趣旨及び必要性

1-1 情報科学部 実世界情報学科を設置する理由・必要性

世界を取り巻く環境は、気候変動、新型コロナウイルス感染症、政治経済状況の不確実性の増大等の大きな変化の中にあり、国内においては人口減少や少子高齢化、潜在成長率の停滞、自然災害の頻発等の構造的課題が深刻化している。

このような状況下で、我が国は社会課題の解決に向けた取組みそれ自体を付加価値創造の源泉として成長戦略に位置づけている。そのために科学技術・イノベーション、中でもデジタルトランスフォーメーションを重視した取組みが進められている。

しかしながら、このような未来を創造できる人材が圧倒的に不足しており、「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」（令和4（2022）年5月10日：教育未来創造会議）でも指摘されているように、今後ますます深刻化が予想され、人材育成が急務となっている。特に、専門的なデジタル知識・能力を有し、デジタル実装による地域の課題解決をけん引する人材の育成が強く求められている。また、産業界においては我が国の成長戦略として、「AIの活用に関する経団連の考え方」（令和3（2021）年10月27日：経団連）において、AI技術の特性と我が国の産業構造に基づく日本企業の勝ち筋として、サイバー世界から実世界にAIの主戦場を展開していくことが提言されている。

このような状況を受け、令和7（2025）年4月、大阪工業大学情報科学部に実世界情報学科を開設する（設置位置は、情報科学部の設置地である枚方第2校地（大阪府枚方市））。

情報技術の社会実装に必要な理論と手法の教育を担う学科として、実世界におけるデジタルトランスフォーメーションを特色とした教育プログラムを用意するとともに、地域に根差した産官学連携プロジェクトへの参画及び既設4学科との連携により、地域課題の解決・新たな価値創造を行う実践的教育を行う。具体的には本学部及び本学科のディプロマ・ポリシーに掲げている能力を習得させる。以上の人材養成の目的を達成するため、以下に示す情報科学部及び実世界情報学科の3ポリシーを定める。

1-1.情報科学部 ディプロマ・ポリシー

4年以上在学して所定の単位を修得し、授業および卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（情報学）の学位を授与する。

(1) 各種システムを開発することのできる専門能力

- ・数学・自然科学など理工系の専門基礎知識、およびソフトウェア・ハードウェア・システムに関する専門知識を持ち、情報社会のためのシステム開発に活用できる。〔理工系の基礎知識と専門的知識を活用する能力〕
- ・豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力や正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持ち、他者と協働して活動できる。〔豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力およびコミュニケーション能力〕

(2) 自然と人間が共生する、豊かで安心できる社会の実現に必要な人間力

- ・自然、社会、文化に対する広い人間的素養を持ち、地球的視野で物事を考え行動できる。
〔自然、社会、文化に対する広い人間的素養〕
- ・責任感、倫理観、実行力を持ち自律的に判断し行動できる。〔責任感、倫理観、実行力〕
- ・新しいものごとへの強い関心・興味を持ち、自主的・継続的に学習することができる。
〔自主的・継続的に学習する能力〕

1-2.情報科学部 実世界情報学科 ディプロマ・ポリシー

実世界情報学科では、情報科学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

- (A) 実世界情報技術が社会に及ぼす影響や技術者の社会的役割、責務などを理解し、適切に判断して行動ができる。〔技術者倫理の習得〕
- (B) 実世界からの情報取得・分析技術、及び実世界へのインタラクション技術に関連する理工学の基礎知識を持ち、専門的な技術の理解につなげられる。〔基礎知識の習得と活用能力〕
- (C) 実世界からの情報取得・分析技術、及び実世界へのインタラクション技術を修得し、これらを現実の問題解決に応用できる。〔専門知識の習得と問題解決への応用能力〕
- (D) 課題を解決するために、情報を収集、整理、分析し、問題解決のための計画、方策を立案して推進できる。〔問題の設定と解決能力〕
- (E) 技術文書の作成、発表、討論において、正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持つとともに、他者と協働して活動できる。〔他者と協働できる能力〕

2-1.情報科学部 カリキュラム・ポリシー

情報科学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。

- 1) 豊かな人間性を養う共通教育
総合人間学系と総合理学系に関する教育を通して幅広い教養を身につけ、社会の多様化や高度情報化に柔軟に対応できる能力を育成する。また、キャリアデザインに関する教育により、大学での学修の動機付けを促し、社会人基礎力を養う。
- 2) 実践的な情報技術者を育成する専門教育
 - a) 情報科学の基礎となる「数理科学」では、情報数学、確率・統計などの数理科学的能力を養い、学科共通的な科目を含む「専門基礎」では専門科目を体系的に学ぶ上

で必要となる基礎的能力を育成する。

- b) 「データサイエンス」、「実世界情報」、「情報知能」、「情報システム」、「情報メディア」の各分野の「基幹科目」、「応用科目」により専門性を高め、さらに「演習科目」での学修を通して専門分野を統合してシステムの設計・実装力と問題解決力を養う。
- 3) 4年次ではそれぞれの学科で学んだ内容の集大成として「卒業研究」を行い、論理的思考力、コミュニケーションやプレゼンテーションの総合的能力の育成を図るとともに、社会における情報技術の役割や情報技術者の責任などについても理解を深める。

2-2.情報科学部 実世界情報学科 カリキュラム・ポリシー

実世界情報学科ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- 1) 数理科学科目群では、専門科目を学ぶ上で必要となる数学の基礎を固める。
- 2) 専門基礎科目群では、IoTによる実世界からの情報収集、実世界理解のための画像処理や人工知能の基礎を学ぶと同時にコンピュータやソフトウェアの仕組み、オペレーティングシステムやプログラミング言語、プログラミング技術、ネットワークの仕組み等の情報科学に関する基礎的知識を身につける。
- 3) 基幹科目群では、IoTシステムの開発に必要な電子回路、通信プロトコル、サーバの利用に加え、生活空間の環境設備やロボットなどの自動機器の制御に必要な位置推定、ロボット操作、コンピュータビジョンなどの専門的で実践的な技術を総合的に身につける。
- 4) 応用科目群では、実世界へ導入するためのシステム構築、人とのインタラクションに必要な画像処理などの技術を習得するほか、メディア情報の伝送などについても学び、価値を生み出し実装していく力を身につける。
- 5) 演習科目群では、プログラミングの演習ならびにそれまでに学んできた知識をIoTやロボットの動作に応用する実践的な演習を通じて理解を深める。
- 6) 卒業研究では、これまで学んだ専門知識を駆使し、実世界の具体的な問題の解決策を考案、実装、検証する実践的な能力を養う。

実世界情報学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係は以下の表のとおりである。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
<p>DP (A) 実世界情報技術が社会に及ぼす影響や技術者の社会的役割、責務などを理解し、適切に判断して行動ができる。〔技術者倫理の習得〕</p>	<p>CP3) 基幹科目群に含まれる「情報技術者論」、「情報ゼミナール」、CP6) 卒業研究が対応する。</p> <p>CP3) 基幹科目群：IoT システムの開発に必要な電子回路、通信プロトコル、サーバの利用に加え、生活空間の環境設備やロボットなどの自動機器の制御に必要な位置推定、ロボット操作、コンピュータビジョンなどの専門的で実践的な技術を総合的に身につける。</p> <p>CP6) 卒業研究：これまで学んだ専門知識を駆使し、実世界の具体的な問題の解決策を考案、実装、検証する実践的な能力を養う。</p>
<p>DP (B) 実世界からの情報取得・分析技術、及び実世界へのインタラクション技術に関連する理工学の基礎知識を持ち、専門的な技術の理解につなげられる。〔基礎知識の習得と活用能力〕</p>	<p>CP1) 数理科学科目群、CP2) 専門基礎科目群が対応する</p> <p>CP1) 数理科学科目群：専門科目を学ぶ上で必要となる数学の基礎を固める。</p> <p>CP2) 専門基礎科目群：IoT による実世界からの情報収集、実世界理解のための画像処理や人工知能の基礎を学ぶと同時にコンピュータやソフトウェアの仕組み、オペレーティングシステムやプログラミング言語、プログラミング技術、ネットワークの仕組み等の情報科学に関する基礎的知識を身につける。</p>
<p>DP (C) 実世界からの情報取得・分析技術、及び実世界へのインタラクション技術を修得し、これらを現実の問題解決に応用できる。〔専門知識の習得と問題解決への応用能力〕</p>	<p>CP3) 基幹科目群、CP4) 応用科目群、CP5) 演習科目群が対応する。</p> <p>CP3) 基幹科目群：IoT システムの開発に必要な電子回路、通信プロトコル、サーバの利用に加え、生活空間の環境設備やロボットなどの自動機器の制御に必要な位置推定、ロボット操作、コンピュータビジョンなどの専門的で実践的な技術を総合的に身につける。</p> <p>CP4) 応用科目群：実世界へ導入するためのシステム構築、人とのインタラクションに必要な画像処理などの技術を習得するほか、メディア情報の伝送などについても学び、価値を生み出し実装していく力を身につける。</p> <p>CP5) 演習科目群：プログラミングの演習ならびにそれまでに学んできた知識を IoT やロボットの動作に応用する実践的な演習を通じて理解を深める。</p>

<p>DP (D) 課題を解決するために、情報を収集、整理、分析し、問題解決のための計画、方策を立案して推進できる。〔問題の設定と解決能力〕</p>	<p>CP5) 演習科目群、CP6) 卒業研究が対応する。 CP5) 演習科目群：プログラミングの演習ならびにそれまでに学んできた知識を IoT やロボットの動作に応用する実践的な演習を通じて理解を深める。 CP6) 卒業研究：これまで学んだ専門知識を駆使し、実世界の具体的な問題の解決策を考案、実装、検証する実践的な能力を養う。</p>
<p>DP (E) 技術文書の作成、発表、討論において、正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持つとともに、他者と協働して活動できる。〔他者と協働できる能力〕</p>	<p>CP3) 基幹科目群に含まれる「情報技術者論」、CP5) 演習科目群が対応する。 CP3) 基幹科目群：IoT システムの開発に必要な電子回路、通信プロトコル、サーバの利用に加え、生活空間の環境設備やロボットなどの自動機器の制御に必要な位置推定、ロボット操作、コンピュータビジョンなどの専門的で実践的な技術を総合的に身につける。 CP5) 演習科目群：プログラミングの演習ならびにそれまでに学んできた知識を IoT やロボットの動作に応用する実践的な演習を通じて理解を深める。</p>

3-1.情報科学部 アドミッション・ポリシー

情報科学部は、豊かで安心できる社会の実現をめざし、情報技術を自在に駆使して社会の発展に貢献できる「情報プロフェッショナルの育成」を教育理念としており、この理念に沿った学生を受け入れる。

<求める人物像>

- (1) 情報分野に強い関心を持ち、専門知識や技術を身につけることをめざす人
- (2) 専門的能力を修得するのに必要な基礎学力と論理的思考力を有し、自主的・積極的に勉学に取り組める人
- (3) 情報プロフェッショナルとして、情報分野の第一線で活躍し、豊かで安心できる社会の実現に貢献したい人

<入学前に学習しておくことが望ましい内容>

情報科学部では、情報技術とその実践的な応用による問題解決手法を学び、情報技術で社会を発展させる情報プロフェッショナルを育成する。情報科学部の入学生には、これらの学びの基盤となる高校課程での数学、理科の基本的な能力を身につけておくことを求める。また、実際の社会問題の解決には、情報技術の発達が社会や人の生活に与えた影響の理解、ならびに政治、経済、国際情勢などの人文・社会科学に関する基礎知識を身につけておくことを求める。英語や国語については情報の収集・発信、他者との議論や協働を可能とするため

の基本的な読解力と論理的な文章の作文力を身につけておくことを求める。

3-2.情報科学部 実世界情報学科 アドミッション・ポリシー

現実社会にある課題に取り組むためには、問題が発生している実世界の空間的状況や時間的変化を把握したうえで、人への情報提示や機器の制御によって問題の解決を図っていく必要がある。実世界情報学科は様々なセンサによる実世界情報の収集と伝送、認識と理解に基づく実世界情報の可視化や自動機器の制御を行う一連の技術を習得させ、現実的に課題を解決していける実世界情報のプロフェッショナルを育成する。

<求める人物像>

- (1) 持続可能な社会を目指すうえで取り上げられている様々な課題に関心がある人
- (2) 情報技術に関心を持ち、机上の知識ではなく実際に応用することに意欲のある人
- (3) 技術者の社会的責任について理解し、それを誠実に遂行しようとする倫理観を持つ人
- (4) 多様な人々と協働してプロジェクトを推進する力を身につけたい人

<入学前に学習しておくことが望ましい内容>

実世界情報学科に入学するまでに、以下に記した能力を身につけておくことを求める。

- (1) 現実の問題を抽象化して数学的に表現するとともに、基本概念や法則を活用して論理的に考察し数学的に処理する能力を有していること。
- (2) 物理、化学、あるいは生物に関し、各々に関する現象をその背後にある理論を理解したうえで筋道立てて論理的に説明できること。
- (3) 実世界の情報や情報社会の特性、ならびに政治、経済、国際情勢等の社会問題に関する基礎的知識を有していること。
- (4) 基本的な英文の読解力・語彙力・文法力を有すること。また、平易な英文を用いて意思を伝え、相手の意図を理解できる基本的なコミュニケーション能力を有していること。
- (5) 国語は、基本的な読解力と論理的な文章の作文力を有すること。

4.養成する人材像

実世界情報学科では、様々な IoT センシング技術とデジタル技術によって、実世界の状況をデータとして取得し、ヒト・モノ・環境の情報分析と可視化、生活空間の環境設備やロボットなどの自動機器の制御（実世界インタラクション）により実世界の具体的な課題を解決できる実世界情報のプロフェッショナル人材を養成する。

養成する人材像とアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの関連性については、【別紙資料1】「養成する人材像と3つのポリシーの関連図」で示す。

5.卒業後の進路

卒業後は、さまざまな産業においてデジタル化が求められる幅広い業務で活躍することが想定される。以下に具体的な例を挙げる。

(1) ライフライン運営業（インフラ設備の遠隔運用監視）

電力・ガス・水道・通信・交通等社会のインフラは地理的に広い範囲に各種設備があり、効率的な運用監視あるいは災害時の状況把握にはドローンやロボット等の機動力のある機器を用いることが想定されるため、ドローン・ロボット制御に長けた技術者が求められる。

(2) 電気・電子・通信機器製造業（IoT 機器の開発製造）

society 5.0 の実現においてインターネットに接続できる家電製品、生産設備が不可欠であり、IoT とその応用技術を持つ技術者が求められる。

(3) ソフトウェア開発業（業務用ソフトウェア開発）

ソフトウェア技術者の不足は今後も継続すると予想され、情報システム開発全般に関われる技術者が求められる。

6.組織として研究対象とする中心的な学問分野

本学科における主な研究対象分野は、情報の理論及び技術等の情報科学とする。その中でも具体的には以下のとおりである。

(1) コンピュータビジョン

実世界の視覚的な情報取得と認識を行う

(2) IoT

実世界の視覚以外の情報取得と認識を行う

(3) ドローン・ロボット制御

実世界の制約条件に合わせた飛行・走行の制御を行う

(4) デジタルツイン

実世界から取得した情報と人間の指示に基づいて具体的なドローン・ロボット等の行動計画を立て、デジタルツイン上でシミュレーションを行う

2 学部・学科等の特色

大阪工業大学を設置する学校法人常翔学園の建学の精神は、「世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する。」ことである。この精神にしたがって情報科学部では、既設の4学科が情報プロフェッショナルの育成を図っている。データサイエンス学科ではデータサイエンスとその企業活動への応用の分野を、情報知能学科では知能情報システムとそれを実現する組み込みシステム技術及びコンピュータ技術の分野を、情報システム学科ではビジネスシステムや産業・社会の基盤となる情報システムの分野を、情報メディア学科ではメディアシステムや情報メディアの分野をそれぞれ教育・研究している。これらに対して、実世界情報学科は、実世界にフォーカスしてセンサ等から得られる情報の分析に基づく自動機器の制御（実世界インタラクション）による実社会の様々な課題解決を目指すことが特色といえる。しかし、既設4学科との関係も深く、各学科間での授業科目の相互履修、教員間での教育・研究の連携等、学部全体としての有機的な連携を通じて、教育効果の向上を図る。

近年、地球規模の環境変化や国際政治経済状況の変動等、我が国を取り巻く状況の不透明感が増大している。また、少子高齢化に起因する様々な社会課題が顕在化しつつある。こうした背景において、資源やエネルギーの効率的な利用と自動化や省力化が求められ、そのためには、デジタル技術の活用が必然となる。具体的には、人々が生活している実世界(=実空間)において現象の観測と分析、そして生活空間の環境設備やロボット等の自動機器の制御（実世界インタラクション）の各側面においてデジタル技術を用いることとなる。

そこで、実世界情報学科では以下のように学びの特色を持たせている。まず、全ての専門的な学びの基盤となる 1)数理科学について学び、その上に実世界からの情報収集や実世界理解の基礎となる 2)専門基礎科目を身につける。そして、位置推定、ロボット操作、コンピュータビジョン等の専門的で実践的な技術を 3)基幹科目で修得し、実世界へ導入するためのシステム構築に関わる 4)応用科目を学ぶ。さらに、これらの学びと並行してプログラミングや知識を応用する演習を含む 5)演習科目で理解を深め、これら全体の集大成となる 6)卒業研究で実世界の具体的な問題の解決策を考案、実装、検証する実践的な能力を養う。

3 大学、学部・学科等の名称及び学位の名称

3-1 学科の名称

本学科では、実世界の課題解決を行う技術者の育成にあたり、人々が生活している実世界 (=実空間)において現象の観測と分析、そして生活空間の環境設備やロボット等の自動機器の制御 (実世界インタラクション) にフォーカスしている。これらは情報科学の基盤の上に成り立っていることと、実世界を対象としていることが特徴であるため、学科の名称及び英訳を次のとおりとする。

学科の名称	英訳名称
実世界情報学科	Department of Real World Computing

3-2 学位の名称

学位の名称に関しては、情報科学を基盤とする既設4学科と同一の学位名称とする。

学位の名称	英訳名称
学士 (情報学)	Bachelor of Information Science and Technology

4 教育課程の編成の考え方及び特色

本学科は、情報科学部及び実世界情報学科のカリキュラム・ポリシーに則り教育課程を編成した。教育課程の編成の考え方に関して、共通科目、キャリア科目、専門科目の順に述べる。

4-1 共通科目

情報科学部のカリキュラム・ポリシーにおける「豊かな人間性を養う共通教育として、総合人間学系と総合理学系に関する教育を通して幅広い教養を身につけ、社会の多様化や高度情報化に柔軟に対応できる能力を育成する。」に基づいて、以下のように編成を行う。

情報科学部共通となる「共通科目」の授業科目は、「総合人間学系」と「総合理学系」に区分している。さらに「総合人間学系」は、「人文社会科学」「外国語」「健康・スポーツ科学」に細分し、「総合理学系」は「科学技術史」「物理」「化学」「地学」「生物」「総合」に細分している。

「人文社会科学」は低学年次に配置し、幅広い領域の知識・考え方を学ぶことで、専門知識や思考方法を相対化し、社会意義について考え理解する契機として位置付けられる。「外国語」は国際共通語として特に重要性が高い「英語」の実践的な授業を、1年次、2年次に集中的に配置している。「健康・スポーツ科学」は学生間の人間関係構築の点からも重視し、1年次から3年次まで配置している。

「総合理学系」のうち、「物理」「化学」「地学」「生物」「総合」は理学系授業科目に対する新入生の習熟レベルを統一し、情報科学の基礎を学修するために必要な科目を1年次、2

年次に配置している。また「科学技術史」は専門分野の社会的意義等を俯瞰する科目を4年次に配置している。

以上により、幅広い教養と社会の変化への対応力の涵養の狙いを達成していく。

4-2 キャリア科目

情報科学部のカリキュラム・ポリシーにおける「豊かな人間性を養う共通教育として、キャリアデザインに関する教育により、大学での学修の動機付けを促し、社会人基礎力を養う。」に基づいて、以下のように編成を行う。

「キャリア科目」は「基礎ゼミナール」「キャリアステップ」「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「グローバルテクノロジー論」「OIT 概論」から構成される。「基礎ゼミナール」「キャリアステップ」「OIT 概論」は初年次に配置し、本学部・学科全体の学びを俯瞰し、学部全体の目標を理解したうえで、自らの専門分野の役割や専門性の重要性を把握するとともに、学生のアイデンティティ確立、学修の方向性の明確化等、初年次におけるガイダンス機能を有する。「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「グローバルテクノロジー論」はコミュニケーション能力向上、問題解決のための論理的思考能力、自身のマネジメント能力の育成等を目的とした実践的科目として、2年次に配置している。

以上により、学修の動機付け促進と社会人基礎力涵養の狙いを達成していく。

4-3 専門科目

実世界情報学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、「専門科目」を編成する。「専門科目」は、「数理科学」、「専門基礎」、「基幹科目」、「応用科目」、「演習科目」の各科目群で構成する。まず、「数理科学」科目群において数学に関する基礎的素養を身につけることからスタートし、その後「専門基礎」科目群で情報科学に関する基礎的な知識を身につける。その基礎の上に専門家としての基幹的、応用的な知識と技術を「基幹科目」群と「応用科目」群において修得する。また、それらを横断する形で実践力を身につけるための「演習科目」群があり、最後に本学科の集大成として卒業研究を行う。これらの科目区分はカリキュラム・ポリシーと一対一で対応している。カリキュラムとディプロマ・ポリシーで身につける能力の関係については、【別紙資料 2】「情報科学部実世界情報学科カリキュラムマトリクス」【別紙資料 3】「情報科学部実世界情報学科カリキュラムマップ」にて示す。

各科目群の学びの目的、卒業後の進路の関係については下表にまとめる。

各科目群の学びの目的、卒業後の進路の関係

専門科目の科目群	主要な科目	学びの目的・卒業後の進路の関係
数理科学	「線形数学Ⅰ」「線形数学Ⅱ」「微積分学Ⅰ」「微積分学Ⅱ」「情報数学」「微分方程式」「グラフ理論」「数理計画法」「確率・統計」	情報科学のベースとなる数学を学ぶ科目群

専門基礎	「コンピュータ入門」「実世界情報入門」 「Unix 入門」「シェルスクリプト入門」「コン ピュータリテラシー」「デジタル回路 I」「デ ジタル回路 II」「IoT 概論」「テクニカルラ イティング」「データ構造とアルゴリズム」 「情報通信ネットワーク」「人工知能」「情報 処理基礎」「オペレーティングシステム」「ソ フトウェア工学 I」「画像情報処理」「情報セ キュリティの基礎」	ドローン、IoT、コンピュ ータに対する導入教育として の科目群
基幹科目	「ロボティクス」「実世界計測」「IoT データ ベース」「Web プログラミング」「コンピュ ータビジョン」「IoT サーバ構築」「IoT 通信」 「情報技術者論」「情報ゼミナール」	空間認識、ネットワーク通 信、システム構築のための 科目群
応用科目	「ものづくり実習」「システムプログラム」 「ソフトウェア工学 II」「ヒューマンインタ フェース」「ロボット対話システム」「メデ ィア通信概論」「情報科学実践演習(国際 PBL)」 「情報科学実践演習(国内 PBL)a」「情報科学 実践演習(国内 PBL)b」	ドローン・ロボットの応用 サービス構築や IoT 活用サ ービス構築に必要な科目群
演習科目	「C 演習 I」「C 演習 II」「Java 演習」「ソフ トウェア工学演習」「実世界情報基礎演習」 「実世界情報専門演習」「実世界情報応用演 習」	プログラミングや座学で学 んだ内容を実践的に身につ けるための科目群
卒業研究	卒業研究	課題の選定、文献調査、計画 に基づく実験の実施、成果 の考察、最終的な論文作成 等の実践を通じて、実世界 情報学科の学び全体を体系 的に活用し、学士課程の学 びと探究を総括する。

<配当年次の考え方>

大学での学修の動機付けを促し、豊かな人間性を養う教育を出発点に据え、基礎から応用へという発展過程を原則としつつ、低学年次においても実践的な学びを含めることで自らの専門性を高める意欲を涵養する意図で配当年次を定めている。

1 年次では共通科目とキャリア科目を多く配当しつつ、情報処理と数理に関する入門教育と、本学科で用いる機器類に対する知識や操作法を学ぶ導入教育を進める。

2年次では引き続き共通科目とキャリア科目を配当し、併せて情報処理関連の通信、コンピュータ、ソフトウェアに関する基礎教育と、実世界の認識や実世界への働きかけに関わる専門的な教育を行うとともに、開発を含む演習を配当する。

3年次ではさらに高度な情報処理、数理、実世界情報の収集・伝送・分析について学び、実世界へ実装するうえで欠かせない人とのインタラクションを含む応用的な科目や、実世界で動作する機器を扱う演習を配当する。

4年次ではここまで積み上げてきた専門知識と開発力を基に卒業研究に取り組む。

<必修・選択・自由科目、主要授業科目について>

実世界情報に関する導入とドローンの操作を学ぶ科目である「実世界情報入門」と、IoTシステム実装の基盤となる「IoT概論」を必修科目に設定している。そして、情報処理の最も基礎となるイ)通信、ロ)コンピュータ、ハ)ソフトウェアに関する必修科目として、それぞれイ)「情報通信ネットワーク」、ロ)「コンピュータ入門」、ハ)「オペレーティングシステム」を設定している。さらに文書作成や技術者倫理及びゼミナール活動である「テクニカルライティング」「情報技術者論」「情報ゼミナール」も必修科目に指定している。また、プログラミングや演習に関する「C演習I」「実世界情報基礎演習」「実世界情報専門演習」も必修科目としている。

上記以外の科目は全て選択科目とするが、科目群ごとに特に基盤となる以下の科目を含め、12単位を選択必修科目として単位取得を促している。

- (1) 数理科学：分野横断の科目群でありその中でも基本となる科目（「線形数学I」「微積分学I」「情報数学」「グラフ理論」「確率・統計」）
- (2) 専門基礎：ドローン、IoT、コンピュータの導入に関わる科目（「デジタル回路I」「デジタル回路II」「データ構造とアルゴリズム」「人工知能」「ソフトウェア工学I」「情報セキュリティの基礎」）
- (3) 基幹科目：空間認識、ネットワーク通信、システム構築に関わる科目（「ロボティクス」「IoT通信」）
- (4) 応用科目：より専門的な観点で自由に履修科目を選べるように選択必修科目を設定していない。
- (5) 演習科目：プログラミングおよび座学で学んだ内容の実践的な修得に関わる科目（「C演習II」「Java演習」）

自由科目については、大阪工業大学学則に定めるとおり大阪工業大学情報科学部履修規定に基づくものとする。他学部または他学科の専門科目等が該当する。

主要授業科目は実世界情報学科を特徴づける学びの網羅的な基盤を形成するものであるため、必修科目と選択必修科目の一部を設定する。

まず、必修科目は実世界に関わるうえで不可欠なドローンとIoTの基礎になる科目と、

情報処理の最も基礎となる科目、及び文書作成と技術者倫理に関する科目であるため全てを主要授業科目とする。さらに、選択必修科目のうち、専門基礎、基幹科目、演習科目から実世界の情報収集と分析、インタラクションの観点で特に基盤となる科目を主要授業科目として選定している。これらの科目は、実世界情報学科が養成する「様々な IoT センシング技術とデジタル技術によって、実世界の状況をデータとして取得し、ヒト・モノ・環境の情報分析と可視化、生活空間の環境設備やロボット等の自動機器の制御（実世界インタラクション）により実世界の具体的な課題を解決できる実世界情報のプロフェッショナル人材」に不可欠な科目である。

5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

5-1 授業の内容に応じた授業の方法及び学生数の設定

授業の内容に応じて、講義、演習、実験・実習の方法により授業を行う。授業ごとの学生数については、次のとおり設定している。

(1) 共通科目・総合人間学系

「人文社会科学」は情報科学部共通であり、学生が自身の関心と問題意識に応じて科目選択して時間割を組み立てられるように、多くの科目を2回ずつ開講している。「外国語」は30～40人程度のグループに分けて実施する。「健康・スポーツ科学」の実習科目である「基礎スポーツ科学 a」及び「基礎スポーツ科学 b」は25人程度の3グループを作って実施する。

(2) 共通科目・総合理学系

「科学技術史」の科目では、「科学史」は専門科目を学び終えた学生に俯瞰的な視野を持たせるよう学科指定は行わず4年次に配当しており、数10名程度の受講を見込んでいる。「物理」の科目では、「物理学基礎」と「電磁気学」については授業を学科別で指定して2学科合同で行う。上限は130人程度としている。「物理現象の数理」や「力学」、「現代物理学入門」及び「化学」「地学」「生物」「総合」等の科目は学科指定ではないが、再履修者を含めて上限を150人程度となるように、同一科目を複数回開講している。

(3) キャリア科目

「基礎ゼミナール」は1年生だけを対象とした科目であり、情報科学部全学科横断で開講している。実世界情報学科の1年生を3～4人ずつ20程度に分けて、他学科の学生を含めて1グループ20～25人程度に編成して実施する。「キャリアステップ」と「キャリアデザインⅠ」は学科単独で開講し、それぞれ20人程度と60人程度を見込んでいる。「キャリアデザインⅡ」は、他学科と共通で開講するが、50人を超えない程度になると見込んでいる。「グローバルテクノロジー論」は、長期交換留学等の高次元な国際的活動を対象とするもので10人以下を見込んでいる。「OIT概論」は、大阪工業大学に入学し勉学を志す高校生

を対象とした高大連携科目であり、受講提出物に基づいて入学後に単位認定するため、10人程度を見込んでいる。

(4) 専門科目

「数理科学」の科目で1年生配当のために習熟度差が想定される「線形数学Ⅰ」と「微積分学Ⅰ」は2クラスに分けることにより40人程度が上限となるように実施する。その他の科目は80人を基準として、再履修者を含めても100人程度を上限として実施することを見込んでいる。

「専門基礎」の科目は学科単独で開講することにより、80人を基準として再履修者を含めても100人を上限として実施することを見込んでいる。

「基幹科目」のうち、「情報技術者論」は学部合同での開講とし、学部全体を2つのグループに分けるため1クラスが約230人程度となる。講義はオムニバス形式であるが、グループ討議では8人の教員が分担して実施する。「情報ゼミナール」については実世界情報学科の全教員で担当し、専門科目の教員は8人程度の9つのグループ、共通科目の教員は5人程度の4つのグループに分けて指導する。その他の「基幹科目」は学科単独で開講することにより、80人を基準として再履修者を含めても100人程度を上限として実施することを見込んでいる。

「応用科目」の「ものづくり実習」は工作機械を用いる実習であるため20人程度を上限として2人の教員が共同で実施する。「情報科学実践演習(国際PBL)」「情報科学実践演習(国内PBL)a」「情報科学実践演習(国内PBL)b」は、それぞれPBL科目であり情報科学部全学科横断で実施する。4～6人程度のグループによる協働演習であり、本学科からの参加人数は国際PBLについては10人程度、国内PBLについては30人程度を見込む。上記を除く「応用科目」は学科単独で開講することにより、80人を基準として再履修者を含めても100人を上限として実施することを見込んでいる。

「演習科目」についても80人を基準として再履修者を含めても100人程度を上限として実施することを見込んでいる。すべての演習にはPCが必要であるが、基本的にはBYOD(Bring Your Own Device)である。「C演習Ⅰ」「C演習Ⅱ」「Java演習」については、教員のほかに複数の授業補助者を計画している。「ソフトウェア工学演習」は選択科目であり、履修人数は40名程度を見込んで単一グループで実施する。「実世界情報基礎演習」「実世界情報専門演習」については、いずれも必修科目であり、40～50名程度の2つのグループに分かれて演習を実施する。「実世界情報応用演習」は選択科目であり、履修人数は40名程度と想定して単一グループで実施する。

5-2 卒業要件

本学科では各科目に関して、科目区分ごとに以下の科目数及び単位数が設定されている。必修科目及び選択必修科目は、教育課程の編成の考え方及び特色で述べたように、本学科の導入科目及び情報処理の最も基礎となる科目を選定している。さらに、文書作成や技術者倫

理に関する科目、プログラミングの演習や実践的な演習の一部も必修科目としている。カリキュラム・ポリシーで定めた科目群ごとに特に基盤となる科目を選択必修科目として単位取得を促している。

必修科目・選択必修科目・選択科目の配置数 ()内：単位数

科目区分		必修科目数	選択必修科目数	選択科目数
共通科目（総合人間学系・総合理学系）		0(0)	0(0)	50(86)
キャリア科目		0(0)	0(0)	6(6)
専門科目	数理科学	0(0)	5(10)	4(8)
	専門基礎	6(12)	6(10)	5(8)
	基幹科目	2(4)	2(4)	5(10)
	応用科目	0(0)	0(0)	9(14)
	演習科目	3(7)	2(6)	2(4)
合計		11 (23)	15 (30)	81 (136)

実世界情報学科の卒業要件は以下のとおりである。

実世界情報学科 卒業要件

科目区分		条件	計
共通科目	総合人間学系	人文社会科学	12 単位以上
		外国語	8 単位
		健康・スポーツ科学	2 単位
	総合理学系	12 単位以上	
	合計 (人文社会科学、総合理学系のいずれかは 14 単位が必要)	36 単位	
キャリア科目		2 単位	124 単位
専門科目	必修科目	23 単位	
	選択科目	63 単位 (選択必修科目 12 単位を含む (注 1))	
	卒業研究	合格していること	
	合計	86 単位	
4 年以上在学			

履修科目の登録の上限は、年間 44 単位としている。成績評価は、S、A、B、C、G を合格、F、* を不合格とし、厳正に評価する。

(注 1) 「線形数学 I」「微積分学 I」「情報数学」「グラフ理論」「確率・統計」「デジタル

回路 I」「デジタル回路 II」「データ構造とアルゴリズム」「人工知能」「ソフトウェア工学 I」「情報セキュリティの基礎」「ロボティクス」「IoT 通信」「C 演習 II」「Java 演習」を選択必修科目とする。

なお、「大阪工業大学情報科学部履修規定」において、他学部または他学科の授業科目や他大学等の授業科目の履修及び卒業に必要な単位として認める際の条件について規定されている。

5-3 履修モデル

本学科では、実世界からの情報取得と実世界へのインタラクションを行える人材を養成するための体系的な学びを講義、演習、実験・実習により 1 年次から 4 年次までバランス良く配置し教育を行う。本学科の履修モデルを、I.ライフライン運営モデル(インフラ設備の遠隔運用監視)、II.電気・電子・通信機器製造モデル(IoT 機器の開発製造)、III.ソフトウェア開発モデル(業務用ソフトウェア開発)に分けて説明する。(【別紙資料 4】「教育課程及び履修モデル」参照)

併せて本学科において教職課程を履修する学生を想定した履修モデル (IV.教職モデル) も示す。授業科目は、「共通科目」「キャリア科目」「専門科目」に分類されており、いずれのモデルとも「共通科目」「キャリア科目」は同一である。以下では、「専門科目」について各モデルの特徴的な科目を挙げる。

I.ライフライン運営モデル

履修モデルの前提となる想定される業務内容として、鉄塔や土管等各地のフィールドに配置されている設備の遠隔からの監視が挙げられる。ここで必要となる科目は、「実世界情報入門」「ロボティクス」「実世界計測」「ロボット対話システム」等のドローンやロボットに関わる科目及び遠隔監視のための科目が該当する。

II.電気・電子・通信機器製造モデル

履修モデルの前提となる想定される業務内容として、スマートホーム向けの IoT 機器等の開発業務が挙げられる。ここで必要となる科目は、「デジタル回路 I」「デジタル回路 II」「IoT 概論」「IoT サーバ構築」「IoT 通信」等の IoT に関わる情報取得から通信による伝達を受けてサーバ上で分析する一連の処理を行うための科目が該当する。

III.ソフトウェア開発モデル

履修モデルの前提となる想定される業務内容として、顧客の様々な要望に対応するアプリケーションソフトウェアの開発業務が挙げられる。ここで必要となる科目は、「データ構造とアルゴリズム」「オペレーティングシステム」「ソフトウェア工学 I」「システムプログラム」「ソフトウェア工学 II」「ソフトウェア工学演習」等のコンピュータとソフトウェア工学に関連する科目が該当する。

IV.教職モデル

教職課程において、教科及び教科の指導法に関する科目を選択する必要がある。具体的に

は、卒業要件の必修科目と選択必修科目の単位数を満たしつつ、教職課程における必修科目を履修する。中学及び高校数学免許向けでは、「線形数学 I」「線形数学 II」「微積分学 I」「微積分学 II」「情報数学」「確率・統計」「コンピュータ入門」が教科に関する専門的事項の必修科目となる。高校情報免許では、「情報社会論(共通科目・総合人間学系)」「コンピュータ入門」「情報通信ネットワーク」「ソフトウェア工学 I」「情報技術者論」「メディア通信概論」「C 演習 I」が教科に関する専門的事項の必修科目となる。

5-4 履修指導

本学科では、入学後すぐに新入生ガイダンスを実施する。このガイダンスでは、本学科での学びについての説明と、授業を受けるにあたって必要な IT スキルについて指導するほか、授業の理解度別クラス分けのために数学と英語の基礎学力テストを実施する。

「基礎ゼミナール」は初年次教育として開講しており、20 人程度の少人数で大学での学び方を指導する。少人数で運営することにより、学生間及び学生と教員の人的な繋がりを構築することも狙いとする。

また、出席率の低い学生には学期途中で指導を行う。学期末には、所定の成績評価 (GPA と修得単位数) を満たさない学生は、学生本人と保護者等の保証人と「基礎ゼミナール」担当教員による 3 者面談を行い、学修の意識付け等きめ細やかな指導を行う。2 年次も所定の成績評価を満たさない学生は、学生本人と「基礎ゼミナール」担当教員とで面談による指導が行われる。3 年次以降は研究室に配属されるため、同様の面談を学生本人と研究室の指導教員とで行う。

5-5 CAP 制

学生が個々の授業科目に対して十分な学修時間を確保できるように、履修科目の年間登録上限を 44 単位に設定している (CAP 制)。また、勉学意欲が極めて高く成績優秀な学生の学修を支援する観点から、前年度 1 年間の GPA 値が 3.0 以上を達成した学生に対して、44 単位に 4 単位を加えた 48 単位まで履修申請することを認めている。上限単位数に含めない科目もあり、以下に示す。

- ① 実世界情報学科の教育課程のうち、「海外語学研修」「日本語 I」「日本語 II」「基礎ゼミナール」「グローバルテクノロジー論」「OIT 概論」「情報科学実践演習(国際 PBL)」「情報科学実践演習(国内 PBL)a」「情報科学実践演習(国内 PBL)b)」
- ② 他学部の科目
- ③ 教職に関する科目のうち、卒業に必要な単位数に含まれないもの

6 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学での授業方法は、学則第 23 条の 2 に「授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかによりまたはこれらの併用により行うものとする。」と規定しており、これら授業方法を原則対面で行うこととしている。ただし、同条第 2 項に「前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。」と規定しているとおり、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い取り組んだ遠隔授業の経験や知見を引き続き活用していくため、高い教育効果が得られると授業担当者が判断する場合は、遠隔授業を取り入れることを可としている。

具体的には、同時かつ双方向の PC で動作するビデオ会議システムによって、教員の説明をリアルタイムで遠隔受講者に届ける形態での利用である。双方向通信の機能を有しているため、遠隔に居る学修者からの質問を音声やチャット機能によって受け取ることも可能である。その際に必要な URL 情報は、クラウド上のファイル共有サービスを利用して提供する。このファイル共有サービスを利用して、授業の資料を PDF 形式で提供することにより、学修者が適宜授業の内容を先読みしたり、あるいは振り返りながら、本人にとって理解を進めやすい方法で学修することができる。

上記に加えて、オンライン回答フォームも利用する。対面受講者と遠隔受講者が混在するハイブリッド形式での授業においても、受講場所によらず同じ課題に対して同じように学修者は回答することができる。授業担当者がその場で回答状況を確認して正答・誤答の内容に応じてその場で全受講者の学びを深めるフィードバックを行うことも可能である。

これらの遠隔受講に必要なツールやサービスの利用にあたって、大学入学当初のオリエンテーションにより利用方法を訓練することも重要なポイントである。

7 企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

7-1 海外語学研修

ア.実習先の確保の状況

本学では、複数の海外大学及び語学学校と連携し、学生に語学研修の機会を提供している。令和 4 年(2022)年度の派遣機関は、以下の 5 校で、国や地域、プログラムの特色、費用等学生の希望に応じた選択が可能となっている。本学では単位認定の取り決めを順守しながら、学生のニーズの変化に応じて、派遣先を見直す等の対応を随時実施している。

(1) 派遣型

- ・ GLC(Global Language Cebu)【フィリピン・セブ】／個人参加形式(1人から実施)
- ・ CCEL(Canadian College of English Language)【カナダ・バンクーバー】／個人参加

形式（1人から実施）

- ・ サンフランシスコ州立大学【アメリカ・サンフランシスコ】／個人参加形式（1人から実施）

（2） オンライン型

- ・ Nexus TALK【フィリピン・セブ】／個人参加形式（1人から実施）
- ・ ILAC【カナダ・トロント】／個人参加形式（1人から実施）
- ・ GLC(Global Language Cebu)【フィリピン・セブ】／個人参加形式（1人から実施）

イ.実習先との連携体制

全学部を対象に従来からの海外語学研修プログラムにおいて、複数の実習先を用意している。国際交流センターが担当し、日常的にメールや電話で連絡調整を行うほか、現地訪問により、受入機関担当者との打ち合わせ、施設整備の確認、周辺環境調査を実施し、受入機関として適切な運営が行われていることを確認している。

ウ.成績評価体制及び単位認定方法

「海外語学研修」の単位認定（2単位）に必要な時間数は、事前学習、現地研修、事後学習で合計90時間以上としている。また、成績評価は、現地受入機関発行の修了証等に加え、事前・事後学習の記録や学生から提出された報告書等の成果を総合的に勘案して、本学の語学担当教員が行う。

7-2 インターンシップ

ア.実習先の確保の状況

本学では、独自のインターンシップ制度を持ち、令和4(2022)年度の受入機関は47団体である。（【別紙資料5】「令和4(2022)年度インターンシップ受入機関」参照）この数字は、景気の動向等によって変動は見られるものの、例年ほぼ安定した運用が図られている。

情報科学部実世界情報学科の学生についても、既設の学部同様にこの制度を利用しながら、新たな学科ニーズに合致する企業を開拓する。実習期間は既存制度同様1週間以上（実質5日間以上）であり、時期は夏期に実施するのが一般的である。

イ.実習先との連携体制

インターンシップの実施に先立ち、活動の内容、安全確保等について、本大学と受け入れ先で協議する。参加学生には、事前学習において安全に関する注意喚起を行い、実習期間中の安全確保とリスク軽減に努める。実習期間中は、参加学生が担当教員と連絡ができる状況を確認し、不測の事態に対応できる体制を確保している。

ウ.成績評価体制及び単位認定方法

事前学習・事後学習の学習状況及び実習先での活動状況、実習担当者からの評価、日誌、体験報告書、レポート作成提出、体験発表の内容等から総合的に評価する。

8 取得可能な資格

実世界情報学科では、以下の資格（免許）が取得可能である。

<取得可能な資格>

資格(免許)名	国家資格か、民間資格か	資格取得が可能か、受験資格の取得が可能か	資格取得が卒業要件なのか、追加して科目履修する必要があるか等
中学校教諭一種免許（数学）	国家資格	必要な教職単位を履修することで資格取得可能。	卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要。
高等学校教諭一種免許（数学）			
高等学校教諭一種免許（情報）			

また、以下の一般的な情報系の国家資格については、資格取得に関連のある科目も設けていることから、在学中または卒業後の受験と資格取得を奨励する。

<取得を奨励する資格>

(1) 基本情報技術者試験

「情報処理の促進に関する法律」に基づき経済産業省が、情報処理技術者としての「知識・技能」が一定以上の水準であることを認定している国家試験。「IT を活用したサービス、製品、システム及びソフトウェアを作る人材に必要な基本的 知識・技能をもち、実践的な活用能力を身につけた者」を対象とする。

(2) 応用情報技術者試験

「情報処理の促進に関する法律」に基づき経済産業省が、情報処理技術者としての「知識・技能」が一定以上の水準であることを認定している国家試験。「IT を活用したサービス、製品、システム及びソフトウェアを作る人材に必要な応用的 知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立した者」を対象とする。

(3) エンベデッドシステムスペシャリスト試験

「情報処理の促進に関する法律」に基づき経済産業省が、情報処理技術者としての「知識・技能」が一定以上の水準であることを認定している国家試験。「高度 IT 人材として確立した専門分野をもち、IoT を含む組込みシステムの開発に関係する広い知識や技能を活用して、市場動向・関連業界の動向を踏まえて最適な組込みシステムの事業戦略や製品戦略を策定し、ハードウェアとソフトウェアの要求仕様の策定、及び要求仕様に基づいた組込みシステムの設計・構築・製造を主導的に行う者」を対象とする。

9 入学者選抜の概要

9-1 実世界情報学科のアドミッション・ポリシー及び受け入れる学生像

現実社会にある課題に取り組むためには、問題が発生している実世界の空間的状況や時間的変化を把握したうえで、人への情報提示や機器の制御によって問題の解決を図っていく必要がある。実世界情報学科は様々なセンサによる実世界情報の収集と伝送、認識と理解に基づく実世界情報の可視化や自動機器の制御を行う一連の技術を習得させ、現実的に課題を解決していける実世界情報のプロフェッショナルを育成する。

<求める人物像>

- (1) 持続可能な社会を目指すうえで取り上げられている様々な課題に関心がある人【AP1】
- (2) 情報技術に関心を持ち、机上の知識ではなく実際に応用することに意欲のある人【AP2】
- (3) 技術者の社会的責任について理解し、それを誠実に遂行しようとする倫理観を持つ人【AP3】
- (4) 多様な人々と協働してプロジェクトを推進する力を身につけたい人【AP4】

<入学前に学習しておくことが望ましい内容>

実世界情報学科に入学するまでに、以下に記した能力を身につけておくことを求める。

- (1) 現実の問題を抽象化して数学的に表現するとともに、基本概念や法則を活用して論理的に考察し数学的に処理する能力を有していること。【AP5】
- (2) 物理、化学、あるいは生物に関し、各々に関する現象をその背後にある理論を理解したうえで筋道立てて論理的に説明できること。【AP6】
- (3) 実世界の情報や情報社会の特性、ならびに政治、経済、国際情勢等の社会問題に関する基礎的知識を有していること。【AP7】
- (4) 基本的な英文の読解力・語彙力・文法力を有すること。また、平易な英文を用いて意思を伝え、相手の意図を理解できる基本的なコミュニケーション能力を有していること。【AP8】
- (5) 国語は、基本的な読解力と論理的な文章の作文力を有すること。【AP9】

9-2 学生募集の概要

本学科の入学者選抜は「大学入学者選抜実施要項」に基づき、大学教育を受けるに相応しい能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価し、公正かつ妥当な方法で次の趣旨に沿って実施する。入学者選抜の実施にあたっては、本学科のアドミッション・ポリシーに基づき、学力検査、適性検査、大学入学共通テスト、面接、書類審査等を入学者選抜ごとに組み合わせて行う。入学者選抜の多様化を図るため、次の(1)～(4)の方法により本学科で学ぶに相応しい学生を選抜できるよう計画し、科目等履修生の受け入れについては、次の「10-3 科目等履修生の受け入れ」のとおり実施することを計画する。全ての入学者選抜にお

いて、AP を全て満たしているかを確認するが、各入学者選抜において特に重視する AP の内容は、入試名称の後に記す。

(1) **総合型選抜 A O入試** [募集人員：2 人 (入学定員比率 2.50%)] (求める人物像：AP1～4 / 入学前の学習：AP7)

高等学校在籍時の多様な活動や経験を通して身につけた能力や豊かな人間性等を積極的に評価する。また、高等学校で本学が定めた基準以上の成績を取めていることを出願要件の一つとし、全教科または特定教科の学習成績の状況 (評定) による基準を定め、入学後の学びで必要となる基礎学力を求める。1 次選考では面接及び書類審査を課し、様々な活動や経験を通してどのような能力を身につけてきたか、人間的な成長を遂げたかを評価する。2 次選考では書類審査を課し、本学で学ぶ意思と入学後のビジョン等を評価する。

(2) **学校推薦型選抜** [募集人員：計 35 人 (入学定員比率 43.75%)]

①**公募制推薦入試** [募集人員：20 人] (求める人物像：AP1～4 / 入学前の学習：AP5、8～9)

適性検査 (素養を問う簡単なテスト) により選考を行い、出題教科・科目については本学科の特性を考慮して決定する。素養を問う簡単なテストでは、高校教科書の内容の正確な理解を求めるほか、一部の科目については記述式問題を出題し、単なる知識として問うだけではなく、思考力や表現力も評価する。

②**普通科高校特別推薦入試** [募集人員：2 人] (求める人物像：AP1～4 / 入学前の学習：AP5～9)

高等学校在籍時に普通科教育を中心としたカリキュラムを受講した者を対象とし、適性検査 (素養を問う簡単なテスト) 及び面接により総合的に選考を行う。また、高等学校で本学が定めた基準以上の成績を取めていることを出願要件の一つとし、全教科または特定教科の学習成績の状況 (評定) による基準を定め、入学後の学びで必要となる基礎学力を求める。素養を問う簡単なテストでは入学後の学びで必要となる基礎学力等を評価し、面接では本学で学ぶ意思や入学後のビジョン等を評価する。また、一定レベル以上の英語資格等保持者や情報処理技術者試験合格者に対し、資格・検定試験に取り組んだ主体性も評価する。

③**専門高校特別推薦入試** [募集人員：2 人] (求める人物像：AP1～4 / 入学前の学習：AP5～9)

高等学校在籍時に工業、商業、情報等に関する専門教育を受けた者を対象とし、適性検査 (素養を問う簡単なテスト) 及び面接により総合的に選考を行う。また、高等学校で本学が定めた基準以上の成績を取めていることを出願要件の一つとし、全教科または特定教科の学習成績の状況 (評定) による基準を定め、入学後の学びで必要となる基礎学力を求める。素養を問う簡単なテストでは入学後の学びで必要となる基礎学力を評価し、面接では本学で学ぶ意思や入学後のビジョン等を評価する。また、一定レベル以上の情報処理

技術者試験合格者に対し、検定試験に取り組んだ主体性も評価する。

④**女子特別推薦入試** [募集人員：2人] (求める人物像：AP1～4/入学前の学習：AP5～9)

高等学校在籍時に普通科教育を中心としたカリキュラムを受講した女子を対象とし、適性検査(素養を問う簡単なテスト)、面接及び書類審査により総合的に選考を行う。また、高等学校で本学が定めた基準以上の成績を取めていることを出願要件の一つとし、全教科または特定教科の学習成績の状況(評定)による基準を定め、入学後の学びで必要となる基礎学力を求める。素養を問う簡単なテストをでは入学後の学びで必要となる基礎学力を評価し、面接では本学で学ぶ意思や入学後のビジョン等を評価する。また、書類審査では本学科が指定する課題を課し、思考力、判断力、表現力等を評価する。加えて、一定レベル以上の英語資格等保持者や情報処理技術者試験合格者に対し、資格・検定試験に取り組んだ主体性も評価する。

⑤**その他(指定校推薦入試、内部推薦入試)** [募集人員：9人] (求める人物像：AP1～4/入学前の学習：AP5～9)

本学への強い入学意思を持った者を対象とした専願制の推薦入試で、高等学校で本学が定めた基準以上の成績を取めていることを出願要件の一つとし、全教科及び数学の学習成績の状況(評定)による基準を定め、入学後の学びで必要となる基礎学力を求める。選考は面接及び書類審査を課し、本学で学ぶ意思と入学後のビジョンに加え、思考力、判断力、表現力、主体性や多様性、協働性等を総合的に評価する。

(3) **一般選抜** [募集人員：計43人(入学定員比率53.75%)]

①**本学独自試験を課す一般選抜** (求める人物像：AP1～4/入学前の学習：AP5～9)

学力検査により選抜を行い、出題教科・科目については本学科の特性を考慮して決定する。学力検査では、高校教科書の内容の正確な理解に加えそれらを応用できる能力を求めるほか、一部の科目については記述式問題を出題し、単なる知識として問うだけではなく、思考力や表現力も評価する。

①-①**一般入試前期A日程・AC日程** [募集人員：22人]

A日程は配点均一方式の3教科入試で本学独自の学力検査の合計得点(450点満点)のみ、AC日程はA日程の学力検査の得点に大学入学共通テストの得点を加えた合計得点(900点満点)で選抜を行う。

①-②**一般入試前期B日程・BC日程** [募集人員：11人]

B日程は高得点重視方式の3教科入試で本学独自の学力検査の合計得点(450点満点)のみ、BC日程はB日程の学力検査の得点に大学入学共通テストの得点を加えた合計得点(900点満点)で選抜を行う。

①-③**一般入試後期D日程・DC日程** [募集人員：4人]

D日程は3教科のうち得点の高い2教科による入試で本学独自の学力検査の合計得

点（300点満点）のみ、DC日程はD日程の学力検査の得点に大学入学共通テストの得点を加えた合計得点（600点満点）で選抜を行う。

②**大学入学共通テストによる一般選抜**（求める人物像：AP1～4／入学前の学習：AP5～9）

（一般入試前期C日程〔募集人員：4人〕、一般入試後期C日程〔募集人員：2人〕）

本学独自の学力検査を課さず、大学入学共通テストの成績により選抜を行う。利用科目の構成や配点の設定により、本学が求める様々な能力を評価する（400点満点）。また後期C日程では、外部英語検定試験を活用したみなし得点制度を導入し、英語の学力を多面的・総合的に評価する。

（4）その他の選抜

①**社会人入試**〔募集人員：若干名〕（求める人物像：AP1～4／入学前の学習：AP7）

高等学校または中等教育学校を卒業後3年以上の社会人としての経験（正社員またはアルバイト等として働いていた期間、社会的活動（NPO、NGO、ボランティア活動等）に参加していた期間、主婦としての期間を通算する）を有する者を対象とし、面接及び書類審査により総合的に選考を行う。選考では、本学で学ぶ意思や入学後のビジョン等を評価するとともに、社会人経験で培った人間性、入学後の学びで必要となる基礎学力等を評価する。なお、大学等で既修得単位のある者については、本学科の各授業科目に照らし単位認定を行う。

②**外国人留学生入試**〔募集人員：若干名〕（求める人物像：AP1～4／入学前の学習：AP5、7～8）

海外での異なる文化や環境で生まれ育った者を対象とし、適性検査（素養を問う簡単なテスト）に加え面接及び書類審査により総合的に選考を行う。選考では、入学後の学びで必要となる基礎学力等を評価するほか、本学で学ぶ意思や入学後のビジョン、日本語能力を総合的に評価する。なお、出願資格は以下のとおりとする。

日本語による授業が理解できる能力を有する外国籍の者（日本国内における永住許可を受けている者及び日本国籍を含む重国籍者は除く）で、次の各項のいずれかに該当し、かつ入学後は原則として「出入国管理及び難民認定法」による「留学」の在留資格を取得または更新できる者

- ① 外国において12年の学校教育の課程を修了した者及び2025年3月までに修了見込みの者
- ② 外国において高等学校に対応する学校の課程で文部科学大臣が別に指定するものを修了した者
- ③ 上記①に準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- ④ 上記①に準ずる能力を持つと本学が認めた者

【注意】志願者が外国人留学生であっても、次の場合は本入試には出願することができない。

- ・日本国内の高等学校を卒業した者（卒業見込者を含む）

本入試志願者には、出願時に日本語学習歴（日本語を学習した学校名及び学習期間、日本留学試験及び日本語能力試験の受験歴）を確認するほか、パスポート（写し）及び在留カード（日本国内居住者のみ）の提出を求める。また合格者（入学許可者）が海外在住の場合は、本人の希望により在留資格認定の代理申請手続きを本学が行い、その際「経費支弁に関する証明書」「経費支弁能力を証明する資料」を提出させる。

なお、入学後の在籍管理については、東京出入国在留管理局宛に、外国人留学生の在籍管理について「中長期在留者の受入れに関する届出」を提出し、外国人留学生の受入れの開始と終了を速やかに報告（名簿添付）しているほか、毎月、文部科学省に前月の退学者・除籍者・所在不明者の定期報告を報告している（該当者がいる場合は名簿添付）。

また、外国人留学生の在留期間更新や資格外活動、住所変更等について、諸手続きの怠りがないよう注意喚起をしており、在留期限やアルバイト先等の情報を把握・管理している。授業の出席状況や学業成績の良好でない者に対する面談と指導も行っている。

③帰国生徒入試【募集人員：若干名】（求める人物像：AP1～4／入学前の学習：AP7）

海外での学習経験を有する者を対象とし、面接及び書類審査により総合的に選抜を行う。選考では、海外での経験を通じて身につけた多様性や協働性、主体性のほか、本学で学ぶ意思や入学後のビジョン、入学後の学びで必要となる基礎学力等を評価する。

9-3 科目等履修生の受け入れ

自己啓発、業務上の知識修得、資格取得等の目的、また本学の授業に興味のある方を受け入れている。科目等履修生は、学修した授業科目につき単位を修得することができる。科目等履修生の募集については、大学ホームページにて掲載し、広く周知している。

2021年度～2023年度の科目等履修生の受け入れはない。

10 教育研究実施組織の編制の考え方及び特色

10-1 教員配置

基幹教員は、学校法人常翔学園の任用規定（【別紙資料 6】「任用規定」参照）に加えて、大阪工業大学教員選考基準（【別紙資料 7】「大阪工業大学教員選考基準」参照）に照らして任用される。実世界情報学科の基幹教員として13人を配置する。基幹教員13人は全て「専ら実世界情報学科の教育研究に従事する者で、主要授業科目を担当する者（基（主専）」であり、その職位別内訳は、教授7人、准教授4人、講師2人である。本学の他学部等の教員、学外の非常勤講師を含む基幹教員以外の教員は、87人である。

設置の趣旨、特色のある教育課程を実施するために次のような考え方で教員配置を行う。以下に教育課程を構成する科目区分ごとに教員の配置の考え方と主要授業科目への基幹教員の配置について述べる。

情報科学部では、カリキュラム・ポリシーのもとで豊かな人間性を養う教育を担う共通教育科目、自らが学ぶ専門分野の役割や重要性を把握するためのキャリア科目並びに情報科学の基礎となる数理科学科目（数学）について、学部を横断する基礎教育科目と位置づけ、5学科で共通の教育課程を編成してきた。実世界情報学科においても共通教育科目並びに数理科学科目（数学）を同様に位置づけている。

共通教育では、総合人間学系（「人文社会科学」「外国語」「健康・スポーツ科学」）、総合理学系（「科学技術史」「物理」「化学」「地学」「生物」「総合」）、キャリア科目という科目区分を用意しており、それぞれの専門分野をもつ基幹教員とその他の教員が講義を担当する。専門科目の数理科学科目（数学）についても各科目の教授内容を専門分野に持ち、他学科に所属する基幹教員と非常勤講師が講義を担当する。

専門基礎科目は、コンピュータやネットワーク等の情報科学に関する基礎的科目群と、実世界からの情報収集、実世界を理解するため画像処理、人工知能といった先進技術を理解するための基礎を学ぶ科目群からなる。後者は、実世界情報学科の学びの特色となる実世界とのインタラクション技術に関わる科目であり、主要授業科目として基幹教員を配置する。また前者の中でも特に実世界とのインタラクションの基礎技術に関連したハードウェア（「コンピュータ入門」「デジタル回路Ⅰ」「デジタル回路Ⅱ」）、ソフトウェア開発（「データ構造とアルゴリズム」「情報通信ネットワーク」「オペレーティングシステム」「ソフトウェア工学Ⅰ」「情報セキュリティの基礎」）を主要授業科目とし、その担当に基幹教員を配置する。これら以外の科目は他学科でも同内容で基礎科目として開講しているものが多く、他学科の教員との共同担当で、あるいは兼担で実施するべく他学科の基幹教員も配置する。

基幹科目は実世界情報学科の学びの特色となる実世界とのインタラクションに関わる科目であり、ほぼ全ての科目を基幹教員が担当する。

なお、基幹科目の「情報技術者論」は、実践的情報技術者が理解し、具備すべき情報技術者の社会的役割、職業倫理、情報に関わる実際の現場での仕事について学び、生涯の自己学習能力を身につけることを目的とする科目であり、主要授業科目（必修科目）として位置づけている。なお、本内容は本学で情報科学を学ぶ全員が共通して学ぶべき内容として、情報科学部全学科共通して、共通科目として設定している。そのため当該科目は基幹教員と他学科の基幹教員が合同担当することとしている。

また、基幹科目の「情報ゼミナール」も情報科学部全学科に共通して主要授業科目（必修科目）となるが、この科目は全基幹教員が担当し、学生は各研究室に配属され、それぞれ教員が持つ多様な実世界情報分野のプロジェクト活動、プレ卒業研究活動に従事する。

応用科目は、目指す人材像を想定して高学年次に、より専門的な観点で自由に選べる選択科目で構成しており、教授内容を専門分野に持つ基幹教員、並びに他学科の基幹教員が担当する。

演習科目の中で「C 演習Ⅰ」「C 演習Ⅱ」「Java 演習」は、情報科学並びに実世界情報技術の基盤として身につけるべきプログラミング演習科目である。加えて、基幹科目や応用科目

での学びを実践する「実世界情報基礎演習」「実世界情報専門演習」は実践力を涵養する重要な演習科目である。これらの演習科目は、主要授業科目と位置づけ、基幹教員が担当する。より広いソフトウェアの演習を行う「ソフトウェア工学演習」は、情報科学部全学科に共通的な内容であり、基幹教員及び他学科の基幹教員を配置している。

10-2 中心となる研究分野

実世界情報学科の基幹教員が実施する研究分野は、広くはサイバーフィジカルシステム(CPS: Cyber Physical Systems)の研究開発分野の範疇にあり、センサで収集した実世界の多様な情報や環境情報をサイバー空間で分析し、実際の課題解決方法をマイニングし、それらをドローンやロボット等の自動機器へフィードバック制御するという一貫した実世界インタラクション技術の研究開発、その技術を実社会に応用して様々な課題解決するための応用技術の研究開発が中心となる。すなわち、実世界の視覚的な情報取得と認識を行うコンピュータビジョン、実世界の視覚以外の情報取得と認識を行う IoT システム、実世界の制約条件に合わせた飛行・走行の制御を行うドローン・ロボット制御、実世界から取得した情報と人間の指示に基づいて具体的なドローン・ロボット等の行動計画の立案、デジタルツイン上におけるシミュレーション等が研究テーマとなる。実世界情報学科を構成する基幹教員は、高度な情報技術とソフトウェア技術に精通しており、それぞれが IoT、センシング、ロボティクス、ネットワーク、AI、セキュリティ等の専門分野での研究業績を有しており、これらの研究テーマに取り組むこととなる。

10-3 教員の年齢構成

本学においては、教員人事計画の基本方針は、学長が大学・大学院運営会議において示し、審議の上、決定される（【別紙資料 8】「令和 7（2025）年度 大阪工業大学教員人事について」参照）。今回設置を計画している実世界情報学科の教員組織について、開設年度における年齢構成は、30代 1 人、40代 5 人、50代 6 人、60代 1 人であり、完成年度においても、30代 1 人、40代 2 人、50代 7 人、60代 3 人であり、年齢の偏りのないバランスの取れた教員組織となっている。教員の定年については、本学の「学校法人常翔学園就業規則」において 65 歳と定められており、完成年度である 2028 年度 3 月 31 日までに定年を迎える教員はいない。（【別紙資料 9】「学校法人常翔学園就業規則」参照）

10-4 教育研究活動等の運営や厚生補導等における組織的な連携体制

教育研究活動等の運営や厚生補導等の学部運営については、情報科学部内に教務担当委員会、学生担当委員会、キャリア支援委員会等、各種の委員会が設置されており、実世界情報学科を含む全学科から教員が委員として運営業務にあたる。一部の委員会には事務職員が委員として参加する。また、学部内の各種委員会間の連携を取れるように、学部長、学科長、教育センター長等の役職者を構成員とする自己評価・IR 委員会、教授会、学科長会議

で情報共有と学部運営の意思決定が行われる組織的な連携体制をとる。また、各学科の基幹教員は、学科事務室、学部事務室と連携して学生の厚生にあたる体制が構築されている。

1.1 研究の実施についての考え方、体制、取組

<実施体制・環境整備>

実世界情報学科の基幹教員は、それぞれが実世界インタラクションの要素技術や応用技術の研究開発を行うこととなり、その技術を実社会に応用して様々な課題解決することが研究分野の中核となる。研究開発の性格としては、いずれも実世界（実社会）へ実装し、実際の課題解決に資するシステムを指向した研究開発となる。したがって学外の企業、研究機関との共同研究への発展を積極的に推進していくこととなる。その為に、研究コーディネーターと技術コーディネーターを配置し、共同研究の発展と知財の両面にわたり研究者をサポートする体制となっている。

さらに、単独研究、複数の基幹教員での共同研究が柔軟に実施できる体制をとっており、基幹教員はそれぞれの専門分野を総合した実世界インタラクションシステムに関する研究に従事することとなる。このような連携は、学科内にとどまらず他4学科の基幹教員との共同研究体制を構成することも可能で、各学科の得意とする専門分野の融合領域の研究に発展させることができる。そこに学生が参画することで実践的な実世界情報プロフェッショナルの養成となる教育と連携させる。

実世界情報学科の基幹教員には、「情報ゼミナール」「卒業研究」、大学院生の研究を実施するための研究室とゼミ室がそれぞれ一室割り当てられており、ソフトウェア開発や室内実験や勉強会等を実施する環境が整備されている。

基幹教員が単独あるいは連携して実施する研究には、卒業研究を通じて学部生あるいは修士研究を通じて大学院生が参画し、基幹教員から研究指導を受ける体制が取られる。学部生は、卒業研究の開始以前の3年次必修科目である「情報ゼミナール」で各研究室に配属され、卒業研究につながる演習・実習やチームで実施するプロジェクト活動を通じて各基幹教員から個別指導を受ける。このように従前から情報科学部の学部生は分散して各研究室に配属され指導を受けており、実世界情報学科においてもこの仕組みを導入する。

1 2 施設, 設備等の整備計画

1 2 - 1 校地・運動場の整備計画

本学は、大阪府大阪市に大宮校地（工学部・知的財産学部・工学研究科・知的財産研究科）（69,690.26 m²）、梅田校地（ロボティクス&デザイン工学部、ロボティクス&デザイン工学研究科）（4,648.29 m²）、京都府八幡市に八幡工学実験場（28,687.88 m²）、及び枚方第2校地（情報科学部・情報科学研究科）（148,529.00 m²）を整備し、地域・産業界・公的機関との連携により、社会や地域の課題解決を通じた社会貢献の拠点となり得る教育・研究を行っている。このように各校地が拠点であり続けるために、現在大宮校地では再開発が進められている。

枚方第2校地は、大阪市郊外に位置し、大阪府、京都府、奈良県の3県にまたがる関西文化学術研究都市に属する枚方市にある。大阪府内からの交通について、大阪市と郊外を結ぶ鉄道の拠点となる京橋からJR西日本の学研都市線と京阪電鉄の京阪本線に挟まれる丘陵地域にあり、JR西日本の学研都市線の長尾駅が最寄駅となっている。鉄路で約30分、長尾駅からは大学が契約している直通バスで7分程度である。このバスは、授業の開始、終了に合わせて、最寄駅と大学間を運行している。京都府から通学する際は、京阪電鉄の京阪本線、兵庫県・奈良県からはJR西日本の学研都市線が便利である。実世界情報学科を含む情報科学部は枚方第2校地を教育研究拠点としており、官公庁や企業と連携して情報系分野の共同研究等を行い、社会の自動化、デジタル化を推進する研究を行っている。既存の建物である1号館・2号館では、空調の更新、教室のAV機器の一部入替、学生が所有する個人端末を教育学習に用いる（BYOD：Bring Your Own Device）に対応した充電対応仕器の導入や照明のLED化等のインフラの整備更新を行い教育研究活動の場としての充実を図っている。今後も引き続き空調の更新や教室の設備（AV施設やBYODに対応した充電対応仕器導入）の充実を計画している。

また、実世界情報学科の開設前年度（2024年度）中に、枚方第2校地に情報科学部の実証実験施設「DXフィールド」を整備する。（【別紙資料10】「DXフィールド図面」参照）このDXフィールドは、縦31m、奥行38m、高さ19.7mの規模であり、100人収容できる多目的室を完備し、講義やミーティングに利用する。屋内練習場は、ドローンの免許取得にかかる要件を充たす広さであり、そこでは、実世界情報学科のドローンのプログラミングや飛行操作に関連する実習演習、授業を行うほか、雨天時の体育の授業等で活用することを計画している。

1 2 - 2 学生の休息場所等の整備状況

枚方第2校地1号館のエントランスホールやリフレッシュコーナーには椅子や飲料の自動販売機等を設置し、学生が休息場所として利用できるように、建物周辺にもベンチを設置している。エントランスホールは、学生が多く集う場所であるため、教育センターの教員を兼ねる情報科学部の教員が、学生からの勉学に関する質問に対応するコーナーを設け

ている。

同1号館北側1階にはカフェテリアKITAYAMA(866席)、2階には売店や食堂(ポエムKITAYAMA(72席))を設け、休息及び憩いの場そしてBYODパソコンの充電の場として提供している。また1号館・2号館や部室棟では無線LANを利用可能としている。

12-3 厚生補導施設の配置と利用計画について

運動場を大宮校地に24,610.77㎡、枚方第2校地に76,592.00㎡を整備し、体育や課外のスポーツ活動に役立てている。大宮校地には、ラグビー、アメリカンフットボール、陸上競技、サッカー、ソフトボール、テニス等の関連施設を整備し、枚方第2校地には、野球、陸上競技、サッカー、ラグビー、アーチェリー、テニス等の関連設備を整備している。

枚方第2校地は、全校地の中で最も運動場の面積が大きく、野球場として専用のOITスタジアムを整備し、ラグビー場も天然芝グラウンドを整備している。合宿施設と部室を併設した体育館(1,020㎡)、クラブハウス(475㎡)、更衣室棟(132㎡)を有し、運動場やOITスタジアム、ラグビー場や体育館は共用スペースとして授業や課外活動が共同で使用している。合宿所や部室は、課外活動団体の活動のほか地域住民のイベントにも利用されている。さらに、運動場においては地震や火災等の災害が発生した際の避難場所にも指定されている。

12-4 校舎等施設の整備計画

情報科学部の教育課程、個々の授業に適切なクラスサイズ等を実現するための教室数確保や、低年次から行う「基礎ゼミナール」に対応する各ゼミ室の整備等十分な環境を整えており、時間割編成上も問題はない。(【別紙資料11】「情報科学部実世界情報学科 時間割表」参照)詳細は次の「①教育研究施設・設備の整備」、「②情報科学部において使用する施設・設備」のとおりである。

① 教育研究施設・設備の整備

実世界情報学科を設置する情報科学部の教育研究に活用する施設・設備等としては、枚方第2校地に現存する建物(主として1号館(延べ34,489.26㎡)並びに2号館(延べ4,113.37㎡))の講義室、演習室、実験実習室、情報処理学習施設及び敷地を最大限に活用し、IoTセンシングデバイスを配置するとともに、そのデータを集約するための光ケーブルの更新、無線アクセスポイントやLAN回線の増強等通信環境を再整備する。また、取得データに基づくドローンやロボットを制御する演習が実施可能なDXフィールドの新設や、情報処理学習施設における教育用パソコンの更新等既存演習室・講義室・ゼミ室の設備補強を行う。情報科学部の教育研究施設の整備状況は②のとおりである。

また、設備整備の一環として実世界情報学科の開設前年度(2024年度)までに、教室の既存天吊りプロジェクター等旧年式のオーディオ・ビジュアルシステム、マイク等放送設備、BYODに対応するための電源供給コンセントを更新または補強する計画である。

② 情報科学部において使用する施設・設備

1) 共用施設

講義室 23室、演習室 7室、実験実習室 11室、情報処理学習施設 6室、語学学習施設 4室、図書館（延床面積 2,582.60 m²）1室

共用施設の主な設備、備品

室名	主な設備、備品
講義室 1～23	教材提示装置（プロジェクター、液晶モニター、ビデオデッキ、スクリーン、ホワイトボード等）、機器操作卓、机、椅子、音響装置（マイク、スピーカー等）、無線アクセスポイント、ICカードリーダー
演習室 1～7	机、椅子、ノートPC、ホワイトボード、プリンター
実験実習室 1～11	偏光顕微鏡、論理回路実習装置、デスクトップPC、机、椅子
情報処理学習施設 1～6	デスクトップPC、教材提示装置（プロジェクター、液晶モニター、ビデオデッキ、スクリーン、ホワイトボード等）、操作卓、机、椅子、音響装置（マイク、スピーカー等）、無線アクセスポイント、ICカードリーダー
語学学習施設 1～4	デスクトップPC、ヘッドフォン、録画装置、机、椅子、無線アクセスポイント、ICカードリーダー
図書館	リスニング装置、机、椅子、書架、視聴用ブース

2) 実世界情報学科専用施設

研究室 13室、演習室 13室

実世界情報学科専用施設の主な設備、備品

室名	主な設備、備品
研究室 1～13	机、椅子、キャビネット、デスクトップPC、ノートPC、タブレットPC、ワークステーション、ホワイトボード
演習室 1～13	机、椅子、キャビネット、デスクトップPC、ノートPC、タブレットPC、スマートフォン、プリンター、ロッカー、プロジェクター、ホワイトボード

実世界情報学科専用の研究室、演習室は1号館と2号館の3～6階に配置する。同学科でまとめるのではなく他学科と隔たりなく配置することで、他学科とのコミュニケーションの機会を円滑に提供できるように整備する。また、オフィスアワーについては、教員の研究室で行うこと、事前に学生が教員に予約することにより、秘匿性は担保されている。

12-5 図書等の資料及び図書館の整備計画

① 図書館の整備

本学図書館は、大宮校地に大宮本館、梅田校地に梅田分館、枚方第2校地に枚方分館の3館で構成されている。各図書館は、図書館システムサービスにより情報を共有し、学内外からの相互利用（相互貸借及び文献複写等）を可能にしている。

実世界情報学科の設置地である枚方第2校地の枚方分館は1号館3階に位置する。ブックシェルフコーナー、ライブラリーパーク、ブラウジングパーク、AVパーク、リスニングコーナーで構成されており、学生が利用している。4階には学修支援の一環として、「ラーニングcommons」を設置し、授業や自習、グループや個人等多様な学修ニーズに応え、それぞれの学修スタイルに合わせた利用の場を提供している。

② 整備計画冊数等について

新設する実世界情報学科を含め、情報科学部所属学生等が使用する枚方分館の図書収納可能数は160,000冊である。情報科学部の開設は平成8(1996)年4月で、データサイエンス学科、情報知能学科、情報システム学科、情報メディア学科、ネットワークデザイン学科がすでに設置されており、蔵書数は令和5(2023)年3月現在、専門図書と一般図書合わせて72,111冊（和書56,059冊、洋書16,052冊）である。なお、蔵書のうち6,438冊（令和5(2023)年3月現在）は研究室保管であるが、卒業研究を行う学部生・大学院生等も必要に応じて利用可能である。今後も、新設学科での学修の基礎となる数学、統計学、情報科学領域を中心に既設学科と図書資料を共有し、年次進行に合わせて資料の整備・充実を図る。

また、大宮校地、梅田校地に設置している工学部及びロボティクス&デザイン工学部には、学問領域において情報科学部と関連性を有しており、後述の学園内定期連絡便により、大宮本館、梅田分館所蔵資料についても原則翌開館日には資料が届く体制を整えている。

令和5(2023)年度現在、学術雑誌については、既設各学科で【別紙資料12】「令和5(2023)年度学術雑誌購入一覧」のとおり購入している。そして枚方第2校地で教員が個別に契約しているデジタルデータベースは3種、電子ジャーナルは26誌ある。さらに大宮本館で契約しているデジタルデータベースのうち、枚方分館含む3校地で利用可能なものは学部・専攻が個別で契約しているものを含め次のとおり全部で9種である。（ID・パスワード発行を受けた登録者のみ利用可能を含む）。図書・文献の検索ツールとして「JDream3」「Scopus」、新聞・雑誌記事の検索ツールとして「朝日新聞クロスサーチ」「日経テレコン」「日経BP記事検索サービス」、辞書・辞典として「ジャパンナレッジ」、その他のデータサービスとして「官報情報検索サービス」「理科年表プレミアム」、個別の学部・専攻が契約している「ScFinder-n」がある。

また、開設前年度の図書購入費だが、旧学科(ネットワークデザイン学科)において購入しているため、学内の経理手続き上0千円となる。

③ 図書館の閲覧室、閲覧席数、レファレンス・ルーム、検索手法等

枚方分館には、3階図書館（面積：1,620.21 m²）と4階ラーニングコモンズ（面積：423.04 m²）を設置している。閲覧席数は、3階に173席、4階ラーニングコモンズでは、グループ学習エリアに70席、プレゼンテーションブースに20席、ソファークォーターが25席、PC自習コーナーが11席で合わせて299席であり、新設学科完成時点の収容定員1,965人（学部1,870人、研究科95人）に対する閲覧席数比率は15.2%である。

学生向けOPAC（所蔵検索）端末を3階に10台設置しているが、OPACはキャンパス内に限らずインターネットを通じて学外からもアクセス可能であり、自宅等からでも資料検索できる。また、貸出利用状況の確認・貸出延長手続・予約・複写依頼・貸借依頼を行うことも可能である。

④ 他の大学図書館との協力体制

大宮本館、梅田分館及び同一法人の摂南大学図書館（大阪府寝屋川市、枚方市：蔵書約55万冊）、広島国際大学図書館（広島県東広島市、呉市：蔵書約23万冊）と図書館システムのデータを共有しており、自館に所蔵がない図書や学術雑誌については図書館システムからオンラインで複写や相互貸借が申込可能となっている。枚方分館、大宮本館、梅田分館及び摂南大学の各キャンパス間では、学園内定期便を毎日運行している。また、遠隔地にある広島国際大学についても、定期的に運送業者に書類等配送を委託しており、手配した資料は迅速に入手可能である。

学園内以外の他大学・外部機関に対する複写・相互貸借については、国立情報学研究所のCAT/ILLシステムを昭和61(1986)年から導入しており、日本国内の主な大学・研究機関との相互貸借や複写依頼が可能である。また、海外の図書館とは、個別に複写依頼が可能である。他大学等に対する複写料金・相互貸借送料の決裁に関しては、国立情報学研究所文献複写、現物貸借相殺制度に参加することにより、処理時間や振込手数料の面からも、利用者・他大学負担を最小化している。

1.3 管理運営

本学の全学部に通ずる重要事項を協議、審議する機関として「大阪工業大学大学・大学院運営会議」を設けており、構成員は学長、副学長、研究科長、学部長、教務部長、学生部長、図書館長、情報センター長、事務局長、入試部長、キャリア支援部長、国際交流センター長、教育センター長からなる。月1回定例開会し、必要に応じ臨時の会議を開催することがある。

具体的な審議事項としては以下のとおりである。

- イ 学生の入学ならびに卒業および課程修了にかかる基本方針に関すること
- ロ 年間行事予定に関すること
- ハ 教育課程の編成にかかる基本方針に関すること

- ニ 教育研究上の重要な事項および教育研究の振興に関すること
- ホ アセスメント・ポリシーの策定に関すること
- へ 規定の制定・改廃に関すること
- ト 教員の留学に関すること
- チ 名誉教授の称号授与等に関すること
- リ 理事会に付議する案件(教員の任免を除く)に関すること
- ヌ 学長が諮問した事項に関すること
- ル その他管理運営上の重要な事項に関すること

(【別紙資料 13】「大阪工業大学大学・大学院運営会議規定」参照)

また、教授会は各学部には所属する学部長、教授、選任された准教授を構成員として、月 1 回程度定例開会し、必要に応じ臨時の会議を開催している。

具体的な審議事項としては以下のとおりである。

- イ 学生の入学および卒業に関すること
- ロ 学位の授与に関すること
- ハ 前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要と学長が定めるもの

教学に関する事項に与る機関としては「大阪工業大学教学推進委員会」を設けており、年間 10 回程度開会している。構成員は、教務部長、学部長・研究科長、教育センター長、教務部署担当課長職、その他必要に応じて学長が任命した者(若干名)から成り、同委員会の決定事項は学部長を通して各学部の教務委員会、教授会等に報告されている。

具体的な審議事項としては以下のとおりである。

- イ ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの策定に関すること
- ロ 教育改革および教育改善に関すること
- ハ 教育課程および教育内容に関すること
- ニ 数理・データサイエンス教育に関すること
- ホ 教養教育に関すること
- へ 年間授業計画に関すること
- ト 授業時間割の編成に関すること
- チ 履修制度、成績評価および卒業・修了資格等に関すること
- リ 学生の学修指導に関すること
- ヌ 教育技術の改善に関すること
- ル 高大接続教育に関すること
- ヲ その他学長が諮問した事項に関すること

(【別紙資料 14】「大阪工業大学教学推進委員会規定」参照)

1.4 自己点検・評価

1.4-1 実施方法・実施体制

本学の使命・目的を実現するために、教育研究や管理運営等の状況について、自ら点検・評価する「大阪工業大学自己評価・IR委員会」を組織している。

同委員会は学長が委員長となり、大学の教育研究及び管理運営上の重要な事項の審議機関である「大阪工業大学大学・大学院運営会議」の構成員にIRセンターのセンター長と副センター長を加えた委員会構成とし、さらに委員以外の事務系管理職を幹事とすることで、実効力を具備した組織としている。任務として、自己点検・評価のほか、外部評価、認証評価機関による第三者評価、内部質保証、点検・評価に係る情報の収集・分析及び提供があり、包括的に点検・評価を担っている。また、同委員会の下部組織として、各学部にも同名の委員会を設置し、全学の委員会で審議・報告された内容について、各学部の自己評価・IR委員会で審議・報告することとし、学長のリーダーシップのもと、全学で恒常的な自己点検・評価に取り組んでいる。

（【別紙資料15】「大阪工業大学情報科学部自己評価・IR委員会規定」参照）

1.4-2 評価項目

（1）認証評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）の評価基準項目

以下に記載の公益財団法人日本高等教育評価機構の評価基準項目について、自己点検・評価を実施している。

- ① 使命・目的等（領域：使命・目的、教育目的）
- ② 学生（領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応）
- ③ 教育課程（領域：卒業認定、教育課程、学修成果）
- ④ 教員・職員（領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援）
- ⑤ 経営・管理と財務（領域：経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計）
- ⑥ 内部質保証（領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル）

（2）中期目標・計画

建学の精神と教育の理念に基づき、長期ビジョン達成に向けた中期目標・計画を策定し、その進捗状況を年度ごとに確認している。学校法人常翔学園として共通の「基本10項目」である、①学生・生徒募集、②教育・研究、③学生支援、④進路・就職、⑤人事、⑥財務、⑦学校間連携、⑧ブランディング、⑨社会貢献、⑩グローバル化の各項目と、設置学校の個性・特色として重視している領域に関して「差別化項目」を設定している。

1.4-3 結果の活用・公表

自己点検・評価の結果は、「大阪工業大学自己評価・IR委員会」を通じて学内で共有している。全教職員で大学の現状を共有し、よりよい自己点検・評価とするため、実施体制と方法、評価項目、結果の活用等について定期的に見直し、改善方策を打ち出すとともに実行

へとつなげる体制を構築しており、継続的な教育研究、大学運営の改善を図っていく。

また、自己点検・評価の結果はホームページに掲載し、本学の現状を広く学外に公表している。なお本学は、令和5（2023）年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審している。

1 5 情報の公表

1 5 - 1 情報公表の方針・考え方

学校教育法第113条に基づき学校教育法施行規則第172条の2に示された事項及びその他の事項について、本学ホームページ上にて情報を公表している（【別紙資料16】「本学HPにおける公表情報及び掲載先一覧」参照）。掲載しているホームページのアドレスは以下のとおりである。

ア 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

[掲載場所]

大学紹介>情報の公表>1. 設置学部等の名称及び教育研究上の目的

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-01>

イ 教育研究上の基本組織に関すること

[掲載場所]

大学紹介>情報の公表>2. 教育研究上の基本組織

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-02>

ウ 教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

[掲載場所]

大学紹介>情報の公表>3. 教員組織、教育研究上の基本組織、各教員が保有する学位及び業績、教員の年齢構成、教職員数

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-03>

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

[掲載場所]

大学紹介>情報の公表>4. 入学者の受入、収容定員、在学者・卒業（修了）者の状況、進路、大学院進学率

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-04>

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

[掲載場所]

大学紹介>情報の公表> 5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-05>

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

[掲載場所]

大学紹介>情報の公表> 6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-06>

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

[掲載場所]

大学紹介>情報の公表> 7. 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-07>

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

[掲載場所]

大学紹介>情報の公表> 8. 授業料、入学料その他の費用

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-08>

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

[掲載場所]

大学紹介>情報の公表> 9. 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-09>

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規定，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認証評価の結果等）

・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

[掲載場所]

大学紹介>情報の公表> 5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-05>

・学則等各種規定

[掲載場所]

大学紹介>学則：大阪工業大学学則

https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html

大学紹介>学則：大阪工業大学院学則

https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_gradoit.html

・設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書

[掲載場所]

大学紹介>設置届出書、設置計画履行状況報告書

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/setti.html>

・自己点検・評価報告書、認証評価の結果

[掲載場所]

大学紹介>認証評価、自己点検・評価

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/ninsyohyouka.html#daigaku>

・学校教育法第 83 条の 2 第 2 項、第 99 条第 3 号及び第 108 条第 5 項

[掲載場所]

大学紹介>情報の公表>10. 専門職大学における、専門性が求められる職業についている者、当該職業に関連する事業を行う者等との協力の状況

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-18>

・大学院設置基準第 14 条の 2 第 2 項

[掲載場所]

大学紹介>情報の公表>11. 大学院における学位論文に係る評価に当たっての基準

<https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-19>

また、法令で定められた情報の公開にとどまらず、広く社会の意見を取り入れながら大学の諸活動改善に資するために、最新の情報をリアルタイムに提供する等本学ホームページを中心とした各種情報の発信を行っている。(http://www.oit.ac.jp)

1.6 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

全学的に教育力を増進するため「大阪工業大学 FD 委員会」を設置し、「大阪工業大学教育学推進委員会」及び各学部の委員会等と連携を図りながら、「FD・SD フォーラム」や「学生による授業アンケート」等の FD 活動を実施している。各学部内にも、「大阪工業大学自己評価・IR 委員会」等の FD 活動推進組織を設置して、フォーラムや検討会等の活動を実施している。さらに活発に FD 活動を推進するため、FD 委員会で各学部の FD 活動推進組織において蓄積された改善手法や内容等を総括することで、より全学的な取り組みに発展・運営できる体制を構築している。(【別紙資料 17】「大阪工業大学 FD 委員会規定」参照)

情報科学部では、教育課程に沿った教授方法の工夫・開発のため、FD WG を設け FD 活動を実施している。具体的には、学部の教職員全員を対象として年 1~4 回「FD フォーラム」を開催しており、オンラインツールを利用し多くの教員が参加できるように配慮している。授業技術を教員同士がお互いに学び合うことにより教育改善を図っている。その詳しい内容は以下の「16-1 FD・SD フォーラム」のとおりである。

1.6-1 FD・SD フォーラム

教職員全員を対象として年 1~3 回「FD・SD フォーラム」を開催しており、オンラインツールを利用し多くの者が参加できるように配慮している。また、FD 活動の一環として年 1 回程度学部独自の授業参観及び「FD フォーラム」についても実施している。授業技術を

教員同士がお互いに学び合うことにより教育改善を図っている。

毎年度、大学の FD 活動に関する記事を掲載した刊行物「FD NEWS」を作成し、本学ホームページに掲載している。「FD NEWS」には授業アンケートの集計結果を掲載しており、教育改善に活用している。また、学内からのみアクセスが可能である学内専用ページに、より詳細な集計結果を公表している。

情報科学部では 2022 年度は 4 回、2023 年度は 3 回のフォーラムを実施した。

<2022 年度>

- 第 1 回 ・ 学生生活実態調査アンケートについての検討
 - ・ 人文社会科学系科目におけるアカデミック・ライティング指導の現状と課題
- 第 2 回 ・ 桃山学院大学「大学レポート入門」におけるライティング教育の実情
- 第 3 回 ・ 過去 10 年分の学生の卒業・退学・除籍に至る傾向について
- 第 4 回 ・ 情報メディア学科・ネットワークデザイン学科でのライティング授業
 - ・ 入学時ライティング教育について

<2023 年度>

- 第 1 回 ・ 教育 DX と事務 DX～IS 科と OITDXWG の取り組みについて～
 - ・ 2023 年度「入学時ライティング教育」実施報告
- 第 2 回 ・ 2022 年度学生生活実態調査アンケートの結果報告
- 第 3 回 ・ AI 時代のメタバース教育を考える
 - ・ 情報科学部ライティング

16-2 教職員対象研修会

適切な大学運営に資するために、研修会やワークショップを開催している。

(1) キャンパスミーティング

キャンパスミーティングと称する学長室主催の研修会・情報共有会を、年に 2～3 回開催している。対象は、教育系・事務系職員（専任、特任、嘱託）全員で、平日の夕刻に実施している。当日の資料や撮影した動画はイントラネットで公開しており、授業や業務等で出席できなかった教職員が視聴できるようにしている。直近の主なテーマは「次年度学長方針」「入試結果と次年度の志願動向」「研究の現状」等である。

(2) 教職員のための学生対応勉強会

学生対応のための勉強会を学生部主催で毎年実施している。直近の主なテーマは「学生とのコミュニケーションに役立つ心理テスト」「発達障害のある学生に対する教学面における具体的支援について」「新型うつ病とは？その病態と支援の方法について」等である。

(3) ハラスメント防止研修会（隔年）

人権侵害防止委員会主催で、各種のハラスメントを防止するために、弁護士、関連 NPO、産業カウンセラー等の外部講師から、大学におけるハラスメントの具体例や予防法について学ぶ研修を実施している。

16-3 学生による授業アンケート

平成 12(2000)年度から毎年、全学部・研究科において「学生による授業アンケート」を実施している。平成 23(2011)年度からは、授業アンケートシステム (C-learning)を導入し、学生の携帯電話・スマートフォンを利用した記名式のアンケートを、開講する全授業科目で実施している。質問項目は、各授業における到達目標達成度の自己評価や教員の授業方法・運営についての評価のほか、自由記述項目を設けている。授業担当教員はリアルタイムで学生の回答(集計や自由記述内容)を閲覧することができる。教員は学生にコメントをフィードバックするほか、各質問項目の評価結果を教授方法や授業運営等の改善に役立てている。

平成 26(2014)年度からは、授業アンケートの集計結果及び当該授業科目の受講者数、成績分布、合格率等について学内ホームページで公表しているほか、「総合的に考えて、この授業を受講してよかったですか?」という設問(5段階評価)で学生が回答したポイント平均が 3.0 未満の授業科目については、「授業の自己評価と改善方策」を当該授業担当教員から学長宛に提出させている。

16-4 学外機関との連携

本学は大阪府教育委員会、守口市教育委員会、堺市教育委員会、大阪市旭区、大阪市北区、枚方市等と連携協定を締結し、高大連携事業や地域貢献事業を通じて、教育研究内容の向上及び活性化を図る取り組みも行っている。

17 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

17-1 教育課程内の取組について

既述のとおり、大阪工業大学を設置する学校法人常翔学園の建学の精神は、「世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する。」ことである。この精神に沿って情報科学部では、「情報技術を自在に駆使して社会の発展に貢献する『情報プロフェッショナル』の育成」を理念に掲げ、平成 8(1996)年に開設以来、多数の情報技術者を輩出してきた。

今般新設する実世界情報学科では、様々な IoT センシング技術とデジタル技術によって、実世界の状況をデータとして取得し、ヒト・モノ・環境の情報分析と可視化、生活空間の環境設備やロボット等の自動機器の制御(実世界インタラクション)により実世界の具体的な課題を解決できる実世界情報のプロフェッショナル人材を養成する。

情報科学部のカリキュラム・ポリシーにあるとおり、学部の「共通科目」として、「総合人間学系」「総合理学系」に関する教育を通して幅広い教養を身につけ、社会の多様化や高度情報化に柔軟に対応できる能力を育成する。さらに、「キャリア科目」区分を設定し、大

学での学修の動機付けを促し、社会人基礎力を養う。

情報技術の社会実装に必要な理論と手法の教育を担う学科として、実世界におけるデジタルトランスフォーメーションを特色とした教育プログラムを用意するとともに、地域に根差した産官学連携による実践的なプロジェクトへの参画及び既設4学科との連携により、地域課題の解決・新たな価値創造を行う実践的教育を行う。

また、情報技術やプログラミングを専攻する本学科の特性上、学科の授業科目自体が卒業後に就業して行う業務と直結していることが多く、本学科の専門科目は就業後の実践的科目としても開講している。

17-2 教育課程外の取組について

本学では、キャリア支援部が教員との連携の基、学生の進路支援を行う体制を取っている。3年次の4月から第1回就職ガイダンスを行い、その後、連続的に就職ガイダンス、関連する模擬試験、履歴書・エントリーシートの作成に関する指導等を行っている。【別紙資料18】「令和5（2023）年度就職行事と活動の流れ」参照

それと並行して、教員及びキャリア支援部員が学生と進路に関する面談を複数回に亘って行い、学生が望むキャリア形成の一步を踏み出せるように随伴する体制を敷いている。情報科学部実世界情報学科においても同様の取組みにより、学生の社会的・職業的自立を支援する。

また、産官学地域課題解決「ソーシャル・オープンイノベーションチャレンジ」として、一般的に多くの企業が抱えている業務課題や、行政が抱える地域課題をアイデアソン・ハッカソン形式で、企業・行政・大学の力を合わせて解決することを目的としたPBL（課題解決型学習）を実施している。これにより、大学の専門性を生かしてニューノーマル社会における新たな街づくりに向けて学際的に取り組むことで、ビジネスアイデア創出スキルを高めるためのアイデア発想のトレーニングの一助とし、学生の更なる成長を促している。

17-3 適正な体制の整備について

本学では、就職・進学に対する相談・助言の充実化と強化のため、全学的かつ組織的な支援体制を整えており、すべての学科・専攻に専属の担当職員を配置し、各学科・専攻のキャリア支援担当教員、卒業研究指導教員と連携を密に取ることで、全学的かつ組織的な支援体制を整備している。学則の定めにより「大阪工業大学キャリア支援委員会」を置き、キャリア支援部長及び学部・研究科等から選出された委員等によって、学生のキャリア教育、就職支援に関する方針等を審議している。また各学科でキャリア支援担当の教員を選出し、キャリア支援部キャリア支援課の職員、そして卒業研究の指導にあたっている教員が、緊密な協力関係をもって、一人ひとりの学生をきめ細かく対面で指導・支援しており、情報科学部実世界情報学科においても同様の体制となる。

[本学 HP (<http://www.oit.ac.jp/japanese/career/support.html>) より]



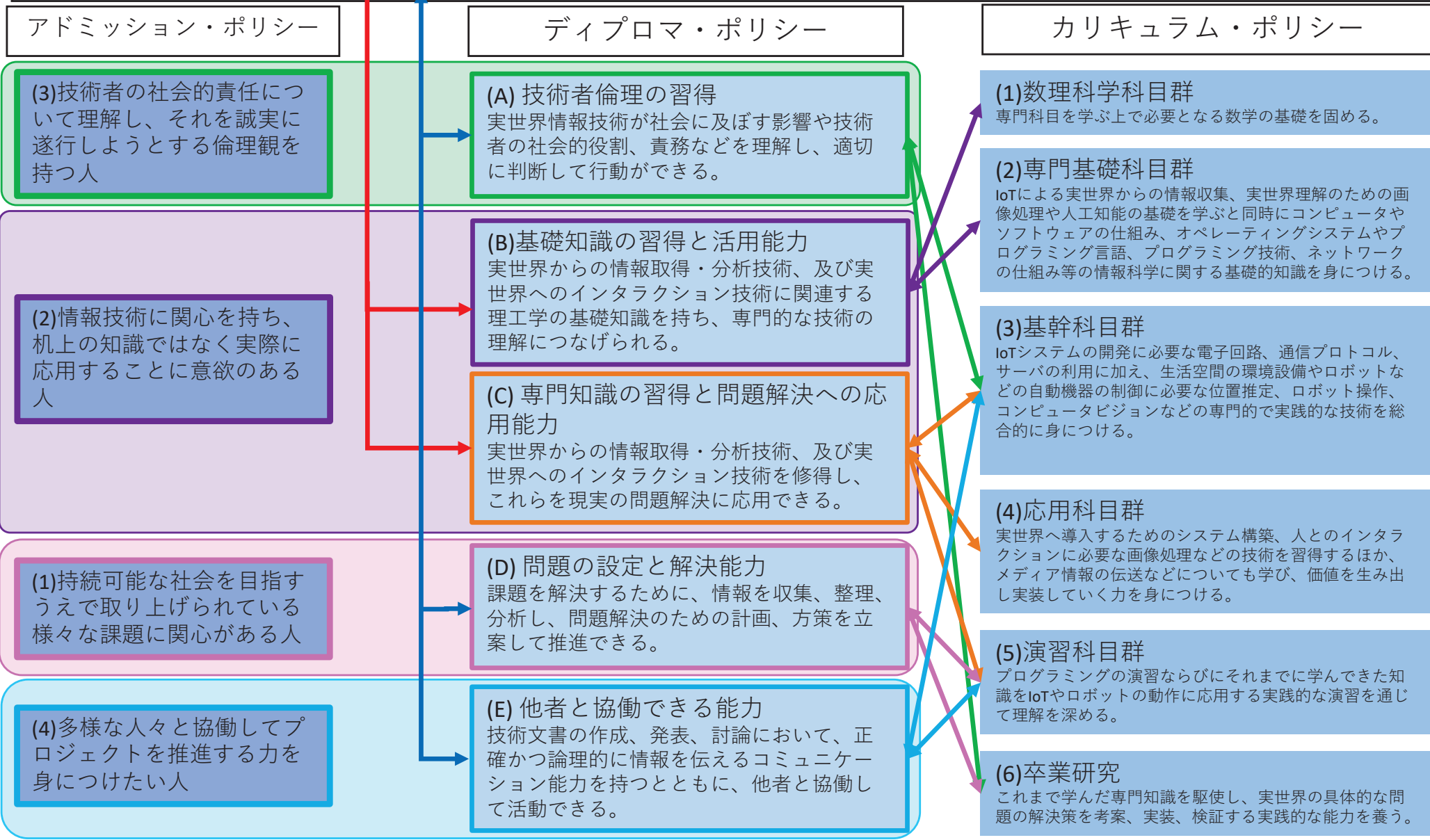
資料目次

[大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科]

【別紙資料1】	「養成する人材像と3つのポリシーの相関図」
【別紙資料2】	「情報科学部実世界情報学科カリキュラムマトリクス」
【別紙資料3】	「情報科学部実世界情報学科カリキュラムマップ」
【別紙資料4】	「教育課程及び履修モデル」
【別紙資料5】	「令和4（2022）年度インターンシップ受入機関」
【別紙資料6】	「任用規定」
【別紙資料7】	「大阪工業大学教員選考基準」
【別紙資料8】	「令和7（2025）年度 大阪工業大学教員人事について」
【別紙資料9】	「学校法人常翔学園就業規則」
【別紙資料10】	「DXフィールド図面」
【別紙資料11】	「情報科学部実世界情報学科 時間割表」
【別紙資料12】	「令和5（2023）年度 学術雑誌購入一覧」
【別紙資料13】	「大阪工業大学大学・大学院運営会議規定」
【別紙資料14】	「大阪工業大学教学推進委員会規定」参照
【別紙資料15】	「大阪工業大学情報科学部自己評価・IR委員会規定」
【別紙資料16】	「本学HPにおける公表情報及び掲載先一覧」
【別紙資料17】	「大阪工業大学FD委員会規定」
【別紙資料18】	「令和5（2023）年度就職行事と活動の流れ」

養成する人材像

様々なIoTセンシング技術とデジタル技術によって、実世界の状況をデータとして取得し、ヒト・モノ・環境の情報分析と可視化、生活空間の環境設備やロボットなどの自動機器の制御（実世界インタラクション）により
実世界の具体的な課題を解決できる実世界情報のプロフェッショナル人材を養成する。



情報科学部実世界情報学科カリキュラムマトリクス

- (1) 各種システムを開発することのできる専門能力
 ・数学・自然科学など理工系の専門基礎知識、およびソフトウェア・ハードウェア・システムに関する専門知識を持ち、情報社会のためのシステム開発に活用できる。〔理工系の基礎知識と専門的知識を活用する能力〕
 ・豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力や正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持ち、他者と協働して活動できる。〔豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力およびコミュニケーション能力〕
- (2) 自然と人間が共生する、豊かで安心できる社会の実現に必要な人間力
 ・自然、社会、文化に対する広い人間的素養を持ち、地球的視野で物事を考え行動できる。〔自然、社会、文化に対する広い人間的素養〕
 ・責任感、倫理観、実行力を持ち自律的に判断し行動できる。〔責任感、倫理観、実行力〕
 ・新しいものことへの強い関心・興味を持ち、自主的・継続的に学習することができる。〔自主的・継続的に学習する能力〕
- A) 実世界情報技術が社会に及ぼす影響や技術者の社会的役割、責務などを理解し、適切に判断して行動ができる。〔技術者倫理の習得〕
 B) 実世界からの情報取得・分析技術、及び実世界へのインタラクション技術に関連する理工学の基礎知識を持ち、専門的な技術の理解につなげられる。〔基礎知識の習得と活用能力〕
 C) 実世界からの情報取得・分析技術、及び実世界へのインタラクション技術を修得し、これらを現実の問題解決に応用できる。〔専門知識の習得と問題解決への応用能力〕
 D) 課題を解決するために、情報を収集、整理、分析し、問題解決のための計画、立案を立案して推進できる。〔問題の設定と解決能力〕
 E) 技術文書の作成、発表、討論において、正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持つとともに、他者と協働して活動できる。〔他者と協働できる能力〕

(DPを達成するために特に関連度が高い科目には◎、重要度の高い科目には○、DP達成を効果的に補助する科目には△)

分野	分野別到達目標	単位数	DP 1)	DP 2)	DP 3)	DP 4)	DP 5)	DP A)	DP B)	DP C)	DP D)	DP E)	目標累計 GP
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	34		△	◎	△		◎					
	外国語	21		◎	○							◎	
	健康・スポーツ科学	5			◎							◎	
共通科目・総合理學系	科学技術史	26	◎		○			◎	○				
	物理												
	化学												
	地学												
	生物												
総合													

分野	分野到達目標	単位数	DP 1)	DP 2)	DP 3)	DP 4)	DP 5)	DP A)	DP B)	DP C)	DP D)	DP E)	目標累計 GP
キャリア科目	自分自身の主体的な取り組みについて理解し、自律的な行動が取れる。さらに社会的な出来事への関心を高め、社会に対して自分がどの様に与えられるか考えることができる。そしてこれらを受け、自分自身の将来像を明確化した上で今後の勉学ならびに就職活動につなげることができる。	6		◎		◎	◎	○			○	◎	

分野	分野到達目標	授業科目名	単位数	DP 1)	DP 2)	DP 3)	DP 4)	DP 5)	DP A)	DP B)	DP C)	DP D)	DP E)	目標累計 GP	
数理科学	専門科目を学ぶ上で必要となる数学に関する基礎的知識を身につけたうえで、物理現象その他を数式で表現し計算することができる。	線形数学I	■2	◎						◎					
		線形数学II	2	◎						◎					
		微積分I	■2	◎							◎				
		微積分II	2	◎							◎				
		情報数学	■2	◎							◎				
		微分方程式	2	◎							◎				
		グラフ理論	■2	◎							◎				
		数理計画法	2	◎							◎				
		確率・統計	■2	◎							◎				
		コンピュータ入門	●2	◎						◎	◎	◎			
		実世界情報入門	●2	◎						◎	◎	◎			
		Unix入門	1	◎							◎	◎			
		シェルスクリプト入門	1	◎							◎	◎			
		コンピュータリテラシー	2	◎	◎						◎	◎			
		専門基礎	実世界のIoTによる情報収集、実世界理解のための画像処理や人工知能の基礎知識、およびコンピュータやソフトウェアの仕組み、オペレーティングシステムやプログラミング言語、プログラミング技術、ネットワークの仕組み等の情報科学に関する基礎知識を説明できる。	デジタル回路I	■1	◎						◎	◎		
デジタル回路II	■1			◎						◎	◎				
IoT概論	●2			◎							◎	◎			
テクニカルライティング	●2				◎						◎				
データ構造とアルゴリズム	■2			◎							◎	◎			
情報通信ネットワーク	●2			◎						◎	◎	◎			
人工知能	■2			◎						◎	◎	◎			
情報処理基礎	2			◎							◎	◎			
オペレーティングシステム	●2			◎							◎	◎			
ソフトウェア工学I	■2			◎							◎	◎			
画像情報処理	2			◎							◎	◎			
情報セキュリティの基礎	■2			◎						◎	◎	◎			
専門科目	IoTシステムの開発に必要な電子回路、通信プロトコル、サーバの利用に加え、生活空間の環境設備やロボットなどの自動機器の制御に必要な位置推定、ロボット操作、コンピュータビジョンなどの専門的で実践的な技術を理解し、説明できる。実世界情報技術の社会に及ぼす影響と役割を総合的に理解し、情報技術者として社会的責任を認識でき、適切な発信ができる。			ロボティクス	■2	◎						◎	◎		
				実世界計測	2	◎							◎	◎	
				IoTデータベース	2	◎							◎	◎	
		Webプログラミング	2	◎							◎	◎			
		コンピュータビジョン	2	◎							◎	◎			
		IoTサーバ構築	2	◎							◎	◎			
		IoT通信	■2	◎							◎	◎			
		情報技術者論	●2		◎	◎	◎			◎			◎		
		情報ゼミナール	●2		◎	◎	◎			◎			◎		
		ものづくり実習	1	◎							◎	◎			
		システムプログラム	2	◎							◎	◎			
		ソフトウェア工学II	2	◎							◎	◎			
		ヒューマンインタフェース	2	◎							◎	◎			
		ロボット対話システム	2	◎							◎	◎			
		メディア通信概論	2	◎							◎	◎			
演習科目	専門基礎科目群、基幹科目群で学んだ要素技術に関連する演習を通じて、基本的なIoTシステム、ドローン・ロボット制御システムの開発を行える力を身につけている。	情報科学実践演習(国際PBL)	1	◎	◎	○	◎			◎	◎	◎	◎		
		情報科学実践演習(国内PBL)a	1	◎	◎	○	◎						◎		
		情報科学実践演習(国内PBL)b	1	◎	◎	○	◎							◎	
		C演習I	●3	◎							◎	◎			
		C演習II	■3	◎							◎	◎			
卒業研究	与えられた課題に対し目標、制約条件を整理した上で、情報技術を駆使して課題解決の方法を提案し、それを具現化する計画の立案ならびに継続的活動により計画内容を達成することができる。またその結果を文書化するとともに、プレゼンテーションをすることができる。	Java演習	■3	◎						◎	◎				
		ソフトウェア工学演習	2	◎						◎	◎				
		実世界情報基礎演習	●2	◎	◎						◎	◎	◎		
		実世界情報専門演習	●2	◎	◎						◎	◎	◎		
		実世界情報応用演習	2	◎	◎						◎	◎	◎		

(注) イ. 単位数の前に●を付した授業科目は必修科目
 ロ. 単位数の前に■を付した授業科目は選択必修科目
 ハ. 卒業研究は、合格を卒業要件に定めており、単位を設けていない

教育課程及び履修モデル

I ライフライン運営モデル

鉄塔や土管など各地のフィールドに配置されている設備の遠隔からの監視ができる技術者

【教育課程】

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎		2				
		社会学基礎		2				
		情報社会論		2		○		
		倫理学基礎		2				
		応用倫理学		2			○	
		日本の歴史		2				
		人類の歴史		2				
		文学基礎		2				
		観る文学		2				
		言語学基礎		2		○		
		日本国憲法		2				
		法学基礎		2			○	
		情報法学		2				○
		経済学基礎		2				
		現代経済論		2				
		心理学基礎		2			○	
	人間発達と人権		2					
	外国語	英語表現(basic1)a		1		○		
		英語表現(basic1)b		1		○		
		英語の語法		2				
		口語英語 I a		1		○		
		口語英語 I b		1		○		
		英語による情報技術 II		2				○
		英語表現(basic2)a		1				
		英語表現(basic2)b		1				
		口語英語 II a		1				
		口語英語 II b		1				
		英語による情報技術 I a		1			○	
		英語による情報技術 I b		1			○	
		英語演習		1				
		海外語学研修		2				
		日本語 I		2				
	日本語 II		2					
	健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a		1		○		
		基礎スポーツ科学b		1			○	
		健康科学		2				
		スポーツ科学実習		1				
	共通科目・総合理学系	科学技術史	科学史		2			
		物理	物理学基礎		2		○	
			物理現象の数理		2			○
			力学		2		○	
			電磁気学		2		○	
現代物理学入門				2				
化学		化学基礎		2				
		環境情報科学		2		○		
地学		地球科学基礎		2				
		地球環境		2		○		
生物		生命科学基礎		2				
		情報生命科学		2		○		
総合		視る自然科学		2				
キャリア科目		基礎ゼミナール		1		○		
	キャリアステップ		1					
	キャリアデザイン I		1			○		
	キャリアデザイン II		1					
	グローバルテクノロジー論		1					
	OIT概論		1					

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目	数理科学	線形数学Ⅰ		2		○		
		線形数学Ⅱ		2				○
		微積分学Ⅰ		2		○		
		微積分学Ⅱ		2				○
		情報数学		2			○	
		微分方程式		2		○		
		グラフ理論		2			○	
		数理計画法		2				○
		確率・統計		2				○
専門基礎	コンピュータ入門	2			○			
	実世界情報入門	2			○			
	Unix入門		1		○			
	シェルスクリプト入門		1		○			
	コンピュータリテラシー		2		○			
	デジタル回路Ⅰ		1		○			
	デジタル回路Ⅱ		1					
	IoT概論	2			○			
	テクニカルライティング	2			○			
	データ構造とアルゴリズム		2				○	
	情報通信ネットワーク	2				○		
	人工知能		2			○		
	情報処理基礎		2					
	オペレーティングシステム	2				○		
	ソフトウェア工学Ⅰ		2			○		
画像情報処理		2						
情報セキュリティの基礎		2				○		
基幹科目	ロボティクス		2			○		
	実世界計測		2			○		
	IoTデータベース		2			○		
	Webプログラミング		2				○	
	コンピュータビジョン		2				○	
	IoTサーバ構築		2				○	
	IoT通信		2				○	
	情報技術者論	2					○	
	情報ゼミナール	2					○	
応用科目	ものづくり実習		1			○		
	システムプログラム		2				○	
	ソフトウェア工学Ⅱ		2				○	
	ヒューマンインタフェース		2				○	
	ロボット対話システム		2				○	
	メディア通信概論		2				○	
	情報科学実践演習(国際PBL)		1					
	情報科学実践演習(国内PBL)a		1					
情報科学実践演習(国内PBL)b		1						
演習科目	C演習Ⅰ	3			○			
	C演習Ⅱ		3			○		
	Java演習		3					
	ソフトウェア工学演習		2				○	
	実世界情報基礎演習	2				○		
	実世界情報専門演習	2					○	
	実世界情報応用演習		2				○	
(卒業研究)		0					○	
合計					44	40	40	0
卒業単位数					124			

卒業要件及び履修方法

本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系12単位以上を含む<人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要>)、キャリア科目2単位および所属する学科の専門科目86単位(必修科目23単位、選択科目<選択必修科目12単位を含む(注1)>63単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。

[履修科目の登録の上限:44単位(年間)]

(注1)線形数学Ⅰ、微積分学Ⅰ、情報数学、グラフ理論、確率・統計、デジタル回路Ⅰ、デジタル回路Ⅱ、データ構造とアルゴリズム、人工知能、ソフトウェア工学Ⅰ、情報セキュリティの基礎、ロボティクス、IoT通信、C演習Ⅱ、Java演習を選択必修科目とする。

教育課程及び履修モデル

II 電気・電子・通信機器製造モデル

スマートホーム向けのIoT機器などの開発業務に携わることができる技術者

【教育課程】

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎		2		○		
		社会学基礎		2				
		情報社会論		2				
		倫理学基礎		2				
		応用倫理学		2			○	
		日本の歴史		2				
		人類の歴史		2				
		文学基礎		2				
		観る文学		2				
		言語学基礎		2				
		日本国憲法		2				
		法学基礎		2			○	
		情報法学		2				○
		経済学基礎		2		○		
		現代経済論		2				
		心理学基礎		2			○	
	人間発達と人権		2					
	外国語	英語表現(basic1)a		1		○		
		英語表現(basic1)b		1		○		
		英語の語法		2				
		口語英語Ⅰa		1		○		
		口語英語Ⅰb		1		○		
		英語による情報技術Ⅱ		2				○
		英語表現(basic2)a		1			○	
		英語表現(basic2)b		1			○	
		口語英語Ⅱa		1				
口語英語Ⅱb			1					
英語による情報技術Ⅰa			1					
英語による情報技術Ⅰb			1					
英語演習			1					
海外語学研修			2					
日本語Ⅰ		2						
日本語Ⅱ		2						
健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a		1		○			
	基礎スポーツ科学b		1			○		
	健康科学		2					
	スポーツ科学実習		1					
共通科目・総合理学系	科学技術史	科学史		2				
	物理	物理学基礎		2		○		
		物理現象の数理		2			○	
		力学		2				
		電磁気学		2		○		
		現代物理学入門		2				
	化学	化学基礎		2		○		
		環境情報科学		2			○	
	地学	地球科学基礎		2		○		
		地球環境		2				
	生物	生命科学基礎		2				
		情報生命科学		2		○		
	総合	視る自然科学		2				
キャリア科目	基礎ゼミナール		1		○			
	キャリアステップ		1					
	キャリアデザインⅠ		1			○		
	キャリアデザインⅡ		1					
	グローバルテクノロジー論		1					
	OIT概論		1					

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目	線形数学Ⅰ		2		○			
	線形数学Ⅱ		2				○	
	微積分学Ⅰ		2		○			
	微積分学Ⅱ		2				○	
	情報数学		2			○		
	微分方程式		2		○			
	グラフ理論		2			○		
	数理計画法		2				○	
	確率・統計		2				○	
専門基礎	コンピュータ入門	2			○			
	実世界情報入門	2			○			
	Unix入門		1		○			
	シェルスクリプト入門		1		○			
	コンピュータリテラシー		2		○			
	デジタル回路Ⅰ		1		○			
	デジタル回路Ⅱ		1		○			
	IoT概論	2			○			
	テクニカルライティング	2			○			
	データ構造とアルゴリズム		2					
	情報通信ネットワーク	2				○		
	人工知能		2			○		
	情報処理基礎		2					
	オペレーティングシステム	2				○		
	ソフトウェア工学Ⅰ		2			○		
画像情報処理		2			○			
情報セキュリティの基礎		2			○			
基幹科目	ロボティクス		2			○		
	実世界計測		2					
	IoTデータベース		2					
	Webプログラミング		2				○	
	コンピュータビジョン		2				○	
	IoTサーバ構築		2				○	
	IoT通信		2				○	
	情報技術者論	2					○	
	情報ゼミナール	2					○	
応用科目	ものづくり実習		1			○		
	システムプログラム		2				○	
	ソフトウェア工学Ⅱ		2				○	
	ヒューマンインタフェース		2				○	
	ロボット対話システム		2				○	
	メディア通信概論		2				○	
	情報科学実践演習(国際PBL)		1					
	情報科学実践演習(国内PBL)a		1					
	情報科学実践演習(国内PBL)b		1					
演習科目	C演習Ⅰ	3			○			
	C演習Ⅱ		3			○		
	Java演習		3			○		
	ソフトウェア工学演習		2				○	
	実世界情報基礎演習	2				○		
	実世界情報専門演習	2					○	
	実世界情報応用演習		2				○	
(卒業研究)		0					○	
合計					43	41	40	0
卒業単位数					124			

卒業要件及び履修方法

本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系12単位以上を含む<人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要>)、キャリア科目2単位および所属する学科の専門科目86単位(必修科目23単位、選択科目<選択必修科目12単位を含む(注1)>63単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。

[履修科目の登録の上限:44単位(年間)]

(注1)線形数学Ⅰ、微積分学Ⅰ、情報数学、グラフ理論、確率・統計、デジタル回路Ⅰ、デジタル回路Ⅱ、データ構造とアルゴリズム、人工知能、ソフトウェア工学Ⅰ、情報セキュリティの基礎、ロボティクス、IoT通信、C演習Ⅱ、Java演習を選択必修科目とする。

教育課程及び履修モデル

III ソフトウェア開発モデル

顧客の様々な要望に対応するアプリケーションソフトウェアの開発ができる技術者

【教育課程】

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎		2				
		社会学基礎		2				
		情報社会論		2		○		
		倫理学基礎		2				
		応用倫理学		2			○	
		日本の歴史		2				
		人類の歴史		2				
		文学基礎		2			○	
		観る文学		2				
		言語学基礎		2				
		日本国憲法		2				
		法学基礎		2			○	
		情報法学		2				
		経済学基礎		2		○		
		現代経済論		2				
		心理学基礎		2			○	
人間発達と人権		2						
外国語	英語表現(basic1)a		1		○			
	英語表現(basic1)b		1		○			
	英語の語法		2					
	口語英語Ⅰa		1		○			
	口語英語Ⅰb		1		○			
	英語による情報技術Ⅱ		2				○	
	英語表現(basic2)a		1			○		
	英語表現(basic2)b		1			○		
	口語英語Ⅱa		1					
	口語英語Ⅱb		1					
	英語による情報技術Ⅰa		1					
	英語による情報技術Ⅰb		1					
	英語演習		1					
	海外語学研修		2					
日本語Ⅰ		2						
日本語Ⅱ		2						
健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a		1		○			
	基礎スポーツ科学b		1			○		
	健康科学		2					
	スポーツ科学実習		1					
共通科目・総合理学系	科学技術史	科学史		2				
	物理	物理学基礎		2		○		
		物理現象の数理		2			○	
		力学		2		○		
		電磁気学		2		○		
		現代物理学入門		2				
	化学	化学基礎		2				
		環境情報科学		2		○		
	地学	地球科学基礎		2				
		地球環境		2				
	生物	生命科学基礎		2		○		
		情報生命科学		2		○		
	総合	視る自然科学		2				
キャリア科目	基礎ゼミナール		1		○			
	キャリアステップ		1					
	キャリアデザインⅠ		1			○		
	キャリアデザインⅡ		1					
	グローバルテクノロジー論		1					
	OIT概論		1					

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次				
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次	
専門科目	数理科学	線形数学Ⅰ		2		○			
		線形数学Ⅱ		2				○	
		微積分学Ⅰ		2		○			
		微積分学Ⅱ		2				○	
		情報数学		2			○		
		微分方程式		2		○			
		グラフ理論		2			○		
		数理計画法		2				○	
		確率・統計		2				○	
	専門基礎	コンピュータ入門	2			○			
		実世界情報入門	2			○			
		Unix入門		1		○			
		シェルスクリプト入門		1		○			
		コンピュータリテラシー		2		○			
		デジタル回路Ⅰ		1		○			
		デジタル回路Ⅱ		1					
		IoT概論	2			○			
		テクニカルライティング	2			○			
		データ構造とアルゴリズム		2				○	
		情報通信ネットワーク	2					○	
		人工知能		2				○	
		情報処理基礎		2				○	
		オペレーティングシステム	2					○	
		ソフトウェア工学Ⅰ		2				○	
	画像情報処理		2				○		
	情報セキュリティの基礎		2				○		
	基幹科目	ロボティクス		2					
		実世界計測		2					
		IoTデータベース		2			○		
		Webプログラミング		2				○	
		コンピュータビジョン		2				○	
		IoTサーバ構築		2				○	
		IoT通信		2				○	
情報技術者論		2					○		
情報ゼミナール		2					○		
応用科目	ものづくり実習		1						
	システムプログラム		2				○		
	ソフトウェア工学Ⅱ		2				○		
	ヒューマンインタフェース		2				○		
	ロボット対話システム		2				○		
	メディア通信概論		2				○		
	情報科学実践演習(国際PBL)		1						
	情報科学実践演習(国内PBL)a		1						
	情報科学実践演習(国内PBL)b		1						
演習科目	C演習Ⅰ	3			○				
	C演習Ⅱ		3			○			
	Java演習		3			○			
	ソフトウェア工学演習		2				○		
	実世界情報基礎演習	2				○			
	実世界情報専門演習	2					○		
	実世界情報応用演習		2				○		
(卒業研究)		0						○	
合計					44	42	38	0	
卒業単位数					124				

卒業要件及び履修方法

本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系12単位以上を含む人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要)、キャリア科目2単位および所属する学科の専門科目86単位(必修科目23単位、選択科目<選択必修科目12単位を含む(注1)>63単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。

[履修科目の登録の上限:44単位(年間)]

(注1)線形数学Ⅰ、微積分学Ⅰ、情報数学、グラフ理論、確率・統計、デジタル回路Ⅰ、デジタル回路Ⅱ、データ構造とアルゴリズム、人工知能、ソフトウェア工学Ⅰ、情報セキュリティの基礎、ロボティクス、IoT通信、C演習Ⅱ、Java演習を選択必修科目とする。

教育課程及び履修モデル

IV 教職モデル

教育機関などにおいて数学および情報の教員、教育コンテンツの開発ができる技術者

【教育課程】

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎		2				
		社会学基礎		2				
		情報社会論		2		○		
		倫理学基礎		2				
		応用倫理学		2			○	
		日本の歴史		2				
		人類の歴史		2				
		文学基礎		2				
		観る文学		2				
		言語学基礎		2				
		日本国憲法		2			○	
		法学基礎		2				
		情報法学		2				○
		経済学基礎		2				
		現代経済論		2				
		心理学基礎		2			○	
人間発達と人権		2			○			
外国語	英語表現(basic1)a		1		○			
	英語表現(basic1)b		1		○			
	英語の語法		2				○	
	口語英語Ⅰa		1		○			
	口語英語Ⅰb		1		○			
	英語による情報技術Ⅱ		2					
	英語表現(basic2)a		1			○		
	英語表現(basic2)b		1			○		
	口語英語Ⅱa		1					
	口語英語Ⅱb		1					
	英語による情報技術Ⅰa		1					
	英語による情報技術Ⅰb		1					
	英語演習		1					
	海外語学研修		2					
	日本語Ⅰ		2					
日本語Ⅱ		2						
健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a		1		○			
	基礎スポーツ科学b		1			○		
	健康科学		2					
	スポーツ科学実習		1					
共通科目・総合理学系	科学技術史	科学史		2				
	物理	物理学基礎		2		○		
		物理現象の数理		2			○	
		力学		2		○		
		電磁気学		2		○		
		現代物理学入門		2				
	化学	化学基礎		2		○		
		環境情報科学		2				
	地学	地球科学基礎		2		○		
		地球環境		2				
	生物	生命科学基礎		2		○		
		情報生命科学		2				
	総合	視る自然科学		2				
キャリア科目	基礎ゼミナール		1		○			
	キャリアステップ		1		○			
	キャリアデザインⅠ		1					
	キャリアデザインⅡ		1					
	グローバルテクノロジー論		1					
	OIT概論		1					

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目	数理科学	線形数学Ⅰ		2		○		
	線形数学Ⅱ		2				○	
	微積分学Ⅰ		2		○			
	微積分学Ⅱ		2				○	
	情報数学		2			○		
	微分方程式		2		○			
	グラフ理論		2			○		
	数理計画法		2				○	
	確率・統計		2				○	
専門基礎	コンピュータ入門	2			○			
	実世界情報入門	2			○			
	Unix入門		1		○			
	シェルスクリプト入門		1					
	コンピュータリテラシー		2		○			
	デジタル回路Ⅰ		1		○			
	デジタル回路Ⅱ		1		○			
	IoT概論	2			○			
	テクニカルライティング	2			○			
	データ構造とアルゴリズム		2				○	
	情報通信ネットワーク	2				○		
	人工知能		2			○		
	情報処理基礎		2			○		
	オペレーティングシステム	2				○		
	ソフトウェア工学Ⅰ		2			○		
画像情報処理		2						
情報セキュリティの基礎		2				○		
基幹科目	ロボティクス		2					
	実世界計測		2			○		
	IoTデータベース		2			○		
	Webプログラミング		2				○	
	コンピュータビジョン		2				○	
	IoTサーバ構築		2				○	
	IoT通信		2				○	
	情報技術者論	2					○	
	情報ゼミナール	2					○	
応用科目	ものづくり実習		1			○		
	システムプログラム		2				○	
	ソフトウェア工学Ⅱ		2				○	
	ヒューマンインタフェース		2				○	
	ロボット対話システム		2				○	
	メディア通信概論		2				○	
	情報科学実践演習(国際PBL)		1					
	情報科学実践演習(国内PBL)a		1					
	情報科学実践演習(国内PBL)b		1					
演習科目	C演習Ⅰ	3			○			
	C演習Ⅱ		3					
	Java演習		3			○		
	ソフトウェア工学演習		2				○	
	実世界情報基礎演習	2				○		
	実世界情報専門演習	2					○	
	実世界情報応用演習		2				○	
(卒業研究)		0						○
合計					43	41	40	0
卒業単位数					124			

卒業要件及び履修方法

本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系12単位以上を含む<人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要>)、キャリア科目2単位および所属する学科の専門科目86単位(必修科目23単位、選択科目<選択必修科目12単位を含む(注1)>63単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。

[履修科目の登録の上限:44単位(年間)]

(注1)線形数学Ⅰ、微積分学Ⅰ、情報数学、グラフ理論、確率・統計、デジタル回路Ⅰ、デジタル回路Ⅱ、データ構造とアルゴリズム、人工知能、ソフトウェア工学Ⅰ、情報セキュリティの基礎、ロボティクス、IoT通信、C演習Ⅱ、Java演習を選択必修科目とする。

令和4年（2022）年度インターンシップ受入機関

	企業名	所在地	受け入れ学生数
1	トーテックアメニティ株式会社	愛知県名古屋市中区名駅2-27-8 名古屋プライムセントラルタワー 7F	7名
2	日東コンピューターサービス株式会社	兵庫県姫路市南畝町2丁目1番地 ファース姫路ビル	5名
3	中央電設株式会社(阪急阪神東宝グループ)	大阪府大阪市福島区海老江1丁目1番31号	4名
4	キンキ道路株式会社	大阪府大阪市北区南森町2丁目4番5号	3名
5	株式会社三水コンサルタント	東京都文京区小石川5丁目5番5号 プライム茗荷谷ビル6F	3名
6	尼崎電機株式会社	兵庫県尼崎市東海岸町1-46	3名
7	ダイトロン株式会社	大阪府大阪市淀川区宮原4-6-11	2名
8	安治川鉄工株式会社	大阪府大阪市西淀川区竹島4丁目11番88号	2名
9	株式会社MSTコーポレーション	奈良県生駒市北田原町1738番地	2名
10	株式会社アトリエスイッチ級建築士事務所	大阪府大阪市旭区今市1-4-3	2名
11	株式会社オオバ	東京都千代田区神田錦町3-7-1 興和一橋ビル	2名
12	株式会社サンテック	広島県福山市神辺町十三軒屋156-2	2名
13	株式会社市金工業社	滋賀県草津市野村4-3-10	2名
14	株式会社木内計測	大阪府大阪市天王寺区清水谷町4番12号	2名
15	金井ホールディングス株式会社	大阪府大阪市北区堂島一丁目2番9号	2名
16	三菱電機メカトロニクスエンジニアリング株式会社	愛知県名古屋市中区大幸南1-1-9(大幸ビル)	2名
17	寺崎電気産業株式会社	大阪府大阪市平野区加美東六丁目13番47号	2名
18	日本橋梁株式会社	大阪府大阪市西区江戸堀1丁目9番1号(肥後橋センタービル9階)	2名
19	グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社	大阪府大阪市西淀川区歌島4-6-5	1名
20	マツモト機械株式会社	大阪府八尾市老原4丁目153	1名
21	英和株式会社	大阪府大阪市西区北堀江4丁目1番7号	1名
22	株式会社 HEXEL Works	東京都港区芝大門1丁目1番30号	1名
23	株式会社アイレックス	東京都世田谷区池尻3-1-3 MUTOH池尻ビル	1名
24	株式会社ソフトム	大阪市北区天神橋1-19-8 MF南森町3ビル 7F	1名
25	株式会社トンボ	東京都台東区柳橋二丁目22番8号	1名
26	株式会社ナイキ	大阪府大阪市中央区南本町4-5-7 東亜ビル	1名
27	株式会社フルノソフテック	兵庫県西宮市芦原町9番52号	1名
28	株式会社近計システム	大阪府大阪市住之江区南港東8-2-61	1名
29	株式会社森長工務店	大阪府大阪市旭区中宮1丁目1番11号	1名
30	株式会社川島建設	兵庫県西宮市浜町7番25号	1名
31	株式会社箭木木工所	大阪府大東市三箇6丁目3-7	1名
32	株式会社東研機械製作所	大阪府交野市星田北4丁目32番10号	1名
33	株式会社東光コンサルタンツ 大阪支店	大阪府大阪市西区西本町1-3-15 大阪建大ビル2F	1名
34	株式会社内田洋行	東京都中央区新川2-4-7	1名
35	株式会社服部建築事務所	大阪府大阪市北区天神橋2-3-3	1名
36	極東興和株式会社	広島市東区光町2丁目6番31号	1名
37	須賀工業株式会社	東京都江東区富岡一丁目26番20号	1名
38	西尾レントオール株式会社	大阪府大阪市中央区東心齋橋1-11-17	1名
39	大阪技術管理株式会社	大阪府大阪市浪速区元町1丁目5番7号	1名
40	帝国チャック株式会社	大阪府八尾市北久宝寺2-1-50	1名
41	東洋技研コンサルタント株式会社	大阪府大阪市淀川区新北野1丁目14番11号 大阪新北野第一ビル	1名
42	日工電子工業株式会社	京都府長岡京市神足橋本5番地	1名
43	日本水工設計株式会社	東京都中央区勝どき3丁目12番1号 フォアフロントタワー	1名
44	八千代エンジニアリング株式会社	東京都台東区浅草橋5-20-8 CSタワー	1名
45	野村建設工業株式会社	大阪府大阪市中央区高麗橋2丁目1番2号	1名
46	大阪府立都島工業高等学校	大阪府大阪市都島区善源寺町1-5-64	1名
47	大阪府立西野田工科高等学校	大阪市福島区大開2-17-62	1名

任用規定

昭和50年2月8日

学園401

改正 2023年2月28日

第1章 総則

(目的)

第1条 この規定は、学園に勤務する職員の任用に関する基準と手続を定め、もって任用の公正を図ることを目的とする。

(任用の原則)

第2条 任用にあたっては、採用試験、勤務の成績、職務能力もしくは技能、健康状態その他の実証または認定された事実に基づいて、公正に取り扱わなければならない。

(定義)

第3条 この規定において任用とは、採用、格付、昇任、降任、転任および転換をいう。

2 採用とは、つぎの各号のいずれかに該当するものをいう。

イ 職員でない者を新たに職員に任命すること

ロ 定年に達し退職した者を改めて職員に任命すること

ハ 第7条第1項各号の職員を同条第1項の他の号の職員に任命すること

3 格付とは、採用した専任の職員について職種別の職階または資格を決定することをいう。

4 昇任とは、専任の職員について第8条第2項に定める職種を変更しないで、現に任用している職階または資格から上位の職階または資格に進めることをいい、降任とは現に任用している職階または資格から下位の職階または資格に変更することをいう。

5 転任とは、専任の職員の職種等を変更して格付することをいう。

6 転換とは、労働契約法第18条ならびに同法の特例に関する法律に基づき、有期雇用の職員を期間の定めのない労働契約(以下「無期労働契約」という)の職員として任用することをいう。

(任用の計画)

第4条 学校長は、あらかじめ教育系職員の任用計画を立案し、理事長の承認を得なければならない。

2 事務系職員の任用計画は、総務部長がこれを立案し、理事長の承認を得なければならない。

3 臨時要員の任用計画は、学園本部においては総務部長が、各設置学校においては事務局

長(中学校および高等学校においては事務長)が、原則として承認された臨時要員人件費予算の範囲内で計画しなければならない。

(任用の決定)

第5条 職員の任用は、理事会の定めるところにより理事長が決定する。

(任用の発令)

第6条 理事長は、任用を決定したとき、告示、本人への辞令交付または雇用条件の通知を行う。

2 前項にかかわらず、非常勤講師に委嘱する授業担当科目および時間数は学校長が通知する。

第2章 職員の区分

(職員の区分)

第7条 職員の区分は、つぎのとおりとする。

- イ 専任の職員
- ロ 特任の職員
- ハ 嘱託の職員
- ニ 客員の職員
- ホ 非常勤の職員
- ヘ 臨時要員

2 前項ロ号からヘ号の職員のうち、無期労働契約に転換した者については、無期雇用の職員として任用する。

3 学園以外に本務を有する者は、専任の職員に採用することができない。

(専任の職員)

第8条 専任の職員は、兼職を許可されまたは特に認められたもののほかは、その勤務時間および職務能力を教育・研究および学校運営の目的達成のために尽くさなければならない。

2 専任の職員は、教育系職員および事務系職員に分け、それぞれの職種はつぎのとおりとする。

イ 教育系職員の職種

教育職員、研究職員、技術職員

ロ 事務系職員の職種

事務職員、医療職員、技能職員(運転手、作業員)、用務員(校員)

3 教育系職員には、つぎのとおり職階または資格を設け、任用の際に格付ける。

イ 教育職員の職階

大学院教授、大学院准教授、大学院講師

大学教授、大学准教授、大学講師

中学校教諭、高等学校教諭

ロ 研究職員の資格 特別研究員、研究員1級、研究員2級

ハ 技術職員の資格 技師1級、技師2級、技師3級

4 事務系職員のうち事務職員および医療職員を、つぎのとおり区分し、資格を設定して任用の際に格付ける。

イ 事務職員

区分		資格
管理職		参事、副参事
一般職	総合職系列	主幹、主事、主事補
	専任職系列	専任職1級、専任職2級、 専任職3級、専任職4級
	エントリー系列	書記

ロ 医療職員

看護師1級、看護師2級、看護師3級

5 前項の系列および任用の基準等については、事務職員任用基準および医療職員任用基準に定める。

(特任の職員)

第9条 特任の職員は、専任の教育系職員に代わってそれに準ずる職務遂行が期待できるとき、雇用期間を付して教育職員または技術職員として採用する。

2 特任の職員には、つぎのとおり職階を設け、任用の際に格付ける。

イ 教育職員の職階

大学院特任教授、大学院特任准教授、大学院特任講師、大学院特任助教、大学院特任助手

大学特任教授、大学特任准教授、大学特任講師、大学特任助教、大学特任助手

中学校特任教諭、高等学校特任教諭

ロ 技術職員の職階

特任技師

- 3 特任の職員の採用の基準、手続等については、この規定によるほか、特任教員規定および特任教諭規定に定める。

(嘱託の職員)

第10条 嘱託の職員は、専任の事務系職員に代わってそれに準じる職務遂行が期待できる
とき、事務系職員として雇用期間を付して採用する。

- 2 嘱託の事務系職員の職種は、つぎのとおりとする。

嘱託職員(事務職員、看護師、大阪工業大学ピアサポーター、高等学校実習助手、工作
員、運転手、校員、校員補)

- 3 前2項のほか、校医、弁護士、弁理士等特定の専門領域について業務を委嘱する者を業
務嘱託として採用することができる。

- 4 嘱託の職員の採用の基準、手続等については、この規定によるほか、嘱託職員就業規則
および広島国際大学嘱託職員就業規則に定める。

(客員の職員)

第11条 客員の職員は、教育の充実または学術研究・共同研究の推進あるいは大学運営に
対して貢献が期待できるとき、雇用期間を付して教育職員または技術職員として採用す
る。

- 2 客員の職員には、つぎのとおり職階を設け、任用の際に格付ける。

イ 教育職員の職階

大学院客員教授、大学院客員准教授、大学院客員講師

大学客員教授、大学客員准教授、大学客員講師

ロ 技術職員の職階

客員技師

- 3 客員の職員の採用の基準、手続等については、この規定によるほか、客員教員規定に定
める。

(非常勤の職員)

第12条 非常勤の職員は、教育職員とし、学園が設置する各学校の非常勤講師として採用
する。

- 2 非常勤講師は、つぎの各号のいずれかに該当するときに採用する。

イ 授業計画上、他の教育職員をもって充てることが困難なとき

ロ 専攻分野等から、専任の職員が得がたいとき

ハ 専任の教員に欠員が生じて授業計画に支障を来すとき

- 3 非常勤講師の採用の基準、手続等については、非常勤講師任用規定または広島国際大学非常勤講師任用規定に定める。
- 4 第1項の非常勤講師のほか、必要に応じて、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、ポスト・ドクター(PD)、テクニカル・サポーター(TS)および学生・アシスタント(SA)を採用することができる。
- 5 前項の職員の採用の基準、手続等については、それぞれ別に定める要項によるものとする。

(臨時要員)

第13条 臨時要員は、つぎの各号のいずれかに該当するときに日数を限って採用するものとする。

イ 緊急かつ臨時の業務を処理する必要があるとき

ロ 業務の繁忙期にあたり、専任および嘱託の職員のみで処理することが困難であるとき

ハ 特殊な業務で、専任および嘱託の職員では処理できないとき

ニ 臨時に欠員が生じ、または業務を担当する者が欠けたとき

- 2 臨時要員の採用手続等については、臨時要員に関する内規および広島国際大学臨時要員に関する内規に定める。

(無期雇用の職員)

第13条の2 無期雇用の職員の職種、職階、採用の基準および手続等は、雇用期間の定めを除いて転換前と同じとする。

(雇用期間)

第14条 特任の職員の雇用期間については、特任教員規定および中学校・高等学校特任教諭規定に定める。

- 2 嘱託の職員、客員の職員、非常勤の職員および臨時要員の雇用期間は1年以内とする。ただし、年度の途中で採用された者については、当該年度末までとし、年度を超えることはできない。
- 3 前項の者を翌年度更新の手続を行って再度採用することを妨げない。
- 4 学園の学生を嘱託の職員として採用する場合は、年度を超えた雇用期間を設けることができることとし、これについては、嘱託職員就業規則、広島国際大学嘱託職員就業規則および高等学校実習助手内規に定める。

第3章 採用

(採用の基準)

第15条 職員として採用される者は、職種および職階または資格ごとに求められる基準を充足するとともに、私立の教育事業である学園にふさわしい識見を備えている者でなければならない。

2 職種および職階または資格の基準は、各大学・大学院の教員選考基準(規定)、任用基準等に定める。

(募集の方法)

第16条 職員の募集は、原則として公募とし、各学校のホームページ、一般新聞、学会誌等に掲載するなど適切な方法により学内外に告示するものとする。

2 前項にかかわらず、つぎの各号のいずれかに該当するときは、公募によらないことがある。

イ 大学・大学院の設置および学部・学科・研究科・専攻・課程の新增設に関する教員組織を構成するとき

ロ 専攻分野、特定の業務等の関係で人材が極めて得にくいとき

ハ その他やむを得ないと理事長が認めたとき

(選考の方法)

第17条 選考は、資格審査を行ったうえで総合的に行う。

2 選考に必要な書類は、つぎのとおりとする。

イ 履歴書

ロ 教育・研究業績書(教育系職員に限る)

ハ 教育に対する抱負レポート(教育系職員に限る)

ニ 職務経歴書

ホ 健康診断書(適性または職務遂行能力を判断するうえで合理的かつ客観的にその必要がみとめられる場合のみ)

ヘ 最終学校の卒業(見込)証明書および学業成績証明書

ト 教員免許状等職務に必要な資格取得を証明するもの

3 前項にかかわらず、採用職種等によっては書類を追加または省略することがある。

(資格審査)

第18条 資格審査とは、本人の経歴等から判断される能力が、当該職種、職階または資格に適合するかを審査することをいう。

2 教育系職員の採用候補者の資格審査は、所定の審査機関等の意見を聴き、学校長が行う。

3 事務系職員採用候補者の資格審査は、所定の審査機関等の意見を聴き、理事長が行う。

4 資格審査は、つぎの各号の一以上を併せて行うものとする。

- イ 書類審査
- ロ 面接試験
- ハ 筆記試験
- ニ 適性検査
- ホ 実技試験、模擬授業

第19条 削除

(採用の決定)

第20条 職員の採用は、資格審査を経た候補者のうちから、つぎの各号に基づいて総合的に決定する。

- イ この規定其他所定の手続に従って選考されたか
- ロ 法令および学園規定に定める基準に合致しているか
- ハ 本人の能力、適性、健康状態等が学園の勤務に耐えられるか
- ニ 人格・識見等が教育事業の職員にふさわしいか
- ホ 学園の目的、建学の精神、運営方針から見て適任か

第4章 昇任・降任・転任・転換

(昇任)

第21条 専任の職員で、現に任用している職階または資格より上位の職階または資格に求められる基準に達した者については、これを昇任させることができる。

2 資格および職階の基準は、各大学・大学院の教員選考基準(規定)、任用基準等に定める。

(昇任の選考)

第22条 選考は、昇任候補者について資格審査を行ったうえ、総合的に行う。

2 教育系職員の昇任候補者の資格審査は、所定の審査機関等の意見を聴き、学校長が行う。

3 事務系職員の昇任候補者の資格審査は、所定の審査機関等の意見を聴き、理事長が行う。

4 資格審査は、つぎの各号の一以上を併せて行うものとする。

- イ 教育・研究・大学運営に係る業績評価(教育系職員)
- ロ 人事評価
- ハ 筆記試験
- ニ 面接試験
- ホ 実技試験

へ その他職務遂行能力を客観的に判断できる資料

5 必要により健康診断を行うことがある。

(昇任の決定)

第23条 昇任は、資格審査を経た候補者のうちから第20条の定めを準用して総合的に決定する。

(特別昇任)

第24条 専任の職員が生命を賭して職務を遂行し、そのために危篤となり、または心身障害者となるに至ったとき、理事長は学校長等の申請に基づき前3条によらないで昇任させることがある。

2 現に任用されている職階または資格から上位の職階または資格に任用されるに必要な経過年数は不足するが、当該職階または資格に要求される基準を十分に充足し、かつ勤務成績が優秀な者について、理事長は、学校長等の申請に基づき特別に昇任させることがある。

(降任)

第25条 専任の職員が現に任用されている職階または資格の基準を真に充足していないと判断されるとき、理事長は、学校長等の申請に基づき降任させることがある。

(転任)

第26条 業務の都合により、理事長は、学校長等の意見を聴いて職員の職種変更を命じることがある。

(転換)

第27条 有期雇用の職員の労働契約が更新され、労働契約法第18条ならびに同法の特例に関する法律に定める通算年数を超えたとき、当該職員から申込みがあった場合は、無期労働契約に転換するものとする。

第5章 雑則

(規定の改廃)

第28条 この規定の改廃は、理事会の議を経て理事長が行う。

付 則

1 この規定は、昭和50年4月1日から施行する。

2 この改正規定は、2023年4月1日から施行し、同日以降に任用する職員の任用手続き時から適用する。

大阪工業大学教員選考基準

昭和38年7月20日

学園412

改正 2018年2月21日

(趣旨)

第1条 この基準は、任用規定第8条に定める職員のうち、大阪工業大学の教育職員の職階の格付基準について定める。

(教授)

第2条 教授は、つぎの各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有し、教育上の識見を有する者とする。

イ 博士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む)を有し、かつ優れた教育・研究業績がある者

ロ 大学において教授の経歴または准教授(助教授を含む)として10年以上の経歴があり、かつ相当の教育・研究上の業績がある者

ハ 前各号に準ずると認められる者

2 前項に定める者のほか、新規採用に限り、つぎの各号のいずれかに該当し、かつ教育上の識見を有する者からも選考することができる。

イ 専攻分野について、特に優れた知識および経験を有し、教育・研究上の能力があると認められる者

ロ 芸術・体育等については、特殊の技能に秀で、教育の経歴がある者

(准教授)

第3条 准教授は、つぎの各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者とする。

イ 前条の各号のいずれかに該当する者

ロ 大学において准教授(助教授を含む)の経歴または講師として5年以上の経歴があり、かつ相当の教育・研究上の業績がある者

ハ 前号に準ずると認められる者

2 前項に定める者のほか、新規採用に限り、つぎの各号のいずれかに該当する者からも選考することができる。

イ 専攻分野について、優れた知識および経験を有し、教育・研究上の能力があると認

められる者

- ロ 芸術・体育等については、特殊の技能を持ち、教育上の能力があると認められる者
(講師)

第4条 講師は、つぎの各号のいずれかに該当する者とする。

- イ 第2条または第3条に規定する教授または准教授となることのできる者
- ロ 大学において、講師の経歴または助教として3年以上の経歴があり、相当の教育・研究上の業績または能力があると認められる者
- ハ 前号に準ずると認められる者

(助教)

第5条 助教は、つぎの各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者とする。

- イ 修士の学位または専門職学位(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む)を有する者
- ロ 前号に準ずる能力があると認められる者

(助手)

第6条 助手は、つぎの各号のいずれかに該当する者とする。

- イ 第5条のイ号に該当する者
- ロ 前号に準ずる能力があると認められる者
- ハ 学士の学位を有する者

(基準の改廃)

第7条 この基準の改廃は、学長ならびに大学・大学院会議および教員選考委員会の意見を聴き、理事長が行う。

付 則

- 1 この基準は、制定の日から施行する。
- 2 昭和30年5月2日制定の大阪工業大学第I工学部教員選考基準は廃止する。
- 3 この改正基準は、2018年4月1日から施行する。

令和7(2025)年度 大阪工業大学教員人事について

学長 井上 晋

1. 教員組織に関する基本方針

新規採用計画については安易に退職補充という考え方はとらず、中長期的な大学運営方針および所定の教員人件費依存率などにに基づき考えることとする。

- (1) 学部・学科の教育目標に照らして、中長期的な視点から教育研究分野別に専任比率を考える。
- (2) 学生定員確保の状況を勘案し、専任比率の見直しを考える。
- (3) 退職補充をする際は、特任教員としての任用を基本とする。
- (4) 上記にかかわらず、新学部等の設置構想および教育の質の維持・向上のために特別な事情がある場合は、学長と学部長等が協議する。
- (5) 学部・学科の垣根を越えた全学的な見地から、授業担当の在り方を考える。
- (6) 若手教員（40歳以下）の採用について、中長期的な視点から、組織活性化の促進を図るため、教員数に占める若手教員数の割合を高める。
- (7) 女性教員の採用について、女性教員の活躍の促進を図るため、教員数に占める女性教員数の割合を高める。
- (8) 客員教員および非常勤講師等の採用についても、適正な教員組織のあり方の観点から検討し、継続採用、増員等には慎重に対処する。

2. 期待する教員像

大学にとって、教員人事は最重要課題である。将来にわたって本学が、社会的な使命を全うし、世の中の評価を得続けるためには、優れた教員組織を維持することが不可欠である。そのために専任等中核的教員については、「将来自分を超えていく優れた人材」という視点を各自が有することを求めることとする。

本学が求める教員は、つぎのような人材である。

- (1) 本学教員選考基準に達している人
- (2) 本学の「教育の理念と方針」に沿って教育ができる人
- (3) 教育・研究および学部・学科運営に優れた人
- (4) 人格・見識が教員としてふさわしく、協調性に富む人
- (5) 健康で、学生に愛情を持って接する人

3. 専任等採用候補者の選考

- (1) 当該学部・学科等の教員組織の年齢構成を勘案し、偏りがあれば、是正を図ること。また、多様な経歴・経験を持つ者の採用に配慮すること。
- (2) 日本全国あるいは海外からの応募も含め、最適任の候補者を選考する。特に、専門学科の教授については大学院の◎、准教授については◎または合の資格があり、かつ、専門分野に関して優れた教育研究業績を有するとともに、当該分野の学界あるいは産業界において高い評価を得ている人を選考する。
なお、知的財産学部および知的財産専門職大学院の教授については、当該分野の特性・専門性を考慮して、知的財産の管理実務等に関して優れた経験と業績

【資料8】

を有するとともに、産業界において高い評価を得ている者を選考することができることとする。

- (3) 外部資金獲得状況も勘案のうえ選考すること。
- (4) 採用は公募を原則とし、科学技術振興機構・研究者人材データベース（JREC-IN）、学会誌、本学ホームページ等を活用して広く適任者を募る。

4. 昇任および専任への任用替え候補者の選考

- (1) 年齢にかかわらず博士の学位を有し、教育、研究、大学運営および社会貢献等に優れた業績の人を優先する。業績については現職就任後のものを特に重視する。
- (2) 博士の学位の取得または研究論文の発表が困難な専門分野については、業績が博士の学位に相当するか慎重に検討する。
- (3) 教育や学部・学科運営に対する姿勢および能力、実績等については、可能な限り資料、データに基づいて多面的に考慮する。
- (4) 教員評価の結果を参考にする。

以上

学校法人常翔学園就業規則

昭和24年4月25日

学園301

改正 2023年2月28日

第1章 総則

(趣旨)

第1条 学校法人常翔学園(以下「学園」という)に勤務する専任の職員の服務規律および待遇に関する事項については、この就業規則(以下「規則」という)に定めるところによる。

2 特任の職員、嘱託の職員、客員の職員、非常勤の職員および臨時要員に関する就業規則は、別に定める。

3 広島国際大学に勤務する専任の職員の服務規律および待遇に関する事項については、広島国際大学就業規則に定める。

4 常翔啓光学園中学校・高等学校に勤務する専任の教育職員の服務規律および待遇に関する事項については、常翔啓光学園中学校・高等学校就業規則に定める。

(定義)

第2条 この規則において専任の職員(以下「職員」という)とは、教育職員、研究職員および技術職員(以下「教育系職員」という)、ならびに事務職員、医療職員、技能職員および用務員(以下「事務系職員」という)をいう。

(適用除外)

第3条 職員のうちつぎに掲げる者については、この規則に定める勤務時間、休憩時間および休日に関する規定を適用しない。

イ 学園が設置する学校の長

ロ 監視または断続的勤務に従事する者として労働基準監督署の許可を受けた者

(遵守義務)

第4条 職員は、この規則を遵守し、理事会の決定および理事長、学校長その他上長の職務上の指示および命令に従い、学園の秩序を維持するとともに、互いに協力してその職責を遂行し教育および研究の目的達成に努めなければならない。

第2章 任免

(試用期間)

第5条 新たに職員として採用された者には、6カ月の試用期間を置く。ただし、理事長が

特に必要がないと認めた場合は、この限りでない。

- 2 前項の試用期間は、勤続期間に算入する。
- 3 試用期間中において、職員として適格性を欠くと認められたとき、理事長は理事会の議を経て雇用契約を解約することができる。
- 4 前項の解約が、採用後14日を超えて引き続き雇用されている者に対して行われるときは、30日前に予告するか30日分の平均賃金を支給する。

(休職)

第6条 職員が下記の各号のいずれかに該当するとき、理事長は休職を命じることができる。

イ つぎの期間、第23条の2に定める病気休暇を取得したとき

勤続3年以下の者 3カ月

勤続3年を超える者 6カ月

勤続5年を超える者 10カ月

勤続10年を超える者 12カ月

ロ 公職に就き業務の遂行に支障があると認められたとき

ハ 刑事事件に関し起訴されたとき

ニ やむを得ない事情により休職を願い出て許可されたとき

ホ やむを得ない業務上の都合があるとき

ヘ 業務遂行に支障があると認められたとき

- 2 病気休暇を取得した者が出勤し、同一または類似の原因により再び病気休暇を取得した場合において、その出勤期間が1年未満のときは、前後の病気休暇取得期間を通算する。
- 3 第1項ホ号およびヘ号の適用については、理事会の議を経るものとする。
- 4 第1項ホ号の適用については、当該職員が加入する労働組合の意見を聴くものとする。

(休職期間)

第7条 休職の期間は、つぎのとおりとする。

イ 前条第1項イ号の場合 1年以内(結核性疾患の場合は2年以内)。ただし、理事会は、傷病の回復状況その他の情状を考慮し、1年を限度として期間を延長することができる。

ロ 前条第1項ロ号の場合 休職理由が継続する期間

ハ 前条第1項ハ号の場合 休職理由が継続する期間

ニ 前条第1項ニ号の場合 休職を許可された期間

ホ 前条第1項ホ号の場合 1年以内

ヘ 前条第1項ヘ号の場合 1年以内

(休職期間中の身分等)

第8条 休職期間中は、職員としての身分を保有するが、職務に従事することはできない。

2 休職期間中の給与は、給与規定または中学校・高等学校教育職員給与規定に定める。

3 休職期間は、退職年金規定その他特に定めるもののほか、勤続期間に算入しない。

(復職)

第9条 休職の理由が消滅したとき、理事長は、速やかに復職を命じる。ただし、第6条第1項ハ号に該当する場合は、復職を命じないことがある。

(退職)

第10条 職員がつぎの各号のいずれかに該当するときは、当然に退職するものとする。

イ 定年に達した年の年度末(3月31日)

ロ 死亡したとき

ハ 退職を願い出て受理されたとき

ニ 休職期間が満了しても復職を命じられない場合で、期間満了後30日を経過したとき。

ただし、第6条第1項ホ号による休職の場合を除く。

(退職願)

第11条 職員は、退職しようとするとき、退職希望日の14日前までに理事長に退職願を提出しなければならない。

(定年)

第12条 教育系職員の定年年齢は、満65歳とする。

2 事務系職員の定年年齢は、満64歳とする。

3 前項にかかわらず、事務系職員のうち別に定める基準に該当する者については、この規則に定める専任の職員以外の職員として、1年間、再雇用することができる。

(解雇)

第13条 職員がつぎの各号のいずれかに該当するとき、理事長は、理事会の議を経て30日前に予告するか30日分の平均賃金を支給して解雇することができる。

イ 勤務成績が悪く、職員としての適格性を欠くと認められたとき

ロ 心身の故障のため、業務に堪えないと認められたとき

ハ やむを得ない業務上の都合があるとき

2 前項の適用については、あらかじめ当該職員が加入する労働組合の意見を聴くものとする。

(離職者の義務)

第14条 職員が退職するときまたは解雇されるときは、つぎに掲げることを守らなければならない。

イ 上長の指示に従い、速やかに業務上の書類とともに後任者に文書により事務引継ぎを行うこと

ロ 職員証明書、私立学校教職員共済加入者証その他求められた書類を速やかに返却すること

ハ 貸出図書その他学園の貸与物品または貸付金その他学園に対する債務を速やかに完済すること

2 退職し、または解雇された者は、職務上知り得た事項について秘密を守らなければならない。

(配置転換等)

第15条 理事長は、業務の都合により職種または勤務場所の変更を命じることができる。

第3章 勤務

(勤務時間)

第16条 事務職員および医療職員の所定勤務時間は、1日について7時間、1週間について38時間30分とする。

2 技能職員および用務員の所定勤務時間は、1週当たりの勤務時間が40時間を超えない範囲で毎年度当初に理事長が定める。

3 前2項にかかわらず、所定勤務時間は、毎月1日を基準日とする1カ月単位の変形労働時間制とし、1カ月ごとの勤務時間および各日の始業、終業時刻を事前に決定し通知する。

4 事務系職員の管理職(部長、室長、センター長および課長)には前3項を適用しない。

5 大学に勤務する教育系職員の勤務時間は、別に定める専任教員の授業担当時間に関する規定による授業担当責任時間を含め、つぎのとおりとする。

イ 大阪工業大学 9時から17時

ロ 摂南大学 9時から17時

6 前項にかかわらず、大学に勤務する教育系職員は、学長の承認を得て、授業担当など業務の都合により4週間を平均した1週当たりの実働時間が38時間30分を超えない範囲で勤務時間を変更することができる。

7 大学に勤務する教育系職員は、毎年度勤務割表を学長に提出し、承認を得なければならない。

8 学長は、業務の都合により第5項に定める時間帯の始業および終業の時刻を変更するこ

とができる。

- 9 中学校または高等学校に勤務する教育職員の勤務時間は、別に定める専任教員の授業担当時間に関する規定による授業担当責任時間を含め、1週について38時間30分とし、8時30分から16時30分とする。
- 10 前項にかかわらず、中学校または高等学校に勤務する教育職員は、労使協定により所定勤務時間は毎年4月1日を起算日とする1年単位の変形労働時間制とし、対象期間を平均して1週38時間30分以内とする。対象期間の1年間における休日ならびに勤務時間および各日の始業、終業時刻を事前に決定し通知する。
- 11 中学校または高等学校に勤務する教育職員のうち、管理職(校長、教頭および部長)には、前2項を適用しない。
- 12 校長は、業務の都合により第9項に定める時間帯の始業および終業の時刻を変更することができる。

(勤務間インターバル)

第16条の2 管理職を除く事務系職員については、1日の勤務終了後、つぎの勤務の開始までに少なくとも、11時間の継続した休息时间(以下、「インターバル時間」という)を設けるものとする。

- 2 前項のインターバル時間の満了時刻が、つぎの勤務の所定始業時刻におよぶ場合は、当該勤務日の始業時刻を、30分単位でインターバル時間の満了時刻以降まで繰り下げるものとし、終了時刻も同様に繰り下げる。
- 3 前2項にかかわらず、天災、事件、事故その他不測の事態におけるやむを得ない場合において、総務部長が特に許可したときは、この限りでない。

(校外研修日)

第17条 教育系職員が勤務の日に学外で研修しようとするとき、または第31条により承認を得た学外での兼職に従事しようとするときは、あらかじめ学校長に届け出なければならない。ただし、やむを得ない理由によりあらかじめ届け出ることができなかつたときは、出勤簿または出退勤簿への記録をもって事後に承認を求めることができる。

- 2 理事長は、授業に支障のない時期において事務系職員に出勤を要しない校外研修日を与えることができ、その適用については、事務系職員の校外研修日に関する内規に定める。
- 3 校外研修日は、勤務したものとみなす。

(休憩時間)

第18条 事務系職員の休憩時間は、11時30分から12時30分までとする。

- 2 教育系職員の休憩時間は、授業間隔時および昼食時を合計した1時間とする。
- 3 理事長は、業務の都合により第1項に定める時間帯の開始および終了時刻を変更することができる。

(休日)

第19条 職員の休日は、つぎのとおりとする。

- イ 日曜日(法定休日)
- ロ 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- ハ 12月29日から翌年1月3日まで
- ニ 学園創立記念日(10月30日)

- 2 事務系職員については、2週のうち1回の土曜日を休日とする。

(休日振替)

第20条 上長は、業務の都合により、前条の休日をあらかじめ定めた他の日に振り替えることができる。

- 2 前項の振替を行うにあたっては、振替休日を指定し、前日までに当該職員に通知するものとする。

(時間外勤務および休日勤務)

第21条 上長は、業務の都合により勤務時間を超え、または休日に勤務を命じることができる。

- 2 前項の時間外勤務および休日勤務において、労働組合と協定し労働基準監督署に届け出たときは、1日の実働時間が8時間を超える時間外勤務、または労働基準法第35条に定める休日の勤務を命じることができる。

(災害対策等による勤務)

第22条 災害その他避けることのできない理由によって臨時の必要があるとき、理事長、学校長は、職員の勤務時間を延長し、または休日に勤務させることがある。

(年次有給休暇)

第23条 採用初年度の職員には、採用された月によって、当該年度内につぎのとおり年次有給休暇(以下「年休」という)を与える。1月以降に採用された職員には、その年度内に年休を与えない。

4月～9月採用 10日

10月～12月採用 5日

- 2 採用2年度目以降の職員には、前年度における勤務月数により当該年度内につぎのとおり

り年休を与える。

11カ月以上 20日

11カ月未満 19日

10カ月未満 18日

9カ月未満 17日

8カ月未満 16日

7カ月未満 15日

6カ月未満 14日

5カ月未満 13日

4カ月未満 12日

3 前項の勤務月数の算出において、第24条第1項、第26条、第26条の2および第42条に該当する場合は、出勤したものとみなす。

4 当該年度中受けることができなかつた年休は、1年に限り20日を限度として次年度に繰り越すことができる。

5 年休の単位は1日または半日とし、半日年休は、当該出勤日の前半または後半に必要勤務時間の半分の時間について勤務する。

6 労使協定に基づき、前項の年休の日数のうち、1年について5日の範囲内で、次により時間単位の年次有給休暇(以下「時間単位年休」という)を付与する。

イ 時間単位年休付与の対象者は、事務系職員および中学校または高等学校に勤務する教育職員とする。

ロ 時間単位年休を取得する場合の、1日の年休に相当する時間数は、年間の所定労働時間の1日あたりの平均時間(1時間未満を切り上げ)とする。

a 所定勤務時間が7時間を超え8時間以下の者は8時間

b 所定勤務時間が6時間を超え7時間以下の者は7時間

c 前号の所定勤務時間より少ない者は、前号の時間を繰り下げて読み替える。

ハ 時間単位年休を取得できる単位時間は、1時間、2時間、3時間とし、当該出勤日の前半または後半に時間分まで取得でき、残りの時間について勤務する。

ニ 前号の時間単位年休は、半日年休と組み合わせて取得することができる。ただし、当該出勤日の所定勤務時間の全てを時間単位年休として取得することはできない。

ホ 時間単位年休に対して支払われる賃金は、通常の賃金を基に計算する。

ヘ 上記以外の事項については、前項の年休と同様とする。

7 年休を受けようとするときは、あらかじめ所定の様式により上長に請求しなければならない。ただし、やむを得ない理由によりあらかじめ請求できなかったときは、その理由を付して事後に承認を求めることができる。

8 職員が請求した時季に年休を与えることが業務の正常な運営を妨げるときは、上長は、他の時季に変更させることができる。

(病気休暇)

第23条の2 職員が業務上によらない傷病のため連続して7日以上療養を必要とし、勤務しないことがやむを得ないと認められるときは、第6条に定める期間の範囲内で、必要最小限度の期間について病気休暇を与える。

2 病気休暇を受けようとするときは、あらかじめ所定の様式に病気であることを証明する医師の診断書を添えて理事長に請求しなければならない。ただし、やむを得ない理由によりあらかじめ請求できなかったときは、その理由を付して事後に請求することができる。

3 病気休暇から復職する際には、医師の診断書を添えて職場復帰願を提出するものとする。

4 病気休暇期間中の給与は、給与規定または中学校・高等学校教育職員給与規定に定める。

(復職支援)

第23条の3 前条の病気休暇による療養期間が1カ月を超えたとき、必要に応じて理事長は円滑な職場復帰を支援するための措置(以下「復職支援」という)を講じることができる。

2 復職支援に関する手続その他必要な事項については、復職支援に関する取扱要項に定める。

(産前産後休暇)

第23条の4 職員が出産するとき、法令に従いつぎのとおり産前産後休暇を与える。

イ 女性職員が6週間(多胎妊娠の場合は14週間)以内に出産予定のとき 出産の日までの申し出た期間

ロ 女性職員が出産したとき 出産の日の翌日から8週間を経過する日までの期間(産後6週間を経過した者が就業を申し出た場合において医師が支障がないと認めた業務に就く期間を除く)

2 産前産後休暇の期間は、勤続期間に算入し、給与は給与規定または中学校・高等学校教育職員給与規定に定める。

(特別休暇)

第24条 職員には、つぎに掲げる特別休暇を与える。

イ 慶弔休暇

- a 職員の父母、子または配偶者が死亡したとき 5日間のうち必要な日数
- b 職員の祖父母、兄弟姉妹または配偶者の父母が死亡したとき 3日間のうち必要な日数
- c 職員が結婚するとき 挙式の日を含む連続する5日間のうち必要な日数

ロ 生理休暇

女性職員で生理日の就業が著しく困難なとき 必要日数

ハ 削除

ニ 通院休暇

女性職員が、母子保健法の規定による保健指導または健康診査を受けるとき 1回につき1日以内で必要と認める時間

妊娠23週まで 4週に1回

妊娠24週から35週まで 2週に1回

妊娠36週から出産まで 1週に1回

ただし、医師等の特別の指示があった場合は、この限りでない。

ホ 看護休暇

小学校就学の始期に達するまでの子を養育する職員が、病気または負傷したその子の世話をするとき、以下の範囲で申し出た日数

- a 小学校就学前の子が1人であれば年5日
- b 小学校就学前の子が2人以上であれば年10日

ヘ 介護休暇

要介護状態にある家族の介護をする職員が、その家族の世話をするとき、以下の範囲で申し出た日数

- a 要介護状態の家族が1人であれば年5日
- b 要介護状態の家族が2人以上であれば年10日

ト 災害休暇

地震、水害、火災その他の災害または交通機関の事故等により出勤することが著しく困難であると認められるとき 理事長が必要と認める期間

チ 公用休暇

- a 選挙権その他の公民としての権利を行使するとき 理事長が必要と認める期間
- b 裁判員、証人、鑑定人、参考人等として官公署等へ出頭するとき 理事長が必要と

認める期間

リ 永年勤続休暇

第35条イ号に基づく表彰を受けたとき

15年勤続表彰 3日以内

30年勤続表彰 5日以内

2 特別休暇を受けようとするときは、つぎのとおりとする。

イ あらかじめ所定の様式により理事長に請求しなければならない。ただし、やむを得ない理由によりあらかじめ請求できなかつたときは、その理由を付して事後に承認を求めることができる。

ロ 前項の特別休暇のうち、慶弔休暇、生理休暇、災害休暇および公用休暇については、半日単位で取得できるものとし、半日休暇の場合は、当該出勤日の前半または後半に必要勤務時間の半分の時間について勤務する。

ハ 前項の特別休暇のうち、看護休暇、介護休暇については、半日単位または時間単位で取得できるものとし、半日休暇の場合は、当該出勤日の前半または後半に必要勤務時間の半分の時間について勤務し、時間単位休暇の場合は、取得できる単位時間は、1時間、2時間、3時間で、当該出勤日の始業の時刻から連続する、または終業の時刻まで連続する休暇取得を可能とし、残りの必要勤務時間について勤務する。

3 前項により特別休暇の請求があつた場合、理事長は、必要により証明書類の提出を求めることができる。

(特別休暇期間中の給与等)

第25条 特別休暇の期間は、勤続期間に算入する。

2 特別休暇の期間は、給与規定または中学校・高等学校教育職員給与規定により特に定められた場合を除き、給与を支給する。

(育児休業)

第26条 職員の育児休業、育児短時間勤務、育児のための所定外勤務の免除ならびに時間外勤務および深夜業の制限等については、育児休業規定に定める。

(介護休業)

第26条の2 職員の介護休業、介護短時間勤務、介護のための所定外勤務の免除ならびに時間外勤務および深夜業の制限等については、介護休業規定に定める。

(妊娠中および出産後の就業)

第27条 妊娠中の職員から申出があつたときは、他の軽易な業務に転換させる。

- 2 妊娠中の職員から申出があったときは、時間外勤務および休日勤務をさせない。
- 3 妊娠中および出産後1年以内の女性職員が、母子保健法の規定に基づく保健指導または健康診査に基づく指導事項を守るため、申出があったときは、第16条第3項または第5項に定める勤務時間帯の始業および終業の時刻を変更するなど必要な措置を講じるものとする。

第4章 服務規律

(出退勤)

第28条 職員は、出退勤の際、遅滞なく所定の方法により出退勤の事実を記録しなければならない。

(欠勤)

第29条 職員が欠勤しようとするときは、あらかじめ理事長に欠勤届を提出しなければならない。ただし、やむを得ない事情によりあらかじめ提出できなかったときは、遅滞なく提出しなければならない。

(身上の届出)

第30条 職員は、履歴事項、住所、家族の異動等身上に関する異動があったときは、速やかに理事長に届けなければならない。

(兼職)

第31条 職員は、学園以外の職務に従事しようとするときは、兼職に関する取扱要項の定めるところにより、あらかじめ理事長または理事長の委任を受けた学校長の承認を得なければならない。

- 2 教育系職員が、非常勤講師として学園以外の職務に従事するときは、学園が設置する各学校での授業担当時間数の3分の1を超えてはならない。

(禁止事項)

第32条 職員は、つぎに掲げる行為をしてはならない。

- イ 職務上の地位を利用して金品を受領し、または自己の利益を図ること
- ロ 職務上の権限を越えて、または権限を濫用して、専断的な行為をすること
- ハ 職務上知り得た秘密を漏らし、または学園の不利益となるおそれのある事項を他に告げること
- ニ その他、学園の行動規範に反する行為をすること

第5章 給与、退職金

(給与)

第33条 給与については、給与規定または中学校・高等学校教育職員給与規定に定める。

(退職金)

第34条 2004年3月31日以前に採用された者に適用する退職金は、退職年金規定に定める。

2 2004年4月1日以降に採用された者に適用する退職金は、退職金規定に定める。

3 前項のうち、2023年4月1日以降に常翔学園中学校・高等学校の専任の教育職員に任用された者に適用する退職金は、中学校・高等学校教育職員退職金規定に定める。

第6章 表彰、懲戒

(表彰)

第35条 職員がつぎの各号のいずれかに該当するとき、理事長は、表彰することができる。

イ 永年にわたって誠実に勤務し、その勤務成績が優秀で他の模範となるとき

ロ 業務で功績のあったとき

ハ 国家または社会的に功績があり、学園の名誉となるべき行為のあったとき

ニ 学園の災害を未然に防止し、または非常の際功労のあったとき

ホ その他前各号に準ずる表彰に値する行為のあったとき

2 前項の施行につき必要な事項は、表彰内規に定める。

(懲戒の理由)

第36条 職員がつぎの各号のいずれかに該当するとき、理事長は、懲戒処分をすることができる。

イ 正当な理由なく無届け欠勤が14日以上に及んだとき

ロ 出勤が常でなく勤務成績が著しく悪いとき

ハ 重要な履歴を偽ったとき

ニ 第31条に定める承認を受けずに学園以外における職務に従事したとき

ホ 素行不良で、職員としての体面を汚し、または刑事上の罪に該当するような行為をしたとき

へ しばしば懲戒処分を受けたにもかかわらず、改めないとき

ト 学園の経営、教育方針に反した行為により、学園の名誉を傷つけ、または学園に迷惑を及ぼしたとき

チ 人権侵害の防止に関する規定第2条に定める人権侵害行為により、職場の秩序を乱し学園の職員または学生・生徒の、人権を侵害したとき

リ 第4条に定める遵守義務および第32条に定める禁止事項に違反したとき

(懲戒の種類)

第37条 懲戒は、譴責、減給、出勤停止、降格、停職、諭旨退職および懲戒解雇とし、その方法は、つぎのとおりとする。

イ 譴責は、始末書を取り将来を戒める。

ロ 減給は、始末書を取り、給与の一部を一定期間減額する。この場合、1回の違反行為に対して、平均賃金の1日分の半額を超えず、総額が1賃金支払期における賃金の総額の10分の1を超えないものとする。

ハ 出勤停止は、始末書を取り、1カ月以内の期間を定めて出勤を停止し職務に従事させない。出勤停止期間中の給与は、支給しない。

ニ 降格は、始末書を取り、任用規定に定める降任、役職の解任のいずれかを行う。ただし、懲戒事由により、両方を併せて行うことがある。

ホ 停職は、始末書を取り、1年以内の期間を定めて出勤を停止し職務に従事させない。停職期間中は、職員としての身分を保有するが、給与は支給しない。

ヘ 諭旨退職は、本人を説諭の上退職届を提出させる。これに応じない場合は、30日前に予告するか、30日分以上の平均賃金を支払って解雇する。

ト 懲戒解雇は、予告期間を設けずに即時解雇し、退職金を支給しないこととし、労働基準監督署の認定を得た場合は、予告手当も支給しない。

2 職員が学園に損害を与えたときは、懲戒されることによって損害の賠償を免れることはできない。

(懲戒の手續)

第38条 職員が第36条に定める懲戒の理由に該当すると認められるとき、理事長は、その都度、懲戒委員会を設ける。

2 理事長は、前項による懲戒委員会の答申を踏まえて、理事会の議を経て懲戒処分を決定する。ただし、懲戒の種類の実用については、当該職員が加入する労働組合の意見を聴くものとする。

3 懲戒委員会については、懲戒委員会規定に定める。

第7章 安全衛生

(保安)

第39条 職員は、防火・防災・防犯に努め、学生生徒・職員の人身および学園の財産の保護および安全保持に努めなければならない。

(健康診断)

第40条 職員は、毎年定期的に学園が実施する健康診断を受けなければならない。

(就業の禁止)

第41条 職員が法定伝染病、精神障害または勤務することにより病状が悪化するおそれのある疾病にかかったとき、理事長は、医師の意見を聴き就業を禁止することができる。

2 職員は、家族または同居人が法定伝染病にかかったとき、またはその疑いがあるときは、直ちにその旨を理事長に届け出てその指示を受けなければならない。

第8章 災害補償

(業務上の傷病)

第42条 業務上もしくは通勤により負傷し、または疾病にかかり、療養のために勤務することができない場合で、労働者災害補償保険法(以下「労災法」という)による認定をうけたときは、公傷病休暇とする。

2 第24条第2項および同条第3項の規定は、公傷病休暇の場合について準用する。

3 公傷病休暇の原因となる傷病が治癒したときは、速やかに復職しなければならない。

(法律に基づく補償)

第43条 公傷病休暇期間中は、労働基準法および労災法の定めによる補償を行う。

(公傷病休暇中の給与等)

第44条 公傷病休暇の期間は、勤続期間に算入する。

2 公傷病休暇期間中の給与は、給与規定または中学校・高等学校教育職員給与規定に定める。

(労災認定に準じた取扱い)

第45条 傷病が労災法による業務上傷病としての認定が得られなかった場合であっても、業務上の傷病と認めることが妥当と理事会が判断した場合は、前3条に準じた取扱いをすることができる。

第9章 その他

(規則の改廃)

第46条 この規則の改廃は、労働組合の意見を聴き、理事会の議を経て理事長が行う。

付 則

1 この規則は、昭和24年4月25日から施行する。

2 この改正規則は、2023年4月1日から施行する。

3 この規則に解釈上または運用上の疑義を生じた場合、理事会がこれを解明する。

情報科学部実世界情報学科 時間割表【前期】

		共通科目			キャリア科目	専門科目	教職課程
		人文社会科学	外国語・健康・スポーツ科学	総合理学系			
		科目名【教室】	科目名【教室】	科目名【教室】			
月曜	1限目					●コンピュータ入門 【1501】 ■ロボティクス 【1303】	
	2限目				キャリアデザインⅠ 【1401,1402】	■微積分Ⅰ 【1301、1302】	
	3限目		口語英語Ⅰa 【1304、第1・第2LL】	物理現象の数理 【1205】		ロボット対話システム 【1303】	
	4限目			物理現象の数理 【1205】		Webプログラミング 【第1情報処理演習室】	
	5限目						情報科教育法 a 【第5情報処理演習室】
火曜	1限目	言語学基礎 【1311】				●情報通信ネットワーク 【1403】 システムプログラム 【第1・2情報処理演習室】	
	2限目	言語学基礎 【1311】 日本の歴史 【1310】	基礎スポーツ科学 a 【1205】			■人工知能 【1502】	
	3限目	哲学基礎 【1601】 日本の歴史 【1502】 文学基礎 【1311】		地球科学基礎 【1403,共通実験実習室2・3・4】		●実世界情報入門 【1310】 U n i x 入門 【第3・4情報処理演習室】 ■確率・統計 【1501】	
	4限目	哲学基礎 【1601】 日本の歴史 【1502】	英語による情報技術Ⅰ a 【1401】	生命科学基礎 【1301】 地球科学基礎 【1403,共通実験実習室2・3・4】 力学 【1602,第6情報処理演習室】 物理学基礎 【1404】		●実世界情報入門 【1310】 シェルスクリプト入門 【第3・4情報処理演習室】 ソフトウェア工学Ⅱ 【1302】	
	5限目		英語表現(basic2)a 【1303、1304】 口語英語Ⅱ a 【1305】				道徳教育 【1402】
水曜	1限目	情報法学 【1403】	英語の語法 【第1LL、1305】		基礎ゼミナール 【1201】	コンピュータリテラシー 【第4情報処理演習室】	
	2限目	情報法学 【1403】	健康科学 【1205】 英語の語法 【第2・第3LL】		基礎ゼミナール 【1203】	コンピュータリテラシー 【第4情報処理演習室】 ■データ構造とアルゴリズム 【1310】	
	3限目	人間発達と人権 【1311】	日本語Ⅰ 【1202】				人間発達と人権 【1311】
	4限目		日本語Ⅰ 【1202】				
	5限目						数学科教育法 b 【ラーニングコモンズ】

情報科学部実世界情報学科 時間割表【前期】

		共通科目			キャリア科目	専門科目	教職課程
		人文社会科学	外国語・健康・スポーツ科学	総合理学系			
		科目名【教室】	科目名【教室】	科目名【教室】			
木曜	1限目		英語表現(basic1)a 【1304、第1・第2・第3LL】			■C演習Ⅱ 【第1・2・3・4・6情報処理演習室】	
	2限目		英語による情報技術Ⅱ 【1303】			■C演習Ⅱ 【第1・2・3・4・6情報処理演習室】 ■線形数学Ⅰ 【1301】 ■線形数学Ⅰ 【1302】	
	3限目			地球科学基礎 【1403,共通実験実習室2・3・4】 力学 【1602】		■グラフ理論 【1311】 ●実世界情報専門演習 【第1・2情報処理演習室】	
	4限目			地球科学基礎 【1403,共通実験実習室2・3・4】 力学 【1602】		●実世界情報専門演習 【第1・2情報処理演習室】	教育原論 【1402】 数学科教育法 d 【ラーニングcommons】
	5限目						教育方法論(ICT活用を含む) 【1401】 教育行政 【1402】
金曜	1限目			力学 【1404】		ソフトウェア工学演習 【第5情報処理演習室】	
	2限目					ソフトウェア工学演習 【第5情報処理演習室】	
	3限目	経済学基礎 【1501】 社会学基礎 【1302】 心理学基礎 【1301】 日本国憲法 【1205】 文学基礎 【1405】 倫理学基礎 【1601】	スポーツ科学実習 【1202】	化学基礎 【1403】 生命科学基礎 【1310】 環境情報科学 【1502】		ヒューマンインタフェース 【1311】	
	4限目	経済学基礎 【1501】 社会学基礎 【1302】 心理学基礎 【1301】 日本国憲法 【1205】 文学基礎 【1405】 倫理学基礎 【1601】		化学基礎 【1403】 生命科学基礎 【1310】		コンピュータビジョン 【1502】	
	5限目						
土曜	1限目						教育相談 【1202】
前期集中	その他		海外語学研修		グローバルテクノロジー論 OIT概論	情報科学実践演習(国内PBL)a ものづくり実習	特別支援教育 情報科教育法 b 【第5情報処理演習室】 福祉教育概論 高等学校教育実習 中学校教育実習

情報科学部実世界情報学科 時間割表【後期】

		共通科目			キャリア科目	専門科目	教職課程
		人文社会科学	外国語・健康・スポーツ科学	総合理学系			
		科目名【教室】	科目名【教室】	科目名【教室】			
月曜	1限目				キャリアステップ 【1402】	微積分学Ⅱ 【1302】	
	2限目					■線形数学Ⅰ（再履修） 【1302】 ■情報数学 【1310】 線形数学Ⅱ 【1403】	
	3限目		口語英語Ⅰb 【1304、第1・第2LL】			実世界計測 【1404】	
	4限目					●オペレーティングシステム 【1501】	
	5限目					■ソフトウェア工学Ⅰ 【1501】	
火曜	1限目					微分方程式 【1304】 微分方程式 【1305】 ■Java演習 【第1・2情報処理演習室】 メディア通信概論 【1303】	
	2限目	言語学基礎 【1502】 人類の歴史 【1311】 倫理学基礎 【1303】				■Java演習 【第1・2情報処理演習室】 数理計画法 【1301】	
	3限目	応用倫理学 【1302】 言語学基礎 【1502】 人類の歴史 【1311】	基礎スポーツ科学b 【1205】	地球環境 【1403】 現代物理学入門 【1310】		■デジタル回路Ⅰ 【1301】 ■デジタル回路Ⅱ 【1301】	
	4限目	応用倫理学 【1302】 人類の歴史 【1311】 文学基礎 【1502】	英語による情報技術Ⅰb 【1401】	情報生命科学 【1205】 地球環境 【1403】 電磁気学 【1404】 現代物理学入門 【1310】		画像情報処理 【1501】	教職実践演習(中・高) 【1202】
	5限目		英語表現(basic2)b 【1304】 英語表現(basic2)b 【1303】 口語英語Ⅱb 【1305】	基礎力向上講座(電磁気学) 【1401】			教育心理学 【1404】 生徒指導と進路指導 【1305】
水曜	1限目	観る文学 【1401】		科学史 【1303】		●C演習Ⅰ 【第1～6情報処理演習室】	
	2限目	応用倫理学 【1302】		視る自然科学 【1402,共通実験実習室3・4】		●C演習Ⅰ 【第1～6情報処理演習室】 ●情報技術者論 【1601】	
	3限目		日本語Ⅱ 【1202】				教育課程論 【1402】
	4限目		日本語Ⅱ 【1202】				特別活動・総合的な学習の時間の指導法 【1402】
	5限目						数学科教育法c 【ラーニングcommons】

情報科学部実世界情報学科 時間割表【後期】

		共通科目			キャリア科目	専門科目	教職課程
		人文社会科学	外国語・健康・スポーツ科学	総合理系			
		科目名【教室】	科目名【教室】	科目名【教室】			
木曜	1限目		英語表現(basic1)b 【1304、第1・第2・第3LL】			●実世界情報基礎演習 【1205】	
	2限目		英語演習 【1201】 英語による情報技術Ⅱ 【1202】 英語の語法 【1305】			●テクニカルライティング 【1404】 ●テクニカルライティング 【1403】 ●実世界情報基礎演習 【1205】	
	3限目			地球環境 【1403】	キャリアデザインⅡ 【1401,1402】 キャリアデザインⅡ(再履修) 【1401,1402】	■微積分学Ⅰ(再履修) 【1301】 IoTサーバ構築 【メディアセンター】	
	4限目					●情報ゼミナール	教職特論
	5限目						教職入門 【1405】 教育学教育法 a 【ラーニングコモンズ】
金曜	1限目	観る文学 【1401】				■IoT通信 【1302】	
	2限目	観る文学 【第6情報処理演習室】				●IoT概論 【1402】 ■情報セキュリティの基礎 【1502】	
	3限目	現代経済論 【1301】 情報社会論 【1302】 心理学基礎 【1602】 法学基礎 【1205】 倫理学基礎 【1305】		環境情報科学 【1311】 情報生命科学 【1310】		IoTデータベース 【1402】 実世界情報応用演習 【1403】	
	4限目	経済学基礎 【1301】 情報社会論 【1302】 心理学基礎 【1602】 法学基礎 【1205】		化学基礎 【1501】 環境情報科学 【1311】 情報生命科学 【1310】		実世界情報応用演習 【1403,共通実験実習室2・4】	
	5限目	人間発達と人権 【1601】					人間発達と人権 【1601】
後期集中	その他					情報処理基礎 【1502】 情報科学実践演習(国内PBL) b 情報科学実践演習(国際PBL)	
集中	その他						

令和5（2023）年度 学術雑誌購入一覧

学科	雑誌名
情報知能学科	National geographic
	デザインノート：デザインのメイキングマガジン
	Interface
	日経エレクトロニクス
	Nikkei robotics
情報システム学科	TOEIC Test プラス・マガジン
	数理科学
	科学
	多聴多読マガジン
	留学ジャーナル
	日経サイエンス：Scientific American 日本版
	American journal of physics
	数学セミナー
	NHKラジオ ラジオビジネス英語
	大学の物理教育
	数理科学
情報メディア学科	トランジスタ技術
	日経コンピュータ
	The Japan news
	Asahi Weekly
	Interface
	日経ソフトウェア
	日経Linux
	英語教育
	NHKラジオ ラジオビジネス英語
	杉田敏の現代ビジネス英語
ネットワークデザイン学	Proceedings of the IEEE
	体育の科学：保健と体育の平易な総合雑誌
	生体の科学
	Software design
	日経ソフトウェア
	日経network：ネットワーク技術が基礎から身につく
	Interface
	日経Linux
データサイエンス学科	Harvard business review：Diamondハーバード・ビジネス・レビュー
	工場管理
	日経ものづくり
	教育システム情報学会研究報告
	Interface
	トランジスタ技術
	Software design
	日経Linux
	計測自動制御学会論文集

大阪工業大学大学・大学院運営会議規定

1996年2月27日

学園211

改正 2023年3月16日

(趣旨)

第1条 この規定は、大阪工業大学学則第8条および組織規定第43条第1項に定める大阪工業大学大学・大学院運営会議(以下「大学・大学院運営会議」という)の構成、審議事項、運営等必要な事項を定める。

(構成)

第2条 大学・大学院運営会議は、つぎの者をもって構成する。

- イ 学長
- ロ 副学長
- ハ 研究科長
- ニ 学部長
- ホ 教務部長
- ヘ 学生部長
- ト 図書館長
- チ 情報センター長
- リ 事務局長
- ヌ 入試部長
- ル キャリア支援部長
- ヲ 国際交流センター長
- ワ 教育センター長

2 前項にかかわらず、学長は必要に応じてオブザーバーとして関係者の出席を認めることができる。

(審議事項)

第3条 大学・大学院運営会議は、つぎの事項を審議する。

- イ 学生の入学ならびに卒業および課程修了にかかる基本方針に関すること
- ロ 年間行事予定に関すること
- ハ 教育課程の編成にかかる基本方針に関すること

- ニ 教育研究上の重要な事項および教育研究の振興に関すること
- ホ アセスメント・ポリシーの策定に関すること
- へ 規定の制定・改廃に関すること
- ト 教員の留学に関すること
- チ 名誉教授の称号授与等に関すること
- リ 理事会に付議する案件(教員の任免を除く)に関すること
- ヌ 学長が諮問した事項に関すること
- ル その他管理運営上の重要な事項に関すること

(報告事項)

第4条 大学・大学院運営会議には、つぎの事項を報告するものとする。

- イ 大学および大学院にかかる理事会決定事項に関すること
- ロ 教授会ならびに研究科委員会および各委員会で審議した事項に関すること
- ハ 学長が大学・大学院運営会議への報告を必要と認めた事項に関すること

(招集および議長)

第5条 学長は、大学・大学院運営会議を招集し、議長となる。

- 2 学長に事故があるときまたは欠けたときは、職制に関する規定第7条第4項により置く
工大学長代理が議長となり、議長の職務を行う。

(小委員会)

第6条 議長は、必要に応じて、小委員会を設けることができる。

- 2 小委員会では、大学・大学院運営会議から付託された事項について審議する。

(大学・大学院運営会議の庶務)

第7条 大学・大学院運営会議の庶務は、学長室庶務課で取り扱う。

(運営細則)

第8条 この規定の定めるもののほか、大学・大学院運営会議の運営に関し必要な事項は、
大学・大学院運営会議の議を経て学長が定める。

(規定の改廃)

第9条 この規定の改廃は、大学・大学院運営会議の意見を聴き、学長の承認を得て、理事
長が行う。

付 則

- 1 この規定は、1996年4月1日から施行する。
- 2 この改正規定は、2023年4月1日から施行する。

大阪工業大学教学推進委員会規定

1996年2月27日

学園292

改正 2023年3月22日

(趣旨)

第1条 この規定は、大阪工業大学学則第10条第1項および組織規定第43条第1項に定める大阪工業大学教学推進委員会(以下「委員会」という)の構成、審議事項、運営等必要な事項を定める。

(構成)

第2条 委員会は、つぎの委員をもって構成する。

- イ 教務部長
- ロ 学部長・研究科長
- ハ 教育センター長
- ニ 教務部署担当課長職
- ホ その他必要に応じて学長が任命した者 若干名

(委員の任期)

第3条 前条イ号からニ号までの委員の任期は、その在任期間中とする。

2 前条ホ号の委員の任期は1年とし、重任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第4条 委員会は、学部および大学院の教学に関するつぎの事項を審議する。

- イ ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの策定に関すること
- ロ 教育改革および教育改善に関すること
- ハ 教育課程および教育内容に関すること
- ニ 数理・データサイエンス教育に関すること
- ホ 教養教育に関すること
- ヘ 年間授業計画に関すること
- ト 授業時間割の編成に関すること
- チ 履修制度、成績評価および卒業・修了資格等に関すること
- リ 学生の学修指導に関すること

- ヌ 教育技術の改善に関すること
 - ル 高大接続教育に関すること
 - ヲ その他学長が諮問した事項に関すること
- (委員長・副委員長およびその職務)

第5条 委員会に、委員長および副委員長各1名を置く。

- 2 委員長は、教務部長をもって充て、副委員長は、委員の中から委員長の意見を聴いて学長が任命する。
- 3 委員長は、学長の指揮に従い、委員会を招集し、議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときもしくは欠けたときまたは委員長から命ぜられたとき、委員長の職務を行う。

(小委員会)

第6条 委員長は、必要に応じて、小委員会を設けることができる。

- 2 小委員会の委員長および委員は、委員の中から委員長が指名する。ただし、必要に応じて、委員以外の者を加えることができる。
- 3 小委員会では、委員会から付託された事項について審議する。

(定足数)

第7条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことができない。

(議事録)

第8条 議事録の作成および保管は、教務部教学支援担当課長が行う。

(学長への報告)

第9条 委員長は、審議の経過および結果について速やかに学長に報告しなければならない。

(委員会の庶務)

第10条 委員会の庶務は、教務部教務課で取り扱う。

(規定の改廃)

第11条 この規定の改廃は、大学・大学院運営会議の意見を聴き、学長の承認を得て、理事長が行う。

付 則

- 1 この規定は、1996年4月1日から施行する。
- 2 この改正規定は、2023年4月1日から施行する。

大阪工業大学情報科学部自己評価・IR委員会規定

2004年3月17日

工学内156

改正 2020年12月17日

(目的)

第1条 大阪工業大学(以下「本大学」という)情報科学部における教育研究活動等について必要な改善を加え、さらにその成果について自ら点検および評価を行い、不断の改善を続けるため、情報科学部自己評価・IR委員会(以下「委員会」という)を置く。

(構成)

第2条 委員会は、つぎの委員をもって構成する。

- イ 情報科学部長
- ロ 情報科学部の各学科長
- ハ 情報科学部の教授の中から各学科長の推薦により情報科学部長が任命した者 5名以内
- ニ 情報科学部事務室長
- ホ その他必要に応じて情報科学部長が任命した者 若干名

2 第5条に定める委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(委員の任期)

第3条 前条第1項ハ号およびホ号の委員の任期は2年とし、重任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前条第1項イ号、ロ号およびニ号の委員の任期は、その在任期間中とする。

(任務)

第4条 委員会は、情報科学部におけるつぎの事項を掌る。

- イ 自己点検・評価に関する事
- ロ 内部質保証に関する事
- ハ 委員会が実施する点検・評価にかかる情報の収集、分析および提供に関する事
- ニ ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施
- ホ 本大学自己評価・IR委員会との連絡調整
- ヘ その他委員会が実施する自己点検・評価のために必要な事項

(委員長・副委員長および職務)

第5条 委員会に委員長および副委員長各1名をおく。

2 委員長は、情報科学部長をもって充て、副委員長は、委員の中から情報科学部長が任命する。

3 委員長は委員会を招集し、議長となる。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときもしくは欠けたときに委員長の職務を行う。

(委員会の開催)

第6条 委員会は、必要により随時開催するものとする。

(委員会の庶務)

第7条 委員会の庶務は、情報科学部事務室で行う。

(規定の改廃)

第8条 この規定の改廃は、委員会および情報科学部長の意見を聴いて、学長がこれを行う。

付 則

1 この内規は、2004年4月1日から施行する。

2 この改正規定は、2021年4月1日から施行する。

本学HPにおける公表情報及び掲載先一覧

	項目	掲載場所
1	大学の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること	学部 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html#chap02
		大学院 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_gradoit.html#chap01
2	教育研究上の基本組織に関すること	大学の組織図 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/organization.html
3	教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること	教員組織、各教員が保有する学位及び業績、教員の年齢構成 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/soshiki.html
		教職員数（教育職員数、専任・兼任教員比率、事務職員数） https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data01.html
4	入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること	アドミッション・ポリシー https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/admission.html
		入試状況 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data05.html
		入学者推移 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data06.html
		収容定員（学部） https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html#teiin
		収容定員（大学院） https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_gradoit.html#teiin
		収容定員充足率 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data07.html
		学生数（在籍学生数、教員一人当たりの学生数、除籍・退学者数等） https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data08.html
		社会人学生数 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data09.html
		留学生数 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data10.html
		卒業・修了者数（学位授与数） https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data12.html
進路状況 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data14.html		
大学院進学率 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data15.html		
5	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること	カリキュラム・ポリシー https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/cu_policy.html
		WEBシラバス https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/index.html
		教育目標とカリキュラム編成方針、カリキュラムマップなど https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/index2.html
6	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること	ディプロマ・ポリシー https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/de_policy.html
		教育課程および履修方法、単位の授与、卒業および学位の授与（学部） https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html#chap06
		課程修了の要件、学位の授与（大学院） https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_gradoit.html#chap05
7	校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること	大宮キャンパス概要、交通アクセス [工学部・知的財産学部・工学研究科・知的財産研究科] https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/access_omiya.html
		梅田キャンパス概要、交通アクセス [ロボティクス&デザイン工学部・ロボティクス&デザイン工学研究科] https://www.oit.ac.jp/rd/umeda/index.html
		枚方キャンパス概要、交通アクセス [情報科学部・情報科学研究科] https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/access_hirakata.html
		校地・建物面積、校舎等の耐震化率 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data02.html
		運動施設の概要 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data03.html
		図書館蔵書数 https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data04.html
		研究センター・教育施設 https://www.oit.ac.jp/japanese/facility/index.html
		学習支援 https://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/support.html
		クラブ・サークル活動 https://www.oit.ac.jp/japanese/club/index.html
8	授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること	学費 https://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/fee.html
		入学検定料等 https://www.oit.ac.jp/japanese/juken/outline/fee.html
9	大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること	学習支援 https://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/support.html
		奨学金 https://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/scholarship000.html
		就職・キャリア形成 https://www.oit.ac.jp/japanese/career/index.html
		保健室 https://www.oit.ac.jp/japanese/health/index.html
		学生相談 https://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/counseling.html
		学生担当委員 https://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/counseling_time.html
		障がいのある学生への支援 https://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/counseling.html#course5
		ハラスメントへの取り組み https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/harassment.html
		AED設置場所 https://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/aed.html
留学生支援（国際交流） https://www.oit.ac.jp/japanese/international/		

【資料 16】

10 その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報）	カリキュラム・ポリシー（記述）	https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/cu_policy.html
	WEB シラバス（記述）	https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/index.html
	教育目標とカリキュラム編成方針、カリキュラムマップなど（記述）	https://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/index2.html
10 その他（学則等各種規定）	2023 年度 大阪工業大学学則	https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html
	2023 年度 大阪工業大学大学院学則	https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_gradoit.html
10 その他（設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況報告書）	設置届出書、設置計画履行状況報告書	https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/setti.html
10 その他（自己点検・評価報告書、認証評価の結果）	認証評価、自己点検・評価	https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/ninsyouhyouka.html#daigaku
10 その他（学校教育法第 83 条の 2 第 2 項、第 99 条第 3 号及び第 108 条第 5 項）	専門職大学における、専門性が求められる職業についている者、当該職業に関連する事業を行う者等との協力の状況	https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-18
10 大学院設置基準第 14 条の 2 第 2 項	大学院における学位論文に係る評価に当たっての基準	https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/index.html#openinfo-19

大阪工業大学FD委員会規定

2009年10月15日

工学内126

改正 2023年3月11日

(趣旨)

第1条 この規定は、本学所属教員の教授法向上を図り、もって全学的に教育力を増進するための組織的な研修の実施(以下「FD活動」という)を目的として設置する大阪工業大学FD委員会(以下「委員会」という)の活動内容、構成員等必要な事項を定める。

(活動内容)

第2条 委員会は、自己評価・IR委員会、教学推進委員会およびその他委員会等と連携を図るとともに、各学部・研究科と連絡調整しながらつぎの活動を行う。

- イ 教職員にFD活動の意義を周知し、その実践を促す活動
- ロ 教授法向上のための諸方策の検討・立案・実施
- ハ 学生が積極的かつ主体的にFD活動へ参加できる体制を構築する活動
- ニ FD活動推進のための将来計画の立案
- ホ FD活動の年間計画の立案
- ヘ その他委員会の目的達成のために必要な活動

(構成員)

第3条 委員会は、つぎの委員をもって構成する。

- イ 学長
- ロ 副学長
- ハ 学部長(研究科長)
- ニ 教務部長
- ホ 図書館長
- ヘ 情報センター長
- ト 事務局長
- チ キャリア支援部長
- リ 国際交流センター長
- ヌ 教育センター長
- ル その他必要に応じて学長が任命した者 若干名

2 委員会に幹事を置き、教学支援担当課長をもって充てる。

(委員および幹事の任期)

第4条 前条第1項イ号からヌ号までの委員および同条第2項の幹事の任期は、その在任期間中とする。

2 前条第1項ル号の委員の任期は2年とし、重任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長・副委員長およびその他の職務)

第5条 委員会に、委員長および副委員長各1名を置く。

2 委員長は、学長をもって充て、副委員長は、委員の中から学長が任命する。

3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときもしくは欠けたときまたは委員長から命じられたとき、委員長の職務を行う。

5 幹事は、委員長の指揮に従い、委員会の活動のための連絡調整をはじめ、委員会に関する事務を処理する。

(小委員会)

第6条 委員長は、必要に応じて、小委員会を設けることができる。

2 小委員会の委員長および委員は、委員会の委員の中から委員長が指名する。ただし、委員長は必要に応じて、委員以外の者を小委員会委員に加えることができる。

3 小委員会では、委員会から付託された事項について審議し、その結果を委員会へ報告しなければならない。

(委員会の庶務)

第7条 委員会の庶務は、教務部教務課で取り扱う。

(規定の改廃)

第8条 この規定の改廃は、大学・大学院運営会議の意見を聴き、学長が行う。

付 則

1 この規定は、2009年10月15日から施行し、2009年4月1日から適用する。

2 この改正規定は、2023年4月1日から施行する。

令和5（2023）年度就職行事と活動の流れ

■情報科学部

対象年次	行事名称	主な内容	日程
4年次 (博士前期2年次)	学内単独企業説明会	企業採用担当者による個社説明・選考会	4月より随時開始
3年次 (博士前期1年次)	就職ガイダンス①	進路選択(大学院進学・就職)、自己分析、履歴書の書き方、インターンシップ・企業研究講座	4/12(水)
	自己分析ワークショップ 履歴書校閲	キャリアコンサルタントによる自己分析、個別履歴書校閲の開始	[ワークショップ]4/15(土)以降実施の学生予約日 [履歴書校閲]5/8(月)開始
	就職ガイダンス②	面接対策講座(エントリーシート対策含む)、インターンシップ・企業研究講座、先輩学生の就職・進学体験発表、就職テスト対策講座(eラーニング)	5/24(水)
	就職ガイダンス③、就職模擬テスト①	IT業界・職種研究(企業講演)、業界・企業研究の仕方、先輩学生の就職・進学体験発表、模擬テスト(全国Web総合テスト)、eラーニング(センターSPI、CAB)	6/14(水)
	インターンシップ対応面談会 (Webワークショップ、エントリー相談)	就職担当者(またはキャリアコンサルタント)によるインターンシップ対応相談会(web面接練習含む)	6/26(月)から7月中旬までの学生予約日
	就職ガイダンス④、就職模擬テスト②	先輩学生の就職・進学体験発表、就職テスト対策講座(eラーニング)、模擬テスト	9/27(水)
	模擬面接会	キャリアコンサルタントによる模擬面接(対面による実践練習)	10/23(月)～11月末迄実施の学生予約日
	進路面談	進路面談(個人面談)	11/13(月)～12/6(水)の指定日[土・日曜日、祝日除く]
	学内合同企業セミナー (Web)	情報系企業採用担当者、OB・OGリクルーターによる業界・企業研究会(オンライン形式)	12/8(金)、12/12(火)・13(水)
	就職ガイダンス⑤、就職模擬テスト③	就職活動直前準備、推薦応募、模擬テスト等	12/20(水)
	学内合同企業説明会	(全学対象)企業採用担当者による説明会 ※参加企業の日程により対象学部等日時が異なる	2月15日(木)～2月17日(土) 2月19日(月)～2月22日(木)、24(土) 2月26日(月)～2月28日(水) ※注:業界、企業が多岐に渡るため、参加企業の日程を選択し参加する
学内企業面談会	企業採用担当者、OB・OGによる企業説明会	3/11(月)開始	
2年次	進路ガイダンス	先輩学生の就職・進学体験発表、大学院への進学、就職テスト対策	12/6(水)
	履修ガイダンス内:(新3年次向け)準備ガイダンス	就職支援行事スケジュール、インターンシップ(大学紹介・自由応募)	3/25(月)
1年次	新入生進路ガイダンス	進路選択(進学・就職)、先輩学生の就職・進学体験発表	5/31(水)
全学年	TOEIC-IP学内試験①	TOEIC®Listening & Reading IPテスト	6月
	TOEIC-IP学内試験②	TOEIC®Listening & Reading IPテスト	11月

* 各日程の内容を変更することがある。

学生の確保の見通し等を記載した書類

- (1) 新設組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
 - ①新設組織の概要
 - ②新設組織の特色

- (2) 人材需要の社会的な動向等・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
 - ①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析
 - ②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析
 - ③新設組織の主な学生募集地域
 - ④既設組織の定員充足の状況

- (3) 学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
 - ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果
 - ア 既設組織における取組とその目標
 - イ 新設組織における取組とその目標
 - ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数
 - ②競合校の状況分析
 - ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性
 - イ 競合校の入学志願動向等
 - ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等
 - エ 学生納付金等の金額設定の理由
 - ③先行事例分析
 - ④学生確保に関するアンケート調査
 - ⑤人材需要に関するアンケート調査等

- (4) 新設組織の定員設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要 (名称, 入学定員 (編入学定員), 収容定員, 所在地)

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科	80	0	320	大阪府枚方市北山 1-79-1

②新設組織の特色

実世界情報学科は、様々な IoT センシング技術とデジタル技術によって、実世界の状況をデータとして取得し、ヒト・モノ・環境の情報分析と可視化、生活空間の環境設備やロボットなどの自動機器の制御 (実世界インタラクション) により実世界の具体的な課題を解決できる実世界情報のプロフェッショナル人材を養成するとともに、情報技術の社会実装に必要な理論と手法の教育を担う学科として、実世界におけるデジタルトランスフォーメーションを特色とした教育プログラムを用意するとともに、地域に根差した産官学連携による実践的な教育ネットワークの構築および既設 4 学科との連携により、地域課題の解決・新たな価値創造を行う実践的教育を行う。

実世界情報学科 (入学定員 80 人、枚方キャンパス) の開設と同時に、既設の情報科学部ネットワークデザイン学科 (入学定員 90 人、3 年次編入学定員 5 名、同キャンパス) の学生募集を停止し、データサイエンス学科の入学定員を 10 名増加 (70 人→80 人)、情報知能学科の入学定員を 10 名増加 (90 人→100 人)、情報システム学科の入学定員を 5 名減 (105 人→100 人)、情報メディア学科の入学定員を 5 名減 (105 人→100 人) し、大学全体では入学定員は 1,780 人で増減はなく、編入学定員が 85 人→80 人の 5 人減となり、収容定員は 7,290 人から 7,280 人に 10 人減少する。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

実世界情報学科は、様々な IoT センシング技術とデジタル技術によって、実世界の状況をデータとして取得し、ヒト・モノ・環境の情報分析と可視化、生活空間の環境設備やロボットなどの自動機器の制御 (実世界インタラクション) により実世界の具体的な課題を解決できる実世界情報のプロフェッショナル人材を養成する。本学科が養成する先進的な IT 人材には、自動運転などのデジタル技術の革新を担う人材として、現在及び近い将来において強い人材需要が存在している。その人材需要に応える人材供給が長期的に大きく不足していることは、2030 年の IT 人材需要 164.6 万人に対し 78.9 万人が不足するという推計 (「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」平成 28 年 経済産業省) など、政府の答申をはじめ様々な報告で示されている。本学科では、デジタル分野におけるフロンティア領域を担っていく専門人材を養成し、IT・デジタル人材育成の社会的要請に応えていく。

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

全国及び本学が主な学生募集地域とする大阪府の 18 歳人口の本学科開設から 10 年間 (2025 年度～2034 年度) の 18 歳人口 (高等学校卒業相当) の推計を、学校基本調査の各学年在籍数から推測した表

は以下の通りである。全国では▲102,998人(2025年度比90.3%)、大阪府では▲7,174人(同比90.1%)の減少が予測されている。10年間で約10%の18歳人口減は確実ではあり、大学全体の志願者、入学者は大きく減少するものの、新設する実世界情報学科は、IT業界をはじめとした実業界からの強い先進的デジタル人材需要に応える形で設置する学科であることから、18歳人口が大きく減少する局面においても、卒業後の就職の確実性及び長期的かつグローバルなキャリアパスが見込めることから、安定した志願者及び入学者が獲得できると考えている。

全国及び大阪府の10年間の18歳人口推計

	2025年度(開設時) 18歳人口	2034年度(10年次) 18歳人口	減少幅	2025年を100% とした割合
全国	1,065,505人	962,507人	▲102,998人	90.3%
大阪府	72,994人	65,820人	▲7,174人	90.1%

(出典) 学校基本調査

※2025年度進学対象者(令和5年度高校第2学年)は文部科学省「学校基本調査(令和4年度版)」での「卒業後の状況調査」の「中学校」における「都道府県別高等学校等への進学者数」の人数に基づく。2035年度進学対象者(令和5年度小学1年生)は「学校調査票(小学校)」における「学年別児童数」の各人数に基づく。

③新設組織の主な学生募集地域

本学の入学者(1,844人/2023年度)の出身校都道府県は、大阪府が847人(45.9%)、兵庫県が478人(25.9%)、京都府が112人(6.1%)、奈良県が95人(5.2%)と、大阪府でほぼ半数、上記の4府県で83.1%の入学者を得ている。学校基本調査によれば、大阪府全体の大学入学者57,089人に対し、大阪府の高校出身者は28,156人(49.3%)とほぼ半数となっており、兵庫県が13.1%、京都府が5.5%、奈良県が5.1%、4府県の合計で73.0%と、本学の入学者の出身高校とほぼ同じ傾向となっている(別紙1)。本学及び本学科では、全国からの学生確保、社会人や留学生の入学者など、多様な学生の確保には努めていくが、本学科の入学者の約50%が大阪府出身、約80%が近畿地区4府県の出身となると考えており、同4府県を本学科の学生募集地域と設定する。

【添付データ】

- ・新設組織が置かれる都道府県への入学状況(別紙1)

④既設組織の定員充足の状況

本学は、極めて高い実就職率(全国4位、関西の私立大学で1位)に見られる高い教育力が評価され、既設学部学科においては継続的に定員を充足している。既設学部学科の充足状況の詳細は(別紙2)に記載したが、全17学科において、過去5年間の収容定員充足率が1.0倍以上となっている。DX化の推進による理工系・IT系の人材需要、さらに本学が養成する専門人材と採用企業の相互のマッチングの良好さに鑑みて、本学の養成人材の社会的ニーズは今後も堅調である。本学がこれまでに築いた高校との関係性に加え、卒業後の就職状況の良好さが高校生や保護者、高校教員からの継続的な支持につながることから、既設学部学科においては中長期的に定員を充足する見込みであると考えている。

【添付データ】

- ・既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近5年間）（別紙2-1～17（枝番））

（3）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学は既設学部学科として工学部8学科、ロボティクス&デザイン工学部3学科、情報科学部5学科、知的財産学部1学科を擁しており、知的財産学部を除く、工学部、ロボティクス&デザイン工学部、情報科学部に属する学科は新たに設置する実世界情報学科と同じ工学分野である。既設学部学科の学生募集活動の定量的な数値は以下に示す通りである。詳細は（別紙3）に記した。

①オープンキャンパス来場者数（受験対象者のみ）：3,278名／年間（4回／年、3キャンパス合計）のうち受験者数1,604人（受験率48.9%）、入学者数888人（入学率27.1%）

②資料請求数：12,202名／年のうち受験者数2,431人（受験率19.9%）、入学者790人（入学率6.5%）

※全て2023年度の実績

オープンキャンパス、資料請求からの受験（志願）、入学の転換率は上記の通りであるが、ほぼ本学にて想定、計画した数値となっており、問題はないと考えている。新学科の開設後も、オープンキャンパスや資料請求等の一次接触から、志願、入学までの状況を定量的にデータ管理することで、学生募集の最適化に努める。

【添付データ】

- ・既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績（別紙3）

イ 新設組織における取組とその目標

新たに設置する実世界情報学科においても、既設学部学科と同様の学生募集活動を展開していく。本学では、高大接続改革の趣旨に沿い、本学の教育内容と卒業後のビジョンを高校生など潜在的志願者に確実に伝えることで、高校生が求める進路と大学が求める学生の双方のニーズをマッチングさせる多様な入学者選抜を実現させ、志願者及び入学者の確保につなげている。具体的には、オープンキャンパスや大学説明会での直接的コンタクトを重視し、高校生の将来ビジョンを明確にするとともに、本学のストロングポイントを伝え、他大学との差別化を図っている。WEBやSNS、大学案内等の各種媒体を通じて、必要な情報の的確な伝達にも努めている。新学科の設置により、大学全体の入学定員が増えることはなく、枚方キャンパスの5学科体制も維持されることから、オープンキャンパスの来場者数等の数値目標を設定しその達成に努めることで、実世界情報学科の志願者の確保につなげる。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

新設する実世界情報学科では、上述した学生確保の取り組みを継続することで、入学定員80人が確保できると考えている。具体的な数値目標（大学全体）と志願者等の目標設定は以下の通りである。既存学科の募集状況（別紙3）から、十分可能な設定と考えている。

実世界情報学科の志願者等の目標設定

オープンキャンパス（大学全体）	3,300人	受験対象者（4回／年）
資料請求者数（大学全体）	12,000人	
実世界情報学科 志願者数	600人	延べ数
実世界情報学科 合格者数	200人	
実世界情報学科 入学者数	80人	歩留率 40%

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学科では、学校種、定員規模、学問分野、所在地、学力層の類似性から、以下の4校を競合校と選定し、競合校と本学科との比較分析を行った。本学科の共通して言える本学の強みは、「実世界情報学」の教育研究を独立した学科において推進する点にあり、具体的には、実世界情報学の大規模な実験施設であるDXフィールド、ドローンやロボットも扱える実践的な学びが挙げられる。学びの内容以外にも、オンラインオリエンテーションWGの取り組みや、「テクニカルライティング」による技術文書作成、キャリア教育、情報技術者養成のための教育が充実しており、他にも工業系専門大学ならではの修学指導、就職支援などが挙げられる。競合大学との比較分析を以下の表にまとめた。

競合校の一覧と本学科との比較分析

	競合校	立地	競合校の人材養成目的等の教育内容	本学科との比較・本学科の優位性
1	立命館大学 情報理工学部 情報理工学科 (実世界情報コース)	大阪府 茨木市 (2024年度に移転)	情報機器の利用空間を拡大するユビキタスコンピューティング、情報化機械システムの知能化を実現するロボティクス・メカトロニクス、人と人および、人とモノとの界面となるヒューマンインタフェースを習得し、実世界の高度情報化を支える人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 競合校では、「実世界情報コース」に分かれるのが入学後なので目的意識が薄れる。 競合校では「バーチャリアリティ、ロボット、IoT、ヒューマンインタフェースなどの先端技術を学ぶ」と総花的な内容になっており、本学科に比べ学びの焦点が明確でない。
2	関西大学 総合情報学部 総合情報学科	大阪府 吹田市	情報の理論とその意義や機能及び情報と人間・社会との関係について幅広い知識を培うとともに、情報技術を活用して問題の解決を図ることのできる人材の育成を目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> 競合校はコース分属ではなく、自由に文系・理系科目を選ぶ形であり、文系科目だけを選択し卒業することも可能で、必ずしも全員がIT人材になるわけではない。 競合校の教育課程の「メディア情報系」「社会情報システム系」「コンピューティング系」のうちIT技術者向けは「コンピューティング系」だが、その系だけでも科目は極めて多岐にわたっていて、本学科と比べ技術系科目の掘り下げ方が浅いと言える。
3	近畿大学 情報学部 情報学科 (実世界コンピューティングコース)	大阪府 東大阪市	4年間のカリキュラムを通じて、社会のニーズに応える情報技術者としてふさわしい問題発見能力、制約の中で他者と協調しながら問題を解決する能力、情報分野における幅広い専門技術の知識とそれらを問題解決に応用できる能力、システム構想・設計力、プログラミング能力に加え、国際的に通用する英語コミュニケー	<ul style="list-style-type: none"> 競合校ではコースに分かれるのは入学後なので目的意識が薄れる。 競合校では「IoT、AI及びシステムとユーザの相互作用に関する人間中心のシステム設計」とあるが、本学科では、対人間だけでなく、環境設備の自動制御や農業の省力化など人が介在しない対象にも有効な情報システムが作れる学びとしている。

			ション能力と技術者倫理を身につける。	
4	大阪電気通信大学 情報通信工学部 情報工学科 総合情報学部 情報学科	大阪府 寝屋川市	(情報工学科) 人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを作り出すための基盤となるコンピュータハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関わる知識と技術を、数理的な知識体系に基づいて、基礎から応用に至るまで実学教育を通して教授することにより、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材の育成を目的とする。 (情報学科) 進化し続ける ICT 技術や IoT 技術の基盤となる知識の修得、即戦力となり得る実践力の獲得、コミュニケーション能力等を中心とした社会性の向上の 3 項目を教育目標とし、コンピュータスペシャリストとして社会で活躍できる人材の育成を目的とする。	・工業系大学という点では本学と同類の大学と言えるが、ここに挙げた競合校の 2 学科は、本学科と比べカバーする領域が格段に広く、そのために実世界情報学に特化した本学科に比べ学びの内容の専門性が薄くなることは否めない。実世界情報学の専門的学びの深さが本学科の強みと言える。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校の入学志願状況は【資料 1】に示した。競合校 4 校とも、問題なく志願者、入学者を集め定員を充足しており、競合校となる本学科も同様の志願状況が予想されることから、定員を充足見込みと考えている。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

競合校は全て定員を充足しているため該当なし。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学科及び競合校に設定した 4 校の学納金は以下の通りである。本学の学納金設定は、近畿地区における当該分野の有力校である立命館大学、近畿大学よりも低く設定されており、競争力を持った水準となっている。学生募集と教育研究の維持継続の両方を満たす適切な学納金設定であると考えている。

本学科及び競合校の学納金

大学学部学科名	入学金	授業料等	初年度納付金
大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科	250,000	1,490,000	1,640,000
立命館大学 情報理工学部 情報理工学科 (実世界情報コース)	200,000	1,672,600	1,872,600
関西大学 総合情報学部 総合情報学科	260,000	1,302,000	1,562,000

近畿大学 情報学部 情報学科	250,000	1,462,000	1,712,000
大阪電気通信大学 情報通信工学部 情報工学科 総合情報学部 情報学科	200,000	1,282,000	1,482,000

(単位：円) ※2024年度学納金。出典：各大学HP

③先行事例分析

大学内部での学科改組につき、修業年限や学納金に変更はなく本項は該当しない。

④学生確保に関するアンケート調査

本学科の学生確保の見通しを測定するために、入学意向アンケート調査【資料2】を実施した。調査と結果の概要は以下の通りである。

入学意向アンケート調査の概要

調査時期	令和5年9月～12月
調査対象	近畿地区の高校2年生（令和5年度）
回答件数	9,532人（95校）
調査結果の概要	<p>（受験・入学意志）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験意志（第一志望）：105人（1.1%） ・受験意志（第一志望～第三志望以降を含む）：1,623人（17.0%） ・受験意志かつ入学意志を示した者：297人（3.1%） <p>（クロス集計）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大学進学希望」かつ「私立大学を希望」かつ「工学分野、電気通信工学分野を志望」かつ「受験意志（第一志望）」かつ「入学意志」を示した者：36人（0.4%）

以上の調査結果により、回収のあった9,532人（95校）のうち、105人（1.1%）が受験意志（第一志望）を、297人（3.1%）が受験意志（第一志望～第三志望以降）かつ入学意志を示し、ともに入学定員（80人）を上回る入学意志を得た。5重クロス集計では、「大学進学希望」かつ「私立大学を希望」かつ「工学分野、電気通信工学分野を志望」かつ「受験意志（第一志望）」かつ「入学意志」を示した回答者は36人（0.4%）となったが、第一志望以外の全ての受験意志を示した回答者が1,623人（17.0%）存在する点、工学分野の中分類は14区分に細かく分かれており、本学科はその中の「電気通信工学」に分類されているが、情報系学科の特徴として、実際には文系の高校生も含めた幅広い層から志願者を獲得している点から、学生の確保と定員の充足には問題がないと考えている。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

(人材需要アンケート調査)

本学科の人材需要の見通しを測定するため、事業所向けに「採用意向アンケート調査」【資料3】を実施した。調査の概要と結果の概略は以下の通りである。

採用意向アンケート調査の概要

調査実施時期	令和5年9月～12月
調査対象 (送付・依頼先)	実世界情報学科の卒業生の採用が見込まれる以下の事業所 (業種) ・ソフトウェア関係、情報処理・通信関係、製造業(電気・電子・通信関係)、製造業(自動車関係)、製造業(機械関係)、製造業(化学・医薬関係)、エネルギー(電気・ガス・水道)・インフラ関係、住宅・設備関係、建築・土木・道路・設計・測量関係、商社・卸売・流通・小売等の企業 (地域)近畿地区・首都圏等 (依頼件数)1,500事業所
回収件数	355件(回収率 23.7%)
調査結果	採用意向:271事業所(76.3%) 採用の場合の採用可能人数:728人

上記の1,500事業所にアンケート調査用紙を送付・依頼し、355事業所から回答を得た「採用意向アンケート調査」の結果の概要は以下の通りである。

「実世界情報学科で養成する人材の社会的ニーズ」について、324事業所(91.3%)から「人材ニーズは非常に高い」または「人材ニーズは高い」の回答を得た。「実世界情報学科卒業生の採用意向」では、271事業所(76.3%)から「採用したい」の回答を得た。さらに採用意向のあった271事業所から、「採用の場合の採用可能人数」について、728人の採用可能人数が示された(入学定員80人の9.1倍)。

以上の調査結果により、実世界情報学科の卒業後の人材需要について、事業所からの非常に強い採用意向が示されている。

(人材需給に関する調査や研究)

本学科が養成するデジタル人材、IT人材の人材需要については多数の推計や報告が出されている。ここでは、教育未来創造会議の第一次提言(令和4年)「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」を一部を引用する。デジタル人材の不足が課題として強調されていることから、以下にて引用し要約する。

国際経営開発研究所(IMD)の試算によれば、日本のデジタル競争力は28位となっており、先進諸国の中では低い水準にある。特に、デジタル/技術スキルやビッグデータの分析と活用、国際経験等の項目において他国に比べて後れをとっている状況にある。国内に目を転じると、IT人材需給に関する試算では、人材のスキル転換が停滞した場合、2030年には先端IT人材が54.5万人不足するという調査結果もある。DXの取組を進めるに当たっての課題として人材不足を掲げる企業は、米国(27.2%)やドイツ(31.7%)と比較して日本(53.1%)は高い割合を占めている。デジタル田園都市国家構想(令和4年)の検討においては、全ての労働人口がデジタルリテラシーを身に付け、デジタル技術を活用できることを目指すとともに、専門的なデジタル知識・能力を有し、デジタル実装による地域の課題解決を

けん引する人材を「デジタル推進人材」（ビジネスアーキテクト、データサイエンティストなどを想定）と位置づけ、2024年度末までに年間45万人育成する体制を整え、2026年度までに230万人の育成を目指すことが示されている。

以上に引用した政府の提言からも、本学科が養成する人材の社会的な人材需要と必要性が明らかに示されている。

（４）新設組織の定員設定の理由

上記の（１）～（３）で述べた定員充足の根拠に加え、新たに設置する実世界情報学科（入学定員 80 人）は、既設のネットワークデザイン学科（入学定員 90 人）を募集停止・廃止して設置するものであり、各学科の定員調整により、大学全体の収容定員は 7,290 人から 7,280 人に 10 人の減員とする計画としている。本学は全 4 学部とも全て継続して定員を充足しており、本学科の教育内容による学生募集能力もさることながら、大学全体の収容定員の増加はないことから、新設組織である本学科の定員設定は合理的かつ問題ないと考えている。

学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

(別紙)

- 別紙 1 新設組織が置かれる都道府県への入学状況
- 別紙 2 既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近5年間）
- 別紙 3 既設学科等の学生募集のためのPR 活動の過去の実績

(資料)

- 資料 1 競合校の入学志願状況
- 資料 2 入学意向アンケート調査報告書
- 資料 3 採用意向アンケート調査報告書

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	大阪府	28,156人	49.32%
2	兵庫県	7,486人	13.11%
3	京都府	3,156人	5.53%
4	奈良県	2,919人	5.11%
5	和歌山県	1,657人	2.90%
	全 体	57,089人	100.00%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	大阪府	103.58%	102.69%	101.65%
2				

※ 2 校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	理・工学系（大学）	100.90%	104.35%	101.88%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3人	
	延べ人数	志願者数	2人	2人	0人	1人	3人	2人
		受験者数	2人	2人	0人	1人	3人	2人
		合格者数	2人	2人	0人	1人	3人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	2人	2人	0人	1人	3人	2人
		受験者数	2人	2人	0人	1人	3人	2人
		合格者数	2人	2人	0人	1人	3人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	2人	2人	0人	1人	3人	2人	
	学校推薦型選抜	募集人数	42人	42人	42人	42人	42人	42人
		延べ人数	志願者数	262人	238人	223人	233人	227人
受験者数			260人	232人	221人	232人	227人	234人
合格者数			91人	76人	140人	118人	116人	108.2
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			5人	6人	11人	9人	15人	9.2
実人数		志願者数	162人	147人	135人	160人	152人	151.2
		受験者数	160人	143人	134人	159人	152人	149.6
		合格者数	73人	63人	108人	90人	100人	86.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	5人	6人	11人	9人	15人	9.2
入学者数		58人	51人	70人	58人	50人	57.4	
一般選抜		募集人数	49人	49人	49人	49人	49人	49人
		延べ人数	志願者数	631人	631人	414人	564人	422人
	受験者数		620人	613人	388人	550人	399人	514
	合格者数		172人	271人	356人	188人	266人	250.6
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	2人	67人	13.8
	辞退者数		5人	6人	8人	0人	1人	4
	実人数	志願者数	242人	222人	169人	255人	177人	213
		受験者数	240人	218人	163人	251人	174人	209.2
		合格者数	115人	183人	211人	139人	178人	165.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	2人	54人	11.2
		辞退者数	5人	6人	8人	0人	1人	4
	入学者数	43人	52人	65人	37人	37人	46.8	
	共通テスト利用入試	募集人数	6人	6人	6人	6人	6人	6人
		延べ人数	志願者数	285人	219人	167人	125人	157人
受験者数			285人	219人	167人	125人	157人	190.6
合格者数			62人	44人	36人	33人	61人	47.2
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			1人	0人	0人	0人	0人	0.2
実人数		志願者数	209人	164人	132人	104人	112人	144.2
		受験者数	209人	164人	132人	104人	112人	144.2
		合格者数	44人	36人	28人	33人	48人	37.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0.2
入学者数		2人	0人	0人	2人	1人	1	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	2人	0人	0人	1人	2人
	受験者数		2人	0人	0人	1人	2人	1
	合格者数		0人	0人	0人	0人	1人	0.2
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	2人	0人	0人	1人	2人	1
		受験者数	2人	0人	0人	1人	2人	1
		合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0	
	合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
		延べ人数	志願者数	1182人	1090人	804人	924人	811人
受験者数			1169人	1066人	776人	909人	788人	942人
合格者数			327人	393人	532人	340人	447人	408人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	2人	67人	14人
辞退者数			11人	12人	19人	9人	16人	13人
実人数		志願者数	617人	535人	436人	521人	446人	511人
		受験者数	613人	527人	429人	516人	443人	506人
		合格者数	234人	284人	347人	263人	330人	292人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	2人	54人	11人
	辞退者数	11人	12人	19人	9人	16人	13人	
入学者数	105人	105人	135人	98人	91人	107人		

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入学定員充足率	1.05	1.05	1.35	0.98	0.91	1.07
歩留率	0.32	0.27	0.25	0.29	0.20	0.27

（備考）

- 「学校推薦型選抜」および「一般選抜」の合格・辞退・入学者数は、第2志望による者を含む。
- 「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3人	
	延べ人数	志願者数	1人	1人	0人	1人	1人	1人
		受験者数	1人	1人	0人	1人	1人	1人
		合格者数	1人	1人	0人	1人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	1人	0人	1人	1人	1人
		受験者数	1人	1人	0人	1人	1人	1人
		合格者数	1人	1人	0人	1人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	1人	1人	0人	1人	1人	1人	
	学校推薦型選抜	募集人数	64人	64人	64人	64人	64人	64人
延べ人数		志願者数	761人	831人	833人	828人	732人	797人
		受験者数	749人	823人	826人	819人	721人	788人
		合格者数	190人	158人	320人	196人	237人	220.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	13人	21人	32人	22人	34人	24.4
実人数		志願者数	411人	438人	435人	476人	420人	436
		受験者数	405人	435人	430人	471人	414人	431
		合格者数	121人	106人	201人	128人	155人	142.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	13人	21人	32人	22人	34人	24.4
入学者数		82人	54人	120人	76人	89人	84.2	
一般選抜		募集人数	74人	74人	74人	74人	74人	74
	延べ人数	志願者数	1772人	1827人	1651人	1647人	1343人	1648
		受験者数	1720人	1773人	1599人	1585人	1282人	1591.8
		合格者数	314人	421人	369人	232人	247人	316.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1.2
		辞退者数	5人	8人	6人	2人	2人	4.6
	実人数	志願者数	632人	638人	569人	608人	499人	589.2
		受験者数	619人	625人	558人	593人	484人	575.8
		合格者数	185人	226人	207人	154人	162人	186.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1.2
		辞退者数	5人	8人	6人	2人	2人	4.6
	入学者数	72人	88人	68人	51人	60人	67.8	
	共通テスト利用入試	募集人数	9人	9人	9人	9人	9人	9
延べ人数		志願者数	473人	427人	322人	272人	298人	358.4
		受験者数	473人	427人	322人	272人	298人	358.4
		合格者数	90人	79人	64人	67人	71人	74.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
実人数		志願者数	351人	318人	262人	216人	226人	274.6
		受験者数	351人	318人	262人	216人	226人	274.6
		合格者数	70人	65人	57人	60人	59人	62.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
入学者数		6人	6人	3人	7人	3人	5	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	志願者数	7人	1人	8人	4人	6人	5.2
		受験者数	7人	1人	7人	4人	6人	5
		合格者数	3人	1人	3人	2人	4人	2.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	7人	1人	8人	4人	6人	5.2
		受験者数	7人	1人	7人	4人	6人	5
		合格者数	3人	1人	3人	2人	4人	2.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	3人	0人	2人	2人	2人	1.8	
	合計	募集人数	150人	150人	150人	150人	150人	150人
延べ人数		志願者数	3014人	3087人	2814人	2752人	2380人	2809人
		受験者数	2950人	3025人	2754人	2681人	2308人	2744人
		合格者数	598人	660人	756人	498人	560人	614人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1人
		辞退者数	18人	30人	38人	24人	36人	29人
実人数		志願者数	1402人	1396人	1274人	1305人	1152人	1306人
		受験者数	1383人	1380人	1257人	1285人	1131人	1287人
		合格者数	380人	399人	468人	345人	381人	395人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1人
		辞退者数	18人	30人	38人	24人	36人	29人
入学者数		164人	149人	193人	137人	155人	160人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	150人	150人	150人	150人	150人	150
入学定員充足率	1.09	0.99	1.29	0.91	1.03	1.06
歩留率	0.27	0.23	0.26	0.28	0.28	0.26

（備考）「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3人	
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	2人	2人	1人
		受験者数	0人	0人	0人	2人	2人	1人
		合格者数	0人	0人	0人	1人	2人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	2人	2人	1人
		受験者数	0人	0人	0人	2人	2人	1人
		合格者数	0人	0人	0人	1人	2人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	1人	2人	1人	
	学校推薦型選抜	募集人数	59人	59人	59人	59人	59人	59人
延べ人数		志願者数	769人	895人	752人	760人	649人	765人
		受験者数	769人	887人	750人	757人	649人	762人
		合格者数	234人	229人	274人	263人	276人	255.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	30人	29人	35人	33人	35人	32.4
実人数		志願者数	411人	458人	393人	427人	380人	413.8
		受験者数	411人	455人	392人	425人	380人	412.6
		合格者数	146人	148人	164人	165人	182人	161
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	30人	29人	35人	33人	35人	32.4
入学者数		73人	83人	79人	65人	75人	75	
一般選抜		募集人数	69人	69人	69人	69人	69人	69人
	延べ人数	志願者数	2149人	2299人	1619人	1538人	1372人	1795.4
		受験者数	2104人	2228人	1562人	1501人	1327人	1744.4
		合格者数	385人	475人	500人	471人	474人	461
		うち追加合格者数	41人	0人	0人	10人	0人	10.2
		辞退者数	8人	19人	11人	7人	9人	10.8
	実人数	志願者数	848人	809人	602人	638人	553人	690
		受験者数	836人	793人	585人	627人	534人	675
		合格者数	252人	267人	274人	285人	264人	268.4
		うち追加合格者数	34人	0人	0人	9人	0人	8.6
		辞退者数	8人	19人	11人	7人	9人	10.8
	入学者数	61人	63人	71人	61人	63人	63.8	
	共通テスト利用入試	募集人数	9人	9人	9人	9人	9人	9人
延べ人数		志願者数	458人	488人	313人	263人	240人	352.4
		受験者数	458人	488人	313人	263人	240人	352.4
		合格者数	72人	87人	72人	69人	84人	76.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	1人	0.6
実人数		志願者数	353人	358人	251人	218人	192人	274.4
		受験者数	353人	358人	251人	218人	192人	274.4
		合格者数	52人	73人	66人	63人	69人	64.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	1人	0.6
入学者数		0人	3人	1人	0人	3人	1.4	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	6人	5人	5人	4人	6人	5.2
		受験者数	5人	5人	5人	3人	6人	4.8
		合格者数	2人	2人	3人	2人	3人	2.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	2人	0.6
	実人数	志願者数	6人	5人	5人	4人	6人	5.2
		受験者数	5人	5人	5人	3人	6人	4.8
		合格者数	2人	2人	3人	2人	3人	2.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	2人	0.6
	入学者数	1人	2人	2人	1人	1人	1.4	
	合計	募集人数	140人	140人	140人	140人	140人	140人
延べ人数		志願者数	3382人	3687人	2689人	2567人	2269人	2919人
		受験者数	3336人	3608人	2630人	2526人	2224人	2865人
		合格者数	693人	793人	849人	806人	839人	796人
		うち追加合格者数	41人	0人	0人	11人	0人	10人
		辞退者数	39人	48人	47人	41人	47人	44人
実人数		志願者数	1618人	1630人	1251人	1289人	1133人	1384人
		受験者数	1605人	1611人	1233人	1275人	1114人	1368人
		合格者数	452人	490人	507人	516人	520人	497人
		うち追加合格者数	34人	0人	0人	10人	0人	9人
		辞退者数	39人	48人	47人	41人	47人	44人
入学者数		135人	151人	153人	128人	144人	142人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	140人	140人	140人	140人	140人	140
入学定員充足率	0.96	1.08	1.09	0.91	1.03	1.02
歩留率	0.19	0.19	0.18	0.16	0.17	0.18

（備考）「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3人	
	延べ人数	志願者数	0人	0人	4人	5人	1人	2人
		受験者数	0人	0人	4人	5人	1人	2人
		合格者数	0人	0人	3人	2人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	4人	5人	1人	2人
		受験者数	0人	0人	4人	5人	1人	2人
		合格者数	0人	0人	3人	2人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	3人	2人	1人	1人	
	学校推薦型選抜	募集人数	52人	52人	52人	52人	52人	52人
		延べ人数	志願者数	296人	380人	353人	375人	332人
受験者数			292人	378人	352人	372人	327人	344人
合格者数			145人	170人	187人	213人	210人	185人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			9人	14人	22人	24人	24人	18.6人
実人数		志願者数	171人	211人	197人	238人	222人	207.8人
		受験者数	171人	210人	196人	236人	219人	206.4人
		合格者数	108人	123人	119人	153人	150人	130.6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	14人	22人	24人	24人	18.6人
入学者数		62人	74人	57人	78人	76人	69.4人	
一般選抜		募集人数	62人	62人	62人	62人	62人	62人
		延べ人数	志願者数	948人	957人	759人	795人	754人
	受験者数		915人	944人	737人	758人	717人	814.2人
	合格者数		291人	306人	433人	295人	274人	319.8人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	26人	0人	5.2人
	辞退者数		3人	5人	6人	3人	5人	4.4人
	実人数	志願者数	366人	376人	306人	371人	334人	350.6人
		受験者数	357人	372人	297人	358人	319人	340.6人
		合格者数	193人	188人	225人	196人	168人	194人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	23人	0人	4.6人
		辞退者数	3人	5人	6人	3人	5人	4.4人
	入学者数	62人	65人	62人	54人	45人	57.6人	
	共通テスト利用入試	募集人数	8人	8人	8人	8人	8人	8人
		延べ人数	志願者数	314人	288人	201人	126人	163人
受験者数			314人	288人	201人	126人	163人	218.4人
合格者数			65人	59人	53人	48人	69人	58.8人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	1人	2人	0人	0人	0.6人
実人数		志願者数	235人	211人	159人	105人	125人	167人
		受験者数	235人	211人	159人	105人	125人	167人
		合格者数	50人	50人	48人	45人	53人	49.2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	2人	0人	0人	0.6人
入学者数		0人	1人	4人	2人	0人	1.4人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	2人	1人	9人	3人	4人
	受験者数		2人	1人	8人	3人	3人	3.4人
	合格者数		0人	1人	5人	2人	2人	2人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	1人	0人	0.2人
	実人数	志願者数	2人	1人	9人	3人	4人	3.8人
		受験者数	2人	1人	8人	3人	3人	3.4人
		合格者数	0人	1人	5人	2人	2人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2人
	入学者数	0人	1人	5人	1人	1人	1.6人	
	合計	募集人数	125人	125人	125人	125人	125人	125人
		延べ人数	志願者数	1560人	1626人	1326人	1304人	1254人
受験者数			1523人	1611人	1302人	1264人	1211人	1382人
合格者数			501人	536人	681人	560人	556人	567人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	26人	0人	5人
辞退者数			12人	20人	30人	28人	29人	24人
実人数		志願者数	774人	799人	675人	722人	686人	731人
		受験者数	765人	794人	664人	707人	667人	719人
		合格者数	351人	362人	400人	398人	374人	377人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	23人	0人	5人
		辞退者数	12人	20人	30人	28人	29人	24人
入学者数		124人	141人	131人	137人	123人	131人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	125人	125人	125人	125人	125人	125
入学定員充足率	0.99	1.13	1.05	1.10	0.98	1.05
歩留率	0.25	0.26	0.19	0.24	0.22	0.23

（備考）

- 「学校推薦型選抜」および「一般選抜」の合格・辞退・入学者数は、第2志望による者を含む。
- 「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3人	
	延べ人数	志願者数	0人	0人	3人	1人	2人	1人
		受験者数	0人	0人	3人	1人	2人	1人
		合格者数	0人	0人	2人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	3人	1人	2人	1人
		受験者数	0人	0人	3人	1人	2人	1人
		合格者数	0人	0人	2人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	2人	0人	1人	1人	
	学校推薦型選抜	募集人数	47人	47人	47人	47人	47人	47人
延べ人数		志願者数	259人	363人	293人	223人	278人	283人
		受験者数	254人	363人	293人	223人	275人	282人
		合格者数	96人	90人	127人	185人	159人	131.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	6人	4人	10人	15人	18人	10.6
実人数		志願者数	156人	211人	172人	155人	192人	177.2
		受験者数	154人	211人	172人	155人	190人	176.4
		合格者数	71人	78人	99人	133人	125人	101.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	6人	4人	10人	15人	18人	10.6
入学者数		53人	63人	72人	75人	62人	65	
一般選抜		募集人数	54人	54人	54人	54人	54人	54人
	延べ人数	志願者数	770人	771人	749人	711人	525人	705.2
		受験者数	762人	746人	730人	684人	498人	684
		合格者数	214人	335人	234人	260人	262人	261
		うち追加合格者数	12人	0人	0人	0人	0人	2.4
		辞退者数	5人	6人	3人	1人	5人	4
	実人数	志願者数	311人	305人	304人	370人	271人	312.2
		受験者数	308人	296人	296人	360人	262人	304.4
		合格者数	149人	190人	147人	171人	180人	167.4
		うち追加合格者数	12人	0人	0人	0人	0人	2.4
		辞退者数	5人	6人	3人	1人	5人	4
	入学者数	55人	66人	39人	48人	51人	51.8	
	共通テスト利用入試	募集人数	6人	6人	6人	6人	6人	6人
延べ人数		志願者数	289人	277人	200人	117人	170人	210.6
		受験者数	289人	277人	200人	117人	170人	210.6
		合格者数	63人	64人	46人	39人	75人	57.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	1人	0人	0人	0.4
実人数		志願者数	218人	212人	156人	101人	127人	162.8
		受験者数	218人	212人	156人	101人	127人	162.8
		合格者数	46人	55人	37人	38人	58人	46.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	1人	0人	0人	0.4
入学者数		0人	1人	2人	4人	4人	2.2	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	1人	2人	5人	2人	3人	2.6
		受験者数	1人	1人	5人	2人	2人	2.2
		合格者数	1人	1人	4人	1人	0人	1.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	実人数	志願者数	1人	2人	5人	2人	3人	2.6
		受験者数	1人	1人	5人	2人	2人	2.2
		合格者数	1人	1人	4人	1人	0人	1.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	入学者数	1人	1人	2人	1人	0人	1	
	合計	募集人数	110人	110人	110人	110人	110人	110人
延べ人数		志願者数	1319人	1413人	1250人	1054人	978人	1203人
		受験者数	1306人	1387人	1231人	1027人	947人	1180人
		合格者数	374人	490人	413人	485人	497人	452人
		うち追加合格者数	12人	0人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	12人	10人	15人	16人	23人	15人
実人数		志願者数	686人	730人	640人	629人	595人	656人
		受験者数	681人	720人	632人	619人	583人	647人
		合格者数	267人	324人	289人	343人	364人	317人
		うち追加合格者数	12人	0人	0人	0人	0人	2人
	辞退者数	12人	10人	15人	16人	23人	15人	
入学者数	109人	131人	117人	128人	118人	121人		

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	110人	110人	110人	110人	110人	110
入学定員充足率	0.99	1.19	1.06	1.16	1.07	1.10
歩留率	0.29	0.27	0.28	0.26	0.24	0.27

（備考）

- 「学校推薦型選抜」および「一般選抜」の合格・辞退・入学者数は、第2志望による者を含む。
- 「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3人	
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	1人	2人	1人
		受験者数	0人	0人	0人	1人	2人	1人
		合格者数	0人	0人	0人	1人	2人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	1人	2人	1人
		受験者数	0人	0人	0人	1人	2人	1人
		合格者数	0人	0人	0人	1人	2人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	1人	2人	1人	
	学校推薦型選抜	募集人数	56人	56人	56人	56人	56人	56人
		延べ人数	志願者数	299人	412人	362人	315人	367人
受験者数			299人	404人	362人	315人	365人	349人
合格者数			170人	200人	240人	252人	247人	221.8
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			18人	18人	17人	14人	20人	17.4
実人数		志願者数	171人	217人	198人	188人	228人	200.4
		受験者数	171人	214人	198人	188人	227人	199.6
		合格者数	106人	128人	150人	157人	169人	142
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	18人	18人	17人	14人	20人	17.4
入学者数		58人	63人	64人	63人	82人	66	
一般選抜		募集人数	63人	63人	63人	63人	63人	63
		延べ人数	志願者数	905人	998人	757人	617人	669人
	受験者数		883人	967人	727人	589人	638人	760.8
	合格者数		321人	463人	480人	398人	314人	395.2
	うち追加合格者数		21人	0人	0人	5人	0人	5.2
	辞退者数		9人	8人	7人	7人	6人	7.4
	実人数	志願者数	379人	391人	290人	302人	319人	336.2
		受験者数	374人	384人	285人	294人	312人	329.8
		合格者数	195人	228人	228人	238人	208人	219.4
		うち追加合格者数	18人	0人	0人	5人	0人	4.6
		辞退者数	9人	8人	7人	7人	6人	7.4
	入学者数	64人	70人	59人	63人	50人	61.2	
	共通テスト利用入試	募集人数	8人	8人	8人	8人	8人	8
		延べ人数	志願者数	242人	227人	178人	129人	159人
受験者数			242人	227人	178人	129人	159人	187
合格者数			80人	66人	73人	54人	69人	68.4
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			1人	0人	0人	0人	0人	0.2
実人数		志願者数	175人	162人	143人	106人	114人	140
		受験者数	175人	162人	143人	106人	114人	140
		合格者数	60人	51人	64人	48人	51人	54.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0.2
入学者数		1人	0人	5人	1人	3人	2	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		延べ人数	志願者数	5人	0人	4人	2人	5人
	受験者数		4人	0人	4人	2人	5人	3
	合格者数		2人	0人	4人	2人	5人	2.6
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	実人数	志願者数	5人	0人	4人	2人	5人	3.2
		受験者数	4人	0人	4人	2人	5人	3
		合格者数	2人	0人	4人	2人	5人	2.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	入学者数	2人	0人	3人	2人	3人	2	
	合計	募集人数	130人	130人	130人	130人	130人	130人
		延べ人数	志願者数	1451人	1637人	1301人	1064人	1202人
受験者数			1428人	1598人	1024人	1036人	1169人	1251人
合格者数			573人	729人	797人	707人	637人	689人
うち追加合格者数			21人	0人	0人	5人	0人	5人
辞退者数			28人	26人	25人	21人	26人	25人
実人数		志願者数	730人	770人	635人	599人	668人	680人
		受験者数	724人	760人	630人	591人	660人	673人
		合格者数	363人	407人	446人	446人	435人	419人
		うち追加合格者数	18人	0人	0人	5人	0人	5人
		辞退者数	28人	26人	25人	21人	26人	25人
入学者数		125人	133人	131人	130人	140人	132人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	130人	130人	130人	130人	130人	130
入学定員充足率	0.96	1.02	1.01	1.00	1.08	1.01
歩留率	0.22	0.18	0.16	0.18	0.22	0.19

（備考）

- 「学校推薦型選抜」および「一般選抜」の合格・辞退・入学者数は、第2志望による者を含む。
- 「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3人	
	延べ人数	志願者数	0人	0人	1人	2人	1人	1人
		受験者数	0人	0人	1人	2人	1人	1人
		合格者数	0人	0人	1人	2人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	1人	2人	1人	1人
		受験者数	0人	0人	1人	2人	1人	1人
		合格者数	0人	0人	1人	2人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	1人	2人	1人	1人	
	学校推薦型選抜	募集人数	30人	30人	30人	30人	30人	30人
延べ人数		志願者数	144人	251人	196人	126人	177人	179人
		受験者数	142人	250人	196人	124人	176人	178人
		合格者数	88人	85人	80人	94人	89人	87.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	4人	11人	5人	6人	5.8
実人数		志願者数	85人	133人	115人	90人	140人	112.6
		受験者数	85人	132人	115人	88人	139人	111.8
		合格者数	62人	57人	68人	68人	79人	66.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	4人	11人	5人	6人	5.8
入学者数		38人	32人	38人	38人	36人	36.4	
一般選抜		募集人数	37人	37人	37人	37人	37人	37
	延べ人数	志願者数	558人	568人	360人	293人	406人	437
		受験者数	537人	556人	348人	276人	394人	422.2
		合格者数	199人	242人	154人	146人	169人	182
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	0人	0.8
		辞退者数	4人	3人	3人	2人	4人	3.2
	実人数	志願者数	222人	222人	139人	154人	186人	184.6
		受験者数	218人	220人	136人	148人	180人	180.4
		合格者数	105人	123人	85人	96人	100人	101.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	0人	0.8
		辞退者数	4人	3人	3人	2人	4人	3.2
	入学者数	37人	51人	30人	35人	26人	35.8	
	共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	5人	5人	5
延べ人数		志願者数	215人	174人	124人	56人	81人	130
		受験者数	215人	174人	124人	56人	81人	130
		合格者数	56人	48人	35人	17人	38人	38.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
実人数		志願者数	153人	123人	98人	43人	64人	96.2
		受験者数	153人	123人	98人	43人	64人	96.2
		合格者数	41人	35人	30人	15人	31人	30.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
入学者数		2人	0人	1人	0人	1人	0.8	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	志願者数	2人	2人	3人	1人	1人	1.8
		受験者数	2人	1人	3人	1人	1人	1.6
		合格者数	2人	1人	3人	1人	1人	1.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	実人数	志願者数	2人	2人	3人	1人	1人	1.8
		受験者数	2人	1人	3人	1人	1人	1.6
		合格者数	2人	1人	3人	1人	1人	1.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	入学者数	2人	0人	2人	1人	1人	1.2	
	合計	募集人数	75人	75人	75人	75人	75人	75人
延べ人数		志願者数	919人	995人	684人	478人	666人	748人
		受験者数	896人	981人	672人	459人	653人	732人
		合格者数	345人	376人	273人	260人	298人	310人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	0人	1人
		辞退者数	7人	7人	16人	7人	10人	9人
実人数		志願者数	462人	480人	356人	290人	392人	396人
		受験者数	458人	476人	353人	282人	385人	391人
		合格者数	210人	216人	187人	182人	212人	201人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	0人	1人
		辞退者数	7人	7人	16人	7人	10人	9人
入学者数		79人	83人	72人	76人	65人	75人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	75人	75人	75人	75人	75人	75
入学定員充足率	1.05	1.11	0.96	1.01	0.87	1.00
歩留率	0.23	0.22	0.26	0.29	0.22	0.24

（備考）

- 「学校推薦型選抜」および「一般選抜」の合格・辞退・入学者数は、第2志望による者を含む。
- 「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3人	
	延べ人数	志願者数	0人	0人	3人	0人	0人	1人
		受験者数	0人	0人	3人	0人	0人	1人
		合格者数	0人	0人	3人	0人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	3人	0人	0人	1人
		受験者数	0人	0人	3人	0人	0人	1人
		合格者数	0人	0人	3人	0人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	3人	0人	0人	1人	
	学校推薦型選抜	募集人数	28人	28人	28人	28人	28人	28人
延べ人数		志願者数	202人	244人	193人	196人	168人	201人
		受験者数	202人	244人	186人	196人	168人	199人
		合格者数	115人	113人	90人	111人	116人	109
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	13人	11人	7人	8人	9人	9.6
実人数		志願者数	109人	132人	111人	119人	113人	116.8
		受験者数	109人	132人	109人	119人	113人	116.4
		合格者数	67人	73人	65人	77人	85人	73.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	13人	11人	7人	8人	9人	9.6
入学者数		30人	33人	35人	44人	50人	38.4	
一般選抜		募集人数	34人	34人	34人	34人	34人	34
	延べ人数	志願者数	484人	479人	326人	265人	290人	368.8
		受験者数	463人	463人	316人	260人	279人	356.2
		合格者数	180人	226人	203人	146人	124人	175.8
		うち追加合格者数	7人	0人	0人	0人	0人	1.4
		辞退者数	6人	8人	7人	3人	2人	5.2
	実人数	志願者数	189人	203人	138人	145人	152人	165.4
		受験者数	182人	197人	133人	142人	150人	160.8
		合格者数	100人	120人	101人	93人	92人	101.2
		うち追加合格者数	7人	0人	0人	0人	0人	1.4
		辞退者数	6人	8人	7人	3人	2人	5.2
	入学者数	33人	43人	29人	36人	24人	33	
	共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	5人	5人	5
延べ人数		志願者数	178人	193人	117人	57人	85人	126
		受験者数	178人	193人	117人	57人	85人	126
		合格者数	75人	64人	35人	17人	38人	45.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	1人	0人	0人	0.4
実人数		志願者数	129人	136人	86人	49人	62人	92.4
		受験者数	129人	136人	86人	49人	62人	92.4
		合格者数	55人	44人	28人	16人	29人	34.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	1人	0人	0人	0.4
入学者数		1人	0人	1人	0人	1人	0.6	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	志願者数	3人	0人	2人	1人	3人	1.8
		受験者数	2人	0人	1人	0人	3人	1.2
		合格者数	1人	0人	1人	0人	3人	1
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	3人	0人	2人	1人	3人	1.8
		受験者数	2人	0人	1人	0人	3人	1.2
		合格者数	1人	0人	1人	0人	3人	1
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	1人	0人	1人	0人	3人	1	
	合計	募集人数	70人	70人	70人	70人	70人	70人
延べ人数		志願者数	867人	916人	641人	519人	546人	698人
		受験者数	845人	900人	623人	513人	535人	683人
		合格者数	371人	403人	332人	274人	281人	332人
		うち追加合格者数	7人	0人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	20人	19人	15人	11人	11人	15人
実人数		志願者数	430人	471人	340人	314人	330人	377人
		受験者数	422人	465人	332人	310人	328人	371人
		合格者数	223人	237人	198人	186人	209人	211人
		うち追加合格者数	7人	0人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	20人	19人	15人	11人	11人	15人
入学者数		65人	76人	69人	80人	78人	74人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	70人	70人	70人	70人	70人	70
入学定員充足率	0.93	1.09	0.99	1.14	1.11	1.05
歩留率	0.18	0.19	0.21	0.29	0.28	0.23

（備考）

- 「学校推薦型選抜」および「一般選抜」の合格・辞退・入学者数は、第2志望による者を含む。
- 「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3人	
	延べ人数	志願者数	1人	0人	1人	4人	3人	2人
		受験者数	1人	0人	1人	4人	3人	2人
		合格者数	1人	0人	1人	3人	3人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	0人	1人	4人	3人	2人
		受験者数	1人	0人	1人	4人	3人	2人
		合格者数	1人	0人	1人	3人	3人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	1人	0人	1人	3人	3人	2人	
	学校推薦型選抜	募集人数	37人	37人	37人	37人	37人	37人
		延べ人数	志願者数	312人	323人	258人	311人	272人
受験者数			309人	321人	256人	311人	269人	293人
合格者数			107人	99人	149人	138人	132人	125人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			4人	13人	7人	12人	6人	8.4人
実人数		志願者数	175人	175人	142人	205人	177人	174.8人
		受験者数	174人	174人	141人	205人	175人	173.8人
		合格者数	74人	69人	96人	98人	99人	87.2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	13人	7人	12人	6人	8.4人
入学者数		53人	38人	52人	54人	64人	52.2人	
一般選抜		募集人数	44人	44人	44人	44人	44人	44人
		延べ人数	志願者数	864人	821人	516人	611人	539人
	受験者数		830人	792人	502人	592人	527人	648.6人
	合格者数		138人	223人	297人	190人	172人	204人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	6人	0人	1.2人
	辞退者数		6人	6人	4人	3人	2人	4.2人
	実人数	志願者数	301人	287人	171人	249人	215人	244.6人
		受験者数	298人	281人	170人	243人	211人	240.6人
		合格者数	97人	137人	146人	121人	101人	120.4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1.2人
		辞退者数	6人	6人	4人	3人	2人	4.2人
	入学者数	41人	58人	57人	38人	30人	44.8人	
	共通テスト利用入試	募集人数	6人	6人	6人	6人	6人	6人
		延べ人数	志願者数	253人	276人	143人	117人	133人
受験者数			253人	276人	143人	117人	133人	184.4人
合格者数			59人	52人	33人	28人	46人	43.6人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	4人	0人	0.8人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	184人	197人	108人	95人	100人	136.8人
		受験者数	184人	197人	108人	95人	100人	136.8人
		合格者数	42人	42人	29人	28人	34人	35人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	0人	0.8人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		0人	0人	0人	2人	1人	0.6人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	6人	4人	4人	4人	4人
	受験者数		6人	3人	4人	3人	4人	4人
	合格者数		3人	2人	3人	0人	2人	2人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	1人	0.2人
	実人数	志願者数	6人	4人	4人	4人	4人	4.4人
		受験者数	6人	3人	4人	3人	4人	4人
		合格者数	3人	2人	3人	0人	2人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2人
	入学者数	1人	2人	3人	0人	1人	1.4人	
	合計	募集人数	90人	90人	90人	90人	90人	90人
		延べ人数	志願者数	1436人	1424人	922人	1047人	951人
受験者数			1399人	1392人	906人	1027人	936人	1132人
合格者数			308人	376人	483人	359人	355人	376人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	10人	0人	2人
辞退者数			10人	19人	11人	15人	9人	13人
実人数		志願者数	667人	663人	426人	557人	499人	562人
		受験者数	663人	655人	424人	550人	493人	557人
		合格者数	217人	250人	275人	250人	239人	246人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	10人	0人	2人
	辞退者数	10人	19人	11人	15人	9人	13人	
入学者数	96人	98人	113人	97人	99人	101人		

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90
入学定員充足率	1.07	1.09	1.26	1.08	1.10	1.12
歩留率	0.31	0.26	0.23	0.27	0.28	0.27

（備考）

- 「学校推薦型選抜」および「一般選抜」の合格・辞退・入学者数は、第2志望による者を含む。
- 「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3人	
	延べ人数	志願者数	1人	1人	1人	2人	0人	1人
		受験者数	1人	1人	1人	2人	0人	1人
		合格者数	1人	1人	1人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	1人	1人	2人	0人	1人
		受験者数	1人	1人	1人	2人	0人	1人
		合格者数	1人	1人	1人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	1人	1人	1人	1人	0人	1人	
	学校推薦型選抜	募集人数	37人	37人	37人	37人	37人	37人
延べ人数		志願者数	277人	292人	175人	240人	270人	251人
		受験者数	276人	290人	173人	240人	270人	250人
		合格者数	101人	112人	121人	143人	146人	124.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	9人	10人	9人	12人	5人	9
実人数		志願者数	153人	151人	97人	157人	192人	150
		受験者数	152人	151人	96人	157人	192人	149.6
		合格者数	66人	75人	77人	94人	114人	85.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	9人	10人	9人	12人	5人	9
入学者数		44人	50人	46人	51人	66人	51.4	
一般選抜		募集人数	44人	44人	44人	44人	44人	44
	延べ人数	志願者数	637人	595人	349人	444人	420人	489
		受験者数	619人	583人	323人	424人	405人	470.8
		合格者数	141人	169人	182人	152人	175人	163.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	16人	0人	3.2
		辞退者数	3人	5人	1人	2人	5人	3.2
	実人数	志願者数	227人	217人	132人	193人	180人	189.8
		受験者数	219人	215人	118人	185人	174人	182.2
		合格者数	96人	106人	99人	101人	101人	100.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	14人	0人	2.8
		辞退者数	3人	5人	1人	2人	5人	3.2
	入学者数	50人	48人	54人	33人	31人	43.2	
	共通テスト利用入試	募集人数	6人	6人	6人	6人	6人	6
延べ人数		志願者数	242人	218人	125人	77人	96人	151.6
		受験者数	242人	218人	125人	77人	96人	151.6
		合格者数	56人	45人	28人	25人	32人	37.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1.2
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
実人数		志願者数	175人	148人	96人	62人	77人	111.6
		受験者数	175人	148人	96人	62人	77人	111.6
		合格者数	38人	37人	24人	24人	25人	29.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1.2
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
入学者数		1人	3人	1人	1人	2人	1.6	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	志願者数	0人	1人	2人	3人	0人	1.2
		受験者数	0人	1人	1人	3人	0人	1
		合格者数	0人	1人	1人	2人	0人	0.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
	実人数	志願者数	0人	1人	2人	3人	0人	1.2
		受験者数	0人	1人	1人	3人	0人	1
		合格者数	0人	1人	1人	2人	0人	0.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
	入学者数	0人	1人	1人	1人	0人	0.6	
	合計	募集人数	90人	90人	90人	90人	90人	90人
延べ人数		志願者数	1157人	1107人	652人	766人	786人	894人
		受験者数	1138人	1093人	623人	746人	771人	874人
		合格者数	299人	328人	333人	323人	353人	327人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	22人	0人	4人
		辞退者数	12人	15人	11人	15人	10人	13人
実人数		志願者数	556人	518人	328人	417人	449人	454人
		受験者数	547人	516人	312人	409人	443人	445人
		合格者数	201人	220人	202人	222人	240人	217人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	20人	0人	4人
		辞退者数	12人	15人	11人	15人	10人	13人
入学者数		96人	103人	103人	87人	99人	98人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90
入学定員充足率	1.07	1.14	1.14	0.97	1.10	1.08
歩留率	0.32	0.31	0.31	0.27	0.28	0.30

（備考）

- 「学校推薦型選抜」および「一般選抜」の合格・辞退・入学者数は、第2志望による者を含む。
- 「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3人	
	延べ人数	志願者数	1人	1人	4人	4人	1人	2人
		受験者数	1人	1人	4人	4人	1人	2人
		合格者数	1人	1人	1人	2人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	1人	4人	4人	1人	2人
		受験者数	1人	1人	4人	4人	1人	2人
		合格者数	1人	1人	1人	2人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	1人	1人	1人	2人	0人	1人	
	学校推薦型選抜	募集人数	42人	42人	42人	42人	42人	42人
延べ人数		志願者数	451人	433人	370人	381人	445人	416人
		受験者数	442人	428人	370人	381人	439人	412人
		合格者数	103人	95人	112人	140人	112人	112.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	4人	4人	3人	3人	7人	4.2
実人数		志願者数	249人	228人	204人	238人	301人	244
		受験者数	245人	226人	204人	238人	298人	242.2
		合格者数	73人	71人	80人	99人	96人	83.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	4人	4人	3人	3人	7人	4.2
入学者数		58人	51人	59人	71人	65人	60.8	
一般選抜		募集人数	49人	49人	49人	49人	49人	49
	延べ人数	志願者数	1095人	821人	741人	804人	729人	838
		受験者数	1068人	803人	727人	768人	707人	814.6
		合格者数	151人	210人	222人	144人	162人	177.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	0.6
		辞退者数	6人	8人	4人	2人	0人	4
	実人数	志願者数	338人	264人	224人	300人	254人	276
		受験者数	333人	257人	223人	290人	248人	270.2
		合格者数	84人	109人	104人	99人	92人	97.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	0.6
		辞退者数	6人	8人	4人	2人	0人	4
	入学者数	35人	61人	57人	39人	44人	47.2	
	共通テスト利用入試	募集人数	6人	6人	6人	6人	6人	6
延べ人数		志願者数	283人	252人	154人	127人	143人	191.8
		受験者数	283人	252人	154人	127人	143人	191.8
		合格者数	58人	56人	23人	24人	37人	39.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	198人	187人	113人	104人	105人	141.4
		受験者数	198人	187人	113人	104人	105人	141.4
		合格者数	41人	47人	19人	21人	28人	31.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		2人	1人	1人	0人	3人	1.4	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	志願者数	5人	1人	2人	2人	2人	2.4
		受験者数	5人	0人	1人	1人	2人	1.8
		合格者数	2人	0人	0人	1人	2人	1
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	5人	1人	2人	2人	2人	2.4
		受験者数	5人	0人	1人	1人	2人	1.8
		合格者数	2人	0人	0人	1人	2人	1
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	2人	0人	0人	1人	2人	1	
	合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
延べ人数		志願者数	1835人	1508人	1271人	1318人	1320人	1450人
		受験者数	1799人	1484人	1256人	1281人	1292人	1422人
		合格者数	315人	362人	358人	311人	313人	332人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	1人
		辞退者数	10人	12人	7人	5人	7人	8人
実人数		志願者数	791人	681人	547人	648人	663人	666人
		受験者数	782人	671人	545人	637人	654人	658人
		合格者数	201人	228人	204人	222人	218人	215人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	1人
		辞退者数	10人	12人	7人	5人	7人	8人
入学者数		98人	114人	118人	113人	114人	111人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入学定員充足率	0.98	1.14	1.18	1.13	1.14	1.11
歩留率	0.31	0.31	0.33	0.36	0.36	0.34

（備考）「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	0人	0人	2人	2人	2人	2人	
	延べ人数	志願者数	0人	0人	2人	2人	1人	2人
		受験者数	0人	0人	2人	2人	1人	2人
		合格者数	0人	0人	2人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	2人	2人	1人	2人
		受験者数	0人	0人	2人	2人	1人	2人
		合格者数	0人	0人	2人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	2人	0人	1人	1人	
	学校推薦型選抜	募集人数	0人	0人	29人	29人	29人	29人
		延べ人数	志願者数	0人	0人	219人	339人	238人
受験者数			0人	0人	219人	331人	231人	260人
合格者数			0人	0人	135人	103人	144人	127人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	20人	12人	12人	15人
実人数		志願者数	0人	0人	108人	199人	151人	153人
		受験者数	0人	0人	108人	196人	147人	150人
		合格者数	0人	0人	83人	80人	111人	91人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	20人	12人	12人	15人
入学者数		0人	0人	35人	46人	55人	45人	
一般選抜		募集人数	0人	0人	34人	34人	34人	34人
		延べ人数	志願者数	0人	0人	596人	631人	401人
	受験者数		0人	0人	560人	604人	376人	513人
	合格者数		0人	0人	171人	95人	98人	121人
	うち追加合格者数		0人	0人	16人	4人	0人	7人
	辞退者数		0人	0人	5人	1人	1人	2人
	実人数	志願者数	0人	0人	252人	287人	207人	249人
		受験者数	0人	0人	243人	280人	198人	240人
		合格者数	0人	0人	104人	70人	68人	81人
		うち追加合格者数	0人	0人	16人	4人	0人	7人
		辞退者数	0人	0人	5人	1人	1人	2人
	入学者数	0人	0人	33人	15人	19人	22人	
	共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	5人	5人	5人	5人
		延べ人数	志願者数	0人	0人	223人	182人	166人
受験者数			0人	0人	223人	182人	166人	190人
合格者数			0人	0人	63人	65人	59人	62人
うち追加合格者数			0人	0人	7人	0人	0人	2人
辞退者数			0人	0人	1人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	0人	0人	142人	137人	115人	131人
		受験者数	0人	0人	142人	137人	115人	131人
		合格者数	0人	0人	44人	55人	39人	46人
		うち追加合格者数	0人	0人	7人	0人	0人	2人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
入学者数		0人	0人	2人	5人	1人	3人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	0人	0人	3人	2人	2人
	受験者数		0人	0人	3人	2人	2人	2人
	合格者数		0人	0人	0人	1人	0人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	3人	2人	2人	2人
		受験者数	0人	0人	3人	2人	2人	2人
		合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人	
	合計	募集人数	0人	0人	70人	70人	70人	70人
		延べ人数	志願者数	0人	0人	1,043人	1,156人	808人
受験者数			0人	0人	1,007人	1,121人	776人	968人
合格者数			0人	0人	371人	264人	302人	312人
うち追加合格者数			0人	0人	23人	4人	0人	9人
辞退者数			0人	0人	26人	13人	13人	17人
実人数		志願者数	0人	0人	507人	627人	476人	537人
		受験者数	0人	0人	498人	617人	463人	526人
		合格者数	0人	0人	233人	206人	219人	219人
		うち追加合格者数	0人	0人	23人	4人	0人	9人
		辞退者数	0人	0人	26人	13人	13人	17人
入学者数		0人	0人	72人	67人	76人	72人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	0人	0人	70人	70人	70人	70人
入学定員充足率	#DIV/0!	#DIV/0!	1.03	0.96	1.09	1.02
歩留率	#DIV/0!	#DIV/0!	0.19	0.25	0.25	0.23

（備考）

- 令和3(2021)年4月開設。
- 「学校推薦型選抜」および「一般選抜」の合格・辞退・入学者数は、第2～5志望による者を含む。
- 「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	2人	2人	2人	2人	2人	2人	
	延べ人数	志願者数	0人	1人	0人	0人	2人	1人
		受験者数	0人	1人	0人	0人	2人	1人
		合格者数	0人	1人	0人	0人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	1人	0人	0人	2人	1人
		受験者数	0人	1人	0人	0人	2人	1人
		合格者数	0人	1人	0人	0人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	1人	0人	0人	1人	0人	
	学校推薦型選抜	募集人数	46人	46人	38人	38人	38人	41人
延べ人数		志願者数	243人	277人	212人	206人	242人	236人
		受験者数	237人	265人	212人	206人	238人	232人
		合格者数	92人	136人	125人	91人	73人	103.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	9人	7人	5人	7人	5人	6.6
実人数		志願者数	138人	158人	121人	130人	151人	139.6
		受験者数	136人	156人	121人	130人	148人	138.2
		合格者数	78人	108人	91人	75人	59人	82.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	9人	7人	5人	7人	5人	6.6
入学者数		46人	78人	67人	49人	37人	55.4	
一般選抜		募集人数	51人	51人	44人	44人	44人	46.8
	延べ人数	志願者数	681人	693人	425人	407人	416人	524.4
		受験者数	657人	653人	423人	389人	402人	504.8
		合格者数	212人	183人	226人	196人	220人	207.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	31人	0人	6.2
		辞退者数	3人	4人	2人	1人	3人	2.6
	実人数	志願者数	266人	281人	178人	194人	205人	224.8
		受験者数	261人	267人	178人	191人	199人	219.2
		合格者数	145人	113人	128人	142人	147人	135
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	27人	0人	5.4
		辞退者数	3人	4人	2人	1人	3人	2.6
	入学者数	49人	32人	37人	38人	47人	40.6	
	共通テスト利用入試	募集人数	6人	6人	6人	6人	6人	6
延べ人数		志願者数	251人	212人	141人	117人	129人	170
		受験者数	251人	212人	141人	117人	129人	170
		合格者数	66人	37人	34人	31人	50人	43.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
実人数		志願者数	183人	157人	110人	95人	104人	129.8
		受験者数	183人	157人	110人	95人	104人	129.8
		合格者数	49人	31人	29人	27人	39人	35
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
入学者数		3人	2人	2人	2人	2人	2.2	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	志願者数	1人	2人	5人	3人	1人	2.4
		受験者数	1人	2人	4人	3人	0人	2
		合格者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	1人	2人	5人	3人	1人	2.4
		受験者数	1人	2人	4人	3人	0人	2
		合格者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4	
	合計	募集人数	105人	105人	90人	90人	90人	96人
延べ人数		志願者数	1176人	1185人	783人	733人	790人	933人
		受験者数	1146人	1133人	780人	715人	771人	909人
		合格者数	370人	357人	386人	319人	344人	355人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	31人	0人	6人
		辞退者数	12人	11人	8人	8人	8人	9人
実人数		志願者数	588人	599人	414人	422人	463人	497人
		受験者数	581人	583人	413人	419人	453人	490人
		合格者数	272人	253人	249人	245人	246人	253人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	27人	0人	5人
		辞退者数	12人	11人	8人	8人	8人	9人
入学者数		98人	113人	107人	90人	87人	99人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	105人	105人	90人	90人	90人	96
入学定員充足率	0.93	1.08	1.19	1.00	0.97	1.03
歩留率	0.26	0.32	0.28	0.28	0.25	0.28

（備考）

- 「学校推薦型選抜」および「一般選抜」の合格・辞退・入学者数は、第2～5志望による者を含む。
- 「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	2人	2人	2人	2人	2人	2人	
	延べ人数	志願者数	0人	0人	2人	1人	3人	1人
		受験者数	0人	0人	2人	1人	3人	1人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	2人	1人	3人	1人
		受験者数	0人	0人	2人	1人	3人	1人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人	
	学校推薦型選抜	募集人数	46人	46人	46人	46人	46人	46人
延べ人数		志願者数	614人	580人	652人	748人	666人	652人
		受験者数	596人	569人	650人	746人	652人	643人
		合格者数	93人	100人	163人	121人	119人	119.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	5人	7人	14人	14人	11人	10.2
実人数		志願者数	339人	319人	349人	426人	388人	364.2
		受験者数	336人	316人	348人	425人	381人	361.2
		合格者数	81人	80人	115人	99人	99人	94.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	5人	7人	14人	14人	11人	10.2
入学者数		65人	60人	72人	64人	65人	65.2	
一般選抜		募集人数	51人	51人	51人	51人	51人	51
	延べ人数	志願者数	1421人	1378人	1145人	1280人	956人	1236
		受験者数	1398人	1318人	1107人	1229人	916人	1193.6
		合格者数	159人	200人	224人	143人	171人	179.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	10人	7人	4人	2人	4.8
	実人数	志願者数	530人	513人	436人	514人	396人	477.8
		受験者数	525人	491人	424人	497人	384人	464.2
		合格者数	103人	134人	134人	95人	112人	115.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	10人	7人	4人	2人	4.8
	入学者数	47人	44人	38人	35人	34人	39.6	
	共通テスト利用入試	募集人数	6人	6人	6人	6人	6人	6
延べ人数		志願者数	314人	318人	240人	246人	202人	264
		受験者数	314人	318人	240人	246人	202人	264
		合格者数	58人	51人	47人	49人	54人	51.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
実人数		志願者数	246人	241人	196人	200人	163人	209.2
		受験者数	246人	241人	196人	200人	163人	209.2
		合格者数	43人	42人	40人	44人	44人	42.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
入学者数		1人	5人	3人	1人	2人	2.4	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	志願者数	8人	1人	7人	6人	4人	5.2
		受験者数	8人	1人	5人	6人	1人	4.2
		合格者数	2人	1人	0人	0人	0人	0.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	8人	1人	7人	6人	4人	5.2
		受験者数	8人	1人	5人	6人	1人	4.2
		合格者数	2人	1人	0人	0人	0人	0.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	2人	1人	0人	0人	0人	0.6	
	合計	募集人数	105人	105人	105人	105人	105人	105人
延べ人数		志願者数	2357人	2277人	2046人	2281人	1831人	2158人
		受験者数	2316人	2206人	2004人	2228人	1774人	2106人
		合格者数	312人	352人	434人	313人	345人	351人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	17人	21人	19人	13人	15人
実人数		志願者数	1123人	1074人	990人	1147人	954人	1058人
		受験者数	1115人	1049人	975人	1129人	932人	1040人
		合格者数	229人	257人	289人	238人	256人	254人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	17人	21人	19人	13人	15人
入学者数		115人	110人	113人	100人	102人	108人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	105人	105人	105人	105人	105人	105
入学定員充足率	1.10	1.05	1.08	0.95	0.97	1.03
歩留率	0.37	0.31	0.26	0.32	0.30	0.31

（備考）「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	2人	2人	2人	2人	2人	2人	
	延べ人数	志願者数	1人	2人	1人	3人	0人	1人
		受験者数	1人	2人	1人	3人	0人	1人
		合格者数	1人	2人	0人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	2人	1人	3人	0人	1人
		受験者数	1人	2人	1人	3人	0人	1人
		合格者数	1人	2人	0人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	1人	2人	0人	1人	0人	1人	
	学校推薦型選抜	募集人数	46人	46人	46人	46人	46人	46人
		延べ人数	志願者数	439人	409人	339人	290人	292人
受験者数			430人	400人	339人	290人	290人	350人
合格者数			81人	103人	148人	110人	147人	117.8
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			5人	8人	13人	13人	7人	9.2
実人数		志願者数	251人	222人	188人	179人	180人	204
		受験者数	249人	220人	188人	179人	179人	203
		合格者数	71人	81人	105人	86人	115人	91.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	5人	8人	13人	13人	7人	9.2
入学者数		57人	57人	60人	51人	72人	59.4	
一般選抜		募集人数	51人	51人	51人	51人	51人	51
		延べ人数	志願者数	1182人	900人	591人	526人	359人
	受験者数		1169人	869人	570人	507人	342人	691.4
	合格者数		159人	268人	269人	144人	173人	202.6
	うち追加合格者数		0人	13人	0人	9人	0人	4.4
	辞退者数		2人	6人	6人	0人	4人	3.6
	実人数	志願者数	381人	307人	207人	210人	154人	251.8
		受験者数	377人	298人	201人	203人	149人	245.6
		合格者数	111人	157人	152人	102人	107人	125.8
		うち追加合格者数	0人	13人	0人	9人	0人	4.4
		辞退者数	2人	6人	6人	0人	4人	3.6
	入学者数	47人	52人	73人	34人	35人	48.2	
	共通テスト利用入試	募集人数	6人	6人	6人	6人	6人	6
		延べ人数	志願者数	312人	246人	145人	134人	100人
受験者数			312人	246人	145人	134人	100人	187.4
合格者数			49人	41人	30人	32人	35人	37.4
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	230人	183人	108人	109人	78人	141.6
		受験者数	230人	183人	108人	109人	78人	141.6
		合格者数	34人	34人	24人	29人	27人	29.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		1人	1人	2人	2人	0人	1.2	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		延べ人数	志願者数	1人	2人	3人	1人	2人
	受験者数		1人	2人	3人	1人	1人	1.6
	合格者数		0人	1人	0人	0人	0人	0.2
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	1人	2人	3人	1人	2人	1.8
		受験者数	1人	2人	3人	1人	1人	1.6
		合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0	
	合計	募集人数	105人	105人	105人	105人	105人	105人
		延べ人数	志願者数	1935人	1559人	1079人	954人	753人
受験者数			1913人	1519人	1058人	935人	733人	1232人
合格者数			290人	415人	447人	287人	355人	359人
うち追加合格者数			0人	13人	0人	9人	0人	4人
辞退者数			7人	14人	19人	13人	11人	13人
実人数		志願者数	864人	716人	507人	502人	414人	601人
		受験者数	858人	705人	501人	495人	407人	593人
		合格者数	217人	275人	281人	218人	249人	248人
		うち追加合格者数	0人	13人	0人	9人	0人	4人
	辞退者数	7人	14人	19人	13人	11人	13人	
入学者数	106人	112人	135人	88人	107人	110人		

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	105人	105人	105人	105人	105人	105
入学定員充足率	1.01	1.07	1.29	0.84	1.02	1.04
歩留率	0.37	0.27	0.30	0.31	0.30	0.31

（備考）

- 「学校推薦型選抜」および「一般選抜」の合格・辞退・入学者数は、第2～5志望による者を含む。
- 「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	2人	2人	2人	2人	2人	2人	
	延べ人数	志願者数	0人	1人	1人	1人	1人	1人
		受験者数	0人	1人	1人	1人	1人	1人
		合格者数	0人	1人	1人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	1人	1人	1人	1人	1人
		受験者数	0人	1人	1人	1人	1人	1人
		合格者数	0人	1人	1人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	1人	1人	1人	0人	1人	
	学校推薦型選抜	募集人数	46人	46人	38人	38人	38人	41人
		延べ人数	志願者数	123人	157人	123人	105人	137人
受験者数			121人	156人	121人	105人	136人	128人
合格者数			103人	103人	112人	91人	91人	100
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			2人	8人	1人	3人	3人	3.4
実人数		志願者数	71人	97人	77人	69人	91人	81
		受験者数	71人	96人	76人	69人	90人	80.4
		合格者数	84人	82人	87人	82人	79人	82.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	2人	8人	1人	3人	3人	3.4
入学者数		52人	55人	62人	49人	59人	55.4	
一般選抜		募集人数	51人	51人	44人	44人	44人	46.8
		延べ人数	志願者数	352人	338人	215人	265人	230人
	受験者数		327人	323人	212人	254人	215人	266.2
	合格者数		175人	198人	191人	162人	157人	176.6
	うち追加合格者数		0人	23人	0人	27人	0人	10
	辞退者数		3人	6人	1人	1人	0人	2.2
	実人数	志願者数	143人	126人	90人	111人	97人	113.4
		受験者数	137人	124人	89人	109人	90人	109.8
		合格者数	122人	144人	117人	122人	112人	123.4
		うち追加合格者数	0人	23人	0人	27人	0人	10
		辞退者数	3人	6人	1人	1人	0人	2.2
	入学者数	64人	58人	43人	35人	36人	47.2	
	共通テスト利用入試	募集人数	6人	6人	6人	6人	6人	6
		延べ人数	志願者数	200人	175人	110人	104人	101人
受験者数			200人	175人	110人	104人	101人	138
合格者数			52人	37人	27人	23人	34人	34.6
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	137人	127人	84人	85人	81人	102.8
		受験者数	137人	127人	84人	85人	81人	102.8
		合格者数	34人	29人	21人	21人	27人	26.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		0人	0人	2人	4人	1人	1.4	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		延べ人数	志願者数	1人	0人	2人	3人	0人
	受験者数		1人	0人	1人	3人	0人	1
	合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	1人	0人	2人	3人	0人	1.2
		受験者数	1人	0人	1人	3人	0人	1
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0	
	合計	募集人数	105人	105人	90人	90人	90人	96人
		延べ人数	志願者数	676人	671人	451人	478人	469人
受験者数			649人	655人	445人	467人	453人	534人
合格者数			330人	339人	331人	277人	282人	312人
うち追加合格者数			0人	23人	0人	27人	0人	10人
辞退者数			5人	14人	2人	4人	3人	6人
実人数		志願者数	352人	351人	254人	269人	270人	299人
		受験者数	346人	348人	251人	267人	262人	295人
		合格者数	240人	256人	226人	226人	218人	233人
		うち追加合格者数	0人	23人	0人	27人	0人	10人
	辞退者数	5人	14人	2人	4人	3人	6人	
入学者数	116人	114人	108人	89人	96人	105人		

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	105人	105人	90人	90人	90人	96
入学定員充足率	1.10	1.09	1.20	0.99	1.07	1.09
歩留率	0.35	0.34	0.33	0.32	0.34	0.34

（備考）

- 「学校推薦型選抜」および「一般選抜」の合格・辞退・入学者数は、第2～5志望による者を含む。
- 「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	2人	2人	2人	2人	12人	4人	
	延べ人数	志願者数	10人	20人	19人	20人	27人	19人
		受験者数	10人	20人	19人	20人	27人	19人
		合格者数	7人	14人	15人	16人	27人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	10人	20人	19人	20人	27人	19人
		受験者数	10人	20人	19人	20人	27人	19人
		合格者数	7人	14人	15人	16人	27人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	7人	14人	15人	16人	27人	16人	
	学校推薦型選抜	募集人数	68人	68人	68人	68人	58人	66人
延べ人数		志願者数	367人	359人	292人	179人	204人	280人
		受験者数	362人	358人	290人	179人	200人	278人
		合格者数	137人	137人	161人	131人	121人	137.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	2人	1人	3人	1人	1.6
実人数		志願者数	305人	280人	244人	135人	167人	226.2
		受験者数	303人	279人	243人	135人	164人	224.8
		合格者数	130人	128人	146人	110人	114人	125.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	2人	1人	3人	1人	1.6
入学者数		107人	104人	106人	97人	100人	102.8	
一般選抜		募集人数	64人	64人	64人	64人	64人	64
	延べ人数	志願者数	1164人	894人	494人	239人	271人	612.4
		受験者数	1103人	849人	465人	233人	257人	581.4
		合格者数	161人	197人	253人	112人	70人	158.6
		うち追加合格者数	0人	22人	59人	9人	0人	18
		辞退者数	0人	4人	1人	1人	2人	1.6
	実人数	志願者数	585人	423人	270人	122人	134人	306.8
		受験者数	566人	409人	259人	120人	128人	296.4
		合格者数	125人	140人	174人	73人	49人	112.2
		うち追加合格者数	0人	22人	48人	9人	0人	15.8
		辞退者数	0人	4人	1人	1人	2人	1.6
	入学者数	39人	34人	46人	29人	23人	34.2	
	共通テスト利用入試	募集人数	6人	6人	6人	6人	6人	6
延べ人数		志願者数	179人	142人	59人	41人	54人	95
		受験者数	179人	142人	59人	41人	54人	95
		合格者数	57人	40人	17人	19人	21人	30.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	122人	96人	42人	33人	43人	67.2
		受験者数	122人	96人	42人	33人	43人	67.2
		合格者数	40人	30人	12人	16人	16人	22.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		1人	0人	0人	1人	0人	0.4	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数	志願者数	0人	0人	2人	0人	0人	0.4
		受験者数	0人	0人	2人	0人	0人	0.4
		合格者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	0人	2人	0人	0人	0.4
		受験者数	0人	0人	2人	0人	0人	0.4
		合格者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0	
	合計	募集人数	140人	140人	140人	140人	140人	140人
延べ人数		志願者数	1720人	1415人	866人	479人	556人	1007人
		受験者数	1654人	1369人	835人	473人	538人	974人
		合格者数	362人	388人	447人	278人	239人	343人
		うち追加合格者数	0人	22人	59人	9人	0人	18人
		辞退者数	1人	6人	2人	4人	3人	3人
実人数		志願者数	1022人	819人	577人	310人	371人	620人
		受験者数	1001人	804人	565人	308人	362人	608人
		合格者数	302人	312人	348人	215人	206人	277人
		うち追加合格者数	0人	22人	48人	9人	0人	16人
		辞退者数	1人	6人	2人	4人	3人	3人
入学者数		154人	152人	167人	143人	150人	153人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	140人	140人	140人	140人	140人	140
入学定員充足率	1.10	1.09	1.19	1.02	1.07	1.09
歩留率	0.43	0.39	0.37	0.51	0.63	0.47

（備考）「その他の特別選抜」における募集人数は若干名。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：大阪工業大学オープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	4325人	6220人	①取組概要 オープンキャンパス(3・7・8・12月実施分) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 全学部の入学定員(1,780人)の半数程度がオープンキャンパスに参加。 現状を維持することで、新設学科の入学定員を充足することが可能。
うち受験対象者数(b)	2201人	3278人	
うち受験者数(c)	1255人	1604人	
うち入学者数(d)	695人	888人	
(受験率 c/b)	57.0%	48.9%	
(入学率 d/b)	31.6%	27.1%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：大阪工業大学大学案内の送付

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	-	-	①取組概要 資料請求登録者 ※(a)は非公表 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 全学部の入学定員(1,780人)の半数程度が本学資料を請求。現状を維持 することで、新設学科の入学定員を充足することが可能。
うち受験対象者数(b)	11530人	12202人	
うち受験者数(c)	3002人	2431人	
うち入学者数(d)	893人	790人	
(受験率 c/b)	26.0%	19.9%	
(入学率 d/b)	7.7%	6.5%	

【資料1】競合校の入学志願状況

大学	学部	学科	開設	入学定員	一般入試（前期）志願者数															2023年度充足率		備考
					2021年度					2022年度					2023年度					入学者数	定員超過率	
					募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率			
立命館大学	情報理工学部	情報理工学科	2004	475	149	1,945	1,877	808	2.3	174	2,181	2,126	775	2.7	174	2,528	2,429	807	3.0	499	1.05	全学統一理系入試（一般）学部全体
関西大学	総合情報学部	総合情報学科	1994	500	235	3,666	3,590	635	5.7	235	3,615	3,532	736	4.8	235	3,349	3,300	545	6.1	502	1.00	全学入試
近畿大学	情報学部	情報学科	2022	330	-	-	-	-	-	-	1,951	1,920	177	10.8	-	1,333	1,305	111	11.8	323	0.98	一般前期AS英数理のみ
大阪電気通信大学	情報通信工学部	情報工学科	2005	160	48	1,296	1,253	236	5.3	53	1,115	1,057	143	7.4	53	754	734	178	4.1	275	1.15	一般入試
		通信工学科	2005	80	25	175	168	33	5.1	27	186	179	37	4.8	27	162	157	43	3.7			一般入試

※出典：各大学の公表データ及び旺文社「蛭雷時代」

※入学定員は2023年度の定員

【資料2】

大阪工業大学
情報科学部 実世界情報学科（仮称）
入学意向アンケート調査
報告書

令和5年12月27日
株式会社高等教育総合研究所

目 次

- | | |
|------------------------------------|-----|
| 1. 入学意向アンケート調査 概要 | P 3 |
| 2. 調査実施高等学校等 一覧 | P 4 |
| 3. 入学意向アンケート調査 集計結果 | P 6 |
| 4. 入学意向アンケート調査 結果の要点 | P 8 |
| (添付資料) | |
| 5. 入学意向アンケート調査用紙 (新学部の概要を含む) (3 頁) | |

1. 入学意向アンケート調査 概要

調査目的	大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科(仮称) (入学定員 80 人・令和 7 年 (2025 年) 度設置予定) における志願者・入学者等の学生確保の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	調査対象：令和 7 年 3 月に高校卒業予定である高校 2 年生 (令和 5 年度) 調査地域：実世界情報学科 (仮称) の主たる学生募集エリアと想定される大阪府を中心とした近畿地区の高等学校等から調査の協力を得た。
調査内容	<ul style="list-style-type: none">・回答者の基本情報 (居住地・性別)・卒業後の進路・学校の設置者種別・興味のある学問分野・大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科 (仮称) への受験・入学意志 (すべて選択肢式)
調査時期	令和 5 年 9 月～12 月
調査方法	調査実施の了承が得られた高校に対しアンケート用紙を送付し、各校の教職員の監督のもと、高校において実施した。一部の高校 (26 校) では、教職員の指示によりオンライン形式 (設問等は全て紙のアンケートと同一) で調査を実施した。
回収件数	有効回答数：9,532 件 (95 校)
調査結果	[受験意志] 予定する入学定員 80 名に対し、105 人 (1.1%) が受験意志 (第一志望)、1623 人 (17.0%) が受験意志 (第一志望、第二志望、第三志望以降を含む) を示した。 [入学意志] 受験意志を示した回答者のうち 297 人 (3.1%) が入学意志を示した。 [クロス集計]：36 人 (0.4%) が「卒業後の進路が大学」かつ「私立大学を志望」かつ「工学分野、電気通信工学分野を志望」かつ「受験意志」(第一志望) かつ「入学意志」を示した。

2. 調査実施高等学校等一覧

番号	高校	実施件数	番号	高校	実施件数
1	常翔啓光学園	405 人	49	芥川	74 人
2	崇徳	393 人	50	福崎	71 人
3	高田	377 人	51	明石城西	71 人
4	河南	263 人	52	堺	66 人
5	常翔学園	263 人	53	奈良商工	65 人
6	岡山理科大学附属	259 人	54	岡山	62 人
7	松山中央	258 人	55	姫路飾西	62 人
8	京都文教	256 人	56	尼崎北	59 人
9	姫路	222 人	57	善通寺第一	58 人
10	就実	221 人	58	花園	54 人
11	甲西	212 人	59	岡山学芸館	49 人
12	箕面自由学園	211 人	60	高松中央	48 人
13	県立和歌山工業	210 人	61	東海大学附属大阪仰星	47 人
14	滝川	199 人	62	久米田	45 人
15	神戸国際大学附属	189 人	63	奈良育英	44 人
16	いちりつ	186 人	64	京都府立工業	43 人
17	有馬	186 人	65	伊丹西	41 人
18	豊岡	177 人	66	皇學館	41 人
19	高砂	174 人	67	岡山工業	40 人
20	四天王寺東	163 人	68	鳥取工業	40 人
21	金光学園	152 人	69	神戸鈴蘭台	39 人
22	四条畷学園	143 人	70	和泉	38 人
23	興國	130 人	71	布施	37 人
24	近畿大学泉州	124 人	72	交野	37 人
25	寝屋川	124 人	73	兵庫工業	37 人
26	紀北工業	122 人	74	生駒	37 人
27	大阪信愛学院	122 人	75	桜塚	36 人
28	仁川学院	117 人	76	上宮	36 人
29	玉川	107 人	77	高円芸術	36 人
30	都島工業	107 人	78	西宮南	35 人
31	米原	105 人	79	工芸	35 人
32	星翔	103 人	80	今治北	35 人
33	刀根山	102 人	81	高松商業	31 人
34	天理	101 人	82	龍野北	31 人
35	園部	101 人	83	大阪産業大学附属	29 人
36	海星	93 人	84	洲本	28 人

37	阪南大学	93 人	85	奈良大学附属	27 人
38	近江兄弟社	92 人	86	多度津	27 人
39	大阪府教育センター附属	90 人	87	赤穂	27 人
40	京都成章	89 人	88	社	25 人
41	育英	88 人	89	王寺工業	24 人
42	小野工業	84 人	90	神戸龍谷	23 人
43	済美	84 人	91	大手前高松	19 人
44	咲くやこの花	83 人	92	大阪学芸	16 人
45	初芝橋本	82 人	93	東洋大学附属姫路	12 人
46	加古川南	76 人	94	渋谷	6 人
47	初芝立命館	75 人	95	飾磨	1 人
48	狭山	75 人			
合 計					9,532 人

3. 入学意向アンケート調査 集計結果

		回答者数合計		9,532	100.0%
設問	回答選択肢		回答数	割合	
問1 あなたの性別をお答えください。 (択一回答)	1	男性	5,572	58.5%	
	2	女性	3,597	37.7%	
	3	回答しない	363	3.8%	
		合計	9,532	100.0%	
問2 あなたがお住まいの都道府県をお答えください。 (択一回答)	1	大阪府	3,320	34.8%	
	2	京都府	513	5.4%	
	3	兵庫県	2,122	22.3%	
	4	奈良県	362	3.8%	
	5	和歌山県	377	4.0%	
	6	滋賀県	555	5.8%	
	7	その他	2,283	24.0%	
		合計	9,532	100.0%	
問3 卒業後の進路をどのように考えているかお答えください。 (複数回答可能)	1	大学	8,101	85.0%	
	2	短期大学	369	3.9%	
	3	専門職大学	255	2.7%	
	4	専門職短期大学	75	0.8%	
	5	専門学校	1,260	13.2%	
	6	就職	923	9.7%	
	7	その他	194	2.0%	
		合計	9,532	100.0%	
問4 (進学の場合)志望する大学等の設置者(国公立)の希望をご回答ください。(複数回答可能)	1	国立	3,268	34.3%	
	2	公立	3,163	33.2%	
	3	私立	8,251	86.6%	
		合計	9,532	100.0%	
問5 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野をご回答ください。 (複数回答可能)	1	人文科学(文学、史学、哲学、外国語等)	1,314	13.8%	
	2	社会科学(法学・政治学、商学・経済学、社会学等)	2,074	21.8%	
	3	理学(数学、物理学、化学、生物、地学等)	1,669	17.5%	
	4	工学(電気通信工学、機械工学、土木建築工学等)	2,380	25.0%	
	5	農学(農学、農芸化学、農業工学、農業経済学、林学、林産学、獣医学畜産学、水産学等)	726	7.6%	
	6	保健(医学、薬学、看護学等)	1,856	19.5%	
	7	家政(家政学、食物学、被服学、住居学、児童学等)	486	5.1%	
	8	教育(教育学、教職課程、体育等)	1,180	12.4%	
	9	芸術(美術、デザイン、音楽等)	956	10.0%	
	10	その他	1,136	11.9%	
		合計	9,532	100.0%	

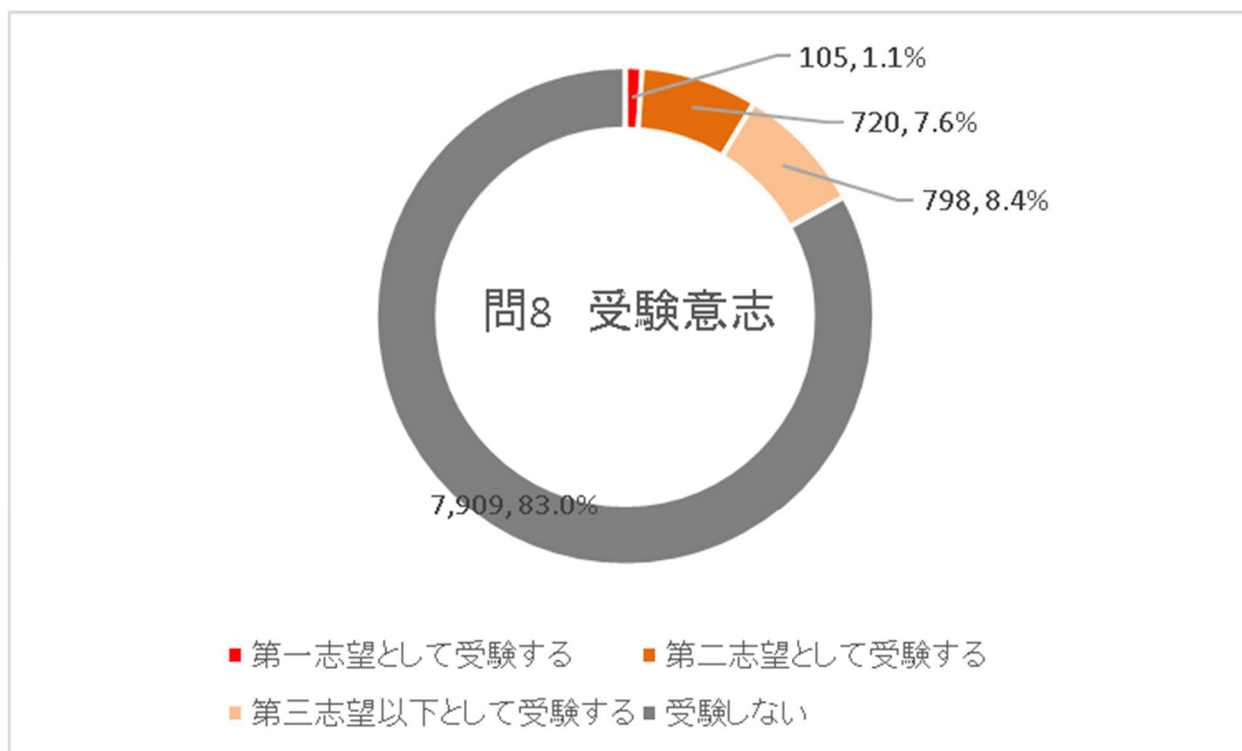
問 6	【問5の「工学」の回答者のみ】 工学分野の中で、学びたいと 考えている興味 のある学問分野 をご回答ください。 (複数回答可 能)	1	工学(電気通信工学)[情報工学、実世界情報学等を含む]	1,175	12.3%
		2	工学(機械工学)	1,014	10.6%
		3	工学(土木建築工学)	562	5.9%
		4	工学(応用化学)	235	2.5%
		5	工学(応用理学)	157	1.6%
		6	工学(原子力工学)	134	1.4%
		7	工学(鉱山学)	41	0.4%
		8	工学(金属工学)	128	1.3%
		9	工学(繊維工学)	42	0.4%
		10	工学(船舶工学)	72	0.8%
		11	工学(航空工学)	171	1.8%
		12	工学(経営工学)	129	1.4%
		13	工学(工芸学)	70	0.7%
		14	工学(その他)	117	1.2%
			回答権利なし(工学以外)	8,218	86.2%
	合計	9,532	100.0%		
問 7	あなたは情報工 学やコンピュー タ・プログラミ ングに興味や関 心があります か?(択一回 答)	1	興味や関心がある	4,184	43.9%
		2	興味や関心はない	5,348	56.1%
			合計	9,532	100.0%
問 8	あなたは大阪工 業大学 情報科 学部 実世界情 報学科(仮称) が開設された場 合、受験を希望 しますか。 (択一回答)	1	第一志望として受験する	105	1.1%
		2	第二志望として受験する	720	7.6%
		3	第三志望以下として受験する	798	8.4%
		4	受験しない	7,909	83.0%
			合計	9,532	100.0%
問 9	【問8で受験意 志の回答者の み】あなたは大 阪工業大学 情 報科学部 実世 界情報学科(仮 称)を受験して 合格した場合、 入学を希望し ますか。(択一 回答)	1	入学する	297	3.1%
		2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	1,265	13.3%
		3	入学しない	61	0.6%
			回答権利なし(受験しない)	7,909	83.0%
			合計	9,532	100.0%
問 10	大阪工業大学情 報科学部の既存 学科で、受験し たい学科があれ ばお答えくださ い。(複数回答 可能)	1	データサイエンス学科	844	8.9%
		2	情報知能学科	651	6.8%
		3	情報システム学科	1,351	14.2%
		4	情報メディア学科	1,077	11.3%
			無回答	6,337	66.5%
			合計	9,532	100.0%

4. 入学意向アンケート調査 結果の要点

要点1) 大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科 (仮称) への受験意志

アンケート実施合計 9,532 人のうち、1,623 人 (17.0%) (入学定員の 20.3 倍) より受験意志 (第一志望～第三志望以降) が示された。受験意志 (第一志望) を示した者 (105 人) で、入学定員である 80 人を上回る結果 (1.3 倍) となった。

第一志望として受験する	105 人	1.1%	1,623 人	17.0%
第二志望として受験する	720 人	7.6%		
第三志望以降として受験する	798 人	8.4%		
合計			9,532 人	100.0%



要点2) クロス集計①

「卒業後の進路」(問3)、「学校の設置者種別」(問4)、「興味のある学問分野」(問5、問6)、「受験意志」(問8)、「入学意志」(問9)の6重クロス集計を行ったところ、「大学進学を希望」し、「私立大学を希望」し、「工学分野のうち電気通信工学(情報工学、実世界情報学を含む)に興味」を持ち、「受験意志」を持ち、「入学意志」を持つ者は36人(アンケート回答者全体の0.4%)であった。

6重クロス集計で入学意志を示した者は36人と入学定員80人を下回ったが、本クロス集計において、第二志望、第三志望以降も合わせた受験意志者合計(506人、5.3%)の者のうち「入学する」と回答した者は94人(36人+40人+18人)(1.0%)となり、入学定員(80人)を上回った。これらの集団は、本学科への強い入学意志を持っていると考えられる。

[クロス集計表①]

回答者合計	[卒業後の進路] (問3)	[学校の設置者種別] (問4)	[興味のある学問分野(大分類)] (問5)	[興味のある学問分野(工学の小分類)] (問6)	[受験意志] (問8)	[入学意志] (問9)
回答者合計 9,532人 (%は全体回答者に対する割合)	「大学」 8,101人 (86.6%)	「私立」 7,526人 (80.5%)	「工学」 1,993人 (21.3%)	「工学(電気通信工学)」 1,036人 (11.1%)	「受験したい(第一志望)」 38人 (0.4%)	「入学する」 36人 (0.4%)
					「受験したい(第二志望)」 175人 (1.9%)	「入学する」 40人 (0.4%)
					「受験したい(第三志望以降)」 293人 (3.1%)	「入学する」 18人 (2.9%)

※割合(%)は全て全回答者(9,532人)に対する割合

※表の面積は回答者数を示すものではない。

要点3) クロス集計②

「受験意志」(問8)と「入学意志」(問9)のクロス集計は以下に示す通りとなった。

「受験意志(第一志望)と「入学する」の回答者は103人(1.1%)、「受験意志(第一志望～第三志望以降)」と「入学する」の回答者は297人(3.1%)、「受験意志(第一志望～第三志望以降)」と「入学する」+「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」の回答者は1,562人(16.4%)であった。

[クロス集計表②]

		入学意志 (問9)											
		入学する				志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する				入学しない		合計	
受験意志 (問8)	第一志望として受験する	103人	1.1%	297人	3.1%	2人	0.0%	1,265人	13.3%	0人	0.0%	105人	1.1%
	第二志望として受験する	140人	1.5%			580人	6.1%			0人	0.0%	720人	7.6%
	第三志望以降として受験する	54人	0.6%			683人	7.2%			61人	0.6%	798人	8.4%
	受験・入学意志合計	1,562人 (16.4%)						—	—	—	—		

以上



大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科（仮称） 入学意向アンケート調査

アンケート対象：高校2年生（2023年度現在）

大阪工業大学は、大阪府枚方キャンパスにおける新学科として、2025年4月に情報科学部 実世界情報学科（仮称）の開設を構想しています。本学ではこのアンケート調査を通して、高校生の皆様からさまざまなご意見をお伺いし、新学科の構想の参考にさせていただきたいと考えています。本アンケートは匿名回答であり、個人が特定されることはありません。集計結果は、新学科の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

問1 あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 男性 女性 回答しない

問2 あなたがお住まいの都道府県をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 大阪府 京都府 兵庫県 奈良県 和歌山県 滋賀県 その他

問3 卒業後の進路をどのように考えているかお答えください。（複数回答可能）

- 大学 短期大学 専門職大学 専門職短期大学 専門学校
 就職 その他

問4（進学の場合）志望する大学等の設置者（国公私立）の希望をご回答ください。（複数回答可能）

- 国立 公立 私立

問5 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野をご回答ください。（いくつでも複数回答可能）

- 人文科学（文学、史学、哲学、外国語等）
 社会科学（法学・政治学、商学・経済学、社会学等）
 理学（数学、物理学、化学、生物、地学等）
 工学（電気通信工学、機械工学、土木建築工学等）
 農学（農学、農芸化学、農業工学、農業経済学、林学、林産学、獣医学畜産学、水産学等）
 保健（医学、薬学、看護学等）
 家政（家政学、食物学、被服学、住居学、児童学等）
 教育（教育学、教職課程、体育等）
 芸術（美術、デザイン、音楽等）
 その他



本アンケート調査用紙に印刷されているQRコードは集計時に使用するものです。個人の特定を目的とするものではありません。



以下の問6は問5で「工学」を選んだ方のみお答えください。

問6 工学分野の中で、学びたいと考えている興味のある学問分野をご回答ください。（いくつでも複数回答可能）

- | | |
|---|---------------------------------|
| <input type="radio"/> 工学（電気通信工学）[情報工学、実世界情報学等を含む] | <input type="radio"/> 工学（機械工学） |
| <input type="radio"/> 工学（土木建築工学） | <input type="radio"/> 工学（応用化学） |
| <input type="radio"/> 工学（応用理学） | <input type="radio"/> 工学（原子力工学） |
| <input type="radio"/> 工学（鉱山学） | <input type="radio"/> 工学（金属工学） |
| <input type="radio"/> 工学（繊維工学） | <input type="radio"/> 工学（船舶工学） |
| <input type="radio"/> 工学（航空工学） | <input type="radio"/> 工学（経営工学） |
| <input type="radio"/> 工学（工芸学） | <input type="radio"/> 工学（その他） |

問7以降は全ての方がお答えください。

問7 あなたは情報工学やコンピュータ・プログラミングに興味や関心がありますか？（あてはまるもの1つにマーク）

- 興味や関心がある 興味や関心はない

別紙の大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科（仮称）の概要と資料をご覧の上で以下の質問にお答えください。

問8 あなたは大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科（仮称）が開設された場合、受験を希望しますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 第一志望として受験する 第二志望として受験する 第三志望以下として受験する
 受験しない

問9 （受験意志のあった方のみ）あなたは大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 入学する 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
 入学しない

問10 大阪工業大学情報科学部の既存学科で、受験したい学科があればお答えください。（複数回答可能）

- データサイエンス学科 情報知能学科 情報システム学科 情報メディア学科

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。



本アンケート調査用紙に印刷されているQRコードは集計時に使用するものです。個人の特定を目的とするものではありません。

大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科 (仮称・設置構想中)

掲載内容は予定であり、変更になる可能性があります。

開設時期	入学定員	取得学位	修業年限	設置場所
2025 (令和7) 年4月	80人 (収容定員320人)	学士 (情報学)	4年	大阪府枚方市 北山 1-79-1

学部・学科の特色

大阪工業大学情報科学部実世界情報学科 (仮称) では、以下を学びの特色としています。

- ① プログラミングや情報技術の基礎的なところから応用まで、講義と演習をミックスした丁寧な指導により実世界情報学に必要な専門知識を学べます。
- ② ドローン、自動運転、ロボット、AIなど最先端の分野に関わる実世界情報学を実践的に学びます。
- ③ 探究学習型の学生プロジェクトや研究室での個別指導を通じた実世界情報学の学びにより、卒業後に即戦力として通用する能力と技術を身につけます。
- ④ 情報科学部 (5学科) では、ソフトウェア、AI、情報システム、メディア、セキュリティ、ネットワークなど様々な分野を幅広く学べる共通科目を開講しています。

養成する人材像

実世界情報学科 (仮称) では、様々なIoTセンシング技術によって、人間が活動する現実の空間「実世界」の情報を取得し、ヒト・モノ・環境の情報分析と可視化、空調・照明等の環境整備、インフラ設備やロボット制御などの実世界インタラクションにより、実世界の具体的な課題を解決できるプロフェッショナル人材を養成します。



設置の理念

インターネットやコンピュータなど情報技術の発展は地球規模で我々の生活を大きく変えています。エアコンや照明をスマートフォンやスマートスピーカーから操作できるなど、モノとインターネットが融合したIoT(モノのインターネット)が身近になりつつあります。さらにクルマの自動運転やドローンなどにも情報技術が欠かせないものとなっています。これからの情報技術には、人々が生活している「実世界」で何が起きているのかを知り、様々な自動機器(自動運転車、ドローン、ロボット、電気・ガス等のインフラ設備)を制御することが求められています。実世界情報学科 (仮称) は、このような先端分野を情報技術の側面から支える人材を養成することを目指します。具体的には、カメラやIoTを活用して実世界の情報をキャッチして、その情報をAI(人工知能)も活用しながら分析し、その分析結果に基づきドローンを自動操縦したり、スマートフォンなどに情報発信を行います。これらの技術の学びから実世界での問題解決を担えるプロフェッショナル人材を養成していきます。

身につける能力

実世界情報学科 (仮称) では、以下の能力を身につけます。

- ① 実世界情報技術が社会に及ぼす影響や技術者の社会的役割、責務などを理解し、適切に判断して行動ができる技術者倫理
- ② 実世界からの情報取得・分析技術、及び実世界へのインタラクション技術に関連する理工学の基礎知識を持ち、専門的な技術の理解につなげられる基礎知識と活用能力
- ③ 実世界からの情報取得・分析技術、及び実世界へのインタラクション技術を修得し、これらを現実の問題解決に応用できる専門知識と問題解決への応用能力
- ④ 課題を解決するために、情報を収集、整理、分析し、問題解決のための計画、方策を立案して推進できる問題の設定と解決能力
- ⑤ 技術文書の作成、発表、討論において、正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持つとともに、他者と協働して活動できる能力

アドミッションポリシー

実世界情報学科 (仮称) では、以下のような学生を求めます。

1. 持続可能な社会を目指すうえで取り上げられている様々な課題に関心がある人
2. 情報技術に関心を持ち、机上の知識ではなく実際に応用することに意欲のある人
3. 技術者の社会的責任について理解し、それを誠実に遂行しようとする倫理観を持つ人
4. 多様な人々と協働してプロジェクトを推進する力身につけたい人

実世界情報 とは

人にやさしく社会に役立つサービスには、現実の世界との関わりが欠かせません。例えば、普及しつつあるドローンや自動配送ロボットを安全に動かすには、現実の空間の状況 (= 「実世界情報」) を認識しなければなりません。つまり実世界情報とは、カメラやセンサなどの入力をもとに得られる現実の世界の情報であり、それをAIも活用して分析した結果です。これを社会の様々な問題の解決に応用していくことが、今後の情報分野で重要となります。

取得可能な資格・免許

- ・ 中学校教諭一種免許(数学)
- ・ 高等学校教諭一種免許(数学)
- ・ 高等学校教諭一種免許(情報)

情報科学部 実世界情報学科 (仮称) に類似する学部・学科

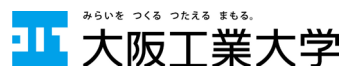
- ・ 立命館大学 情報理工学部 情報理工学科 実世界情報コース
- ・ 関西大学 総合情報学部
- ・ 近畿大学 情報学部
- ・ 大阪電気通信大学 情報通信工学部 / 総合情報学部

卒業後の進路・職種

- ・ 通信や交通などの企業や地方自治体でのインフラ設備の遠隔監視
- ・ 電機メーカーにおけるIoT機器の開発製造
- ・ ソフトウェア会社での業務用ソフトウェア開発

学納金 (予定)

入学金	授業料(1年次)	授業料※2年次以降	初年度納付金
250,000円	1,390,000円	1,490,000円	1,640,000円



情報科学部
工学部
ロボティクス&デザイン工学部
知的財産学部

<https://www.oit.ac.jp/>



枚方キャンパス

〒573-0196 大阪府枚方市北山 1-79-1

京阪本線・樟葉駅

京阪バス 北山中央、大阪工大下車 (京阪祇園四条駅から計42分)

JR学研都市線・長尾駅

北山中央、大阪工大下車 (JR京橋駅から計31分)

学生確保 -43-



【資料3】

大阪工業大学
情報科学部 実世界情報学科（仮称）
採用意向アンケート調査
報告書

令和5年12月27日
株式会社高等教育総合研究所

目 次

- | | |
|------------------------------------|-----|
| 1. 採用意向アンケート調査 概要 | P 3 |
| 2. 採用意向アンケート調査 集計結果 | P 4 |
| 3. 採用意向アンケート調査 結果の要点 | P 6 |
| (添付資料) | |
| 4. 採用意向アンケート調査用紙 (新学部の概要を含む) (3 頁) | |

1. 採用意向アンケート調査 概要

調査目的	令和7年(2025年)度に設置予定の「大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科(仮称)」(入学定員80人)における卒業後の採用・就職(人材需要)の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	実世界情報学科(仮称)の卒業後に採用が見込まれる以下の業種の事業所(業種) ・ソフトウェア関係、情報処理・通信関係、製造業(電気・電子・通信関係)、製造業(自動車関係)、製造業(機械関係)、製造業(化学・医薬関係)、エネルギー(電気・ガス・水道)・インフラ関係、住宅・設備関係、建築・土木・道路・設計・測量関係、商社・卸売・流通・小売等 (地域)近畿地区・首都圏等 (依頼件数)合計:1,500事業所
調査内容	・回答事業所の基本情報(業種・所在地) ・実世界情報学科(仮称)卒業生の人材ニーズ ・実世界情報学科(仮称)卒業生の採用意向
調査時期	令和5年9月～11月
調査方法	調査対象事業所に対しアンケートを郵送し依頼することにより実施
回収件数	有効回答数355件(回収率23.7%)
調査結果	採用意向:271事業所(76.3%)より採用意向が示された。 採用可能人数:採用の場合の採用可能人数は728人(271事業所)であった。

2. 採用意向アンケート調査 集計結果

		回収数	355	
設問	回答選択肢	回答数	割合	
問 1 貴社の主となる業種をお答えください。 (択一回答)	1 ソフトウェア関係	82	23.1%	
	2 情報処理・通信関係	48	13.5%	
	3 製造業（電気・電子・通信関係）	38	10.7%	
	4 製造業（自動車関係）	13	3.7%	
	5 製造業（機械関係）	62	17.5%	
	6 製造業（化学・医薬関係）	8	2.3%	
	7 エネルギー（電気・ガス・水道）・インフラ関係	7	2.0%	
	8 住宅・設備関係	15	4.2%	
	9 建築・土木・道路・設計・測量関係	35	9.9%	
	10 商社・卸売・流通・小売	12	3.4%	
	11 その他	35	9.9%	
		合計	355	100.0%
問 2 貴社の所在地（本社または主たる所在地）をお答えください。 (択一回答)	1 大阪府	140	39.4%	
	2 兵庫県	34	9.6%	
	3 京都府	23	6.5%	
	4 奈良県	3	0.8%	
	5 和歌山県	5	1.4%	
	6 東京都	89	25.1%	
	7 愛知県	16	4.5%	
	8 その他	45	12.7%	
		合計	355	100.0%
問 3 貴社の従業員規模をお答えください。 (択一回答)	1 ～20 人	9	2.5%	
	2 21～100 人	37	10.4%	
	3 101～300 人	96	27.0%	
	4 301～1,000 人	100	28.2%	
	5 1,001～3,000 人	73	20.6%	
	6 3,001～10,000 人	30	8.5%	
	7 10,001 人～	10	2.8%	
		合計	355	100.0%
問 4 大阪工業大学が設置構想中の「実世界情報学科（仮称）」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われる	1 人材ニーズは非常に高い	151	42.5%	
	2 人材ニーズは高い	173	48.7%	
	3 人材ニーズはあまり高くない	7	2.0%	
	4 人材ニーズは高くない	6	1.7%	
	5 わからない	18	5.1%	
		合計	355	100.0%

	すか。(択一回答)				
問 5	大阪工業大学が設置構想中の「実世界情報学科（仮称）」が養成する人材を、貴社・貴機関・貴団体に採用したいと思われ ますか。 (択一回答)	1	採用したい	271	76.3%
		2	採用しない	7	2.0%
		3	わからない	77	21.7%
			合計	355	100.0%
問 6	「採用したい」と回答された場合、採用可能な人数についてお答えください。 (択一回答)	1	1人	75	27.7%
		2	2人	81	29.9%
		3	3人	40	14.8%
		4	4人	4	1.5%
		5	5人以上	71	26.2%
			合計	271	100.0%

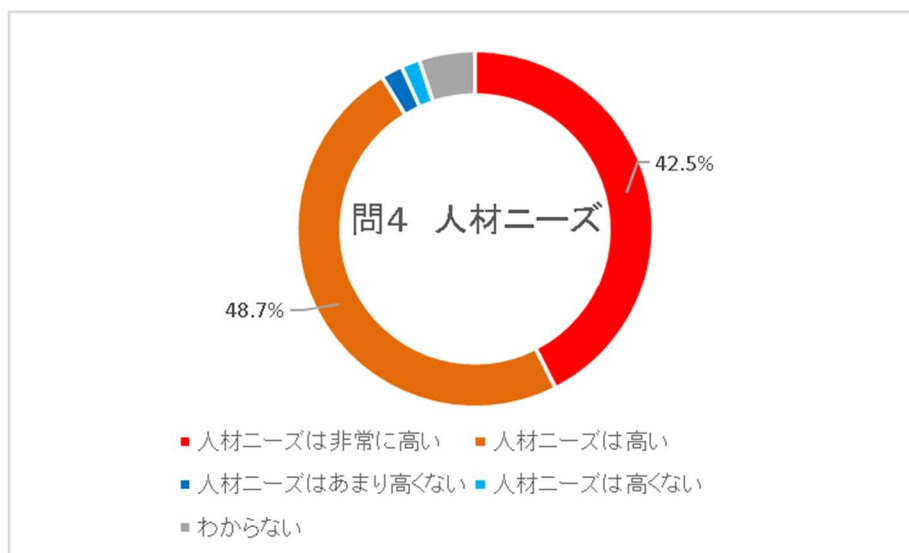
3. 採用意向アンケート調査 結果の要点

要点1) 実世界情報学科（仮称）で養成する人材の社会的ニーズ

回答のあった355事業所の42.5%にあたる151事業所から「実世界情報学科（仮称）で養成する人材ニーズは非常に高い」、91.2%の324事業所から「人材ニーズは非常に高い」及び「人材ニーズは高い」との回答を得た（問4）。養成人材について、事業者からは極めて高い評価を得た。

問4 [実世界情報学科で養成する人材の社会的ニーズ]

人材ニーズは非常に高い	151 事業所	42.5%	324 事業所	91.2%
人材ニーズは高い	173 事業所	48.7%		
合計			355 事業所	100.0%



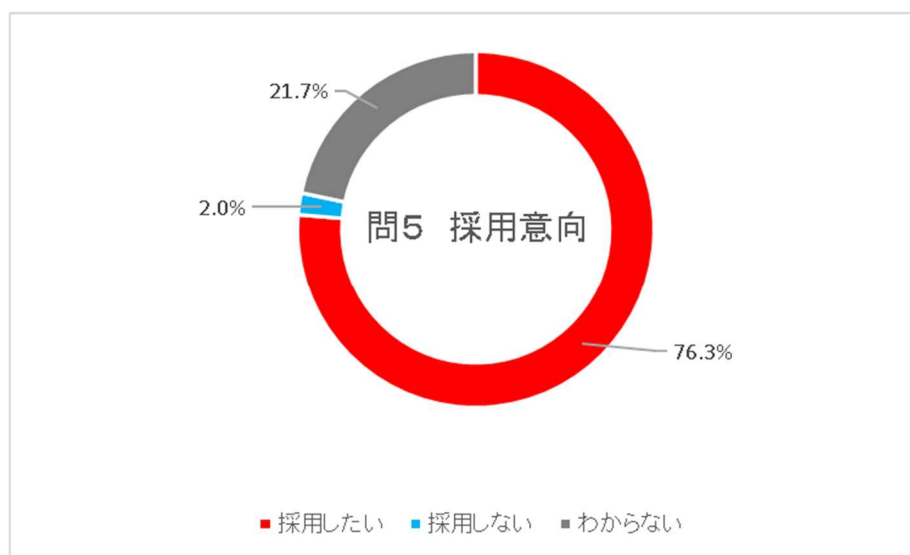
要点2) 実世界情報学科の卒業生の採用意向

回答のあった355事業所の76.3%にあたる271事業所から、実世界情報学科(仮称)の卒業予定者の採用意向が示された。また、その271事業所における採用可能人数の合計は、入学定員の80人の9.1倍にあたる728人(1事業所あたり平均2.7人)であった。養成人材について、事業者からは極めて強い人材需要が示された。

問5 [実世界情報学科の採用意向]

採用意向 (問5)	採用したい	271事業所	76.3%
	合計	355事業所	100.0%
	採用の場合の採用可能人数の合計	728人	-

採用可能 人数 (問6)	回答選択肢	回答数	採用可能 人数	合計
	1人	75事業所		75人
2人	81事業所	162人	162人	
3人	40事業所	120人	120人	
4人	4事業所	16人	16人	
5人以上	71事業所	355人	355人	
合計	271事業所	728人	728人	



要点3) 業種別クロス集計

回答事業所の業種（問1）と採用意向（問5）のクロス集計を行ったところ、「採用したい」の回答を得た業種は、その他の回答を除き、上位から3業種は、ソフトウェア関係（90.2%）、情報処理・通信関係（89.6%）、製造業（機械関係）（77.4%）との結果となった。その他の業種においても、高い割合で採用意向を得ており、本学科が養成する人材が人材需要とマッチしていることが示された。

[回答事業所の業種（問1）と採用意向（問5）のクロス集計]

	業種	採用したい		採用しない わからない		総計
		人数	割合	人数	割合	
1	ソフトウェア関係	74	90.2%	8	9.8%	82
2	情報処理・通信関係	43	89.6%	5	10.4%	48
3	製造業（機械関係）	48	77.4%	14	22.6%	62
4	製造業（自動車関係）	10	76.9%	3	23.1%	13
5	その他	25	71.4%	10	28.6%	35
6	製造業（電気・電子・通信関係）	27	71.1%	11	28.9%	38
7	商社・卸売・流通・小売	8	66.7%	4	33.3%	12
8	建築・土木・道路・設計・測量関係	22	62.9%	13	37.1%	35
9	住宅・設備関係	8	53.3%	7	46.7%	15
10	エネルギー（電気・ガス・水道）・インフラ関係	3	42.9%	4	57.1%	7
11	製造業（化学・医薬関係）	3	37.5%	5	62.5%	8
	合計	271	76.3%	84	23.7%	355

以上



大阪工業大学 実世界情報学科（仮称） 採用意向アンケート調査

アンケート対象：企業等の人事・採用担当者

大阪工業大学では、大阪府枚方キャンパスにおける新学科として、2025年4月に情報科学部 実世界情報学科（仮称）の開設を構想しています。本学ではこのアンケート調査を通して、企業等の事業所の皆さまからご意見をお伺いし、新学科の構想内容に反映したいと考えています。本アンケートは匿名回答であり、集計結果は、新学科の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力をお願いいたします。

※別紙の大阪工業大学情報科学部実世界情報学科（仮称）の概要をご覧の上で、以下の設問にお答えください。

問1 貴社の主となる業種をお答えください。（最もよくあてはまるもの1つにマーク）

- | | |
|--|------------------------------------|
| <input type="radio"/> ソフトウェア関係 | <input type="radio"/> 情報処理・通信関係 |
| <input type="radio"/> 製造業（電気・電子・通信関係） | <input type="radio"/> 製造業（自動車関係） |
| <input type="radio"/> 製造業（機械関係） | <input type="radio"/> 製造業（化学・医薬関係） |
| <input type="radio"/> エネルギー（電気・ガス・水道）・インフラ関係 | <input type="radio"/> 住宅・設備関係 |
| <input type="radio"/> 建築・土木・道路・設計・測量関係 | <input type="radio"/> 商社・卸売・流通・小売 |
| <input type="radio"/> その他 | |

問2 貴社の所在地（本社または主たる所在地）をお答えください。（最もよくあてはまるもの1つにマーク）

- | | | | | | | |
|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|
| <input type="radio"/> 大阪府 | <input type="radio"/> 兵庫県 | <input type="radio"/> 京都府 | <input type="radio"/> 奈良県 | <input type="radio"/> 和歌山県 | <input type="radio"/> 東京都 | <input type="radio"/> 愛知県 |
| <input type="radio"/> その他 | | | | | | |

問3 貴社の従業員規模をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- | | | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="radio"/> ~20人 | <input type="radio"/> 21~100人 | <input type="radio"/> 101~300人 | <input type="radio"/> 301~1,000人 |
| <input type="radio"/> 1,001~3,000人 | <input type="radio"/> 3,001~10,000人 | <input type="radio"/> 10,001人~ | |

問4 大阪工業大学が設置構想中の「実世界情報学科（仮称）」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- | | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="radio"/> 人材ニーズは非常に高い | <input type="radio"/> 人材ニーズは高い | <input type="radio"/> 人材ニーズはあまり高くない |
| <input type="radio"/> 人材ニーズは高くない | <input type="radio"/> わからない | |

問5 大阪工業大学が設置構想中の「実世界情報学科（仮称）」が養成する人材を、貴社・貴機関・貴団体に採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| <input type="radio"/> 採用したい | <input type="radio"/> 採用しない | <input type="radio"/> わからない |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|





問6 「採用したい」と回答された場合、採用可能な人数についてお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 1人 2人 3人 4人 5人以上

問7 大阪工業大学「実世界情報学科（仮称）」について期待される点、要望がございましたらご記入をお願いします。

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。



大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科 (仮称・設置構想中)

掲載内容は予定であり、変更になる可能性があります。

開設時期	入学定員	取得学位	修業年限	設置場所
2025 (令和7) 年4月	80人 (収容定員320人)	学士 (情報学)	4年	大阪府枚方市 北山 1-79-1

学部・学科の特色

大阪工業大学情報科学部実世界情報学科 (仮称) では、以下を学びの特色としています。

- ① プログラミングや情報技術の基礎的なところから応用まで、講義と演習をミックスした丁寧な指導により実世界情報学に必要な専門知識を学べます。
- ② ドローン、自動運転、ロボット、AIなど最先端の分野に関わる実世界情報学を実践的に学びます。
- ③ 探究学習型の学生プロジェクトや研究室での個別指導を通じた実世界情報学の学びにより、卒業後に即戦力として通用する能力と技術を身につけます。
- ④ 情報科学部 (5学科) では、ソフトウェア、AI、情報システム、メディア、セキュリティ、ネットワークなど様々な分野を幅広く学べる共通科目を開講しています。

養成する人材像

実世界情報学科 (仮称) では、様々なIoTセンシング技術によって、人間が活動する現実の空間「実世界」の情報を取得し、ヒト・モノ・環境の情報分析と可視化、空調・照明等の環境整備、インフラ設備やロボット制御などの実世界インタラクションにより、実世界の具体的な課題を解決できるプロフェッショナル人材を養成します。



設置の理念

インターネットやコンピュータなど情報技術の発展は地球規模で我々の生活を大きく変えています。エアコンや照明をスマートフォンやスマートスピーカーから操作できるなど、モノとインターネットが融合したIoT(モノのインターネット)が身近になりつつあります。さらにクルマの自動運転やドローンなどにも情報技術が欠かせないものとなっています。これからの情報技術には、人々が生活している「実世界」で何が起きているのかを知り、様々な自動機器(自動運転車、ドローン、ロボット、電気・ガス等のインフラ設備)を制御することが求められています。実世界情報学科 (仮称) は、このような先端分野を情報技術の側面から支える人材を養成することを目指します。具体的には、カメラやIoTを活用して実世界の情報をキャッチして、その情報をAI(人工知能)も活用しながら分析し、その分析結果に基づきドローンを自動操縦したり、スマートフォンなどに情報発信を行います。これらの技術の学びから実世界での問題解決を担えるプロフェッショナル人材を養成していきます。

身につける能力

実世界情報学科 (仮称) では、以下の能力を身につけます。

- ① 実世界情報技術が社会に及ぼす影響や技術者の社会的役割、責務などを理解し、適切に判断して行動ができる技術者倫理
- ② 実世界からの情報取得・分析技術、及び実世界へのインタラクション技術に関連する理工学の基礎知識を持ち、専門的な技術の理解につなげられる基礎知識と活用能力
- ③ 実世界からの情報取得・分析技術、及び実世界へのインタラクション技術を修得し、これらを現実の問題解決に応用できる専門知識と問題解決への応用能力
- ④ 課題を解決するために、情報を収集、整理、分析し、問題解決のための計画、方策を立案して推進できる問題の設定と解決能力
- ⑤ 技術文書の作成、発表、討論において、正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持つとともに、他者と協働して活動できる能力

アドミッションポリシー

実世界情報学科 (仮称) では、以下のような学生を求めます。

1. 持続可能な社会を目指すうえで取り上げられている様々な課題に関心がある人
2. 情報技術に関心を持ち、机上の知識ではなく実際に応用することに意欲のある人
3. 技術者の社会的責任について理解し、それを誠実に遂行しようとする倫理観を持つ人
4. 多様な人々と協働してプロジェクトを推進する力身につけたい人

実世界情報 とは

人にやさしく社会に役立つサービスには、現実の世界との関わりが欠かせません。例えば、普及しつつあるドローンや自動配送ロボットを安全に動かすには、現実の空間の状況 (= 「実世界情報」) を認識しなければなりません。つまり実世界情報とは、カメラやセンサなどの入力をもとに得られる現実の世界の情報であり、それをAIも活用して分析した結果です。これを社会の様々な問題の解決に応用していくことが、今後の情報分野で重要となります。

取得可能な資格・免許

- ・ 中学校教諭一種免許(数学)
- ・ 高等学校教諭一種免許(数学)
- ・ 高等学校教諭一種免許(情報)

情報科学部 実世界情報学科 (仮称) に類似する学部・学科

- ・ 立命館大学 情報理工学部 情報理工学科 実世界情報コース
- ・ 関西大学 総合情報学部
- ・ 近畿大学 情報学部
- ・ 大阪電気通信大学 情報通信工学部 / 総合情報学部

卒業後の進路・職種

- ・ 通信や交通などの企業や地方自治体でのインフラ設備の遠隔監視
- ・ 電機メーカーにおけるIoT機器の開発製造
- ・ ソフトウェア会社での業務用ソフトウェア開発

学納金 (予定)

入学金	授業料(1年次)	授業料※2年次以降	初年度納付金
250,000円	1,390,000円	1,490,000円	1,640,000円

大阪工業大学

情報科学部
工学部
ロボティクス&デザイン工学部
知的財産学部

<https://www.oit.ac.jp/>



枚方キャンパス

〒573-0196 大阪府枚方市北山 1-79-1

京阪本線・樟葉駅

京阪バス 北山中央、大阪工大下車 (京阪祇園四条駅から計42分)

JR学研都市線・長尾駅

北山中央、大阪工大下車 (JR京橋駅から計31分)

学生確保 -54-



教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	イノウエ スム 井上 晋 <令和3年11月>		博士 (工学)		学校法人常翔学園 大阪工業大学 学長 <令和3.11~令和7.10>

教 員 の 氏 名 等																			
(情報科学部 実世界情報学科)																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	当 単 位 数	年 開 講 回 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
1	基(主専)	教授 (学科長)	サカサリ シゲユキ 酒澤 茂之 <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール OIT概論 ※ コンピュータ入門 画像情報処理 情報セキュリティの基礎 Webプログラミング 情報技術者論 ※ 情報ゼミナール メディア通信概論 実世界情報基礎演習	○	1前 1前 1前 2後 2後 3前 3後 3後 3後 2後		1 0.1 2 2 2 2 0.6 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン学科 教授 (平29.4)	○	○			5日	
2	基(主専)	教授	アラキ ヒデオ 荒木 英夫 <令和7年4月>		博士 (工学)		デジタル回路 I デジタル回路 II IoT概論 実世界計測 ※ IoTデータベース 情報ゼミナール ものづくり実習 実世界情報専門演習	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1後 1後 1後 2後 2後 3後 2前 3前		1 1 2 0.9 2 2 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科 教授 (平19.4)	○	○			5日	
3	基(主専)	教授	イノエ ユミコ 井上 裕美子 <令和7年4月>		博士 (学術)		基礎スポーツ科学a 基礎スポーツ科学b 健康科学 視る自然科学 ※ 基礎ゼミナール 情報ゼミナール	○	1前 2後 3前 2後 1前 3後		1 1 2 0.6 1 1 2	1 1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン学科 教授 (平8.4)	○	○			5日	
4	基(主専)	教授	カハラ シゲル 樫原 茂 <令和7年4月>		博士 (工学)		実世界情報入門 テクニカルライティング 情報ゼミナール C演習 I 実世界情報専門演習	○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 3後 1後 3前		2 2 2 3 2	1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン学科 准教授 (令2.4)	○	○			5日	
5	基(主専)	教授	ニシガキ サトシ 西口 敏司 <令和7年4月>		博士 (情報学)		データ構造とアルゴリズム オペレーティングシステム ソフトウェア工学 I 情報技術者論 ※ 情報ゼミナール システムプログラム 実世界情報基礎演習	○ ○ ○ ○ ○ ○	2前 2後 2後 3後 3後 3前 2後		2 2 2 0.6 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン学科 教授 (平17.4)	○	○			5日	
6	基(主専)	教授	ヤノ コウジロウ 矢野 浩二郎 <令和7年4月>		博士 (生理学)		生命科学基礎 情報生命科学 視る自然科学 ※ 基礎ゼミナール 情報ゼミナール	○	1前 1後 2後 1前 3後		2 2 0.6 1 2	1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン学科 准教授 (平23.4)	○	○			5日	
7	基(主専)	教授	ヨコガワ ミリ 横川 美和 <令和7年4月>		博士 (理学)		地球科学基礎 地球環境 視る自然科学 ※ 基礎ゼミナール キャリアステップ 情報ゼミナール	○	1前 1後 2後 1前 1後 3後		2 2 0.6 1 1 2	1 1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン学科 教授 (平13.4)	○	○			5日	

教 員 の 氏 名 等																			
(情報科学部 実世界情報学科)																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 当 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況
														教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
8	基(主専)	准教授	コジマ ヒデアキ 小島 英春 <令和7年4月>		博士 (情報学)		基礎ゼミナール IoT通信 情報ゼミナール C演習II ソフトウェア工学演習 実世界情報基礎演習	○ ○ ○ ○ ○	1前 3後 3後 2前 3前 2後		1 2 2 3 2 2	1 1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン学科 准教授 (令4.4)		○			5日	
9	基(主専)	准教授	シマノ アキラ 島野 顕継 <令和7年4月>		博士 (水産学)		Unix入門 シェルスクリプト入門 情報通信ネットワーク IoTサーバ構築 情報ゼミナール Java演習 実世界情報専門演習	○ ○ ○ ○	1前 1前 2前 3後 3後 2後 3前		1 1 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン学科 准教授 (平9.4)		○			5日	
10	基(主専)	准教授	スギカワ サトシ 杉川 智 <令和7年4月>		博士 (工学)		人工知能 情報処理基礎 ※ 情報ゼミナール 情報科学実践演習(国内PBL)a 情報科学実践演習(国内PBL)b C演習II Java演習 実世界情報応用演習	○ ○ ○ ○ ○	2前 2後 3後 2前 2後 2前 2後 3後		2 0.1 2 1 1 3 3 2	1 1 1 1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン学科 講師 (平25.4)		○			5日	
11	基(主専)	准教授	ミヤケ ケンヂロウ 宮脇 健三郎 <令和7年4月>		博士 (情報学)		ロボティクス 実世界計測 ※ 情報ゼミナール ものづくり実習 ロボット対話システム 実世界情報基礎演習 実世界情報応用演習	○ ○ ○	2前 2後 3後 2前 3前 2後 3後		2 0.9 2 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 准教授 (平19.4)		○			5日	
12	基(主専)	講師	オオイ ショウ 大井 翔 <令和7年4月>		博士 (情報学)		実世界計測 ※ コンピュータビジョン 情報ゼミナール C演習I 実世界情報専門演習 情報科教育法a 情報科教育法b	○ ○ ○	2後 3前 3後 1後 3前 3前・後 3前・後		0.9 2 2 3 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 講師 (令3.4)		○			5日	
13	基(主専)	講師	クメ タイスケ 久米 大祐 <令和7年4月>		博士 (健康学)		基礎スポーツ科学a 基礎スポーツ科学b スポーツ科学実習 基礎ゼミナール キャリアデザインI 情報ゼミナール	○	1前 2後 3前 1前 2前 3後		1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン学科 講師 (令3.4)		○			5日	
14	その他	教授	アライ トオル 雨宮 徹 <令和7年4月>		博士 (学術)		哲学基礎 倫理学基礎 応用倫理学 ※ 基礎ゼミナール		1・2前 1・2前・後 1・2後 1前		2 2 1.3 1	1 2 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 教授 (令1.4)	○	○				

教 員 の 氏 名 等																			
(情報科学部 実世界情報学科)																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 当 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況
			<就任(予定)年月>											教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
15	その他	教授	イェト マミ 家本 真実 <令和9年4月>		修士 (法学)		情報法学				2	1	摂南大学 法学部 法律学科 教授 (平17.4)						
16	その他	教授	イワキ ハジメ 岩崎 判二 <令和7年4月>		理学士		OIT概論 ※				0.1	1	大阪工業大学 教育センター 教授 (令1.4)						
17	その他	教授	オノキ アツオ 尾崎 敦夫 <令和7年4月>		博士 (情報科学)		基礎ゼミナール 情報技術者論 ※ 情報科学実践演習(国内PBL)a 情報科学実践演習(国内PBL)b	○	1前 3後 2前 2後		1 0.6 1 1	1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 教授 (平30.4)	○	○				
18	その他	教授	カマクラ ヨシナリ 鎌倉 良成 <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール 線形数学II				1 2	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 教授 (令1.4)	○	○				
19	その他	教授	キムラ トモキ 木村 朋紀 <令和7年4月>		博士 (薬学)		環境情報科学 ※				0.3	2	摂南大学 薬学部 薬学科 教授 (平13.4)						
20	その他	教授	クラマエ ヒロユキ 倉前 宏行 <令和7年4月>		博士 (工学)		OIT概論 ※				0.1	1	大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工 学部 ロボット工学科 教授 (平9.4)						
21	その他	教授	コウカ トモコ 神田 智子 <令和9年4月>		博士 (情報科学)		情報技術者論 ※ ヒューマンインタフェース	○	3後 3前		0.7 2	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平18.4)	○	○				

教 員 の 氏 名 等																						
(情報科学部 実世界情報学科)																						
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の基幹教員として の勤務状況			
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称						
22	その他	教授	コサキ ケスリ 古崎 康哲 <令和7年4月>		博士 (工学)		OIT概論 ※				1前	0.1	1	大阪工業大学 工学部 環境工学科 教授 (平19.4)								
23	その他	教授	カイ ケイコ 酒井 恵子 <令和7年4月>		博士 (教育学)		教育心理学 教育相談 中学校教育実習 高等学校教育実習 教職実践演習(中・高)				1前・後 3前・後 4前 4前 4後	2 2 5 3 2	1 1 1 1 1	大阪工業大学 教職教室 教授 (令3.4)								
24	その他	教授	サノ ムツオ 佐野 睦夫 <令和9年4月>		博士 (工学)		情報技術者論 ※	○			3後	0.1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平14.4)	○	○						
25	その他	教授	シハラ マツカ 椎原 正次 <令和9年4月>		博士 (工学)		情報技術者論 ※	○			3後	0.6	1	大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科 教授 (平6.4)	○	○						
26	その他	教授	シカイ ヒサキ 真貝 寿明 <令和7年4月>		博士 (理学)		微分方程式 確率・統計				1後 3前	2 2	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学 教授 (平18.4)	○	○						
27	その他	教授	スズキ モトキ 鈴木 基之 <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール				1前	1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平24.4)	○	○						
28	その他	教授	スヤマ タユキ 須山 敬之 <令和9年4月>		博士 (情報科学)		情報技術者論 ※	○			3後	0.7	1	大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科 教授 (令3.4)	○	○						

教 員 の 氏 名 等																			
(情報科学部 実世界情報学科)																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
29	その他	教授	タカ イエ 田岡 育恵 <令和7年4月>		博士 (文学)		英語表現(basic)a 英語表現(basic)b 英語の語法 基礎ゼミナール		1前 1後 3前・後 1前		1 1 2 1	1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平13.4)	○	○				
30	その他	教授	タツミ イサ 辰巳 育男 <令和8年4月>		修士 (教育学)		生徒指導と進路指導 ※ 中学校教育実習 高等学校教育実習 教職実践演習(中・高)		2前・後 4前 4前 4後		1 5 3 2	1 1 1 1	大阪工業大学 教職教室 教授 (令4.4)						
31	その他	教授	タカ ケンタ 田中 謙介 <令和10年4月>		博士 (学校教育 学)		中学校教育実習 高等学校教育実習 教職実践演習(中・高) 教職特論		4前 4前 4後 4後		5 3 2 2	1 1 1 1	大阪工業大学 教職教室 教授 (平31.4)						
32	その他	教授	ツカモト カツシ 塚本 勝俊 <令和7年4月>		博士 (工学)		微分方程式		1後		2	1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平14.4)	○	○				
33	その他	教授	ニシカワ イズル 西川 出 <令和7年4月>		博士 (工学)		OIT概論 ※		1前		0.1	1	大阪工業大学 工学部 機械工学科 教授 (平15.4)						
34	その他	教授	ハシモト ワタル 橋本 渉 <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール 情報処理基礎 ※		1前 2後		1 0.3	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平24.4)	○	○				

教 員 の 氏 名 等																				
(情報科学部 実世界情報学科)																				
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況	
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称				
35	その他	教授	ババノゾム 馬場 望 <令和7年4月>		博士 (工学)		OIT概論 ※		1前		0.1	1	大阪工業大学 工学部 建築学科 教授 (平13.4)							
36	その他	教授	ハマダ エツオ 濱田 悦生 <令和7年4月>		博士 (理学)		基礎ゼミナール		1前		1	1	大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科 教授 (令3.4)	○	○					
37	その他	教授	ヒキタ ヨシト 疋田 祥人 <令和7年4月>		博士 (教育学)		教育原論 教職入門 教育行政 中学校教育実習 高等学校教育実習 教職実践演習(中・高)		2前・後 1前・後 3前・後		2 2 2	1 1 1	大阪工業大学 教職教室 准教授 (平25.4)							
38	その他	教授	ヒラノ コウイチ 平野 裕一 <令和8年4月>		教職修士 (専門職)		生徒指導と進路指導 ※		2前・後		1	1	大阪工業大学 教育センター 特任教授(2号俸) (令2.4)							
39	その他	教授	ヒラヤマ マコト 平山 亮 <令和8年4月>		博士 (工学)		英語による情報技術Ia 英語による情報技術Ib グローバルテクノロジー論 情報技術者論 ※ 情報科学実践演習(国際PBL)	○	2前 2後 2前・後 3後 2後		1 1 1 0.7 1	1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平25.4)	○	○					
40	その他	教授	フクシマ ナスコ 福澤 寧子 <令和9年4月>		博士 (工学)		情報技術者論 ※	○	3後		0.1	1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン学科 教授 (平28.4)	○	○					
41	その他	教授	フクヤ ナキ 福安 直樹 <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール 情報処理基礎 ※ 情報技術者論 ※	○	1前 2後 3後		1 0.4 0.7	1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 教授 (令3.4)	○	○					

教 員 の 氏 名 等																			
(情報科学部 実世界情報学科)																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
42	その他	教授	フジノ ヒロユキ 藤 博之 <令和7年4月>		博士 (理学)		物理現象の数理 力学 現代物理学入門 視る自然科学 ※ 基礎ゼミナール		2前 1前 2後 2後 1前		2 2 2 0.3 1	1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 教授 (令2.4)	○	○				
43	その他	教授	フジイ ケンイチ 藤井 研一 <令和7年4月>		博士 (理学)		物理学基礎 電磁気学 視る自然科学 ※ 基礎ゼミナール		1前 1後 2後 1前		2 2 0.6 1	1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 教授 (平19.4)	○	○				
44	その他	教授	マキノ ヒロシ 牧野 博之 <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール 情報技術者論 ※	○	1前 3後		1 0.7	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 教授 (平20.4)	○	○				
45	その他	教授	ミナガリ ケンタロウ 皆川 健多郎 <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール		1前		1	1	大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科 教授 (平16.4)	○	○				
46	その他	教授	ミヤモト トシユキ 宮本 俊幸 <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール 微積分学Ⅰ 数理計画法		1前 1前・後 3後		1 2 2	1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 教授 (令5.4)	○	○				
47	その他	教授	ムカヒラ アツシ 椋平 淳 <令和7年4月>		修士 (教育学)		OIT概論 ※		1前		0.1	1	大阪工業大学 工学部 総合人間学系教室 教授 (平3.4)		○				

教 員 の 氏 名 等																					
(情報科学部 実世界情報学科)																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 当 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況		
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称					
48	その他	教授	ムカワ カズオ 村川 一雄 <令和7年4月>		博士 (工学)		OIT概論 ※				1前	0.1	1	大阪工業大学大学院 知的財産研究科 教授 (平26.4)							
49	その他	教授	ムリ トシキ 武藤 寿彰 <令和8年4月>		学士 (理学)		数学科教育法a 数学科教育法b 数学科教育法c 数学科教育法d 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 ※ 教育方法論 (ICT活用含む) ※ 教職特論				2前・後 3前・後 3前・後 4前・後 2・3前・後 2前・後 4後	2 2 2 2 1 1 2	1 1 1 2 1 1 1	大阪工業大学 教職教室 教授 (合4.4)							
50	その他	教授	ヤスマ セイゴ 安留 誠吾 <令和8年4月>		博士 (工学)		情報処理基礎 ※				2後	0.6	1	大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科 教授 (平16.4)	○	○					
51	その他	教授	ヤマダ タカキ 山田 隆亮 <令和9年4月>		博士 (情報科学)		情報技術者論 ※ ソフトウェア工学II	○			3後 3前	0.9 2	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 教授 (合1.4)	○	○					
52	その他	准教授	アンドリュー メロウ Andrew Mellor <令和9年4月>		Doctor of Philosophy (英国)		英語演習				3後	1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 准教授 (平21.4)		○					
53	その他	准教授	オノ ヒロツグ 奥野 弘嗣 <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール				1前	1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 准教授 (平28.4)		○					
54	その他	准教授	カマクラ ヨシユキ 鎌倉 快之 <令和7年4月>		博士 (情報学)		基礎ゼミナール				1前	1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 准教授 (平21.4)		○					

教 員 の 氏 名 等																					
(情報科学部 実世界情報学科)																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況		
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称					
55	その他	准教授	カワイ リヒコ 河合 紀彦 <令和8年4月>		博士 (工学)		情報科学実践演習(国内PBL)a 情報科学実践演習(国内PBL)b				1 1	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 准教授 (令2.4)		○						
56	その他	准教授	クツキ ヨシツナ 朽木 順綱 <令和7年4月>		博士 (情報工学)		OIT概論 ※				0.1	1	大阪工業大学 工学部 空間デザイン学科 准教授 (平15.4)								
57	その他	准教授	クワカワ ナオヒコ 黒川 尚彦 <令和7年4月>		博士 (文学)		英語表現(basic1)a 英語表現(basic1)b 英語の語法 基礎ゼミナール キャリアデザインⅡ				1 1 2 1 1	1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 准教授 (平23.4)		○						
58	その他	准教授	サワタ トシヤ 澤田 俊也 <令和8年4月>		博士 (教育学)		教育課程論 道徳教育 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 ※ 教育方法論 (ICT活用含む) ※ 中学校教育実習 高等学校教育実習 教職実践演習(中・高)				2 2 2 1 2 4 4 4	1 1 2 1 1 1 1 1	大阪工業大学 教職教室 講師 (平31.4)								
59	その他	准教授	ジンノウ タカオ 神納 貴生 <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール				1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 准教授 (平29.4)		○						
60	その他	准教授	スオン クワン タン Duong Quang Thang <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール				1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 准教授 (令5.4)		○						

教 員 の 氏 名 等																					
(情報科学部 実世界情報学科)																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 当 単 位 数	年 間 講 義 回 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況		
			氏名 <就任(予定)年月>											教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称				
61	その他	准教授	タケチ ケンジ 氏名 竹内 健治 <令和7年4月>		博士 (薬学)		化学基礎				2	1	摂南大学 薬学部 薬学科 准教授 (平4.4)								
62	その他	准教授	トヨガタ ヨシヒロ 氏名 豊浦 由浩 <令和7年4月>		博士 (工学)		コンピュータリテラシー				2	1	大阪工業大学 情報センター 准教授 (平15.4)								
63	その他	准教授	ナカオ テルユキ 氏名 中尾 晃幸 <令和7年4月>		博士 (薬学)		環境情報科学 ※				0.6	2	摂南大学 薬学部 薬学科 准教授 (平8.4)								
64	その他	准教授	ナカニシ チカコ 氏名 中西 知嘉子 <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール 情報処理基礎 ※				1 0.6	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 准教授 (平28.4)			○					
65	その他	准教授	ヌノムラ ヤシヒロ 氏名 布村 泰浩 <令和7年4月>		博士 (情報科学)		基礎ゼミナール 情報技術者論 ※	○			1 0.1	1 1	大阪工業大学 情報科学部 コンピュータ科学科 准教授 (平27.4)			○					
66	その他	准教授	フクシマ タカ 氏名 福島 拓 <令和9年4月>		博士 (工学)		システムプログラム				2	1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 准教授 (平28.4)			○					
67	その他	准教授	フジイ シンスケ 氏名 藤井 伸介 <令和7年4月>		修士 (工学)		OIT概論 ※				0.1	1	大阪工業大学 工学部 建築学科 准教授 (令2.4)								

教 員 の 氏 名 等																			
(情報科学部 実世界情報学科)																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 回 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況
			氏名 <就任(予定)年月>											教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
68	その他	准教授	フルヒ ナホ 古樋 直己 <令和7年4月>		修士 (英語学)		英語の語法 英語表現(basic2)a 英語表現(basic2)b 基礎ゼミナール		3前・後 2前 2後 1前		2 1 1 1	1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 准教授 (平29.4)				○		
69	その他	准教授	ヨコヤマ エリ 横山 恵理 <令和7年4月>		博士 (文学)		文学基礎 観る文学 言語学基礎 基礎ゼミナール		1・2前・後 1・2後 1・2前・後 1前		2 2 2 1	2 1 2 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 准教授 (平28.4)				○		
70	その他	講師	アランドレイ ビノール Arndrei Pinol <令和7年4月>		Bachelor of Society (カナダ)		口語英語 I a 口語英語 I b		1前 1後		1 1	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (令1.10)						
71	その他	講師	イケダ トモカ 池田 知加 <令和7年4月>		博士 (社会学)		社会学基礎 情報社会論		1・2前 1・2後		2 2	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (平14.4)						
72	その他	講師	イチモト ヤスヨ 市本 泰代 <令和7年4月>		学士 (英文学)		英語表現(basic1)a 英語表現(basic1)b		1前 1後		1 1	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (令5.4)						
73	その他	講師	オムラ タクオ 大村 拓生 <令和7年4月>		博士 (文学)		日本の歴史 人類の歴史		1・2前 1・2後		2 2	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (平9.4)						
74	その他	講師	オカダ ナホ 尾形 尚子 <令和7年4月>		博士 (理学)		線形数学 I 微積分学 I 微積分学 II		1前・後 1前・後 3後		2 2 2	1 1 1	大阪工業大学 兼任講師 (平18.4)						

教 員 の 氏 名 等																				
(情報科学部 実世界情報学科)																				
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況	
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称				
75	その他	講師	チ トオル 越智 徹 <令和7年4月>		修士 (情報学)		応用倫理学 ※ Java演習	○	1・2後 2後		0.9 3	2 1	大阪工業大学 情報センター 講師 (平25.4)							
76	その他	講師	ワナ マサキ 尾花 将輝 <令和9年4月>		博士 (工学)		ソフトウェア工学演習		3前		2	1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 講師 (平25.4)		○					
77	その他	講師	ワシヨウ キヨシ 恩庄 澄 <令和8年4月>		教職修士 (専門職)		人間発達と人権		2前・後		2	1	大阪工業大学 兼任講師 (令3.4)							
78	その他	講師	カクニ ヒデキ 角谷 秀樹 <令和7年4月>		博士 (薬学)		環境情報科学 ※		1後・2前		0.6	2	摂南大学 薬学部 薬学科 講師 (平22.4)							
79	その他	講師	ガブリエル ボラス Gabriel Porras <令和8年4月>		Bachelor of Arts (米国)		口語英語Ⅱa 口語英語Ⅱb		2前 2後		1 1	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (平31.2)							
80	その他	講師	カクチ ツヨシ 川口 剛 <令和8年4月>		修士 (英語教育 学)		英語表現(basic2)a 英語表現(basic2)b		2前 2後		1 1	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (令3.4)							
81	その他	講師	クボタ ショウ 久保田 匠 <令和7年4月>		博士 (情報学)		線形数学Ⅰ		1前・後		2	1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 講師 (令5.4)		○					

教 員 の 氏 名 等																				
(情報科学部 実世界情報学科)																				
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 回 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況	
														教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
82	その他	講師	ゲン テツヒロ 玄 哲浩 <令和7年4月>		修士 (法学)		日本国憲法 法学基礎				2 2	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (平25.4)							
83	その他	講師	コハニ ナオキ 小谷 直樹 <令和7年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール				1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 講師 (平25.4)		○					
84	その他	講師	シラハタ マサヨシ 白畑 正芳 <令和7年4月>		博士 (工学)		微積分学 I				2	1	大阪工業大学 兼任講師 (令3.4)							
85	その他	講師	タケカワ ヒロキ 瀧川 宏樹 <令和7年4月>		博士 (文学)		海外語学研修				2	2	大阪工業大学 工学部 講師 (平30.4)							
86	その他	講師	タシマ トオル 但馬 亨 <令和10年4月>		修士 (学術)		科学史				2	1	大阪工業大学 兼任講師 (平23.4)							
87	その他	講師	タナカ リュウイチロウ 田中 龍一郎 <令和7年4月>		博士 (薬学)		化学基礎				2	1	摂南大学 薬学部 薬学科 講師 (平3.4月)							
88	その他	講師	チキ ショウコ 地寄 頌子 <令和8年4月>		博士 (理学)		情報数学 グラフ理論				2 2	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 講師 (令2.4)		○					

教 員 の 氏 名 等																					
(情報科学部 実世界情報学科)																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の勤務状況		
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称					
89	その他	講師	ナカシ アツシ 中西 淳 <令和7年4月>		博士 (文学)		英語表現(basic1)a 英語表現(basic1)b 英語の語法 基礎ゼミナール		1前 1後 3前・後 1前		1 1 2 1	1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 講師 (令3.4)								
90	その他	講師	ナカムラ タケヒロ 中村 武浩 <令和7年4月>		博士 (薬学)		環境情報科学 ※		1後・2前		0.6	2	摂南大学 薬学部 薬学科 講師 (令5.4)								
91	その他	講師	ハセガワ ヨウイチ 長谷川 陽一 <令和8年4月>		修士 (文学)		特別支援教育		2・3前・後		2	2	桃山学院教育大学 人間教育学部人間教育学科 教授 (令2.4)								
92	その他	講師	ハラダ カヨコ 原田 佳代子 <令和7年4月>		博士 (文学)		日本語 I 日本語 II		1前 1後		2 2	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (平24.4)								
93	その他	講師	ヒガシサカ ノリオ 東坂 範雄 <令和7年4月>		学士 (物理)		テクニカルライティング	○	1後		2	1	大阪工業大学 兼任講師 (令4.4)								
94	その他	講師	ホトタツヒン Ho Tat Hing <令和9年4月>		Computer Science (米国)		英語による情報技術II		3前・後		2	1	大阪工業大学 兼任講師 (令4.4)								
95	その他	講師	ホンダ ケイシ 本田 澄 <令和8年4月>		博士 (工学)		情報科学実践演習(国内PBL)a 情報科学実践演習(国内PBL)b		2前 2後		1 1	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 講師 (令1.4)								

教 員 の 氏 名 等																				
(情報科学部 実世界情報学科)																				
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等 以外の組織(他の 大学等に置かれる 学部等を含む)で の基幹教員として の勤務状況	
														教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
96	その他	講師	ミナミ シンゴウ 南 慎二郎 <令和7年4月>		博士 (政策科学)		経済学基礎 現代経済論		1・2前・後 1・2後		2 2	2 1	大阪工業大学 兼任講師 (令5.4)							
97	その他	講師	メリッサ ウォン Melissa Wong <令和7年4月>		Bachelor of Education (カナダ)		口語英語1a 口語英語1b		1前 1後		1 1	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (令4.4)							
98	その他	講師	モチヅキ チカユキ 望月 慎之 <令和7年4月>		修士 (政策科学)		基礎スポーツ科学a 基礎スポーツ科学b		1前 2後		1 1	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (平13.4)							
99	その他	講師	ヤギ シゲカズ 八木 成和 <令和7年4月>		修士 (教育学)		心理学基礎		1・2前・後		2	2	桃山学院教育大学 人間教育学部 教授 (令2.4)							
100	その他	講師	ラフィ ビセリヤン Raffi Besalyan <令和7年4月>		Master of Music (米国)		口語英語1a 口語英語1b		1前 1後		1 1	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (令4.4)							

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	5人	2人	人	人	7人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	1人	2人	1人	人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	1人	1人	人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1人	2人	7人	3人	人	人	13人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	